DENON

AVサラウンドアンプ

AVC-4320

取扱説明書

安全にお使いいただくために―必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

総目次

ご使用になる前に

簡単セットアップと操作のしかた

接続のしかた

基本操作のしかた

（このページは4ページの内容と同じです。）

■ システムセットアップメニュー

総目次

ご使用になる前に

簡単セットアップと操作のしかた

接続のしかた

基本操作のしかた

（このページは2ページの内容と同じです。）

応用操作のしかた

より詳細なセットアップのしかた１

より詳細なセットアップのしかた２

その他について

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について　この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

【絵表示の例】

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠ 警告

■ 安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

電源プラグをコンセントから抜け

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

内部に異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

警告 つづき

■ 安全上お守りいただきたいこと

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で

接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。
また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。

雷が鳴り出したら

電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水場での
使用禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

注意

■ 安全上お守りいただきたいこと

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

また、付属の電源コード以外には使用しないでください。

電流容量などの違いにより火災・感電の原因になることがあります。

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

注意 つづき

■ 安全上お守りいただきたいこと

電源プラグを抜くときは

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電池を交換する場合は

極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のケーブルを使用してください。指定以外のケーブルを使用したり、ケーブルを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■ 置き場所について

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

壁や他の機器から少し離して設置する

壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

■ 取り扱いについて

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

⚠ 注意 つづき

■ 使わないときは

長期間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■ お手入れについて

お手入れの際は

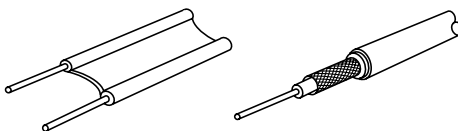
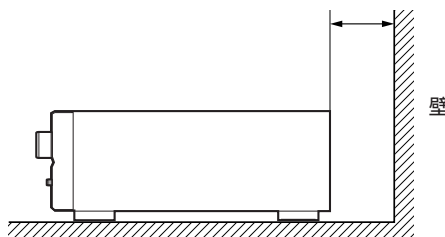
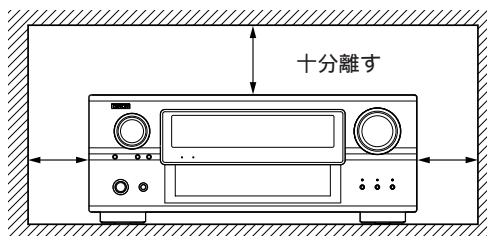
安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

◎ 本機やマイコンを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合には次の点に注意してください。
- 本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。
- チューナーやテレビのアンテナ線を本機の電源コードおよび入出力などの接続コードから離して設置してください。
- 特に室内アンテナや300Ωフィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75Ω同軸ケーブルのご使用をおすすめします。

◎ 放熱のため、本機の天面、後面および 両側面と壁や他のAV機器などとは十分離して設置してください。（下図参照）

その他のご注意

◎ 入力端子に機器を接続していない状態で入力の切り替えをおこなうと、クリックノイズが発生することがあります。このような場合には、主音量調節つまみを絞るか、入力端子に機器を接続してください。

◎ 電源ボタンをスタンバイにしても一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず電源スイッチをOFFにするか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

◎ プリアウト端子およびスピーカー端子には、ミューティング回路が組み込まれています。このため、電源投入後数秒間は出力信号が大幅に減衰されます。この動作時に音量を調節しますと、ミューティング終了後非常に大きな出力となりますので、音量調節は必ずミューティング終了後におこなってください。

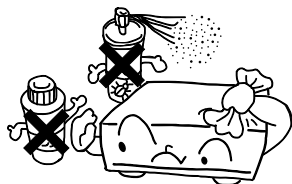
◎ 本機の近くで携帯電話を使用すると、雑音（ノイズ）が入ることがあります。携帯電話は本機から離れた位置でお使いください。

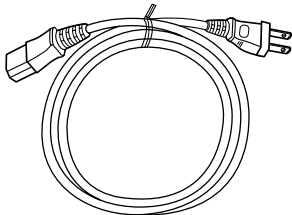
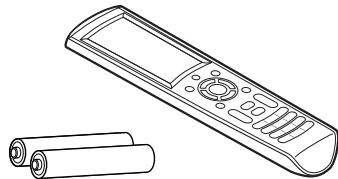
◎ 説明のためのイラストは、実際の機器と異なる場合があります。

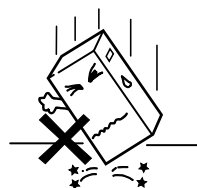
◎ 取扱説明書を保存してください。
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保存してください。また、裏表紙の記入欄に必要事項を記入しておくと便利です。

お手入れについて

◎ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

◎ ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

使わないときは

◎ **ふだん使わないとき**
- 電源ボタンを押して、スタンバイ状態にしてください。
- 外出やご旅行の場合には、必ず電源スイッチをOFFにするか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

◎ **移動させるとき**
- 衝撃を与えないでください。
- 必ず電源プラグをコンセントから抜いて、接続コードを外したことを確認してからおこなってください。

《ご使用になる前に》

付属品について

本体とは別に下記の付属品がついています。ご使用の前にご確認ください。

電源コード（本機専用） 1本	リモコン（RC-1024） 1個 単3形アルカリ乾電池 2本	セットアップマイク 1個
取扱説明書（本書） 1冊	製品のご相談と 修理・サービス窓口一覧表 1枚	保証書 （梱包箱に添付されています。）

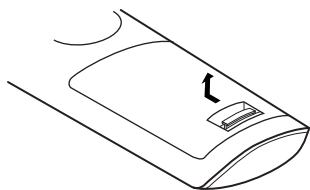
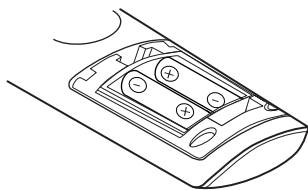
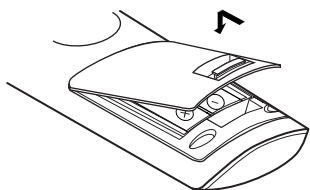
ステレオ音のエチケット

- 楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
- 隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
- 窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
- お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

リモコンについて

付属のリモコン（RC-1024）は本機の操作だけでなく、DENON製リモコン対応のコンポーネント製品を操作することができます。また、他メーカーのリモコンのコントロール信号を学習・記憶する機能を備えていますので、DENON製品以外のリモコン対応機器を操作することができます。（☞ 56〜60ページ）

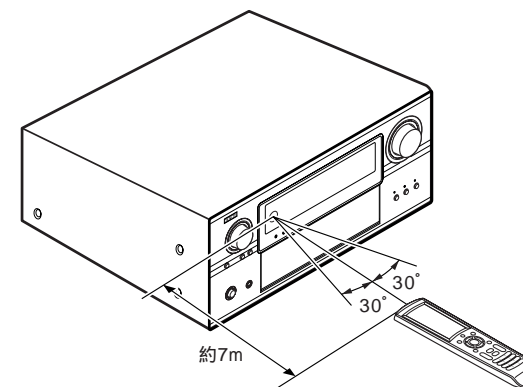
乾電池の入れかた

① 矢印のように押して引き上げます。

② 単3形アルカリ乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。

③ 裏ぶたを元通りにしてください。

乾電池についてのご注意

- リモコンには単3形アルカリ乾電池をご使用ください。
- 1年経っていなくてもリモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 乾電池を交換するときはあらかじめ交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。
- 乾電池を約30秒以上外したままにすると、学習されているリモコン信号が消去されることがあります。

《ご使用になる前に》

リモコンの使いかた

- リモコンは図のようにリモコン受光部に向けてご使用ください。
- 直線距離では約7m離れたところまで使用できますが、障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。
- リモコン受光部を基準にして左右30 °までの範囲で操作できます。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。
- 本機とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因となります。

各部の名前について

フロントパネル

各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。

ディスプレイ

1 **入力信号表示**
- 入力信号に合わせてそれぞれの表示が点灯します。

2 **入力信号チャンネル表示**
- 入力されたソースに含まれる音声チャンネルが点灯します。
- デジタル信号入力時に点灯します。

3 **インフォメーションディスプレイ**
- 入力ソース名、サラウンドモードおよび設定値などを表示します。

4 **出力信号チャンネル表示**
- 本機から出力可能な音声チャンネルが点灯します。

5 **スピーカー表示**
- 各サラウンドモードのサラウンドスピーカーの設定に合わせて点灯します。

6 **主音量表示**
- 音量レベルまたはシステムセットアップ時の項目No. を表示します。

7 **REC OUT表示**
- REC OUTモードを選んでいる場合に点灯します。（SOURCEが選ばれている場合は消灯します。）

8 **DENON LINK表示**
- DENON LINK接続で再生しているときに点灯します。

9 **AL24表示**
- デジタル（PCM）信号入力時にPURE DIRECT、DIRECT、STEREO、MULTI CH PURE DIRECT、MULTI CH DIRECTまたはMULTI CH IN モードを選んだ場合に点灯します。

10 **入力モード表示**
- 入力モードに合わせてそれぞれの表示が点灯します。

《ご使用になる前に》

リアパネル

1. デジタル音声端子（光〈OPTICAL〉/同軸〈COAXIAL〉）………（16）
2. アナログ音声端子………（16）
3. PRE OUT端子………（30）
4. アース端子（SIGNAL GND）……（26）
5. TRIGGER OUT端子………（29）
6. スピーカー端子………（15）
7. ACアウトレット………（30）
8. 電源入力端子………（30）
9. コンポーネント/D5ビデオ端子………（16）
10. ビデオ/Sビデオ端子………（16）
11. RS-232C端子………（29）
12. EXT.IN端子………（26）
13. DENON LINK端子………（28）
14. HDMI端子………（28、29）
15. iPodコネクタ………（47）
16. ETHERNET端子………（50）

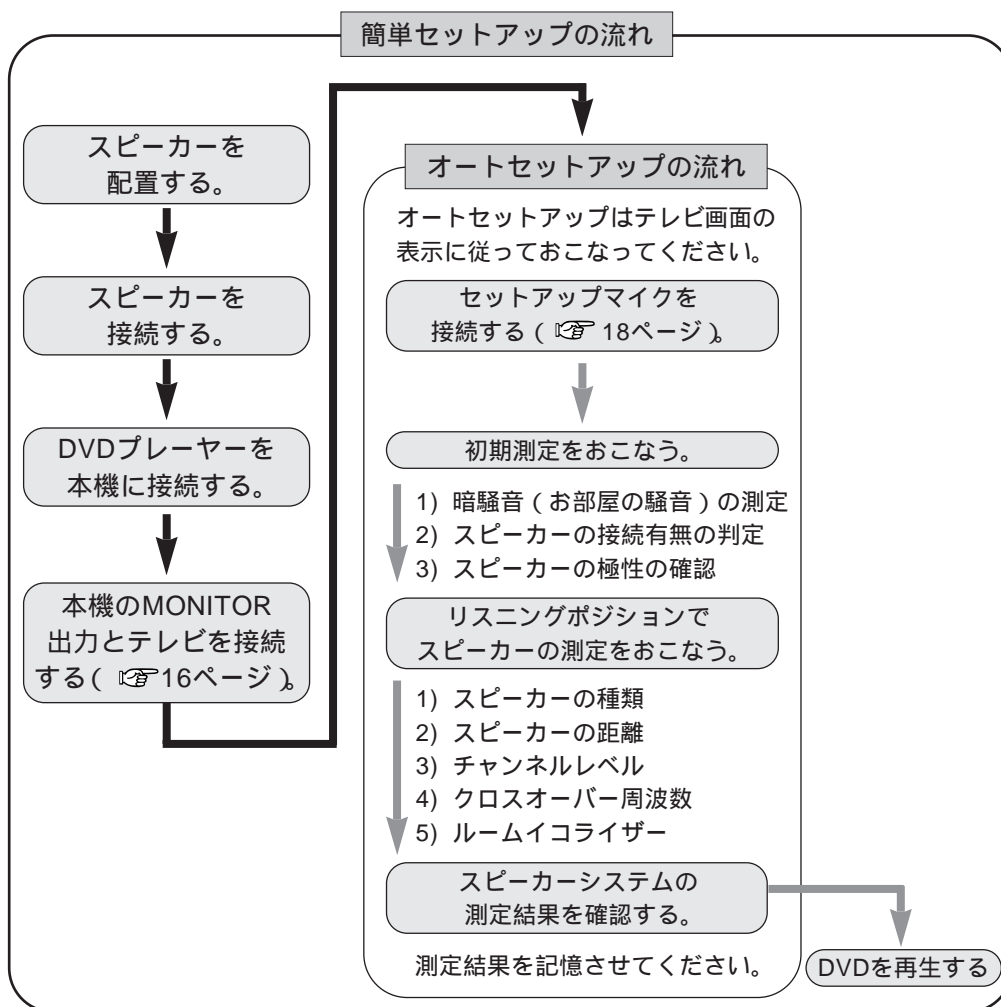
リモコン

各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。

メモ

- リモコンの「バックライト点灯時間の設定」について（☞ 61ページ）（工場出荷時は10秒に設定されています。）

簡単セットアップと操作のしかた

- 簡単セットアップをおこなうことで、あなたのお部屋のリスニング環境に適したサラウンド再生をおこなうことができます。
- 本機の性能を発揮する上でも、オートセットアップ機能を使用して音場の設定をおこなうことをお勧めします。
- オートセットアップ/Room EQ機能を使用しないで手動による音場の設定をおこなう場合には、81〜86ページを参照してください。

スピーカーシステムのレイアウトについて

基本的なシステムレイアウト

スピーカーシステム（8台）とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例です。

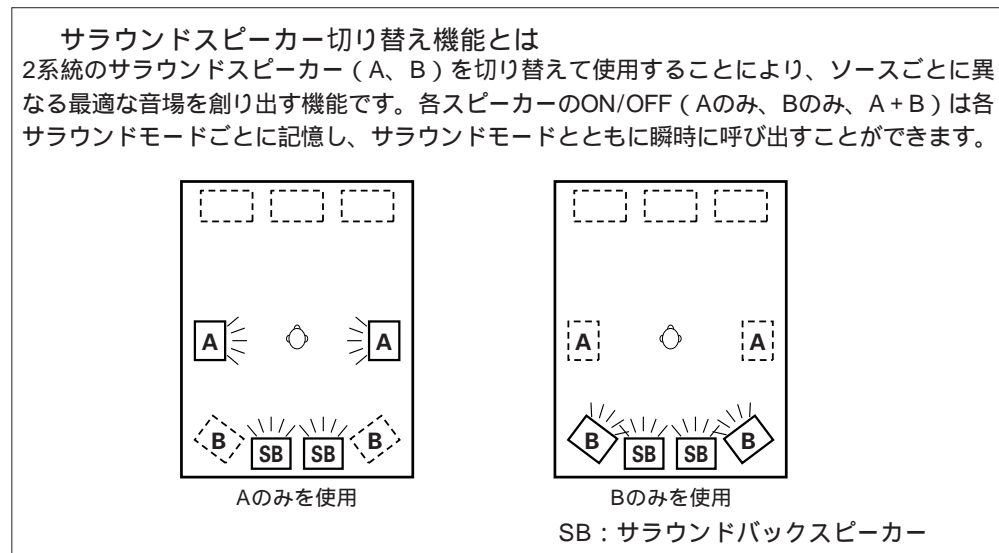
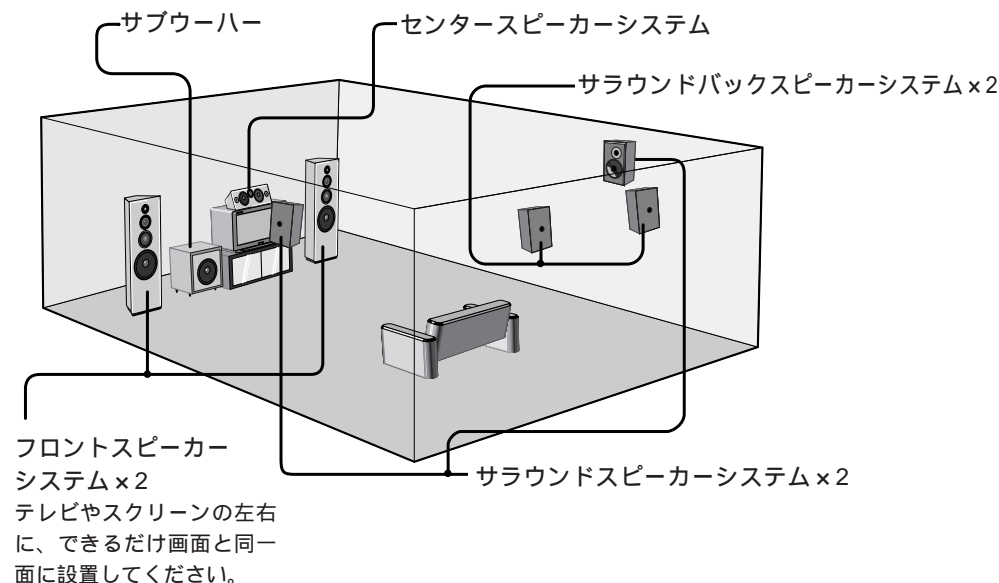
フロントスピーカーシステム×2
テレビやスクリーンの左右に、できるだけ画面と同一面に設置してください。

■ サラウンドスピーカー切り替え機能とは

2系統のサラウンドスピーカー（A、B）を切り替えて使用することにより、ソースごとに異なる最適な音場を創り出す機能です。各スピーカーのON/OFF（Aのみ、Bのみ、A＋B）は各サラウンドモードごとに記憶し、サラウンドモードとともに瞬時に呼び出すことができます。

Aのみを使用

Bのみを使用

※ SB：サラウンドバックスピーカー

スピーカーシステムの接続のしかた

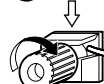
- スピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性（⊕と⊕、⊖と⊖）を接続してください。

ご注意

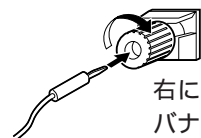
- 接続の際、スピーカーケーブルの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーケーブルの芯線どうし、および芯線がリアパネルやねじに接触しないようにご注意ください。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

スピーカーケーブルの接続

① スピーカー端子を左に回して、ゆるめます。

芯線をよくねじるか端末処理をしてください。

②ケーブルの芯線を差し込みます。

③ 右に回して端子を締めます。

バナナプラグの接続

右に回して端子を締め付けバナナプラグを挿入する。

■ スピーカーのインピーダンスについて

- フロント、センターおよびサラウンドバック用スピーカーは、インピーダンスが6〜16Ωのスピーカーをご使用ください。
- サラウンド用スピーカーシステムAまたはBのどちらか一方を使用する場合は、インピーダンスが6〜16Ωのスピーカーをご使用ください。
- サラウンド用スピーカー2組（A＋B）を同時に使用する場合は、インピーダンスが8〜16Ωのスピーカーをご使用ください。

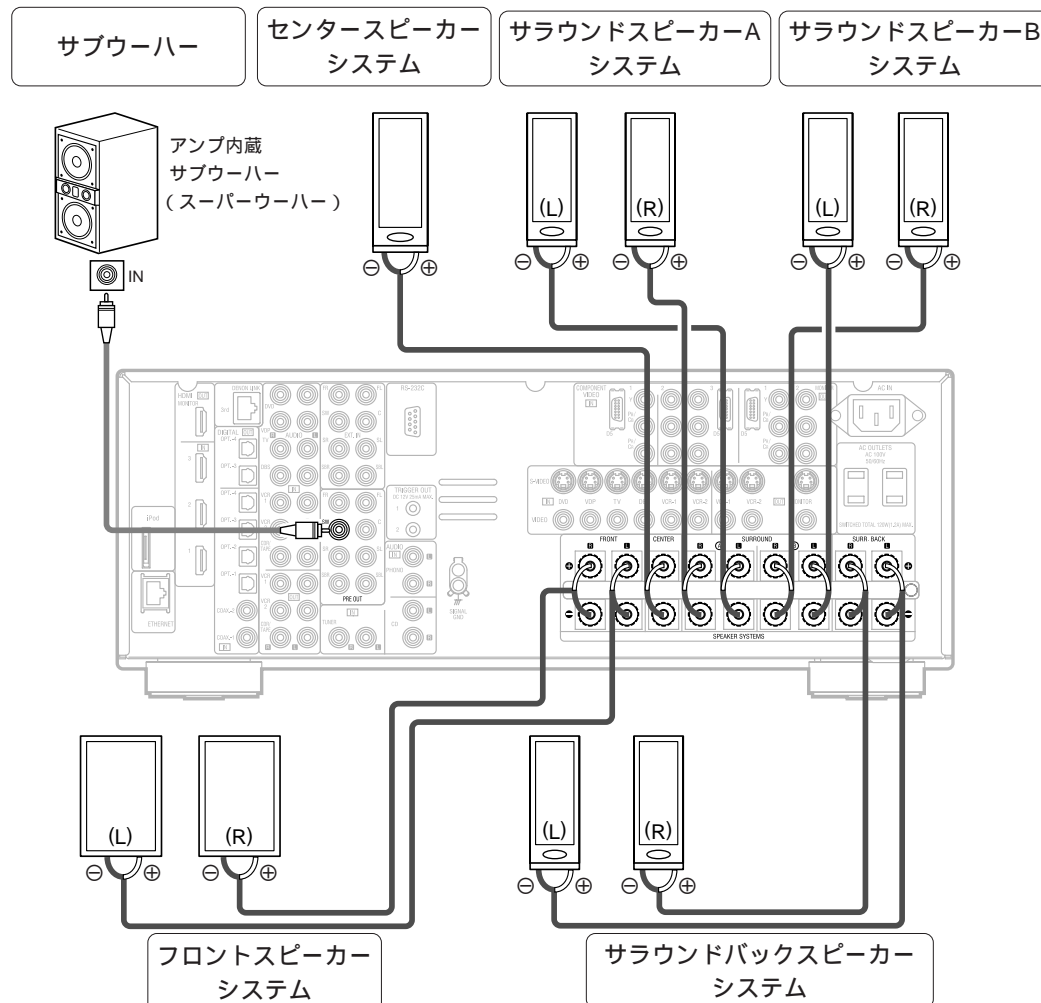
スピーカーインピーダンスのご注意

指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例えばスピーカーインピーダンスが4Ωなど）を使用して、長時間にわたり大音量で再生したりすると、極端な温度上昇などにより保護回路が動作することがあります。保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断されますので、電源コードを抜いてください。本機が冷えるのを待って、周囲の通風状態を良くしてから、もう一度電源コードを挿入して電源を入れ直してください。

保護回路について

本機には高速プロテクター回路が内蔵されています。これはパワーアンプの出力が誤って短絡された際に大電流が流れたり、本機の周囲の温度が異常に高くなったり、または長時間にわたり、本機を大出力で使用した際の極端な温度上昇などが発生した場合に、スピーカーを保護するためのものです。
保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源表示が点滅します。このような場合は、電源コードを抜いてからスピーカーケーブルや入力ケーブルの配線に異常がないかを確認してください。また、本機の温度が極端に上がっている場合は本機が冷えるのを待ち、周囲の通風状態を良くしてから、もう一度電源コードを挿入して、本機の電源を入れ直してください。
配線や本機の周囲の通風に問題がないのにも関わらず、保護回路が動作してしまう場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で、弊社お客様相談窓口または修理相談窓口にご連絡ください。

■ 接続のしかた

- 本機は下図のように2組のサラウンドスピーカー（A＋B）とサラウンドバックスピーカーを接続して10台のスピーカーを使用したサラウンド再生をお楽しみいただけます。
- 本機のサラウンドバック用のパワーアンプは、フロントチャンネルに割り当ててフロントスピーカーをバイアンプ接続で再生することができます。詳しくは「パワーアンプの割り当ての変更」（☞ 76ページ）をご覧ください。
- 接続の際は、スピーカーの取扱説明書も合わせてご覧ください。

スピーカー設置時のご注意

テレビまたはモニター受像機に近づけるとスピーカーの磁気により画面に色ズレが生じることがあります。この場合は影響のない位置に離してください。

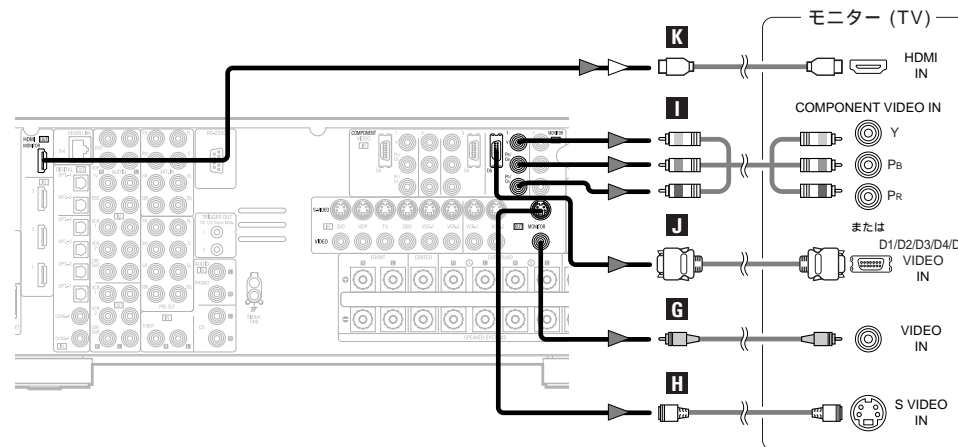
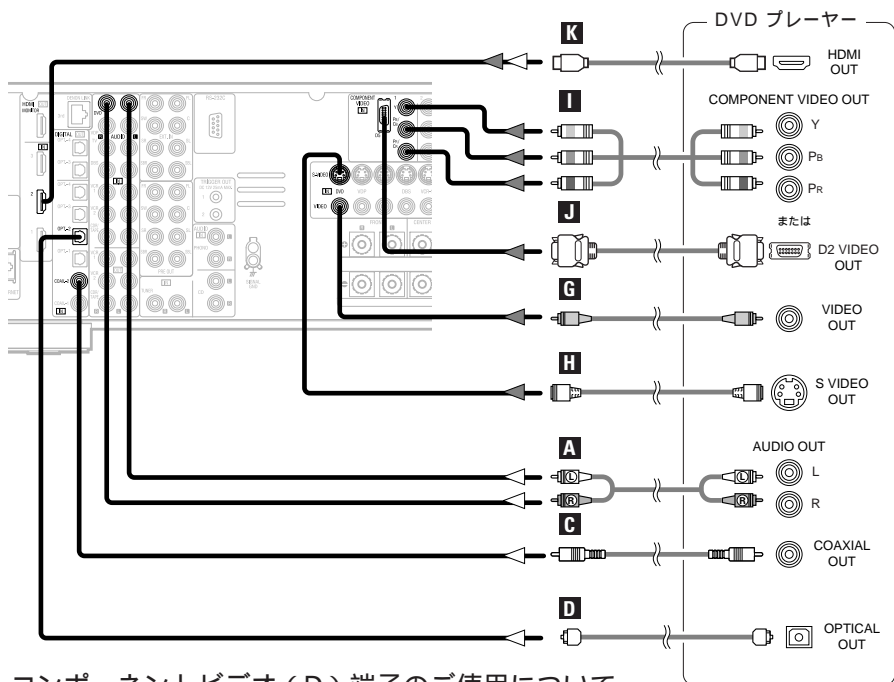
サラウンドバックスピーカーを1本で使用する場合は、Lチャンネルを使って接続してください。

DVDプレーヤーとモニター（テレビ）の接続のしかた

- DVDプレーヤーの映像信号は、**HDMI、ビデオ、Sビデオ、D端子またはコンポーネントケーブルのいずれか**で本機と接続します。(全てのケーブルを接続する必要はありません。) 詳しくは、「ビデオコンバージョン機能について」（☞ 24ページ）をご覧ください。
- デジタル音声を再生する場合は、**75Ωピンプラグケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらか**で接続します。光伝送ケーブルを使用する場合は、「デジタル入力の設定」（☞ 67ページ）をおこなう必要があります。
- ビデオディスクプレーヤーは、同じ方法でVDP端子に接続することができます。

■ コンポーネントビデオ（D）端子のご使用について

① コンポーネントビデオ端子とD端子を同時に接続することはできません。接続する機器に合わせてどちらか片方を接続してください。
② コンポーネントビデオモニターアウト1、2端子は両方同時に接続することができます。

本機の映像出力は、HDMI、ビデオ、Sビデオ、D端子またはコンポーネントケーブルのいずれかでモニター（TV）と接続します。
(全てのケーブルを接続する必要はありません。)

メモ

- HDMI入力端子から音声信号が入力された場合だけ、HDMIモニターアウト端子から音声が出力されます。
- 本機とDVDプレーヤーをHDMIケーブルを使用して接続する場合は、モニター（TV）との接続もHDMIケーブルを使用してください。
- 本機を通してHDMIまたはコンポーネントビデオ信号をご覧の場合、システムセットアップおよびリモコンの **ON SCREEN** ボタンの操作時にオンスクリーンディスプレイが表示されます。
- テレビやモニターによってコンポーネントビデオ入力端子の表示が異なります。(PR、PB、Y / CR、CB、Y / R-Y、B-Y、Yなど）詳しくはテレビやモニターに付属の取扱説明書をお読みください。
- 本機のD端子は、D1〜D5（480i、480p、1080i、720p、1080p）の映像端子に対応しています。
- 本機のコンポーネントビデオモニターアウト端子とモニター（TV）をコンポーネント（映像用75Ωピンプラグ）ケーブルで接続した場合やD端子ーコンポーネント変換ケーブルを使用した場合、D端子から入力された解像度などの識別信号は出力されません。

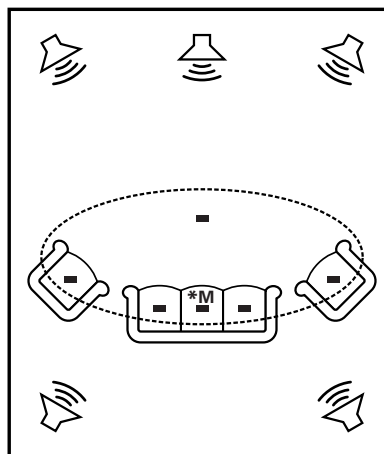
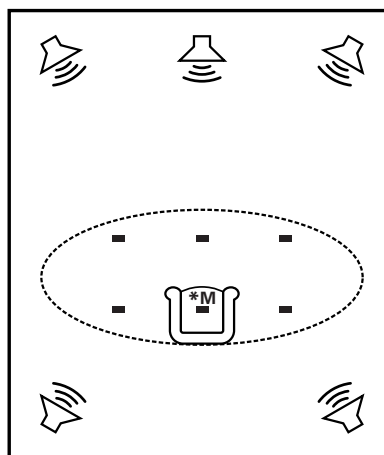
オートセットアップ/Room EQ機能について

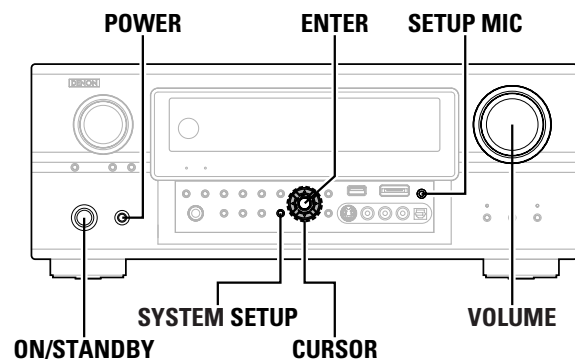
- 本機のオートセットアップ/Room EQ機能は、接続したスピーカーシステムやお部屋の音響特性を測定し、最適なセッティングを自動でおこなうことができます。
- 本機が採用しているAudyssey MultEQ XT機能は、複数のリスナーが同時に視聴を楽しむ機会が多いホームシアターの、すべてのリスニングポイントに対して最適なリスニング環境を提供することを特長としています。
  このために、まず、それぞれのスピーカーから発生されるテストトーンをすべてのリスニングポイントにおいて付属のセットアップマイクで測定します。これらのすべての測定されたデータを独自の方法で解析することにより、リスニングエリア内の音響特性を包括的に改善します。より良い効果を得るために、測定は6ヵ所でおこないます。
  右図のように、スピーカーに囲まれたリスニングエリア内でセットアップマイクを順次移動し、測定をおこないます。家族で映画や音楽を楽しまれる方は、家族の方が座る場所にセットアップマイクを順次移動（図中“ ▬ ”が設置ポイントを表す）して測定を繰り返してください。【例 ①】
  また、ホームシアターが少人数用であっても、リスニングポイントの周囲を測定することにより、より効果的な補正をおこなうことができます。【例 ②】
- 本機のRoom EQ機能では『Audyssey』、『Front』および『Flat』の3種類の補正カーブがあります。これらは一度オートセットアップを実行した後に選択可能となります。
  各補正カーブの内容は以下のとおりです。
  ◎ Audyssey：お部屋の音響特性を最適な環境に補正するよう、すべてのスピーカーの周波数特性を調整します。
  ◎ Front：各スピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。
  ◎ Flat：すべてのスピーカーの周波数特性を均一（フラット）にします。
  これはドルビーデジタル、DTS、DVDオーディオ、スーパーオーディオCDのようなマルチチャンネル信号の音楽再生に適しています。

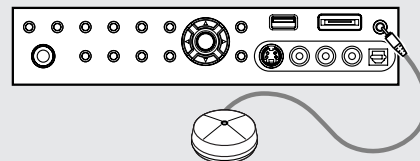
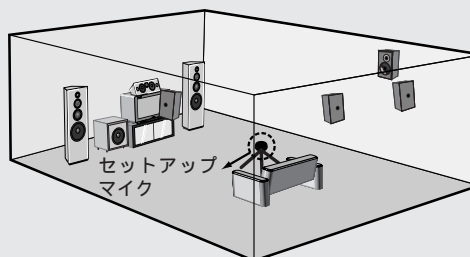
■ メインリスニングポイント（*M）について

メインリスニングポイントとは、もっとも頻繁にリスナーが座る場所、または一人で視聴をおこなうときに座るポイントをさします。本機の測定はこのポイントからはじめます。スピーカー距離の補正（Distance）については、このポイントを基準に設定します。

【例 ①】

【例 ②】

メモ

- スピーカー距離の補正などオートセットアップ機能を使わずにスピーカーシステムの設定をおこなう場合は、81〜86ページをご覧ください。

セットアップマイクを接続する

1 **本機前面の SETUP MIC ジャックに付属のセットアップマイクを接続する。**

2 **セットアップマイクをカメラ用三脚などに取り付け、受音部を天井に向けた状態でリスニングルームのメインリスニングポイントに設置する。**

※ セットアップマイクを設置する際は、セットアップマイクの受音部分の高さがリスニング時の耳の位置に合うように高さを調整してください。
※ 必ず、最初はメインリスニングポイントに設置して測定をスタートしてください。
※ 測定中にマイクロホンとスピーカーの間、あるいはスピーカーの近くに立たないでください。
※ マイクロホンとスピーカーの間に障害物を置かないでください。また、スピーカーはリスニングポジションに向けて設置してください。

ご注意

- セットアップマイクは、測定が終わるまで絶対に抜かないでください。
- 測定をおこなった後にスピーカーの接続あるいはサブウーハーのボリウムを変更しないでください。

システムセットアップの前に

ご使用のサブウーハーにボリウム設定およびクロスオーバー周波数設定機能がある場合

1 **サブウーハーの電源を入れる。**

※ サブウーハーのボリウムを中央の位置に設定し、クロスオーバー周波数を『最大』またはLPFを『オフ』に設定する。
※ サブウーハーによってはスタンバイモード機能を搭載している製品がありますが、それらの機能は必ずOFFにしてからオートセットアップをおこなってください。

2 **テレビやプロジェクターなどのモニターの電源を入れる。**

3 **POWER スイッチを押す。**

ON：
電源表示が赤色に点灯します。

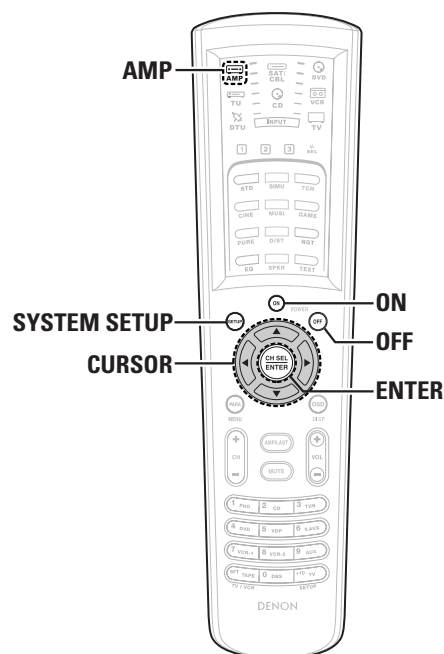
OFF：
電源表示は消灯します。

4 **本体の ON/STANDBY ボタンまたはリモコンの ON ボタンを押す。**

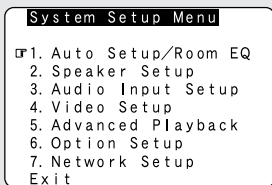
- 電源表示が緑色に点滅して、電源が入ります。

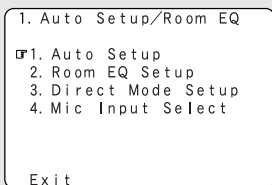
※ **ON/STANDBY** ボタンを押すと電源が入り、ディスプレイが点灯します。
※ **ON/STANDBY** ボタンを押してから音声が出力されるまで、数秒間かかります。これは電源ON/OFF時の雑音を防止するミューティング回路が内蔵されているためです。

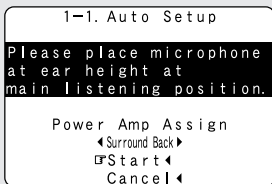
5 **AMP ボタンを押し“AMP”モードにする。**

※ リモコンから操作する時のみおこなってください。（☞ 31ページ）

オートセットアップをおこなう

1 SYSTEM SETUP ボタンを押す。

```
System Setup Menu

☞1. Auto Setup/Room EQ
  2. Speaker Setup
  3. Audio Input Setup
  4. Video Setup
  5. Advanced Playback
  6. Option Setup
  7. Network Setup
  Exit
```

2 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Auto Setup / Room EQ ”を選び、ENTER ボタンを押す。

```
1. Auto Setup/Room EQ

☞1. Auto Setup
  2. Room EQ Setup
  3. Direct Mode Setup
  4. Mic Input Select

  Exit
```

3 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Auto Setup ” を選び、ENTER ボタンを押す。

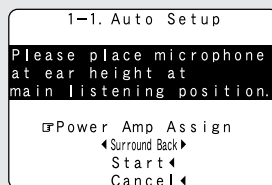
```
1−1. Auto Setup

Please place microphone
at ear height at
main listening position.

Power Amp Assign
◂Surround Back▸
☞Start◂
Cancel◂
```

※ セットアップマイクが接続されていないときは“ Connect Microphone ”というメッセージが表示されますので、付属のセットアップマイクを接続してください。

メモ

- 本機のオンスクリーンディスプレイ機能は、高解像度のモニターTV用に設計されていますので、小さいキャラクター表示は小さい画面や低解像度のTVでは見にくい場合があります。
- ヘッドホンを使用している場合は、System Setup Menu 画面は表示されません。
- System Setup Menuが表示されているときに **SYSTEM SETUP** ボタンが押されると上位画面へ戻ります。

パワーアンプの割り当ての変更

本機のサラウンドバックのパワーアンプはご使用のスピーカーシステムに合わせて“ Front ”または“ Front B ”に割り当てることができます。
フロントスピーカーをバイアンプ接続でご使用になる場合は“ Front ”を設定してください。5.1chや7chのサラウンド再生用のスピーカーシステムとは別に、2チャンネル（ステレオ）再生専用のスピーカーとしてご使用になる場合は“ Front B ”を選んでください。

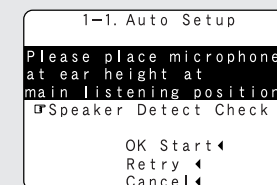
CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Power Amp Assign ”を選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、パワーアンプをどのチャンネルに（“ Surround Back ”、“ Front ”または“ Front B ”）割り当てるかを選ぶ。

※“ Front ”または“ Front B ”を選んだ場合は、サラウンドバックチャンネルの測定はおこなわれません。

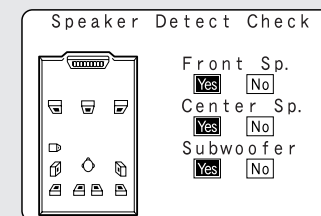
初期測定

この測定では暗騒音（お部屋の騒音）、スピーカーの接続の有無およびスピーカーの極性が自動的に判定されます。

1 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Start ”を選び、CURSOR ◁ ボタンを押す。

- 初期測定が開始されます。

※ 初期測定が終わり下記の画面が表示されます。

2 ENTER ボタンを押す。

[第1画面]

3 ENTER ボタンを押して、第2画面に切り替える。

[第2画面]

4 確認が終了したら再度 ENTER ボタンを押す。

測定中のご注意

- 各スピーカーとセットアップマイクの間に障害物があると正しく測定できない場合がありますので、障害物がないことを確認してください。
- 測定中はスピーカーとセットアップマイクの間や近くに立たないように気を付けてください。
- 測定に悪影響を与えないためにも、エアコンや音の出る機器の電源は切り、できる限り静かな環境で測定を実行してください。
- 測定中に本体またはリモコンで主音量を調節した場合は、測定が中止されます。

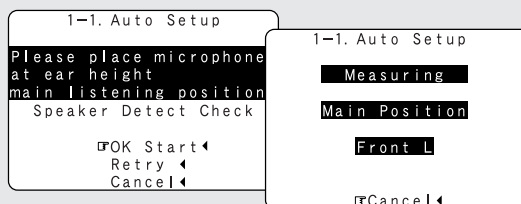
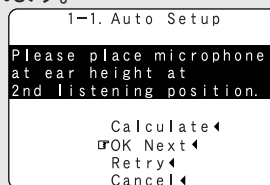
メモ

- 今後、この情報をもとに測定がおこなわれますので、測定結果を確認してください。
- もし、自分が接続した状態と異なる結果が出た場合や、エラーメッセージが表示された場合は、“ Retry ” を選び再度測定をおこなってください。（エラーメッセージの詳細について ☞ 22ページ）
- 再測定後の結果も、自分が接続した状態と異なる結果が出た場合や再度エラーメッセージが表示された場合には、接続を間違えている可能性がありますので、必ず一度本機の電源を切ってからスピーカーの接続を確かめて、最初から測定をやり直してください。

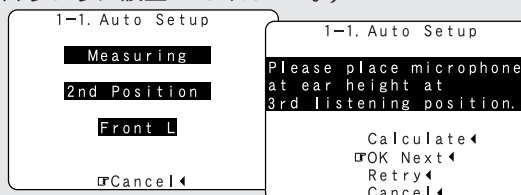
スピーカーシステムの測定

この測定では『スピーカーの種類（Speaker Configuration）』、『スピーカーの距離（Distance）』、『チャンネルレベル（Channel Level）』、『クロスオーバー周波数（Crossover Frequency）』、および『Room EQ』が自動的に解析されます。最初にメインリスニングポイントを測定しますので、セットアップマイクの位置はそのまま動かさないでください。

1 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ OK Start ”を選び、CURSOR ◁ ボタンを押す。

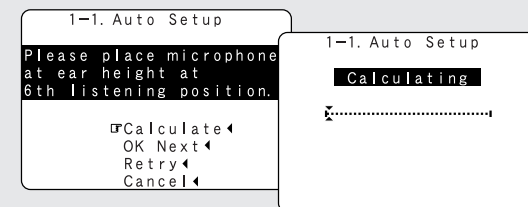
- 1ポイント目（メインリスニングポイント）の測定が開始されます。

※ メインリスニングポイントの測定が終わると下記の画面が表示されます。

2 2ポイント目にセットアップマイクを設置、CURSOR ◁ ボタンを押す。

- 2ポイント目の測定が開始されます。

※ マイクを設置する位置について（☞ 17ページ）（メインリスニングポイントを測定するときと同様に、マイクの受音部分の高さがリスニング時の耳の位置に合うように設置してください。）

3 操作2、3を繰り返しおこなう。

※ メインリスニングポイントと、その周囲を合わせて6ヵ所の測定をおこなってください。

4 必要なポイント数を測定し終えたら CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Calculate ”を選び、CURSOR ◁ ボタンを押す。

- スピーカーシステムの解析がおこなわれます。

※ 計算が終了すると測定結果の確認画面が表示されます。
※ 解析時間は接続されたスピーカーの数と測定ポイント数に依存します。接続するスピーカーの数と測定ポイントが多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。
※ 測定ポイント数が6ヵ所以下でも測定を終了することができますが、より良い結果を得るためには**6ヵ所**の測定を推奨します。

ご注意

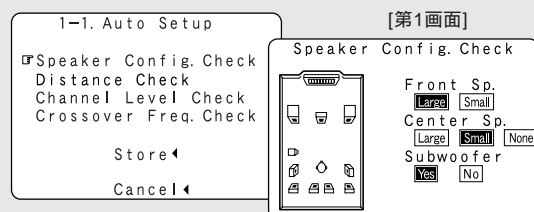
これ以降の測定は、初期測定でスピーカーが接続されていないと判定されたスピーカーからはテストトーンは出力されません。初期測定後、本測定をおこなうまでにスピーカーの接続を変更したり、サブウーハーのボリウムを変更したりしないでください。

測定結果とメモリーについて

- 自動測定が終了するとスピーカーシステムの測定結果の確認画面が表示されます。測定結果の内容を確認し記憶させてください。
- イコライザー（Room EQ）のパラメーターの確認については、88ページをご覧ください。

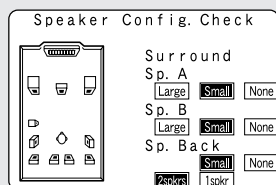
1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して確認したい項目を選び、ENTER ボタンを押す。**

【例】スピーカーの種類・有り無しの確認画面

[第1画面]

2 **ENTER ボタンを押す。**

- 第2画面が表示されます。

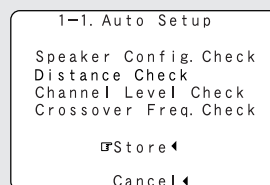
【例】スピーカーの種類・有り無しの確認画面

[第2画面]

3 **確認が終了したら ENTER ボタンを押す。**

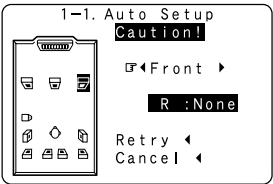
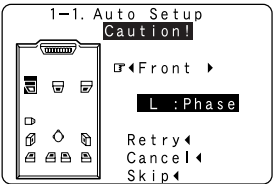
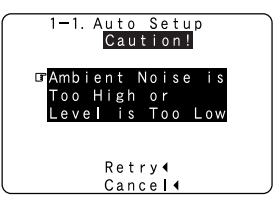
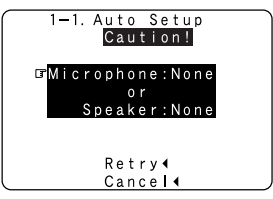
4 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して確認内容を記憶させるかどうか選ぶ。**

Store：
イコライザーを含むすべてのパラメーターがメモリーされます。

Cancel：
オートセットアップの設定を取り消します。

1−1. Auto Setup
Speaker Config. Check
Distance Check
Channel Level Check
Crossover Freq. Check
☞Store
Cancel

5 **“ Store ” を選んだ場合:**
CURSOR ◁ ボタンを押す。

- メモリー完了後は自動的にAuto Setup / Room EQ画面に切り替わります。

メモ

- セットアップマイクを使用して測定した場合、サブウーハーなどのフィルター内蔵スピーカーは、内部の電気的な遅延により実際の距離と異なる値が設定される場合があります。

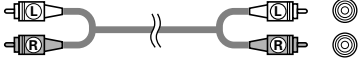
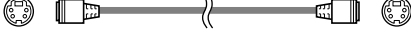
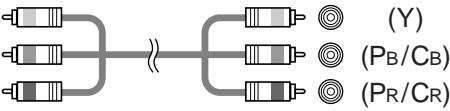
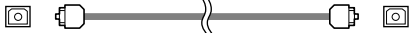
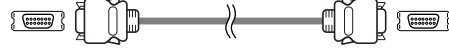
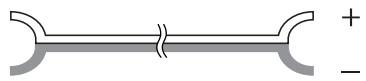
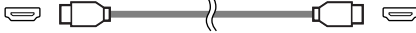
ご注意

メモリー中は電源を切らないでください。

エラーメッセージについて

オートセットアップ/Room EQの測定をおこなったとき、スピーカーの配置や測定環境などのために自動測定を完了できなかった場合はエラー画面が表示されます。下記のエラー画面をご確認の上、該当する項目を設定して再度測定してください。
なお、スピーカーの接続を確認する際には必ず電源を切ってからおこなってください。

例	原　因	処　理
1−1. Auto Setup Caution! ☞◀Front ▶ R :None Retry ◀ Cancel ◀	① 適切な再生をおこなうために必要なスピーカーが検出されなかった場合 ●フロントLまたはフロントRスピーカーが正しく検出されなかった。 ●サラウンド（A）またはサラウンド（B）スピーカーの片方のチャンネルしか検出されなかった。 ●サラウンドバックスピーカーを1台のみ接続している場合に、Rチャンネルから検出された。 ●サラウンドバックまたはサラウンド（B）スピーカーが検出されて、サラウンド（A）スピーカーが検出されなかった。 ※ 複数のエラーが発生した場合は、**CURSOR** ◁ ▷ ボタンを使用して内容を確認してください。	●該当するスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
1−1. Auto Setup Caution! ☞◀Front ▶ L :Phase Retry◀ Cancel◀ Skip◀	② スピーカーの極性が逆に接続されている場合 ※ 複数のエラーが発生した場合は、**CURSOR** ◁ ▷ ボタンを使用して内容を確認してください。	●該当するスピーカーの極性を確認してください。 ●スピーカーによっては正しく接続されていてもこの画面が表示される場合があります。このような場合には“ Skip◀ ”を選んでください。
1−1. Auto Setup Caution! ☞Ambient Noise is Too High or Level is Too Low Retry◀ Cancel◀	③ 部屋の騒音が大きすぎて正確な測定をおこなうことができない場合 または、スピーカーやサブウーハーから出力される音量が小さすぎる場合	●測定中は騒音を発生する機器の電源を切るか、遠ざけてください。 ●周囲が静かな時間帯にもう一度やり直してください。 ●スピーカーの配置や向きを確認してください。 ●サブウーハーの音量を調節してください。
1−1. Auto Setup Caution! ☞Microphone:None or Speaker:None Retry◀ Cancel◀	④ 測定用マイクが接続されていない場合 または、すべてのスピーカーが検出されなかった場合	●セットアップマイクジャックに付属のセットアップマイクを接続してください。 ●スピーカーの接続を確認してください。

《簡単セットアップと操作のしかた》

DVDソフトをサラウンド再生する

1 **セットアップマイクを本体からはずす。**

2 **入力ソース“ DVD ”を選ぶ。**

3 **サラウンドモードを選ぶ。**

4 **DVDソフトの再生をする。**

5 **音量を調節する。**

接続のしかた

接続ケーブルの表示

下図に示す接続ケーブル（別売り）を使用して、他の機器を接続してください。

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続の際は、各機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 接続ケーブルと電源コードを一緒に束ねたり、電源トランスなど他の電気製品の近くに接続ケーブルを設置すると、ハムや雑音の原因となることがあります。

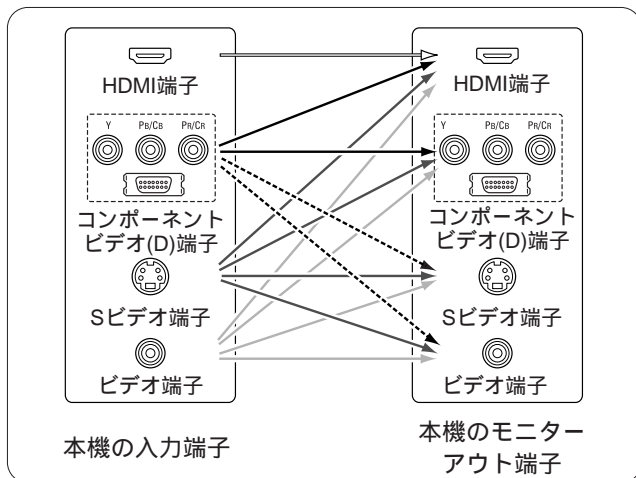
ご注意

ドルビーデジタルRF出力端子付きLDプレーヤーの接続について

デジタル入力端子にLDプレーヤーのドルビーデジタルRF出力端子を接続する場合は、市販のアダプターを使用してください。接続の際には、アダプターの取扱説明書も併せてご覧ください。

ビデオコンバージョン機能について

- 本機のモニター出力には映像信号のコンバージョン機能を装備しています。
  このため、再生機器と本機の映像入力端子との接続方法に関わらず、本機のモニターアウト端子とモニター（テレビ）間の接続方法については、より高品位な接続方法のケーブルを1本接続するだけで視聴できます。
- アナログ映像信号の接続方法については、一般的に
  ① コンポーネントビデオ（D）端子
  ② Sビデオ端子
  ③ ビデオ端子（黄）
  の順で高品位な再生をおこなうことができます。

本機内部での映像信号の流れ

----：480i/576iのとき

アナログビデオ信号からHDMIへのアップコンバージョン機能について

- 本機のアップコンバージョン機能は入力されたアナログビデオ信号（コンポーネント-480i/576i、480p/576p、1080i、720p；Sビデオおよびビデオ-480i/576i）をHDMIモニター端子に出力することができます。
- 本機はHDMIモニターアウト端子に出力する解像度を選択することができます。（☞71ページ）
  モニターが対応している解像度は本機の **STATUS** ボタンやリモコンの **ON SCREEN** ボタンによって確認することができます。

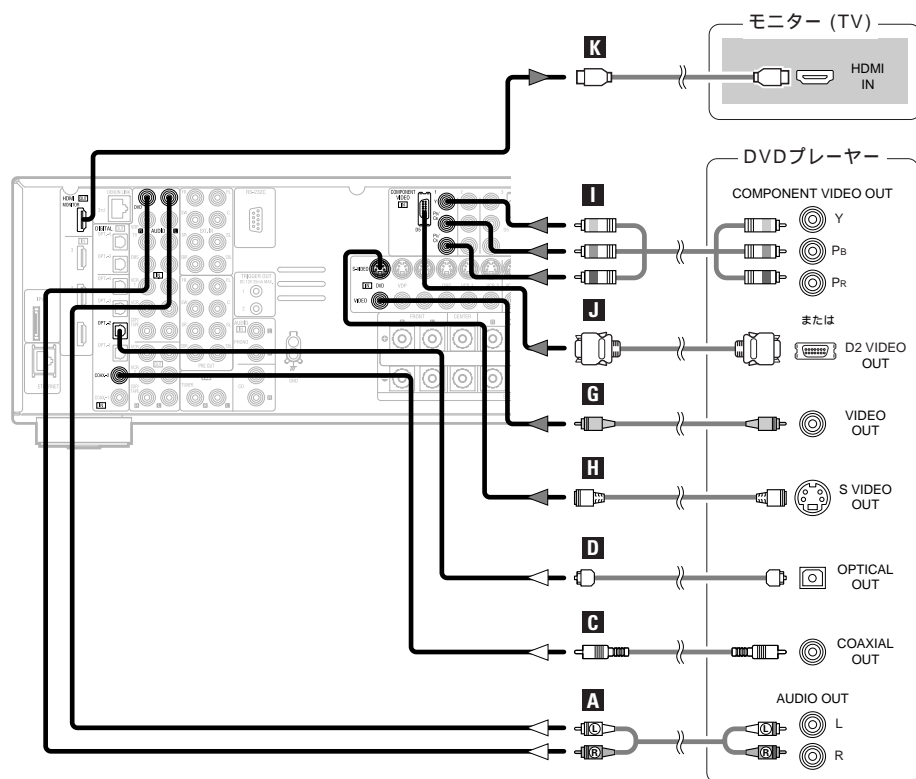
メモ

- コンポーネントビデオ端子に入力された信号の解像度が480i/576iのときは、ビデオおよびSビデオのモニターアウト端子にダウンコンバートされます。
- HDMI信号からコンポーネントビデオ信号、Sビデオ信号、ビデオ信号へのダウンコンバートはできませんので、HDMIモニターアウト端子を使用しない場合は、コンポーネントビデオ、Sビデオまたはビデオ入力端子で再生機器と接続してください。
- ビデオコンバージョン機能を使用しない場合には、「ビデオコンバートの設定」（☞71ページ）で“OFF”を選んでください。
- アナログビデオ信号からHDMIへのアップコンバージョン機能を使用しない場合には、「HDMIコンバート出力の設定」（☞71ページ）で“OFF”を選んでください。
  この場合はコンポーネントビデオ端子までのアップコンバージョン機能が動作します。

■ HDMIまたはコンポーネントビデオ出力のオンスクリーンディスプレイ表示について

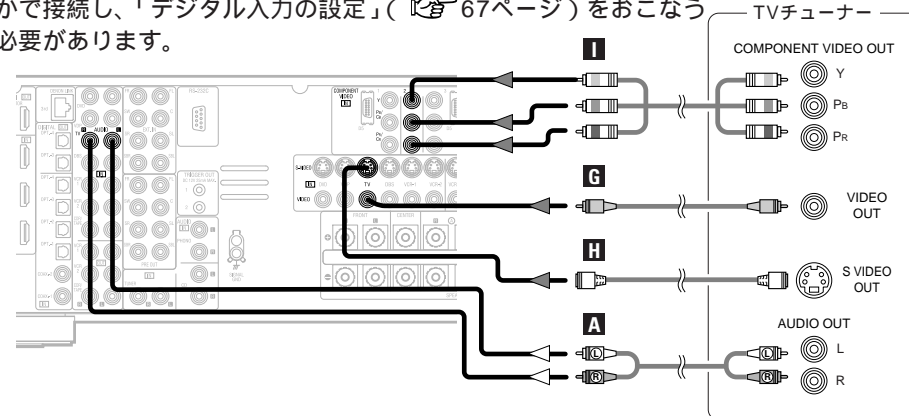
- 本機を通してHDMIまたはコンポーネントビデオ信号をご覧の場合、システムセットアップおよびリモコンの **ON SCREEN** ボタンの操作時にオンスクリーンディスプレイが表示されます。
- 本機にHDMIまたはコンポーネントビデオ信号のみが入力されている場合、オンスクリーンディスプレイの文字は映像信号に重ねて表示されません。

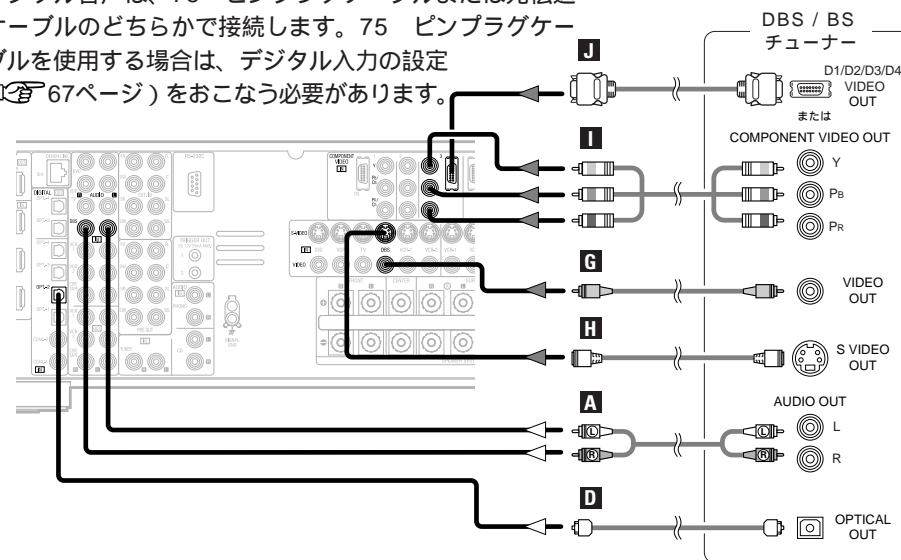
アナログビデオ信号をHDMIに変換する場合のビデオ機器の接続

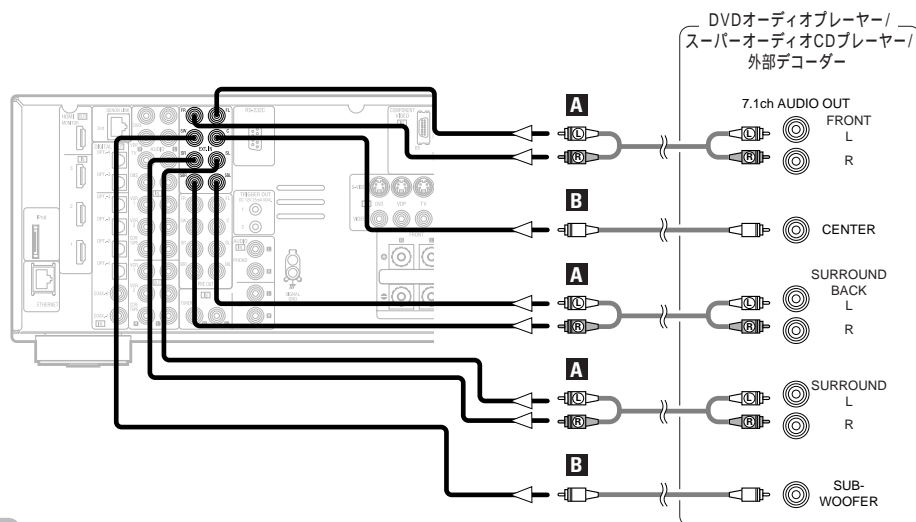
- 本機はアナログビデオ信号からHDMIへのアップコンバージョン機能を搭載しています。プレーヤーの映像信号は、ビデオ、Sビデオ、D端子またはコンポーネントケーブルのいずれかで接続します。
- 音声信号はHDMIモニターアウト端子からは出力されませんので、アナログまたはデジタル音声接続もおこなってください。デジタル音声を再生する場合は、「デジタル入力の設定」(☞67ページ）をおこなう必要があります。

メモ

- 「HDMIコンバート出力の設定」(☞71ページ）で“ Resolution ”を“ Through ”に設定する場合は、480i/576iの入力解像度に対応したHDMIモニターをご使用ください。
- ご使用になるモニター（TV）にHDMI端子が備わっていない場合は、ビデオ、Sビデオまたはコンポーネントビデオ（D）端子のいずれかを使用して接続してください。

TVチューナーの接続

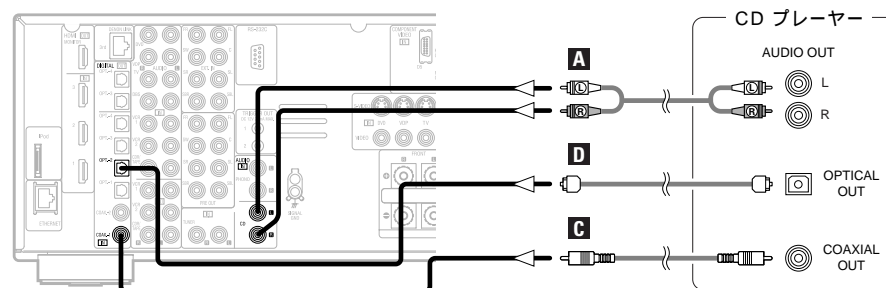
- TVチューナーの映像信号は、ビデオ、Sビデオ、D端子またはコンポーネントケーブルのいずれかで接続します。
  D端子用ケーブルを使用する場合は「コンポーネントビデオ入力の設定」(☞70ページ）をおこなう必要があります。
- デジタル音声を再生する場合は、75Ωピンプラグケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続し、「デジタル入力の設定」(☞67ページ）をおこなう必要があります。

DBSチューナーの接続

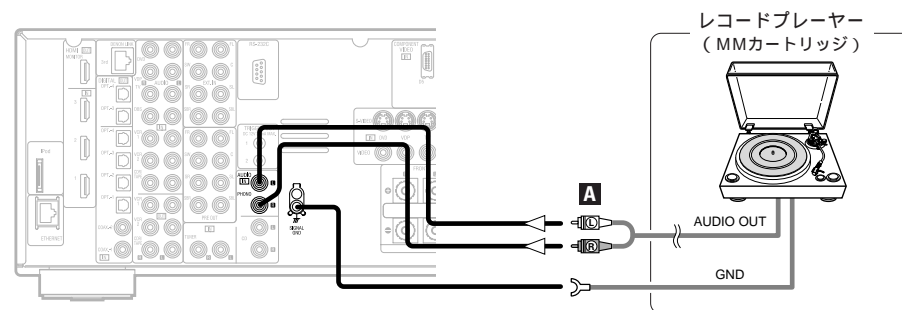
- DBSチューナーの映像信号は、ビデオ、Sビデオ、D端子またはコンポーネントケーブルのいずれかで接続します。
- デジタル音声は、75Ωピンプラグケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。75Ωピンプラグケーブルを使用する場合は、デジタル入力の設定 (☞67ページ）をおこなう必要があります。

外部入力（EXT. IN）端子の接続

- 本機には7.1チャンネル用アナログ外部入力端子を備えています。この入力端子はハイビジョンのMUSE 3-1方式やDVDオーディオプレーヤーなどのマルチ・チャンネル音声を入力するための端子です。
- ビデオ信号の接続のしかたはDVDプレーヤーと同じです。(☞16ページ)
- EXT. IN端子に接続されたアナログ入力信号の再生方法を設定するには「外部入力（EXT. IN）端子の設定」をご覧ください。(☞67ページ)

メモ

- ハイビジョン（MUSE 3-1方式）を接続するとき、サラウンドチャンネル出力がモノラルの場合には、別売りのモノ・ステレオケーブルを使用してください。
- DENON LINK端子をもつDENON製DVDプレーヤーに付属する専用の接続ケーブルで本機とDVDプレーヤーを接続すると、DVDオーディオディスクやスーパーオーディオCDなどのマルチチャンネルソースをデジタル伝送し、マルチチャンネル再生することができます。しかしながら、著作権保護のかかったディスクではDVDプレーヤーのデジタル出力が出ない場合があります。このようなときには、本機のEXT. IN端子にDVDプレーヤーのアナログマルチチャンネル出力を接続して再生してください。

CDプレーヤーの接続

- デジタル音声は、75Ωピンプラグケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。光伝送ケーブルを使用する場合は、「デジタル入力の設定」(☞67ページ）をおこなう必要があります。

レコードプレーヤーの接続

- レコードプレーヤー（MMカートリッジ）は本機のPHONO端子に接続してください。

ご注意

- 本機ではMCカートリッジの再生はできません。市販のヘッドアンプまたは昇圧トランスを使用してください。
- レコードプレーヤーを接続しないで音量を上げたときに、“ ブーン ” という誘導ハム音がスピーカーから出ることがあります。なお、本機のアース端子（SIGNAL GND）はレコードプレーヤーを接続した場合の雑音の低減をはかるもので、安全アースではありません。
- レコードプレーヤーによっては、アースワイヤーが接続されているときに雑音が発生する場合があります。このような場合は、アースワイヤーを外してください。

ビデオカメラ、ゲーム機の接続

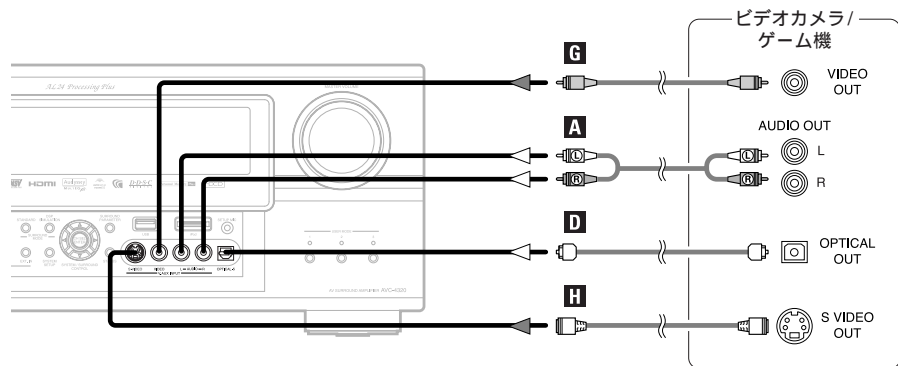
● 本機前面のV.AUX入力端子に接続します。

ビデオデッキの接続

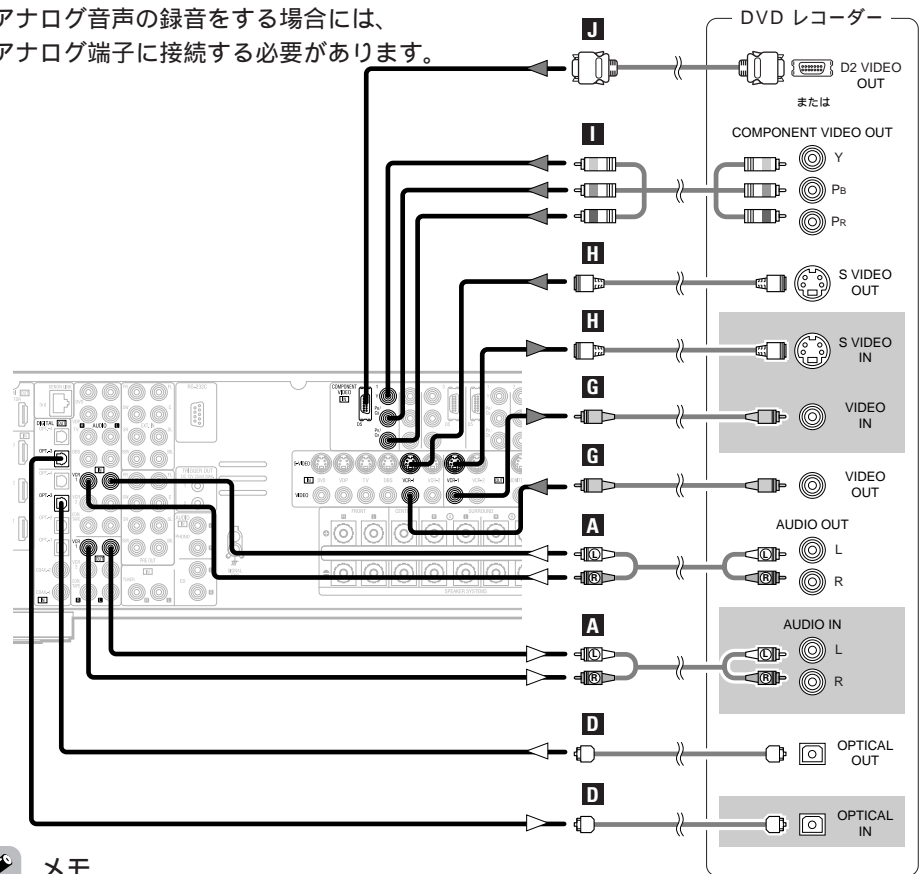
● ビデオデッキ（VCR）端子は2系統あり、2台のビデオデッキを接続して同時録画やビデオコピー（ダビング）がおこなえます。

ビデオデッキ
G VIDEO OUT
H S VIDEO OUT
G VIDEO IN
H S VIDEO IN
A AUDIO IN L R
A AUDIO OUT L R

メモ

● 本機を通して録画するときは再生ソースの機器のケーブルの種類と本機のVCR-1、VCR-2 OUT端子に接続するケーブルの種類を同じにする必要があります。
(例) VCR-2 IN → S端子用接続ケーブル：VCR-2 OUT → S端子用接続ケーブル
VCR-2 IN → 映像用75Ωピンプラグケーブル：VCR-2 OUT → 映像用75Ωピンプラグケーブル

DVDレコーダーの接続

● DVDレコーダーの映像出力は、ビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネントケーブルのいずれかで接続します。
D端子やコンポーネントケーブルを使用する場合は、コンポーネントビデオ入力の設定をおこなう必要があります。(☞ 70ページ)

● アナログ音声の録音をする場合には、アナログ端子に接続する必要があります。

メモ

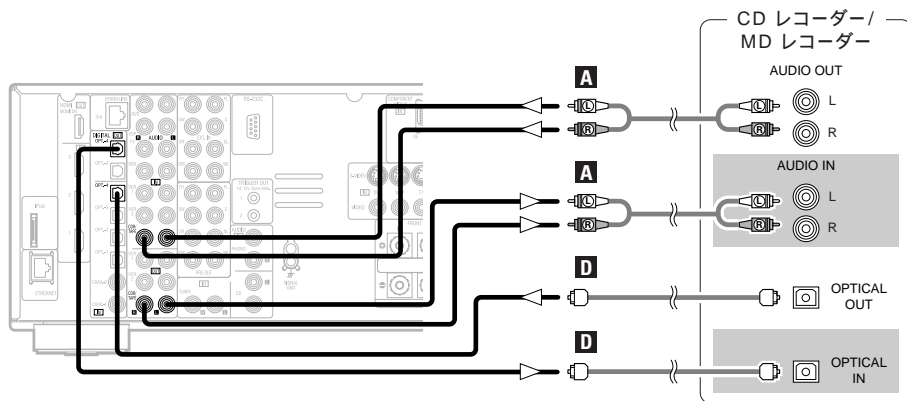
● 本機を通して録画するときは再生ソースの機器のケーブルの種類と本機のVCR-1、VCR-2) OUT端子に接続するケーブルの種類を同じにする必要があります。
(例)VCR-1 IN → S端子用接続ケーブル：VCR-1 OUT → S端子用接続ケーブル
VCR-1 IN → 映像用75Ωピンプラグケーブル：VCR-1 OUT → 映像用75Ωピンプラグケーブル

ご注意

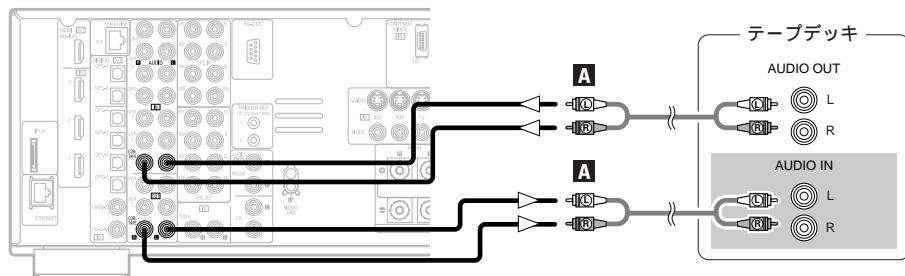
● 本機のリアパネルのOPTICAL 3 OUT端子に接続した機器の出力をOPTICAL 3 IN端子以外に接続しないでください。

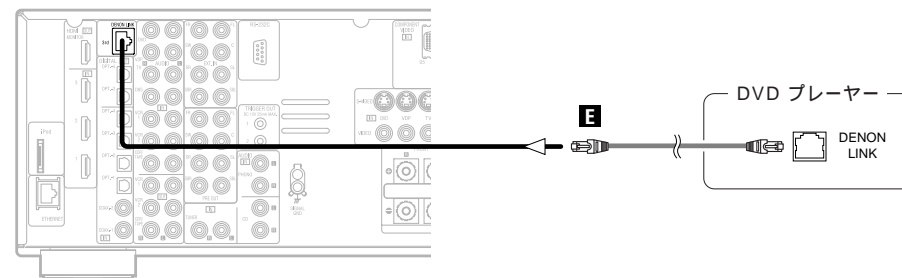
CDレコーダーまたはMDレコーダーの接続

● アナログ音声の録音をする場合には、アナログ端子に接続する必要があります。

ご注意

本機のリアパネルのOPTICAL 4 OUT端子に接続した機器の出力をOPTICAL 4 IN端子以外に接続しないでください。

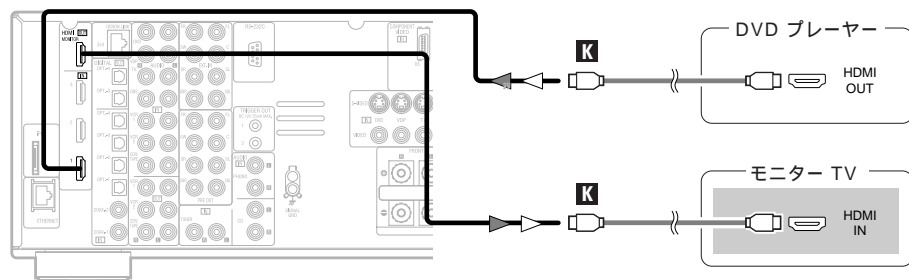
テープデッキの接続

《接続のしかた》

DENON LINKの接続

● DENON製DVDプレーヤーに付属のDENON　LINKケーブルで本機に接続すると、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどのマルチチャンネルをデジタル伝送し、マルチチャンネル再生することができます。「スーパーオーディオCDの再生のしかた」については(☞63ページ)をご覧ください。
● DENON製DVDプレーヤーとDENON　LINK接続した場合は、システムセットアップの「デジタル入力の設定」(☞67ページ)で“ DLINK ”に設定してください。

■ DENON LINK端子での再生について

著作権保護のかかったディスクではDVDプレーヤーのデジタル出力が出ない場合があります。このようなときには、本機のEXT. IN端子にDVDプレーヤーのアナログマルチチャンネル出力を接続して再生してください。

HDMI 端子付きビデオ機器の接続

- 本機とHDMI端子のある機器を1本のケーブル（別売り）で接続するだけで、DVDビデオなどのデジタル映像とDVDビデオやDVDオーディオのマルチチャンネル音声のデジタル伝送がおこなえます。
- 本機の音声出力端子から音声を出力させる場合は、「HDMI入力の設定」(☞69、70ページ）で『AMP』を選んでください。
  TVから音声を出力させる場合は、“ TV ” を選んでください。

入力信号		
DVDビデオ	リニアPCM	○
	ドルビーデジタル	○
	DTS	○
DVDオーディオ	LPCMまたはP.PCM（CPPMあり/なし）	○
CD	リニアPCM	○
スーパーオーディオCD	マルチエリア	×
	ステレオエリア	×
	CDエリア	○

※ 本機はHDMI Ver 1.1に対応しています。

著作権保護システム

HDMI/DVI-D接続を通してDVDビデオやDVDオーディオのデジタル映像と音声を再生するには接続されたプレーヤーとモニターの双方がHDCP（High-bandwidth Digital Content Protection)と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCPはデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。
本機はHDCPに対応しています。お手持ちのプレーヤーまたはモニターについては取扱説明書をご覧ください。

《接続のしかた》

ご注意

- スーパーオーディオCDのマルチ/ステレオエリアの音声は出力されません。
- CPPMで著作権保護されたDVDオーディオディスクを再生する場合は、対応したプレーヤーをご使用ください。
- HDMI対応機器の中には、HDMI端子経由で他の機器を制御できるものがありますが、本機をHDMI端子経由で他の機器からコントロールすることはできません。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、接続される機器により制限されることがあります。
- HDCPに対応していない機器をご使用の場合、映像が正常に出力されません。
- 「HDMIコンバート出力の設定」(☞71ページ）で “ Resolution ” を “ Through ” に設定する場合は、480i/576iの入力解像度に対応したHDMIモニターをご使用ください。
- HDMI入力端子から入力された映像信号は、そのままの解像度でHDMIモニターアウト端子から出力されるため、入力信号の解像度と使用するモニターの解像度が合っていない場合は表示されません。このような場合は、ソース機器（プレーヤー）側でモニターが対応している解像度の設定に合わせる必要があります。
- 安定した伝送のために5m以下のケーブルの使用を推奨します。

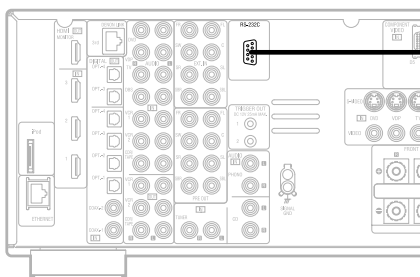
メモ

- 接続するモニターまたはDVDプレーヤーがDVI-D端子のみ対応の場合は、HDMI-DVI変換ケーブルをご使用ください。

HDMI-DVI変換ケーブル（アダプター）での接続について

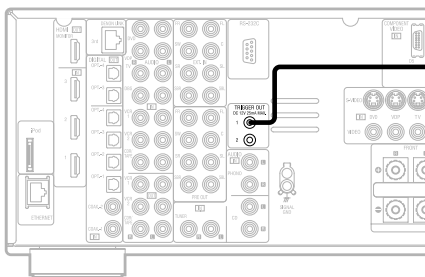
- HDMIのビデオストリーム（映像信号）はDVI-Dと原理的に互換性があります。
  DVI-D端子付きモニターなどに接続する場合は、HDMI－DVI-D変換ケーブルを用いて接続できますが、機器の組み合わせによっては映像が出力されない場合があります。
- HDMI－DVI-D変換アダプターをご使用の場合、接続したケーブルとの接触不良等により、正常に映像が出力されない場合があります。

コントロール用端子の接続

■ RS-232C端子の接続

RS-232C端子

RS-232Cケーブルを使用して外部のコントロール機器から本機を操作することができます。**（パソコンは接続しないでください。）**

- RS-232C端子を使用して本機の操作をおこなう場合は、あらかじめ下記の操作をおこなう必要があります。
  ① 本機の **ON/STANDBY** ボタンをONにする。
  ② 外部コントロール機器から本機の電源をOFFする。
  ③ 本機がスタンバイ状態になっていることを確認する。

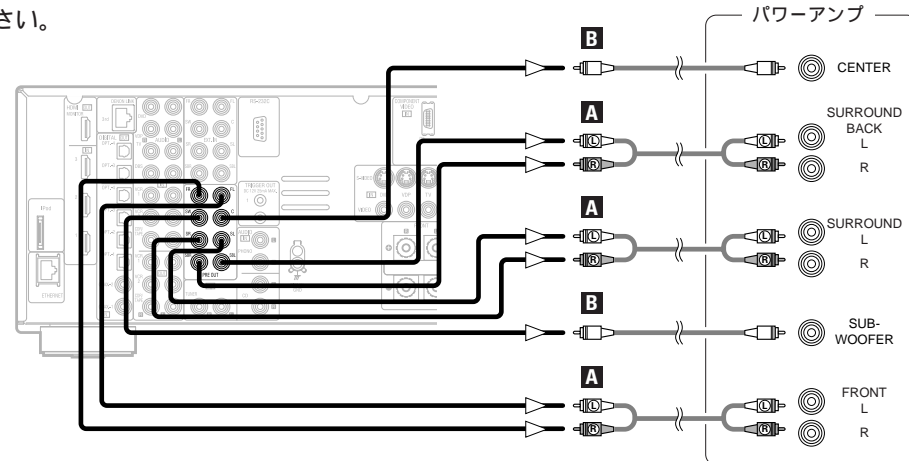
■ TRIGGER OUT端子の接続

TRIGGER OUT端子

12V TRIGGER IN端子を持つ機器と接続します。この端子から12VのDC電圧を出力します。

DC12VのON/OFFは本機の電源や各入力ソース、サラウンドモードに対して連動させることができます。

詳しくは「トリガーアウトの設定」（☞ 77、78ページ）をご覧ください。

PRE OUT端子の接続

- 市販のパワーアンプを使用してフロント、センター、サラウンドおよびサラウンドバックの音声をパワーアップする場合に使用します。
- サラウンドバックスピーカーを1台で使用する場合は、Lチャンネルを使って接続してください。

電源コードの接続

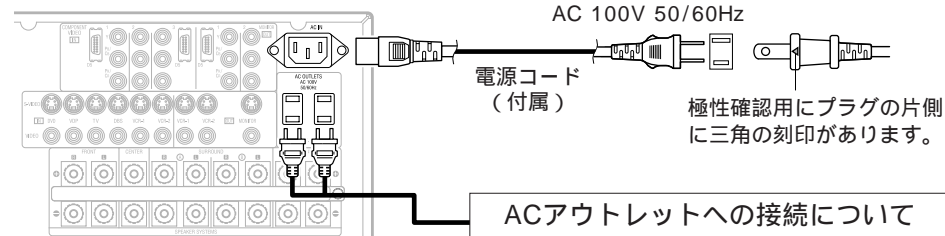
本機に付属の電源コードには極性が表示されています。お好みの音質になるように電源コンセントへ挿入してください。

電源コンセント
AC 100V 50/60Hz

電源コード
（付属）

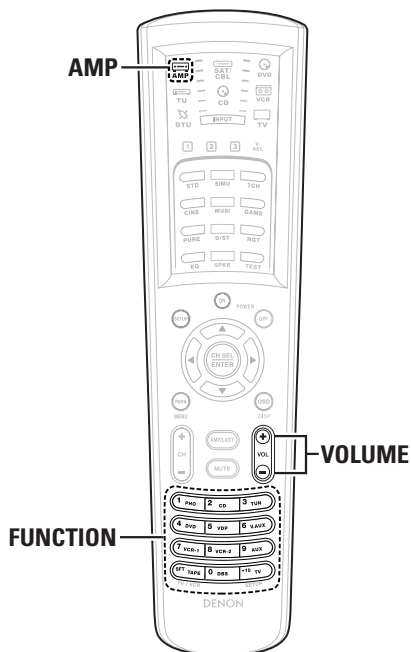
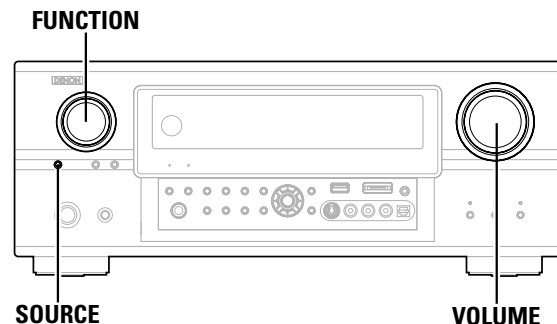
極性確認用にプラグの片側に三角の刻印があります。

ACアウトレットへの接続について

SWITCHED（合計容量120W、1.2A）：本体の **POWER** スイッチと連動して電源がON/OFFします。また、リモコンで電源をON/STANDBYした場合にも連動します。本体のスタンバイ中、ACアウトレットはOFFとなります。合計で120W以上の機器は絶対に接続しないでください。

ご注意

- 電源プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因となります。
- ACアウトレットへはオーディオ機器の電源プラグを差し込み、ドライヤーなどオーディオ機器以外の電源としては使用しないでください。CDプレーヤーやレコードプレーヤー、テープデッキなど本機に接続した機器の電源プラグを差し込んでおくと便利です。

基本操作のしかた

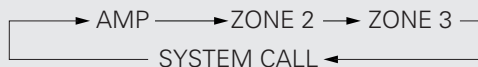
再生のしかた

リモコン操作のしかた

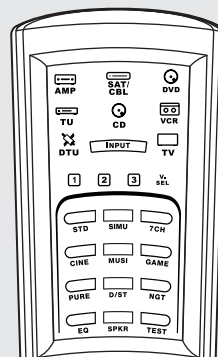
付属のリモコン（RC-1024）は、選択した機器またはモードに応じて表示が切り替わるバックライト付きタッチパネル式です。本機を操作する場合はアンプモードにしてご使用ください。

■ 本機の操作

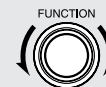
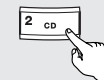
AMP ボタンを押してアンプモードを選ぶ。

● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

→ AMP → ZONE 2 → ZONE 3 → SYSTEM CALL →

※ **ゾーン2（ZONE2）およびゾーン3（ZONE3）モードは本機では操作できません。**

アンプモードの画面：
本機を操作するときに選びます。

入力ソースを再生する

1 再生したい入力ソースを選ぶ。

【例】CD

(本体)

(リモコン)

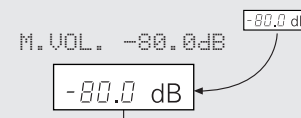
※ 入力ソースに“ REC SELECT ”または“ VIDEO SELECT ”を選んでいる場合は、**SOURCE** ボタンを押してから **FUNCTION** つまみを回してください。

2 選択した機器の再生をはじめる。

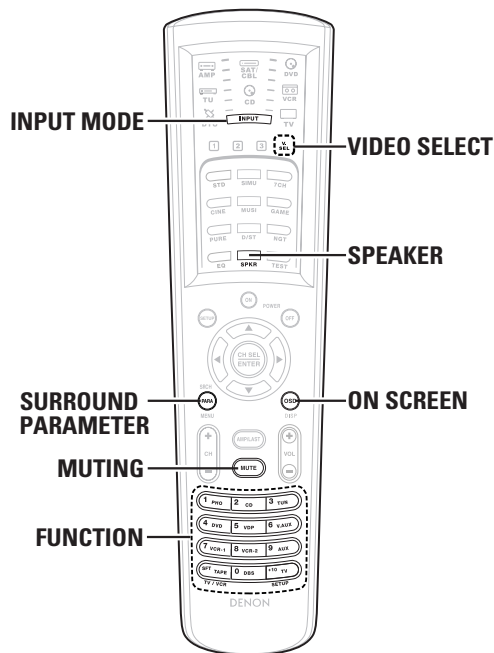
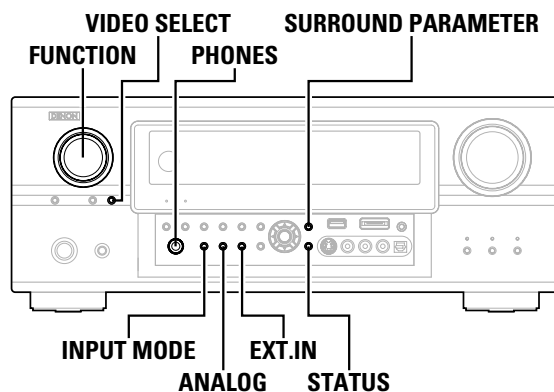
※ 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

3 音量を調節する。

(リモコン)

(リモコン)

音量が主音量レベル表示に表示されます。

※ 音量は－80～0～18dBの範囲で0.5dBステップで調節できます。ただし、45、46、84、85ページに記載されている方法でチャンネルレベルを設定しているとき、どれか1つのチャンネルでも＋0.5dB以上に設定していると音量は18dBまで調整できません。（この場合、音量の最大調整範囲は“ 18dB－チャンネルレベルの最大値 ”となります。）

※ また、各サラウンドモードとパラメーターの組み合わせやマルチチャンネル信号から2チャンネル信号へのダウンミックスなどで、本機内部のボリウム補正制御機能が働いているときは音量は18dBまで調整できません。

外部入力ソースを再生する

外部デコーダー用入力端子に入力されている信号をサラウンド回路を通さずにスピーカーシステムおよびプリアウト端子に出力します。

本体の EXT. IN ボタンまたはリモコンの INPUT MODE ボタンを押して " EXT. IN " モードを選ぶ。

- リモコンの **INPUT MODE** ボタンで操作する場合は、ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

メモ

- 解除するときには、**INPUT MODE** ボタンまたは **ANALOG** ボタンを押して、再生したい入力モード（☞33、34ページ）に切り替えてください。
- 外部入力モードはどの入力ソースにおいても設定できます。映像と合わせてお楽しみいただく場合は、映像信号を接続した入力ソースを選択後、本モードに設定してください。
- サブウーハーの出力レベルが高い場合には、**SURROUND PARAMETER** ボタンを押して、サラウンドパラメーターの " SW ATT. " を " ON " に設定してください。

ご注意

- 入力モードを外部入力に設定している場合は、サラウンドモード（DIRECT、STEREO、STANDARD、7CH STEREO、WIDE SCREEN、DSP SIMULATION）の設定はできません。
- 外部入力モード以外の再生モードでは、この端子に入力された信号は再生できません。
  また、入力端子に接続されていないチャンネルからは出力できません。

一時的に音を消す（ミューティング）

MUTING ボタンを押す。

- ミューティングレベルが調整できます。（☞77ページ）

メモ

- 解除する場合は、次のいずれかの操作をしてください。
  - ・もう一度 **MUTING** ボタンを押す。
  - ・本体の **VOLUME** つまみを回すか、リモコンの **VOLUME** ボタンを押して、音量を調節する。
  - ・本機の電源をオフにする。

ヘッドホンで音を聴く

PHONES ジャックにヘッドホンを差し込む。

- ヘッドホンを差し込むと、自動的にスピーカーから音が出なくなります。

ご注意

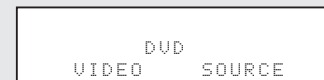
ヘッドホンを使用するときは、音量を上げ過ぎないように注意してください。

今聴いている音に好きな映像を組み合わせる

本体で操作する場合：
VIDEO SELECT ボタンを押し、好きな映像が出るまで FUNCTION つまみを回す。

リモコンで操作する場合：
好きな映像が出るまで VIDEO SELECT ボタンを押す。

- ビデオセレクト機能で選択されたビデオ系入力は、各入力ソースごとに記憶されます。

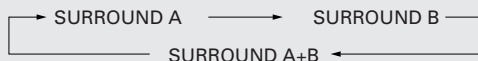
```
DVD
VIDEO    SOURCE
```

メモ

- HDMIの入力信号を選ぶことはできません。
- 解除する場合は、もう一度本体の **VIDEO SELECT** ボタンを押して **FUNCTION** つまみを回すか、リモコンの **VIDEO SELECT** ボタンを押して " SOURCE " を選んでください。
- HDMIビデオ入力信号の再生中に、HDMIモニターアウトに **VIDEO SELECT** ボタンで他のファンクションのアナログビデオ信号を選ぶことはできません。

サラウンドスピーカーを切り替える

SPEAKER ボタンを押す。

● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

SURROUND A → SURROUND B → SURROUND A+B →（SURROUND A）

※「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 81ページ）でサラウンドスピーカーA、Bともに使用する設定にした場合に操作できます。

メモ

● プリアウト端子が使用されている場合は“ A ”または“ B ”のどちらかを設定してください。

今再生しているプログラムソースなどを確認する

■ オンスクリーンディスプレイ上で確認する

ON SCREEN ボタンを押す。

● ボタンを押すたびに、ビデオモニター出力端子に接続したモニター（テレビ）の画面上で、現在のプログラムソースやサラウンドなど各種設定が確認できます。

■ ディスプレイ上で確認する

STATUS ボタンを押す。

● ボタンを押すたびに、ディスプレイ上で現在のプログラムソースやサラウンドなど各種設定が確認できます。

入力モードについて

本機には、入力された音声信号の種類を自動で識別するAUTOモードがありますが、入力された音声信号に対し、手動で切り替えるモードも備えています。

INPUT MODE ボタンを押す。

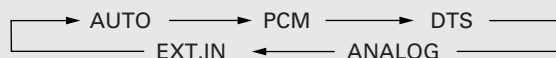
● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

【本体で操作する場合】

本体で“ ANALOG ”を選ぶ場合は **ANALOG** ボタン、“ EXT.IN ”を選ぶ場合は **EXT.IN** ボタンを押してください。

AUTO → PCM → DTS →（AUTO）

【リモコンで操作する場合】

AUTO → PCM → DTS → ANALOG → EXT.IN →（AUTO）

AUTO（オールオートモード）：
選択された入力ソースごとにデジタル入力端子・アナログ入力端子に入力されている信号の種類を検出し、自動的に本機のサラウンドデコーダー内部のプログラムを切り替え、再生するモードです。「デジタル入力の設定」（☞ 67ページ）をしているソースで選ぶことが可能です。
デジタル信号の有無を検出し、デジタル入力端子に入力されている信号を判断し、DTS/ドルビーデジタル/AAC/PCMいずれかの方式で、自動的にデコード・再生をおこないます。
デジタル信号が入力されていない場合は、アナログ入力端子を選びます。

PCM（PCM信号再生専用モード）：
PCM信号が入力されたときだけデコード・再生をおこないます。ノイズを発生する場合がありますので、PCM信号を再生する場合以外はこのモードを使用しないでください。

DTS（DTS信号再生専用モード）：
DTS信号が入力されたときだけデコード・再生をおこないます。

ANALOG（アナログ音声信号再生専用モード）：
アナログ入力端子に入力されている信号を再生します。

EXT. IN（外部デコーダー用入力端子選択モード）：
外部デコーダー用入力端子に入力されている信号を再生します。

メモ

● 入力モードは、各入力ソースごとに選択が可能です。また、選択された入力モードは、入力ソースごとに記憶されます。

DTSソースの再生をおこなう場合の入力モード

● DTS方式で記録されたCDやLDをANALOGモードまたはPCMモードで再生すると、DTS再生できないためノイズが出力されます。
DTS対応のソースを再生する場合は、必ずデジタル（OPTICAL/COAXIAL）入力端子に接続し、入力モードを“ AUTO ”または“ DTS ”に設定してください。

● AUTOモードでDTSを再生した場合、再生のはじめやサーチ中にノイズを発生する場合があります。このような場合は、“ DTS ”モードで再生してください。

■ 入力モードの表示

入力信号によって点灯

● AUTOモード時

AUTO　PCM　DTS　AL24　DENON LINK
ANALOG　EXT.IN

● DIGITAL PCMモード時

AUTO　PCM　DTS　AL24　DENON LINK
ANALOG　EXT.IN

● DIGITAL DTSモード時

AUTO　PCM　DTS　AL24　DENON LINK
ANALOG　EXT.IN

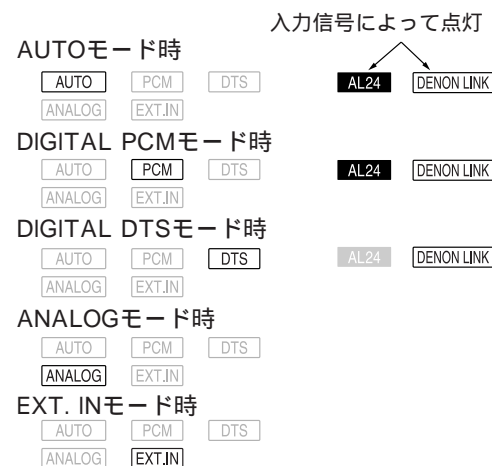
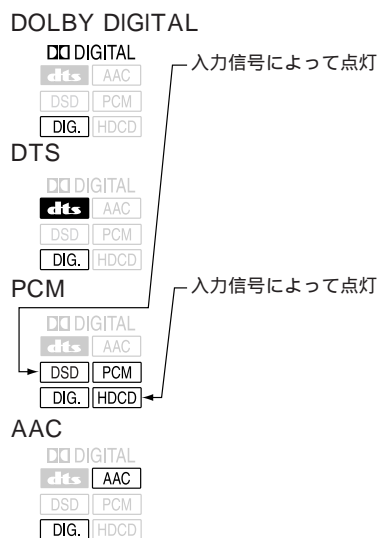
● ANALOGモード時

AUTO　PCM　DTS
ANALOG　EXT.IN

● EXT. INモード時

AUTO　PCM　DTS
ANALOG　EXT.IN

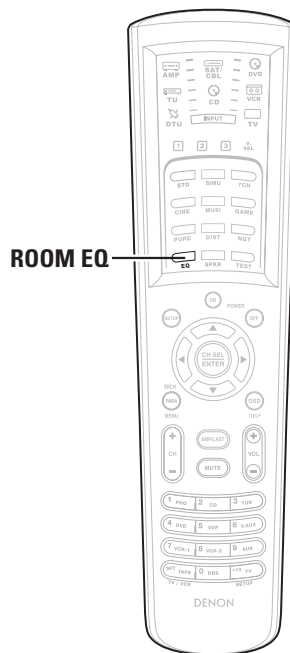
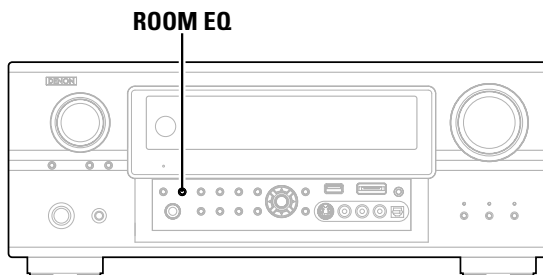
■ 入力信号の表示

● DOLBY DIGITAL
● DTS
● PCM
● AAC

※ デジタル信号が正常に入力されると“ DIG. ”が点灯します。点灯しない場合は「デジタル入力の設定」（☞67ページ）や接続が正しいか、または機器の電源が入っているかを確認してください。

※ サラウンドモードがPURE DIRECT / DIRECT / STEREO / MULTI CH PURE DIRECT / MULTI CH DIRECT / MULTI CH IN 時にPCM信号を再生すると、AL24 Processingが動作します。

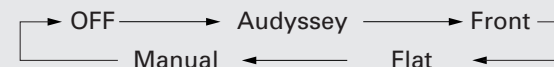
メモ

● オーディオ以外のデータの記録されたCD-ROMディスクを再生した場合は、ディスプレイに“ DIG. ”が点灯しますが音声は聞けません。

● DVDプレーヤーの中には、デジタル出力の有無を機器側の設定でおこなうものがありますので、プレーヤーの取扱説明書も確認してください。

Room EQを選択する

本機のRoom　EQ機能では“ Audyssey ”、“ Front ”および“ Flat ”の3種類の補正カーブがあります。これらは一度オートセットアップを実行した後に選択可能となります。

ROOM EQ ボタンを押す。

● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

※ “ Audyssey ”が選択された場合、MultEQ　XT表示は緑色に点灯します。

※ “ Front ”または“ Flat ”が選択された場合、MultEQ XT表示は赤色に点灯します。
オートセットアップの測定結果をメモリー後、「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞81ページ）、「スピーカーの距離の設定」（☞83ページ）、「チャンネルレベルの設定」（☞84、85ページ）または「クロスオーバー周波数の設定」（☞85ページ）を手動で変更した場合は、“ Audyssey ”を選択していても赤色に点灯します。

Audyssey：
お部屋の音響特性を最適な環境に補正するよう、すべてのスピーカーの周波数特性を調整します。

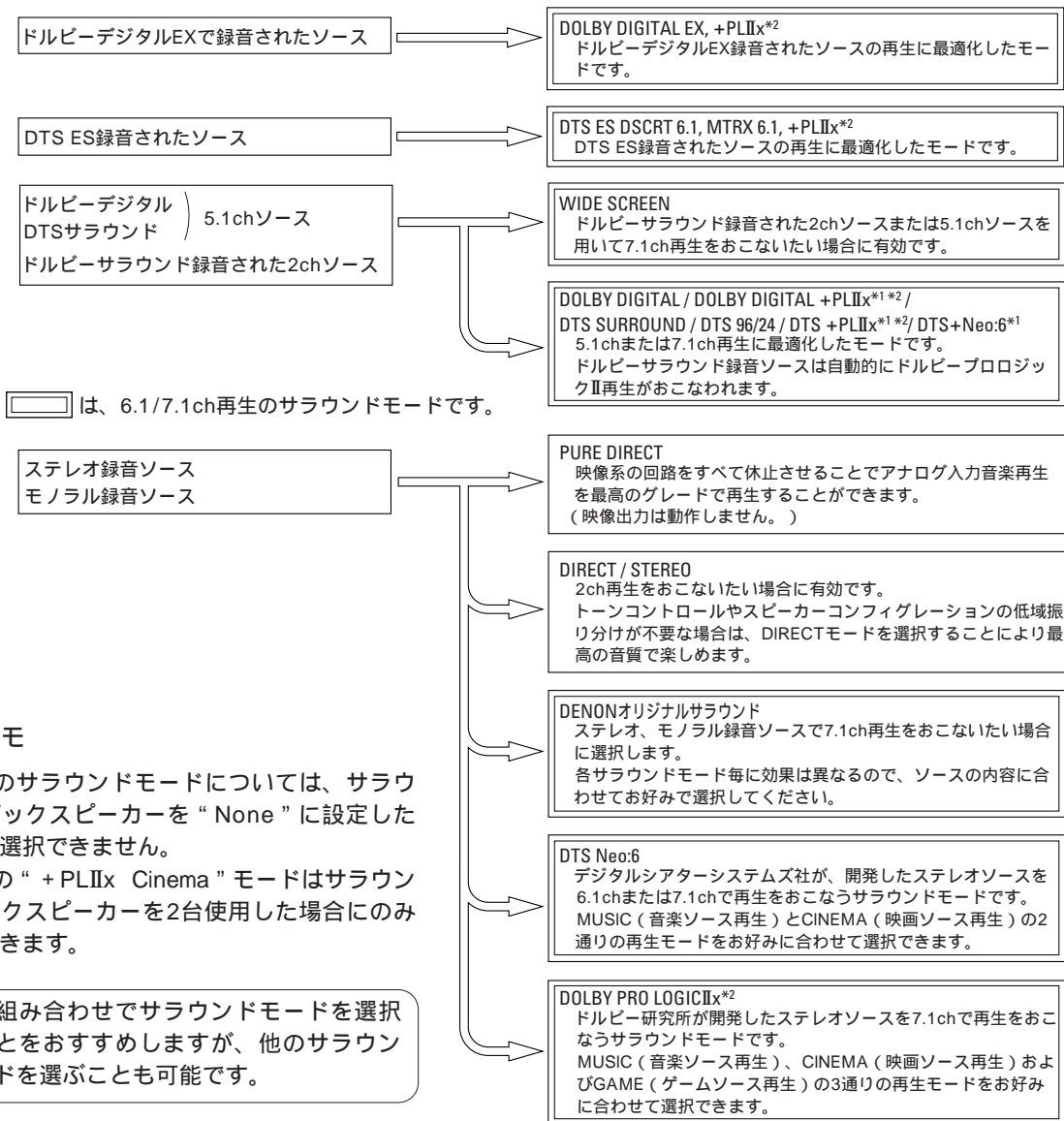
Front：
各スピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。

Flat：
すべてのスピーカーの周波数特性を均一（フラット）にします。
これはドルビーデジタル、DTS、DVDオーディオ、スーパーオーディオCDのようなマルチチャンネル信号の音楽再生に適しています。

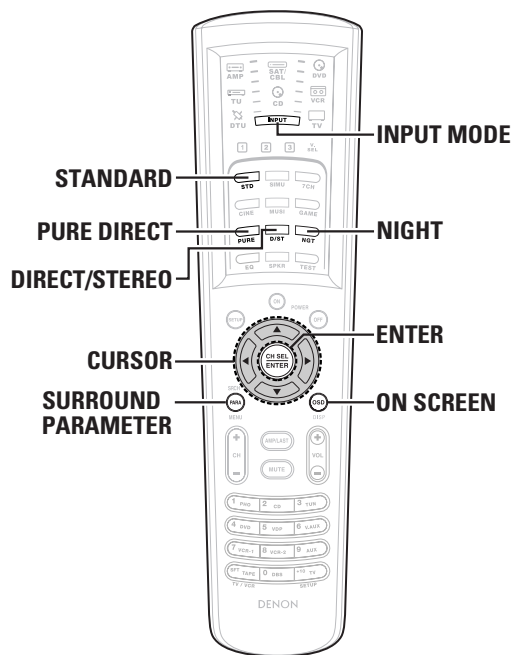
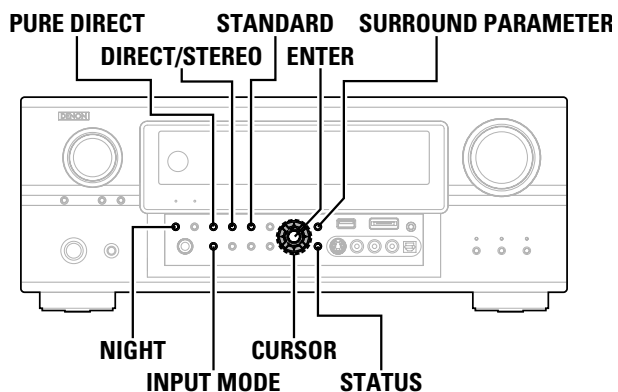
Manual：
「マニュアルイコライザーの設定」（☞74、75ページ）で設定されたグラフィックイコライザーを使用し、各スピーカーの特性を調整します。

サラウンド再生のしかた

ソースに対する再生モードについて

本機にはたくさんのサラウンドモードがあります。それらの中で信号ソースの特長を生かして最高の効果を得るために下記のサラウンドモードを使用することをおすすめします。

メモ

- ＊1印のサラウンドモードについては、サラウンドバックスピーカーを“ None ”に設定した場合は選択できません。
- ＊2印の“ ＋PLⅡx　Cinema ”モードはサラウンドバックスピーカーを2台使用した場合にのみ選択できます。

上記の組み合わせでサラウンドモードを選択することをおすすめしますが、他のサラウンドモードを選ぶことも可能です。

より高音質な再生のしかた

本機には音楽専用の2ch再生モードとして、3つのモードを装備しています。
お好みに合わせてご使用ください。

■ ピュアダイレクトモード

極めて高品位の音質を再生するモードです。
このモードにすると選択された入力ソースに従い、不要な回路や処理（FL管、ビデオ回路およびトーンコントロール、ならびにアナログ音声入力時はデジタル回路とその他の不要な回路）をすべて自動的にオフしますので、音楽信号を高音質で再現することができます。

PURE DIRECT ボタンを押して、ピュアダイレクトモードを選ぶ。

■ ダイレクトモード

音の良い2チャンネル再生ができるモードです。音声信号の処理経路がトーン回路などを通らず、ストレートに伝送されるのでより良い音質で再生ができます。

DIRECT/STEREO ボタンを押して、ダイレクトモードを選ぶ。

- ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

DIRECT ←→ STEREO

■ ステレオモード

トーン調整をして自在に音の印象を変化させて楽しむモードです。

DIRECT/STEREO ボタンを押して、ステレオモードを選ぶ。

メモ

- ピュアダイレクトモード時には、システムセットアップはできません。設定を解除してから操作してください。
- ピュアダイレクトモード時のチャンネルレベルおよびサラウンドパラメーターは、ダイレクトモードと共通になります。

ドルビーデジタルモード、DTSサラウンドモードで音を聴く（デジタル入力のみ）

1 デジタル入力端子（COAXIAL、OPTICALなど）が設定されている入力ソースを選ぶ。**（☞ 67、69、70ページ）**

2 INPUT MODE ボタンを押して、入力モードを“ AUTO ”に設定する。

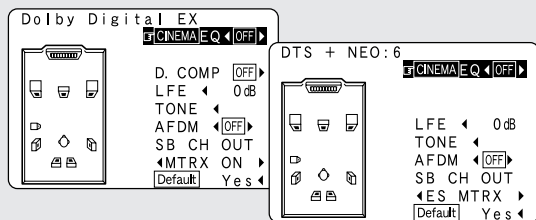
※ DTSソースは入力モードを“ DTS ”にしても再生できます。

3 STANDARD ボタンを押して“ STANDARD (Dolby/DTS Surround) ”モードを選ぶ。

4 DOLBY DIGITAL または dts SURROUND マークの付いたプログラムソースを再生する。

- ドルビーデジタルソース再生中は
ドルビーデジタル表示（ DD DIGITAL ）が点灯します。
- DTSソース再生中はDTS表示（ dts ）が点灯します。

5 SURROUND PARAMETER ボタンを押す。

● サラウンドパラメーター画面が表示されます。

※ サラウンドパラメーターの画面上で、サラウンドバックチャンネルのON/OFFを切り替えることができます。サラウンドバックチャンネルがオンのときは、サラウンドバックチャンネル出力表示が点灯します。

"1spkr"に設定時

点灯

"2spkrs"に設定時

点灯

6 CURSOR △ ▽ ボタンを押して各パラメーターを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して設定値を選ぶ。

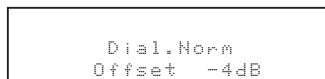
7 SURROUND PARAMETER または ENTER ボタンを押して確定する。

メモ

● "Default" を選んで **CURSOR** ◁ ボタン を押すと、自動的に "CINEMA EQ." と "D.COMP." が "OFF" に、"LFE" と "TONE" が初期値に設定されます。

■ ダイアログノーマライゼーションについて

ドルビーデジタルプログラムソースの再生中は、ダイアログノーマライゼーション機能が自動的に動作します。
この機能は、ドルビーデジタルの基本機能であり、プログラムソースごとに異なるレベルで記録されている信号のレベル（標準レベル）を自動的に補正する作用があります。
本内容は本体の **STATUS** ボタンで確認できます。

```
Dial.Norm
Offset  -4dB
```

数字は再生中のプログラムを標準レベルに補正をした場合の補正レベルを表わします。

ナイトモードで音を聴く

ドルビーデジタルで記録されたプログラムソース再生時のみ、ナイトモードの設定ができます。夜または低い音量で聴くときにナイトモードにすると、聴きやすくなります。

NIGHT ボタンを押す。

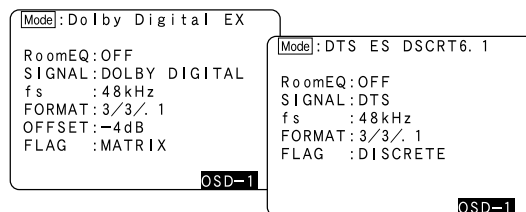
● ナイトモード表示が点灯します。

メモ

● 解除するときは、もう一度 **NIGHT** ボタンを押してください。
● ナイトモードを "ON" にしているときは、サラウンドパラメーターの "D.COMP" を選ぶことはできません。

■ 入力信号の確認のしかた

ON SCREEN ボタンを押す。

● ボタンを押すと入力信号が確認できます。

RoomEQ：
設定されているイコライザーの種類を表示します。

SIGNAL：
DTS、DOLBY DIGITAL、PCMなどの信号の種類を表示します。

fs：
入力信号のサンプリング周波数を表示します。

FORMAT：
入力信号のチャンネル数を表示します。
"フロントのチャンネル数／サラウンドのチャンネル数／LFEの有無"
ドルビーサラウンドで記録された2ch信号の場合、"SURROUND" が表示されます。

OFFSET：
ダイアログノーマライゼーションのオフセット値を表示します。

FLAG：
入力信号に記録されている特別な認識信号を表示します。
入力信号がマトリクス処理されている場合は "MATRIX" をディスクリート処理されている場合は "DISCRETE" を表示します。
認識信号が記録されていない場合は表示されません。

※ さらに **ON SCREEN** ボタンを押すことにより、以下の画面表示が順番に表示されます。

OSD-1 ：入力信号
OSD-2 ：HDMIモニター情報
OSD-3 ：入出力設定
OSD-4 ：オートサラウンドモード
OSD-5〜7：ユーザーモード1〜3

メモ

● OSD-2画面のHDMIモニター情報の解像度は、本機にHDMIモニターが接続されている場合に表示されます。
● OSD-4画面は入力モードを "AUTO" およびオートサラウンドモードを "ON" に設定（☞ 74ページ）した場合に表示されます。また、ANALOGモードおよび外部入力（EXT. IN）モードでは表示されません。

■ サラウンドパラメーターについて ①

CINEMA EQ.（シネマ イコライザー）：

映画ソフト再生中に会話部分が耳ざわりと感じるときに使用します。（高域の成分を下げます。ドルビープロロジックII、ドルビーデジタル、DTSサラウンド、DTS NEO:6、MPEG-2 AAC、ワイドスクリーンモードのみ有効です。）

D.COMP.（ダイナミックレンジ コンプレッション）：

ダイナミックレンジの圧縮をおこないます。（ドルビーデジタルならびにDTSで録音されたプログラムソース再生時のみ有効です。）" OFF "、" LOW "、" MID "（MIDDLE）、" HI "（HIGH）の4つのパラメーターから選びます。

このパラメーターは、DTSソースを再生する場合、対応するソフトのみ表示されます。

LFE（ロー フリクエンシー エフェクト）：

プログラムソースと可変範囲：－10dB～0dB

※ **ドルビーデジタルで録音されたソフトを再生する場合は、正しいドルビーデジタル再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようおすすめします。**

※ **DTSで録音された映画ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようおすすめします。**

※ **DTSで録音された音楽ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを－10dBに設定するようおすすめします。**

TONE（トーン）：

トーンコントロールの調整をおこないます。

ダイレクト以外のサラウンドモードで設定が可能です。サラウンドモードごとに設定が可能です。

（Dolby / DTS / AACサラウンドモードは共通です。）

MODE/SB CH OUT（サラウンドバック チャンネル アウト）：

再生モードまたはサラウンドバックチャンネルの再生方法を選びます。

【マルチチャンネルソースの場合】

- **SB OFF (OFF)**
  サラウンドバックチャンネルは再生されません。
- **NON MTRX**
  サラウンドチャンネルと同じ信号がサラウンドバックチャンネルから再生します。
- **MTRX ON**
  サラウンドチャンネル信号をデジタルマトリックス処理し、サラウンドバックチャンネルから再生します。
- **ES MTRX**
  DTS信号を再生する場合にサラウンドバック信号をデジタルマトリックス処理をして再生するモードです。
- **ES DSCRT**
  DTS信号でディスクリート6.1chソースである認識信号が含まれている場合にソースに含まれているサラウンドバック信号を再生するモードです。
- **PLIIx CINEMA**
  Dolby Pro LogicIIx Cinemaモードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。Dolby Pro LogicIIx Cinemaモードで再生する場合は、「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 81ページ）でサラウンドバックスピーカーを " 2spkrs " に設定します。
- **PLIIx MUSIC**
  Dolby Pro LogicIIx Musicモードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。Dolby Pro LogicIIx Musicモードで再生する場合は、「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 81ページ）でサラウンドバックスピーカーを " 1spkr " または " 2spkrs " に設定します。

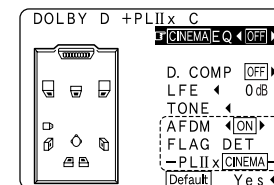
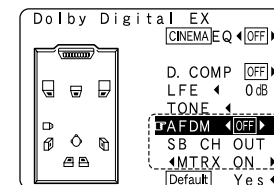
【2チャンネルソースの場合】

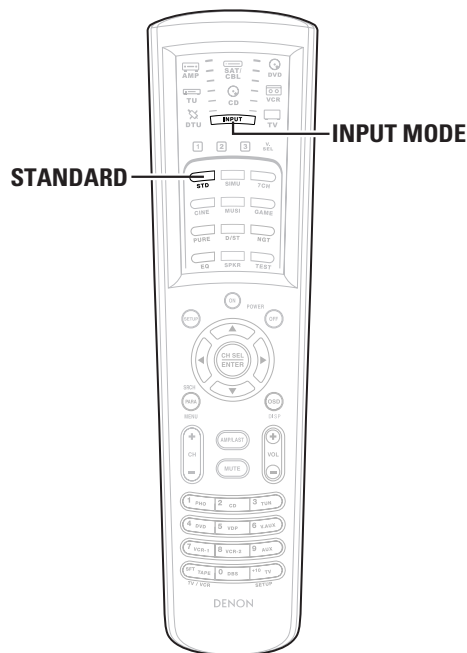
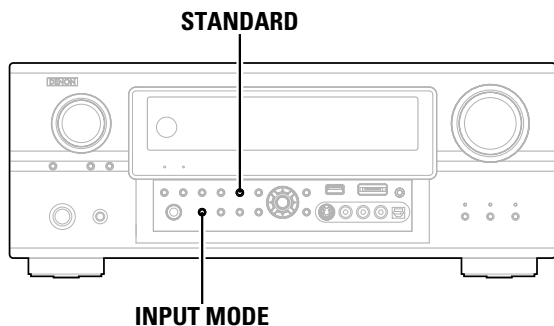
- **OFF**
  サラウンドバックを使用しない再生をおこないます。
- **ON**
  サラウンドバックを使用する再生をおこないます。サラウンドチャンネルと同じ信号がサラウンドバックチャンネルから出力されます。

AFDM（オートフラグディテクトモード）：

- **ON**
  この機能は専用の認識信号が記憶されたソフトに対してのみ働きます。再生するソフトがドルビーデジタルEX（EXフラグあり）、またはDTS-ES（ESディスクリート、ESマトリックスフラグあり）で記憶されている場合には、自動的にサラウンドバックスピーカーを用いた6.1ch再生をおこない、そうでない場合にはサラウンドバックスピーカーを用いない通常の5.1ch再生をおこなう機能です。AFDMを " ON " に設定している場合、本機でEX/ESフラグが自動認識されると、サラウンドモードは再生するプログラムソースに合わせて固定となります。この場合、サラウンドパラメーター画面で " MODE/SB CH OUT " のパラメーターは選択できなくなります。
- **OFF**
  上記の認識信号が自動検出された場合に、サラウンドモードを自由に選択したい場合は " OFF " を設定してください。この場合、サラウンドパラメーター画面で " MODE/SB CH OUT " のパラメーターは再生するプログラムソースに関わらず選択できます。

【例】ドルビーデジタル（EXフラグあり）のソフトを再生した場合

① AFDMを " ON " に設定している場合は、サラウンドモードは自動的に " DOLBY DIGITAL + PLIIx CINEMA " モードになります。サラウンドパラメーター画面は右のように表示されます。

② Dolby Digital EXモードで再生をおこないたい場合はAFDMを " OFF " に設定し、" SB CH OUT " で " MTRX ON " を選びます。

※ ドルビーデジタルEXで記録されているソフトには、EXフラグを含んでいないものがあります。再生中にAFDMが " ON " になっていても再生モードが自動的に切り替わらない場合は " SB CH OUT " を " PLIIx Cinema " または " MTRX ON " に設定してください。
また、サラウンドバックスピーカーを「スピーカーの種類・有り無しの設定」で " 1spkr " に設定している場合は " SB CH OUT " を " MTRX ON " に設定してください。

《基本操作のしかた》

AACサラウンドモードで音を聴く（デジタル入力のみ）

AACサラウンドモードはサラウンドパラメーター画面で、“AFDM”および“SB CH OUT”の設定により6.1ch再生をおこなうことができます。なお、6.1ch再生をおこなっているときは“AAC＋Dolby EX”、“AAC＋PLⅡx C”または“AAC＋PLⅡx M”が表示されます。

1 **デジタル（COAXIAL、OPTICALなど）が設定されている入力ソースを選ぶ。（☞ 67、69、70ページ）**

2 **INPUT MODE ボタンを押して、入力モードを“AUTO”に設定する。**

3 **AACのプログラムソースを再生する。**
- AACソース再生中はAAC表示（AAC）が点灯します。

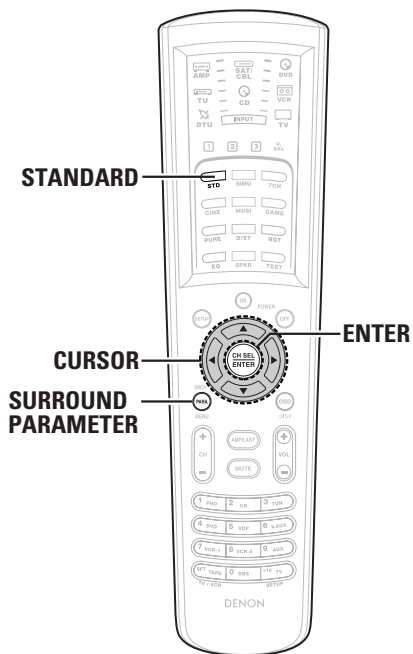
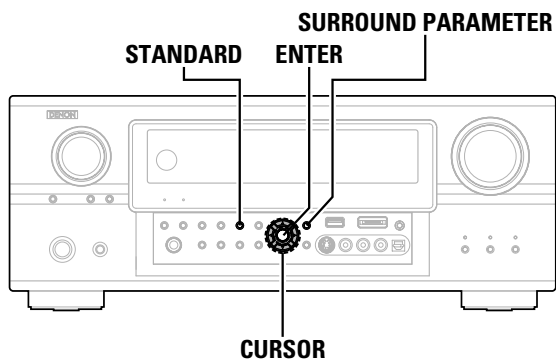
4 **【5.1チャンネルの再生をおこなう場合】STANDARD ボタンを押して、AACサラウンドモードを選ぶ。**

※ 5.1チャンネルのプログラムソースが入力されているとき、AACサラウンドモードは“MPEG2 AAC”と表示されます。

■ 二重音声の情報があるAACソースを再生する場合

音声出力内容を設定することができます。
設定のしかたは「バイリンガルモードの設定」（☞ 76ページ）をご覧ください。

メモ

- AACの2チャンネルソースが入力されているときは、プロロジックⅡxモードまたはDTS NEO:6モードになります。
- AACのプログラムソースは、上記のサラウンドモード以外でも使用できます。お好みに合わせて各種サラウンドモードをお楽しみください。
- AAC放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れることがあります。
- BSデジタルチューナーのデジタル音声出力が“AAC”に設定されていることを確認してください。詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- BSデジタルチューナーによっては、AACのデジタル出力が出ない機器やデジタル出力の設定が必要な機器があります。詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ドルビープロロジックⅡx（プロロジックⅡ）モードで音を聴く

アナログ入力およびデジタル入力の2チャンネル信号に対して、サラウンド再生をおこなうことができます。
ドルビーサラウンドで録音されたプログラムソースの再生に最適なモードです。

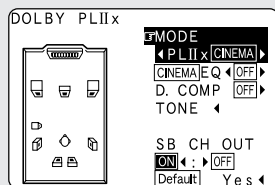
1 STANDARD ボタンを押して、“ DOLBY PLⅡx ” モードを選ぶ。

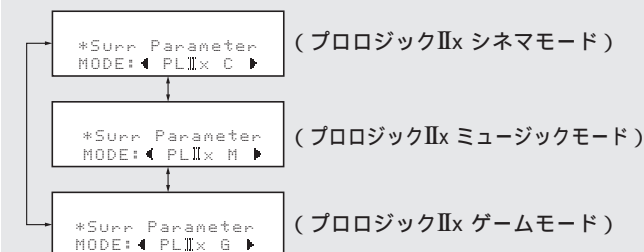
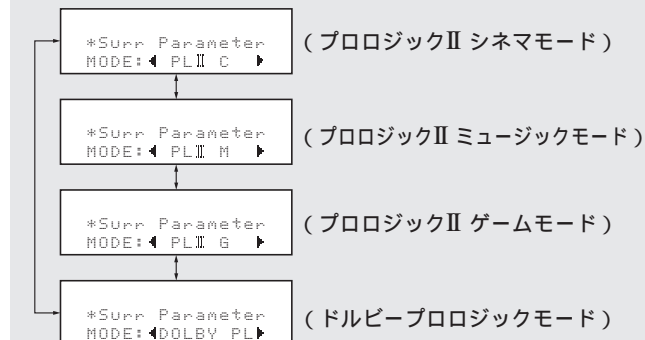
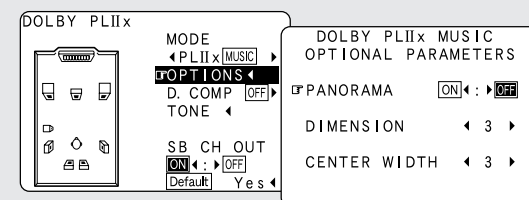
● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

DOLBY PLⅡx ←→ DTS NEO:6

2 プログラムソースを再生する。

3 SURROUND PARAMETER ボタンを押す。

● サラウンドパラメーター画面が表示されます。

4 CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、再生モードを選ぶ。

“ SB CH OUT ” が “ ON ” のとき：
システムセットアップでサラウンドバックスピーカーが “ 1spkr ” または “ 2spkrs ” に設定されている場合

“ SB CH OUT ” が “ OFF ” のとき
システムセットアップでサラウンドバックスピーカーが “ None ” に設定されている場合

5 CURSOR △ ▽ ボタンを押して各パラメーターを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して設定値を選ぶ。

※ MUSICモード時にオプションパラメーターの設定をする場合には、“ OPTIONS◀ ” を選び、**CURSOR** ◁ ボタンを押してください。
ENTER ボタンを押すと、前画面に戻ります。

6 SURROUND PARAMETER または ENTER ボタンを押して確定する。

■ サラウンドパラメーターについて ②

MODE
（ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡ）

- **CINEMA：**
  ドルビーサラウンド録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生に適したモードです。高精度デコーダーによる5チャンネルデコードをおこない、2チャンネルソースでも360度均一なサラウンド音場を実現します。
  主にステレオ音楽成分を多く含むソースの場合、MUSICモードの方がより効果的な場合もあります。試聴結果によって、効果的なモードを選んでください。
- **MUSIC：**
  ステレオ音楽信号のサラウンド再生に適したモードです。音楽信号の残響成分に多く含まれる逆相信号の再生をサラウンドチャンネルでおこない、同時にサラウンドチャンネルの周波数特性をサラウンド音に最適化させることにより、自然で広がり感のある音楽再生をおこないます。
  音楽信号は、そのジャンル、状態（ライブ音楽等）など信号ソースの内容により音場の広がり方が異なります。そのためMUSICモードには、さらに音場の調整を可能とする各種のオプションパラメーターがあります。
- **GAME：**
  従来のMUSIC/CINEMAモードに加えて、ゲームに最適なGAMEモードに対応しています。
  GAMEモードは2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

PANORAMA：
フロントステレオの音場イメージを、サラウンドチャンネルまで拡大します。ノーマル状態でステレオイメージが狭く、サラウンド効果が薄いと感じられる場合に効果的です。

DIMENSION：
音場イメージの中心をフロント、またはサラウンド側にシフトします。ソースの残響成分の大きさによらず、各チャンネルの再生バランスを調整することが可能です。音場イメージがフロント側、サラウンド側のいずれかに偏った場合にそれらを補正することができます。（0〜6：初期値 3）

CENTER WIDTH：
センターの信号成分の再生方法を、センターチャンネルのみの再生からフロントチャンネルのみの再生の間で調整します。セパレーションを重視したセンターチャンネル再生をおこなった場合、フロントチャンネルの音場について定位が明確化する反面、全体の音場イメージがセンターに集中したり、各チャンネル間のつながりが希薄に感じられることがあります。このパラメーターを調整することにより、音場イメージの安定感を増加させ、自然な左右の広がりを得ることができます。（0〜7：初期値 3）

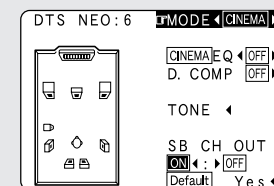
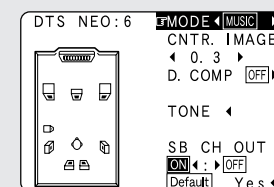
PL：
従来のドルビープロロジック再生互換モードです。ドルビーサラウンド録音ソースに対して、録音時の再生イメージに忠実なデコードをおこないます。

DTS NEO：6モードで音を聴く

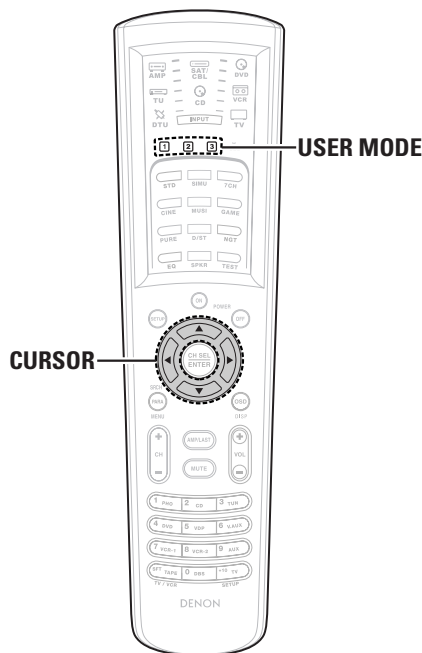
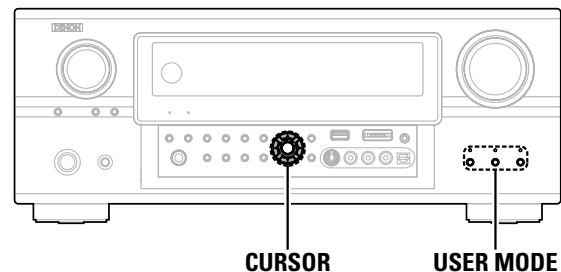
1 STANDARD ボタンを押して、“DTS NEO：6”モードを選ぶ。
- ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

DOLBY PLⅡx ←→ DTS NEO:6

2 プログラムソースを再生する。

3 SURROUND PARAMETER ボタンを押す。
- サラウンドパラメーター画面が表示されます。

4 CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、再生モードを選ぶ。

5 CURSOR △ ▽ ボタンを押して各パラメーターを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して設定値を選ぶ。

6 SURROUND PARAMETER または ENTER ボタンを押して確定する。

メモ

- "Default" を選んで **CURSOR** ◁ ボタン を押すと、自動的に "CINEMA EQ." が "OFF" に、"MODE" と "TONE" が初期値に設定されます。
- PCMデジタル信号またはアナログ信号をDOLBY PRO LOGICⅡxまたはDTS NEO：6のサラウンドモードで再生中に、入力信号がドルビーデジタルに切り替わった場合は、強制的にドルビーサラウンドモードに切り替わります。
  また、入力信号がDTS信号に切り替わった場合には強制的にDTSサラウンドモードに切り替わります。

■ サラウンドパラメーターについて ③

MODE（DTS NEO:6）

- **CINEMA：**
  映画再生に最適なモードです。セパレーション特性を重視してデコードすることにより、2チャンネルソースでも6.1チャンネルソースと同じような雰囲気で楽しむことが可能です。
  同相成分は主にセンター（C）に、逆相成分はサラウンド（SL、SR、SB）に振り分けられる特性を持つため、従来のサラウンド録音されたソース再生にも効果があります。
- **MUSIC：**
  主に音楽再生に適したモードです。フロントチャンネル（FL、FR）の信号はデコーダーを通らずそのまま再生されるため音質の変化がなく、さらにセンター（C）とサラウンド（SL、SR、SB）チャンネルから出力されるサラウンド信号の効果により、音場に自然な広がり感が加わります。

CENTER IMAGE（センターイメージ）

センターチャンネルの広がりを調整するパラメーターです。(0.0～1.0：初期値 0.3)

ユーザーモード機能について

- 本機は入力ソース、入力モードおよびサラウンドモードの内容を記憶して、使用したいときにいつでも呼び出すことのできるユーザーモード機能を備えています。
- **USER MODE** ボタンを使用して、3パターンの設定内容を記憶させることができます。

■ 記憶方法

1 **入力ソース、入力モードおよびサラウンドモードを記憶させたい状態に設定する。**

2 **お好みの USER MODE ボタンを長押しする。**

※ 選んでいる **USER MODE** ボタンのモード表示が点灯するまで押し続けてください。

■ 呼び出し方法

呼び出したい設定が記憶されている USER MODE ボタンを押す。

- 選択されたボタンのモード表示が点灯します。

DENONオリジナルサラウンドについて

本機はデジタル信号処理により、音場を疑似的に再現する高性能なDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）を内蔵しています。10通り用意されたサラウンドモードを再生するプログラムソースに合わせて選び、パラメーターを調節することで、よりリアルでパワフルな音場を再現することができます。

各サラウンドモードとその特長

1	チャンネル ステレオ **7CH STEREO**	ステレオサウンドを楽しむためのモードです。フロントLチャンネルの信号がサラウンドおよびサラウンドバックのLチャンネルから、フロントRチャンネルの信号がサラウンドおよびサラウンドバックのRチャンネルからそれぞれ出力され、センターチャンネルにはLチャンネルとRチャンネルの同相成分が出力されます。
2	ワイド スクリーン **WIDE SCREEN**	大きなスクリーンの映画館で映画を見ているような雰囲気で楽しみたいときに選びます。このモードでは、ドルビーサラウンドやドルビーデジタル5.1chをはじめとしたすべての信号ソースを7.1ch再生します。サラウンドチャンネルには、映画館のマルチサラウンドスピーカーをシミュレートした効果が付加されます。
3	スーパー スタジアム **SUPER STADIUM**	野球やサッカーなどの中継プログラムをスタジアムで観戦しているような雰囲気で楽しみたいときに選びます。最も長い残響信号を得ることのできるモードです。
4	ロック アリーナ **ROCK ARENA**	反射音が回り込んでくるアリーナでのライブコンサートの雰囲気で楽しみたいときに使用します。
5	ジャズ クラブ **JAZZ CLUB**	天井が低く、固い壁に囲まれたライブハウスのような場所で、アーティストがすぐ近くで演奏するような雰囲気で楽しみたいときに選びます。
6	クラシック コンサート **CLASSIC CONCERT**	豊かな響きのコンサートホールの雰囲気で楽しみたいときに選びます。
7	モノ ムービー **MONO MOVIE（注）**	モノラル録音の映画ソースを広がりのある音場の雰囲気で楽しみたいときに選びます。
8	ビデオ ゲーム **VIDEO GAME**	ビデオゲームで楽しみたいときに使用します。
9	マトリクス **MATRIX**	ステレオ録音された音楽ソースを、広がり感を強調して楽しみたいときに選びます。サラウンドCHからは、入力された信号の差の成分（広がり感の成分）に遅延処理を加えた信号が出力されます。
10	バーチャル **VIRTUAL**	フロント2chだけのスピーカーまたはヘッドホンを使用して、立体感のあるサラウンド再生を楽しみたいときに選びます。

注：モノラル録音ソースを再生する場合、LまたはRの片チャンネル入力では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

※ 再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られないことがあります。
この場合にはサラウンドモードの名称にこだわらずに各モードを試して、お好みの音場を創り出してください。

《基本操作のしかた》

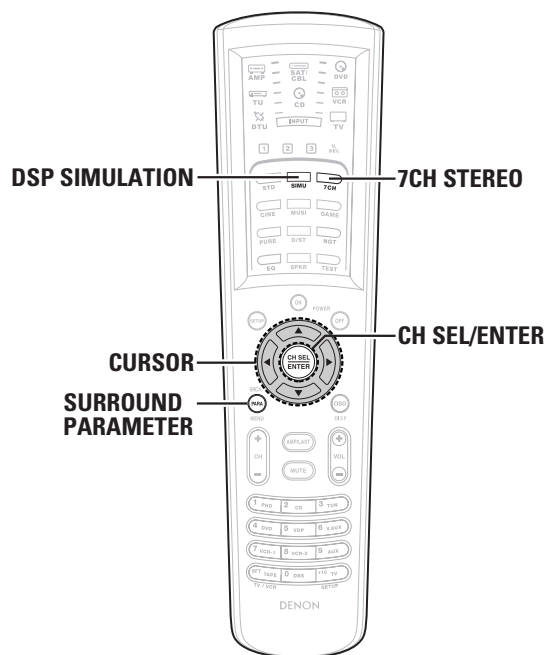
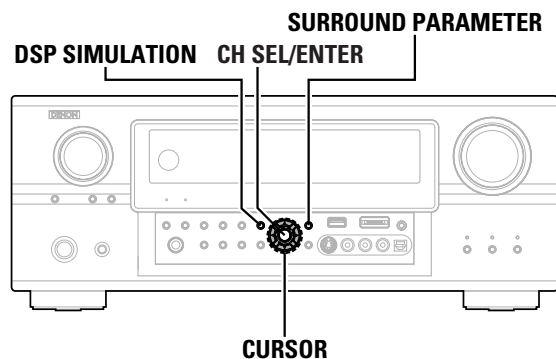
■ パーソナルメモリープラスについて

本機には、入力ソースごとに選択されたサラウンドモードなどを自動的に記憶できるパーソナルメモリープラスという機能を搭載しています。入力ソースを切り替えるたびに、前回使用されたときの記憶が自動的に呼び出されます。

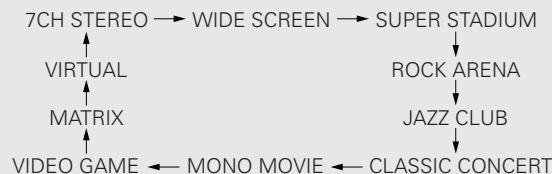
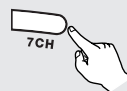
◎ パーソナルメモリープラス機能で各入力ファンクションごとに自動的に記憶される内容

① サラウンドモード
② 入力モード選択機能

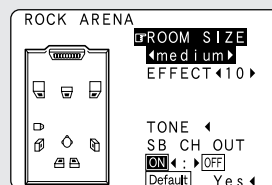
※ サラウンドパラメーター、トーンコントロール、Room EQの設定および各出力チャンネルの再生レベルは、サラウンドモードごとに記憶します。

SURROUND PARAMETER
DSP SIMULATION　CH SEL/ENTER
CURSOR

DSPサラウンドシミュレーションのしかた

1 **DSP SIMULATION ボタンを押す。**

※ ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

“ 7CH STEREO ” は、リモコンの **7CH STEREO** ボタンからダイレクトに選ぶこともできます。

（リモコン）

2 **SURROUND PARAMETER ボタンを押す。**

● サラウンドパラメーター画面が表示されます。

3 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して各パラメーターを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して設定値を選ぶ。**

4 **SURROUND PARAMETER または ENTER ボタンを押して確定する。**

■ サラウンドパラメーターについて ④

EFFECT（エフェクト）：

WIDE SCREENモードにおいて、マルチサラウンドスピーカー効果を持つエフェクト信号をON/OFFします。
このパラメーターをOFFにすると、SBL/SBRチャンネルの信号はそれぞれSL/SRチャンネルと同等になります。

LEVEL（レベル）：

WIDE SCREENモードにおいて、エフェクト信号の大きさを設定します。“ 1 ” ～ “ 15 ” の15段階で設定できます。
サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。

SB CH OUT：

● **OFF**
サラウンドバックを使用しない再生をおこないます。

● **ON**
サラウンドバックを使用する再生をおこないます。

ROOM SIZE（ルーム サイズ）：

音場の大きさを設定します。
“ small ”、“ med.s ”、“ medium ”、“ med.l ”、“ large ” の5つのパラメーターがあります。“ small ” では小さな音場空間、“ large ” では大きな音場空間を再現します。

EFFECT LEVEL（エフェクト レベル）：

サラウンドの効果の大きさを設定します。
“ 1 ” ～ “ 15 ” の15段階で設定できます。音が歪んで変に感じられるときは、低いレベルに設定してください。

DELAY TIME（ディレイ タイム）：

MATRIXモードに限り、“ 0ms ” ～ “ 300ms ” の範囲でディレイタイムを設定できます。

SW ATT：

EXT.IN入力モードでの再生時に、サブウーハーチャンネルのレベルを下げるパラメーターです。ご使用になるプレーヤーによってはスーパーオーディオCDを再生した時に、SWチャンネルの再生レベルが大きいと感じる場合があります。この時にはSW ATTを “ ON ” に設定してください。
DENON製プレーヤーの場合は初期設定でご使用ください。

Subwoofer ON/OFF：

サブウーハー出力のON/OFFをダイレクトに設定できます。

メモ

- “ 7CH　STEREO ” の表示はサラウンドバックスピーカーの設定によって異なります。
  “ SB CH OUT ” が “ ON ” のとき　：“ 7CH STEREO ” 表示
  “ SB CH OUT ” が “ OFF ” のとき：“ 5CH STEREO ” 表示
- “ Default ” を選んで **CURSOR** ◁ ボタンを押すと、自動的に “ CINEMA EQ. ” と “ D.COMP. ” が “ OFF ” に設定されます。また、“ ROOM　SIZE ” は “ medium ”、“ EFFECT LEVEL ” は “ 10 ”、“ DELAY　TIME ” は “ 30ms ”、“ LFE ” は “ 0dB ” にそれぞれ設定されます。
- “ ROOM　SIZE ” は各サラウンドモードにおける広がり感の効果を音場の大きさで表現したものです。再生する部屋の大きさを表わすものではありません。

トーンコントロールの設定

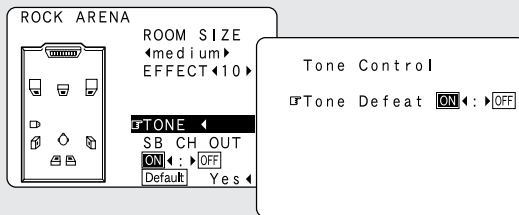
低音および高音をお好みに合わせて調節する場合に、トーンコントロールの設定をおこないます。

■ 音質を調節する場合

1 **SURROUND PARAMETER ボタンを押す。**

- サラウンドパラメーター画面が表示されます。

※ 選択されているサラウンドモードの画面が表示されます。（ダイレクトモードの場合は、“ TONE ” を選択できません。）

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して “ TONE ” を選び、CURSOR ◁ ボタンを押す。**

3 **CURSOR ▷ ボタンを押して、“ OFF ” を選ぶ。**

4 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して、“ Bass（低音）” または “ Treble（高音）” を選ぶ。**

5 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して音質を調節する。**

- Bass/Trebleともに−6dB〜+6dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

6 **ENTER ボタンを押す。**

- サラウンドパラメーター画面に戻ります。

7 **SURROUND PARAMETER または ENTER ボタンを押して確定する。**

■ 音質を調節しない場合

サラウンドパラメーター画面で “ TONE ” を選び “ ON ” に設定します。
信号が音質調整回路（BASS、TREBLE）を通らないため、より高音質でお楽しみいただけます。

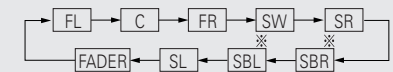
チャンネルレベルの調節

テストトーンによる調節後は、再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、下記の操作により各チャンネルレベルの調節をおこなってください。

1 **CH SEL/ENTER ボタンを押す。**

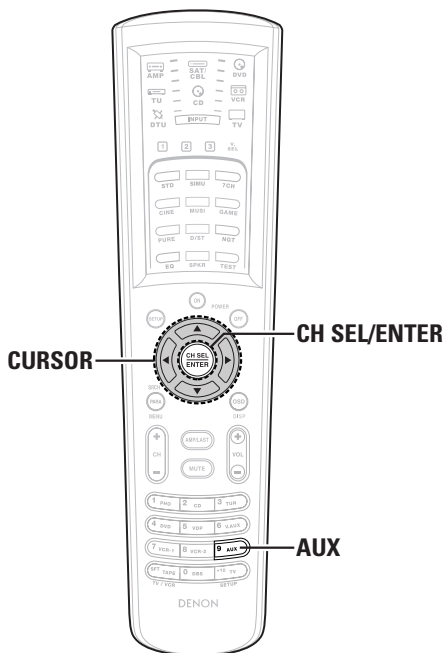
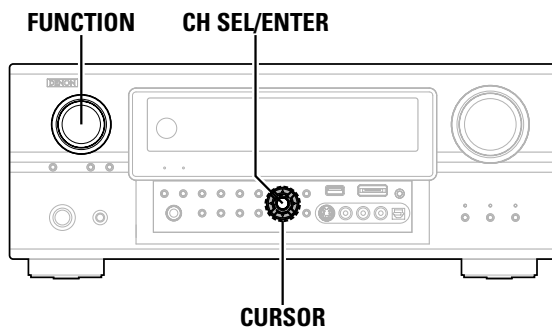
2 **CURSOR △ ▽ または ENTER ボタンを押して、レベル調節したいスピーカーを選ぶ。**

- **ENTER** ボタンを押すたびに下記の順序でチャンネルが切り替わります。

FL → C → FR → SW※ → SR → SBR※ → SBL → SL → FADER → FL

3 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押してレベルを調節する。**

- −12dB〜+12dBの範囲で、0.5dB単位で調節できます。
- サブウーハー（SW）のレベルは−12dBから **CURSOR** ◁ ボタンを押すと “ OFF ” に設定することができます。

メモ

- 「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 81ページ）でサラウンドバックスピーカーを “ 1spkr ” に設定した場合は “ SB ” となります。
  また、“ None ” に設定した場合は表示されません。

フェーダー機能について

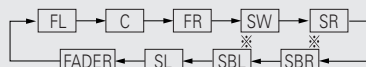
本機能は、フロント側（FL、C、FRチャンネル）とリア側（SL、SR、SBLおよびSBRチャンネル）のそれぞれの音量を一括して減衰させることが可能な機能です。
マルチチャンネルミュージックソース再生時などの定位バランスの調整に活用できます。

1 CH SEL/ENTER ボタンを押す。

- Channel Vol. 画面が表示されます。

2 CURSOR △ ▽ または ENTER ボタンを押して " FADER " を選ぶ。

※ **ENTER** ボタンを押すたびに下記の順序でチャンネルが切り替わります。

FL → C → FR → SW → SR → SBR※ → SBL※ → SL → FADER → FL

※「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 81ページ）でサラウンドバックスピーカーを " 1spkr " に設定した場合は " SB " となります。
また、" None " に設定した場合は表示されません。

3 リア側の音量を一括して減衰させたい場合は CURSOR ▷ ボタンを押す。
フロント側の音量を一括して減衰させたい場合は CURSOR ◁ を押す。

【例】" FRONT " を選んだ場合

※ SWチャンネルはフェーダー機能は働きません。

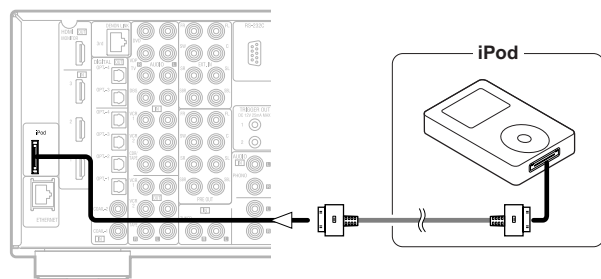
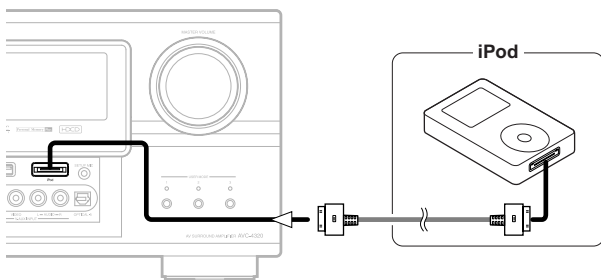
 メモ

- フェーダーの調整は、チャンネルレベルが一番小さく調整されているチャンネルがフェーダー機能により、−12dBに減衰するまで可能です。
- フェーダーの調整後、チャンネルレベルを個別に調整した場合は、フェーダー調整値はクリアされますので、その時点から新たにフェーダー調整をおこなってください。

iPod®の再生のしかた

本機のiPodコネクタにiPodを接続することで、iPodの音楽を再生することができます。また、本体およびリモコンのボタンからも操作することができます。

※ iPodは、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

iPodを接続する

1 **本機とiPodをiPodケーブルで接続する。**

2 **入力ソースを " AUX/iPod " にする。**

● ミュージックメニュー画面が表示されます。

(本体)

(リモコン/AMPモード)

※ **AUX** ボタンを押すたびに " AUX/Net " と " AUX/iPod " が切り替わります。

本機のディスプレイ

iPodの画面

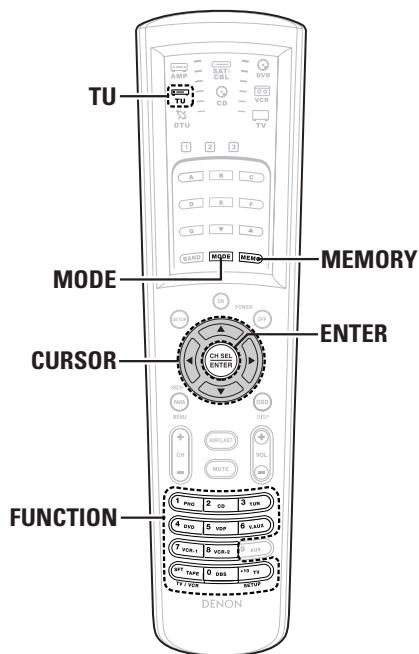
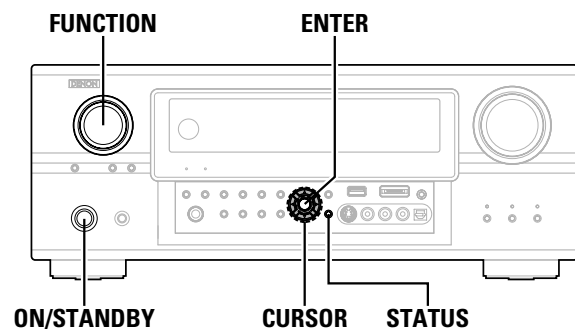
※ 上記の画面が表示されない場合は、iPodが正しく接続されていない可能性があります。再度接続をやりなおしてください。

ご注意

● 本機は、フロントおよびリアパネルにiPod端子を1つずつ備えています。両方同時に接続して使用することはできませんので、どちらか片方を選んで接続してください。
● iPodを本機と接続して使用しているときに、iPodのデータが万一消失あるいは損傷した場合、当社は一切責任を負いかねます。
● iPodコネクタからのバッテリチャージ用出力は最大8Wです。

メモ

● 本機とiPodの接続には、別売りの専用ケーブル（AK-P100）をご使用ください。
専用ケーブルについては、販売店または最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。
● iPod Dock経由で接続する場合は「iPodの入力の設定」（☞ 68ページ）をご覧ください。
● iPodの種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が作動しない場合があります。

《基本操作のしかた》

音楽を聴く

1 CURSOR △ ▽ ボタンで再生したい音楽ファイルを選び、ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。

- **CURSOR** ◁ ボタンを押すと、ミュージックメニュー画面に戻ります。

2 ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。

- 再生が始まります。

一時停止：
再生中に **ENTER** ボタンを押す。
もう一度押すと再開する。

マニュアルサーチ：
再生中に **CURSOR** △ ▽ ボタンを押し続ける。
- △： 早戻し
- ▽： 早送り

トラックサーチ：
再生中に **CURSOR** △ ▽ ボタンを押す。
- △： 前の曲の頭出し
- ▽： 次の曲の頭出し

停止：
再生中に **ENTER** ボタンを2秒以上押す。

リピート再生：
TU（TUNER）ボタンを押してから **MODE** ボタンを押す。
MODE ボタンを押すたびに下記のように切り替わる。
- **RPT One** ： 1曲リピート
- **RPT All** ： 全曲リピート

シャッフル再生：
TU（TUNER）ボタンを押してから **MEMORY** ボタンを押す。
MEMORY ボタンを押すたびに下記のように切り替わる。
- **SFL Songs** ： 曲ごとのシャッフル
- **SFL Albums** ： アルバムごとのシャッフル

※ **TU**（TUNER）ボタンを押してから **MODE** ボタンを2秒以上押し続けるとBrowseモードとRemoteモードを切り替えることができます。
Remoteモード時は **CURSOR** および **ENTER** ボタンのみ使用できます。

メモ

- 再生中に **STATUS** ボタンを押すたびにタイトル名、アーティスト名およびアルバム名を切り替えて本体ディスプレイに表示することができます。
- iPodのソフトウェアのバージョンによっては、本機で操作できない場合があります。最新バージョンのソフトウェアをお使いください。なお、最新バージョンのソフトウェアについての情報は、アップルコンピュータ株式会社のウェブサイトをご覧ください。
- iPodを再生中にOSDを表示したくない場合は、「オンスクリーンディスプレイ（OSD）の設定」（☞ 72、73ページ）で “ Function/Mode Status ” を “ OFF ” に設定してください。
- 本機はフォルダ名とファイル名をタイトルのように表示することが可能です。半角の英数文字を64文字まで表示できます。対応していない文字は “ .（ピリオド）” に置き換えて表示します。

静止画像やビデオを見る（スライドショー/ビデオ機能があるiPodのみ）

iPodに保存した写真やビデオデータをテレビで見ることができます。

1 TU（TUNER）ボタンを押してから MODE ボタンを2秒以上押し続けてBrowseモードからRemoteモードに切り替える。

- 本機のディスプレイに “ Remote iPod ” が表示されます。

2 iPodの画面を見ながら CURSOR △ ▽ ボタンを押して “ Photos ” または “ Videos ” を選び、表示したいデータのスライドショーが再生するまで、ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。

- iPodに保存した写真やビデオデータがテレビに映し出されます。

メモ

- iPodに保存した写真やビデオデータをテレビに映すには、iPodの “ ビデオ設定 ” の “ テレビ出力 ” を “ オン ” に設定してください。詳しくはiPodの取扱説明書をご覧ください。

iPodのはずしかた

ON/STANDBY ボタンを押して本機の電源をスタンバイ状態にするか、本体の FUNCTION つまみまたはリモコンの FUNCTION ボタンを押して、入力ソースを “ AUX/iPod ” 以外に設定することを推奨します。

ネットワークオーディオの使いかた

本機はLANケーブルでネットワーク接続をすると、インターネットラジオを楽しんだり、パソコンに保存した音楽ファイルを楽しむことができます。

インターネットラジオ機能

インターネットラジオとは、インターネットを通じて配信しているラジオのことを言います。
世界中には、インターネットラジオ放送をおこなっている放送局が多数存在します。放送局といっても、個人が運営するものから、地上波の放送局が運営するものなど、大小さまざまなものが存在します。
地上波のラジオは、電波の届く範囲で放送を聴くことができますが、インターネットラジオは世界中の放送を聴くことができます。
本機には、次のインターネットラジオ機能があります。

- ジャンル別、地域別に選択が可能です。
- 56局のインターネットラジオ局をプリセットできます。
- MP3フォーマットのインターネットラジオが聴けます。
- パソコン上のWebブラウザからDENON専用のインターネットラジオ用URLにアクセスすると、お気に入りのラジオ局を登録することができます。(本体への登録は、AVアンプが自動的にダウンロードします（約1日おき))。(お客様の機器ごとの管理をしますので、MACアドレス、E-mailアドレスの登録が必要です)。
  ※専用URL：　http://www.radiodenon.com

■ vTunerについて

本機のインターネットラジオ局リストは、ラジオ局データベースサービス（vTuner）を利用しています。このデータベースサービスは、本機用に編集・作成されたリストです。

ミュージックサーバー

本機は、ネットワークオーディオ再生機能があり、パソコンに保存した音楽ファイルをLAN（ローカルエリアネットワーク）を経由して、再生することができます。
本機のネットワークオーディオ再生機能は、次の技術を利用してサーバーに接続できます。

- Windows Media Connect
- Windows Media DRM10

必要なシステム

インターネットラジオや、ミュージックサーバーを使用するには、次の準備が必要です。

■ ブロードバンド回線によるインターネット接続

本機のインターネットラジオ機能を利用するには、ブロードバンド回線によるインターネットへの接続が必要です。

ご注意

インターネットに接続するには、ISP（インターネット・サービスプロバイダ）と契約する必要があります。
インターネットの接続については、ISPまたはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
すでに、ブロードバンド回線を利用してインターネット接続をされている方は、新たに契約する必要はありません。

■ モデム

ブロードバンド回線と接続してインターネットに通信をおこなうための機器です。ルータと一体型のものもあります。
インターネットの接続については、ISPまたはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

■ ルータ

パソコンなどの機器および本機など、複数の機器を同時にインターネットへ接続するための機器です。
本機を利用するにあたって、以下の機能が装備されているルータを推奨します。

- DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）サーバーを内蔵していること。
  LAN上の機器のIPアドレスを自動的に割り振る機能です。
- 100BASE-TXスイッチ内蔵
  複数の機器を接続するために、100Mbps以上の速度で、スイッチングハブを内蔵していることを推奨します。

ご注意

ルータは、ISP業者によって使用できるルータの種類が異なりますので、詳しくはISP業者、またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

■ イーサネットケーブル（CAT-5）

本機には、イーサネットケーブルは付属していません。必要な長さのケーブルを準備してください。

■ パーソナルコンピュータ

「Windows Media Connect」をパーソナルコンピュータにインストールします。
ミュージックサーバーを構成するために必要なシステムは、以下の通りです。

1）OS：
　Windows® XP Service pack2
2）プロセッサ：
　Intel PentiumⅡまたはAMDプロセッサなど
　推奨1GHz以上
3）RAM：
　最小128MB。推奨256MB以上。
4）ソフトウェア：
　.NET Framework 1.1
5）インターネット ブラウザ：
　Microsoft Internet Explorer 5.01 以上

- LANポートがあること
- 300MB以上のハードディスク空き容量

※音楽ファイルを保存する場合、別途、空き容量が必要になります。
　下記が容量のおおよその目安です。

フォーマット	ビットレート	1分当たり	1時間当たり
MP3/WMA	128kbps	約1MB	約60MB
	192kbps	約1.5MB	約90MB
	256kbps	約2MB	約120MB
	392kbps	約3MB	約180MB
WAV（LPCM）	1400kbps	約10MB	約600MB

メモ

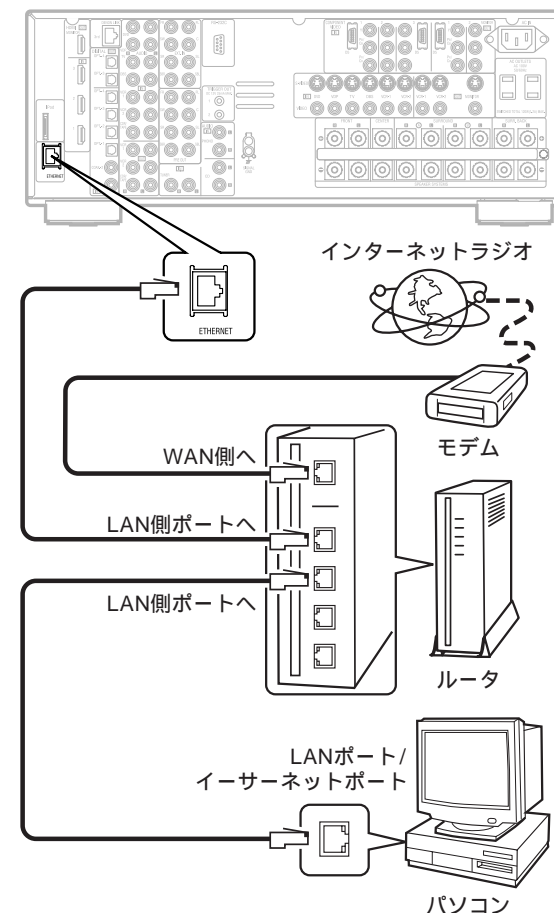
- サーバーによっては、ビデオファイルが表示される場合がありますが、本機では再生できません。

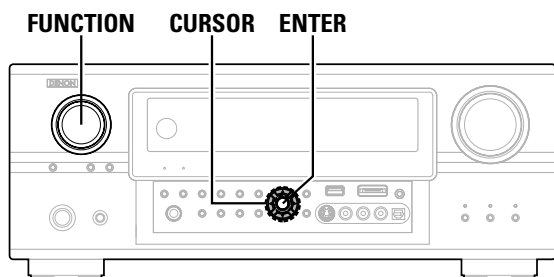
■ その他

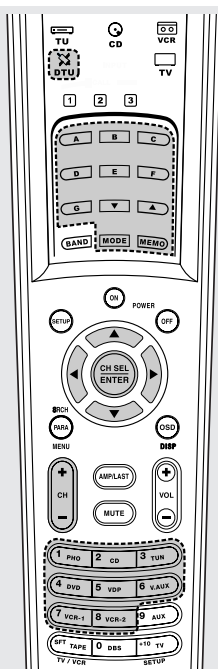
- ネットワーク設定を手動でおこなうタイプの回線契約でプロバイダ契約を結んでいる場合、「ネットワークに関する設定」（☞ 79、80ページ）をする必要があります。
- 本機はPPPoEに対応しておりません。PPPoEで設定するタイプの回線契約を結んでいる場合、PPPoE対応のルータが必要です。
- 契約しているISP（インターネットサービスプロバイダ）によっては、インターネットラジオを利用する場合にプロキシサーバーの設定が必要な場合があります。パソコンでインターネットに接続するときにプロキシサーバーの設定をした場合は、本機も同様に設定してください。
- 本機はDHCP機能や Auto IP 機能を使用し、ネットワーク設定を自動的におこなうように設計されています。

《基本操作のしかた》

■ 接続のしかた

イーサネットケーブル（CAT-5）の一方を本機背面のETHERNET端子に差し込み、もう一方をルータに差し込みます。

■ ネットワークに関する設定

ブロードバンドルータ（DHCP機能）をお使いの方は、本機が自動的にネットワークの設定をしますので、ネットワークに関する設定は必要ありません。
DHCP機能のないネットワークに本機を接続してお使いになるときには、「ネットワークに関する設定」（☞ 79、80ページ）をおこなう必要があります。

■ DTU（デジタルチューナー）のシステムボタン

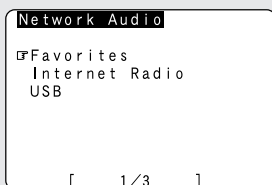
ネットワークオーディオの操作には、下図のデジタルチューナーのシステムボタンを使用します。

A~G	：プリセットメモリーブロック
▲, ▼	：文字検索
MODE	：コンフィグレーションモードの選択
MEMO	：プリセットおよびお気に入りの登録
▲, ▼, ◀, ▶	：カーソル上/下/左/右
ENTER	：設定の確定
CH +, –	：プリセットチャンネルの切り替え
1~8	：プリセットナンバー

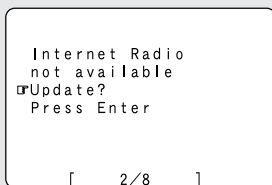
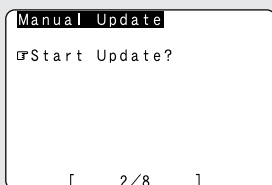
インターネットラジオを聴く

インターネットラジオを聴くには、必要なシステムとの接続および設定が必要です。
また、インターネットラジオに初めて接続する場合には、ディスプレイに“ Update? ”が表示されます。

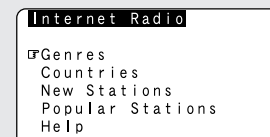
1 **入力ソースを“ AUX/Net ”にする。**
- Network Audio画面が表示されます。

(本体)

(リモコン/AMPモード)

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Internet Radio ”を選び、ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。**
- インターネット未接続時の初期画面が表示されます。

```
 Internet Radio
 not available
☞Update?
 Press Enter

      [  2/8  ]
```

3 **(インターネットラジオに初めて接続する)**
ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。
- アップデイト画面が表示されます。

4 **ENTER または CURSOR ▷ ボタンをもう一度押す。**
- vTunerのホームページから最新のラジオステーションリストをダウンロードします。(このダウンロードには数分かかります。)

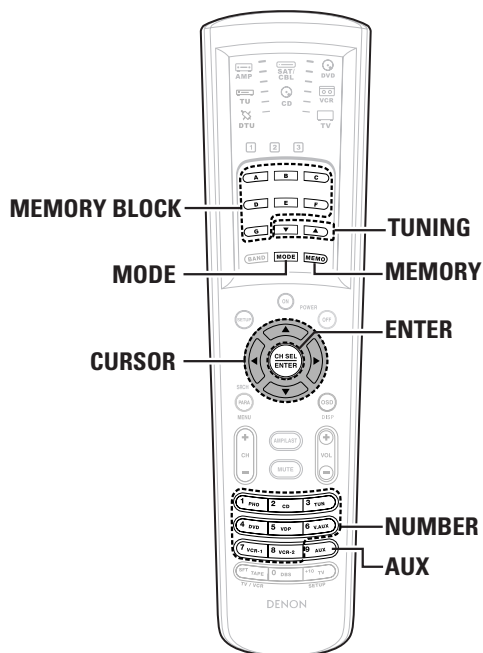
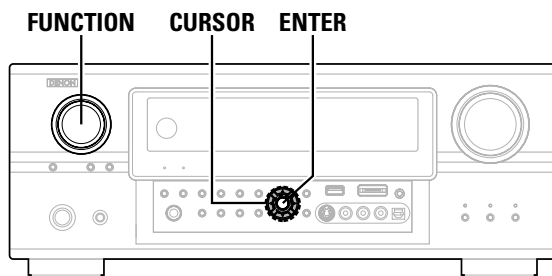
5 **CURSOR △ ▽ ボタンを押してお好みの項目を選び、ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。**

```
Internet Radio

☞Genres
 Countries
 New Stations
 Popular Stations
 Help
```

※ 最後にステーションリストが表示され、再生可能な放送局には先頭に＊マークがつきます。

6 **CURSOR △ ▽ ボタンを押してお好みの放送局を選び、ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。**
- 接続を開始し、バッファリングが“ 100% ”表示になると再生がはじまります。

※ 再生中に **ENTER** ボタンを押すと一時停止し、再度 **ENTER** ボタンを押すと再生が再開します。
※ 再生中または一時停止中に **ENTER** ボタンを2秒以上押し続けると停止し、一つ前のメニュー画面に戻ります。

メモ

- インターネット上には数多くのインターネットラジオ局があり、各ラジオ局から配信される放送や楽曲のビットレートには高低様々なものがあります。
  一般に、ビットレートが高ければ高いほど高音質になりますが、通信回線やサーバーの混雑具合によってはストリーミングしている音楽や音声が途切れやすくなります。
  逆にビットレートが低ければ音質は低下しますが、途切れにくくなります。
- 放送局が混雑している場合や放送されていない場合には“ Server Full ”または“ Connection Down ”が表示されます。
- ネットワークオーディオ（インターネットラジオ、ミュージックサーバーまたはUSB）を再生しているときにOSDを表示させない場合は、「オンスクリーンディスプレイ（OSD）の設定」（☞ 72、73ページ）で“ Function/Mode Status ”を“ OFF ”に設定してください。

インターネットラジオ局をプリセット（登録）する

登録にはプリセットとお気に入りの2種類の方法があります。プリセットに登録すると、リモコンでダイレクトに選局できます。

1 登録したいインターネットラジオ局を再生中に MEMORY ボタンを押す。

- 登録メニュー画面が表示されます。

```
Favorites/Preset

☞Favorites
 Preset
```

2 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Preset ”を選び、ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。

- プリセットの登録画面が表示されます。

3 MEMORY BLOCK ボタン（A〜G）を押した後に NUMBER ボタン（1〜8）を押して、お好みのプリセットチャンネルに登録する。

- 登録が完了します。

※ 約10秒間ボタン操作がおこなわれないと通常表示に戻ります。

※ 登録したプリセット内容はオンスクリーンディスプレイで確認できます。
プリセット内容の確認は“ AUX/Net ”ファンクション選択時のみオンスクリーンディスプレイに表示されます。

ご注意

プリセットに登録した内容は、上書きをして消去します。

■ プリセットしたインターネットラジオ局を聴く

“ AUX/Net ”ファンクション選択時に、MEMORY BLOCK ボタン（A〜G）を押した後に NUMBER ボタン（1〜8）を押す。

- 自動的に接続して再生がはじまります。

インターネットラジオ局をお気に入りに登録する

お気に入りはメニュー画面の先頭にリストアップされますので、登録すると選局が容易にできます。

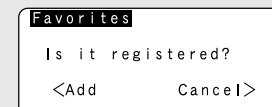
1 登録したいインターネットラジオ局を再生中に MEMORY ボタンを押す。

- 登録メニュー画面が表示されます。

```
Favorites/Preset

☞Favorites
 Preset
```

2 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Favorites ”を選び、ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。

- お気に入りの登録画面が表示されます。

```
Favorites

 Is it registered?

 <Add          Cancel>
```

3 CURSOR ◁ ボタンを押して登録する。

※ 登録しない場合には、**CURSOR** ▷ ボタンを押して取り消します。

■ お気に入りに登録したインターネットラジオ局を聴く

1 “ AUX/Net ”ファンクション選択時に、CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Favorites ”を選び、ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。

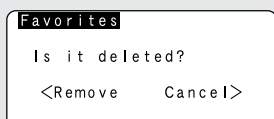
- お気に入りに登録したインターネットラジオ局が表示されます。

2 CURSOR △ ▽ ボタンを押してお好みのラジオ局を選び、ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。

- 再生がはじまります。

■ お気に入りに登録したラジオ局を削除する

1 **「お気に入りに登録したインターネットラジオ局を聴く」の操作2の画面で、CURSOR △ ▽ ボタンを押して削除したいラジオ局を選び、MEMORY ボタンを押す。**
- 削除画面が表示されます。

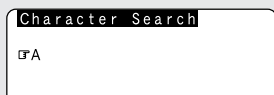
Favorites
Is it deleted?
<Remove Cancel>

2 **CURSOR ◁ ボタンを押して削除する。**

※ 削除を取り消す場合は、CURSOR ▷ ボタンを押してください。

キャラクターサーチ（頭文字で検索をする）

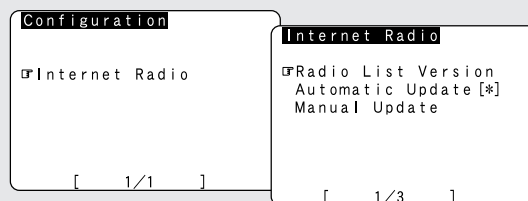
インターネットラジオ局およびパソコンに保存された音楽ファイルのメニュー画面の項目の中から、目的の項目を選択したい場合は、キャラクターサーチ（頭文字による検索）ができます。

1 **メニュー画面が表示されているときに、TUNING ▲ または ▼ ボタンを押す。**
- キャラクターサーチの画面が表示されます。

Character Search
☞A

2 **TUNING ▲ または ▼ ボタンを押して、検索したい項目の頭文字を選ぶ。**
- 数秒後、操作2で選んだ文字からはじまる項目にカーソルが合っている状態で、メニュー画面が表示されます。

※ 操作2で選んだ文字からはじまる項目が複数ある場合には、アルファベット順にカーソルが表示されます。

ラジオステーションリストのアップデイトのしかた

1 **MODE ボタンを押して、コンフィグレーションモードにして、ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。**
- 設定画面が表示されます。

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して “ Automatic Update ” または “ Manual Update ” を選び、ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。**
- アップデート画面が表示されます。

※ “ Radio List Version ” を選択すると現在のバージョンが表示されます。

3-1 **“ Automatic Update ” 選択したとき：ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押して “ Yes ” を選ぶ。**
- ラジオステーションリストが約1日おきに自動的にアップデイトされます。

3-2 **“ Manual Update ” 選択したとき：ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。**
- ラジオステーションリストが今回のみアップデイトされます。

メモ

- “ Automatic Update ” を “ Yes ” に設定する場合は、「ネットワークに関する設定」の “ Power Saving ”（☞ 80ページ）を “ OFF ” に設定してください。
“ Power Saving ” を “ ON ” にして使用する場合には、定期的（1週間に1回程度）に “ Manual Update ” を実施することを推奨します。

パソコン（ミュージックサーバー）に保存された音楽ファイルを再生する

音楽ファイルの再生には、必要なシステムとの接続および設定が必要です。
ネットワークを経由して本機と接続されたパソコン（ミュージックサーバー）に保存された音楽ファイル（WMA、MP3、WAV）またはプレイリスト（m3u、wpl）を再生します。
あらかじめパソコンのサーバーソフトを起動し、ファイルをサーバーコンテンツとして設定しておく必要があります。
詳しくは、サーバーソフトの取扱説明書をご参照ください。

1 **入力ソースを “ AUX/Net ” にする。**

(本体)

(リモコン/AMPモード)

Network Audio
☞Favorites
Internet Radio
USB

※ ネットワーク上に存在するパソコン（ミュージックサーバー）のホスト名も表示されます。

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して再生したい音楽ファイルのあるパソコン（ミュージックサーバー）のホスト名を選び、ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。**

3 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して検索項目またはお好みのフォルダを選び、ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押して確定する。**

※ 再生可能な音楽ファイルには先頭に＊マークがつきます。

CURSOR △ ▽ ボタンを押して音楽ファイルを選び、ENTER または CURSOR ▷ ボタンを押す。

- 接続を開始し、バッファリングが " 100% " 表示になると再生がはじまります。

※ 次の曲を選ぶときには **CURSOR** ▽ ボタンを押し、前の曲を選ぶときには **CURSOR** △ ボタンを押してください。
※ 再生中に **ENTER** ボタンを押すと一時停止し、再度 **ENTER** ボタンを押すと再生が再開されます。
※ 再生中または一時停止中に **ENTER** ボタンを2秒以上押し続けると停止し、一つ前のメニュー画面に戻ります。

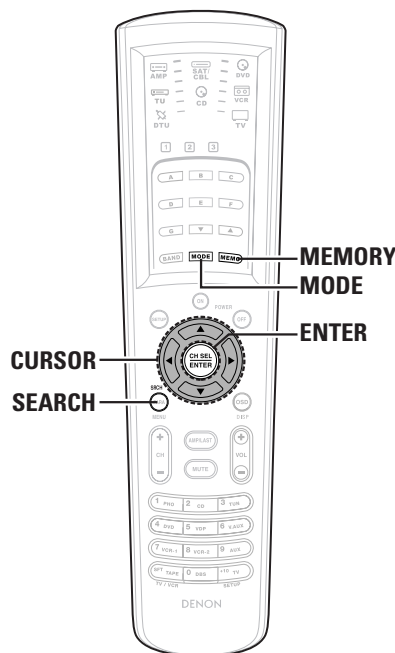
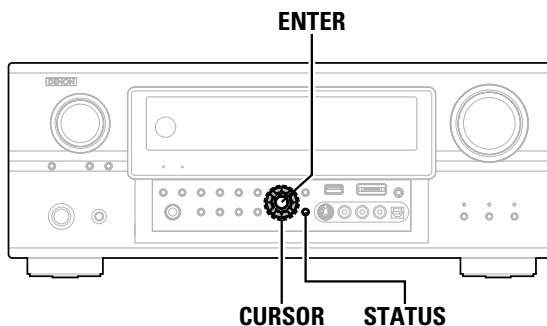
■ プリセットおよびお気に入りに登録して再生する

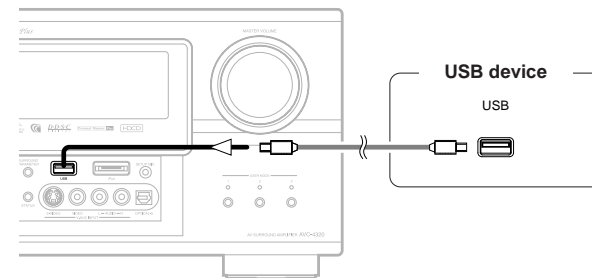
音楽ファイルについてもインターネットラジオと同様の操作をおこなうことで、プリセットおよびお気に入りに登録して再生することができます。

ご注意

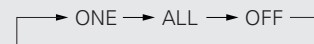
- プリセットに登録した内容は、上書きをして消去します。
- 下記の操作をおこなうとミュージックサーバーのデータベースが更新され、プリセットまたはお気に入りに登録した音楽ファイルが再生できなくなる場合があります。
  - ・ミュージックサーバーを停止、再起動した場合
  - ・ミュージックサーバーで音楽ファイルを削除または追加した場合

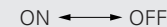
ブラウザを使用して本機を操作する（ウェブコントロール）

ネットワークを経由して本機と接続されたパソコンのインターネットエクスプローラを使用して、本機を操作することができます。
あらかじめ本機のIPアドレスの確認（☞ 79ページ）をおこない、インターネットエクスプローラのアドレスに本機のIPアドレスを入力すると、本機の操作画面が表示されます。
通常のインターネットブラウジングと同様に操作することで、本機を操作することができます。
この機能をご使用になる場合は " Network Setup " の " Network Option " で " Standby Mode Power Saving " を " OFF " に設定してください。（☞ 80ページ）

USB大容量記憶装置（USBメモリー）を再生する

本機のUSBコネクタにUSBメモリーを接続することで、MP3、WMAおよびWAVファイルを再生できます。

操作方法は「パソコン（ミュージックサーバー）に保存された音楽ファイルを再生する」と同じです。

※ **リピートモード：**
USBメモリーを再生時に **MODE** ボタンを押すと、リピートモードが下記のように切り替わります。

→ ONE → ALL → OFF ―

※ **ランダムモード：**
MEMORY ボタンを押すと、ランダムモードのON/OFFを切り替えることができます。

ON ←→ OFF

※ USBメモリーまたはフォルダ選択時に **SEARCH** ボタンを押すと、USBメモリーまたはフォルダ内の全曲再生をはじめます。

メモ

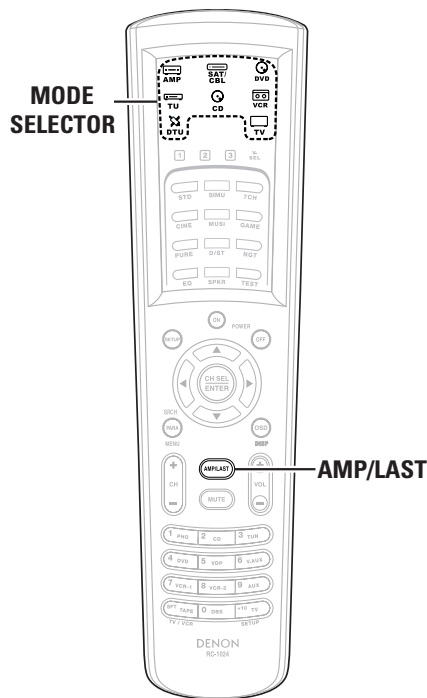
- 本機は、マスストレージクラスに対応しているUSBメモリーのみ再生することができます。
- USBメモリーのフォーマットはFAT16またはFAT32に対応しています。
- USBメモリーが複数のパーティションに分かれている場合は、先頭ドライブのみ選択が可能です。
- 本機で対応しているMP3ファイルの規格は『MPEG-1 Audio Layer-3』（サンプリング周波数〈fs〉は32、44.1および48kHz）です。それ以外の『MPEG-2 Audio Layer-3』、『MPEG-2.5 Audio Layer-3』、『MP1』、『MP2』などには対応していません。
  WMA（Windows Media Audio）ファイルは32、44.1および48kHzのサンプリング周波数〈fs〉に対応しています。
- ビットレートはMP3は32～320kbps、WMA（Windows Media Audio）は48～192kbpsで記録されたファイルに対応しています。
- 本機は、著作権保護のかかっていない音楽ファイル*のみ再生することができます。
  *：インターネット上の有料音楽サイトからのダウンロードコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンでCDなどからリッピングする際にWMAでエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。
- 本機はフォルダ名とファイル名をタイトルのように表示することが可能です。半角の英数文字を95文字まで表示できます。対応していない文字は“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。
- **STATUS** ボタンでタイトル名、アーティスト名およびアルバム名を切り替えて表示することができます。
- MP3 ID3-Tag（Ver.2）に対応しています。
- WMA METAタグに対応しています。
- 音声信号は、デジタル出力端子からは出力されません。

ご注意

- USBメモリーを本機と接続して使用しているときに、USBメモリーのデータが万一消失あるいは損傷した場合、当社は一切責任を負いかねます。
- USBメモリーはUSBハブ経由では動作しません。
- すべてのUSBメモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。
- 本機のUSB端子とパソコンをUSBケーブルで接続して使用することはできません。
- 本機は、iPod shuffleには対応していません。

応用操作のしかた

リモコンの操作のしかた

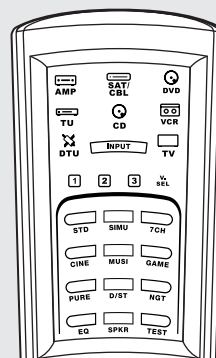
- 操作する前に各機器の電源を入れてください。
- お手持ちの機器の形式、年式によって操作できないボタンもあります。

DENON製オーディオ機器の操作のしかた

1 **MODE SELECTOR ボタンを押して、操作したい機器のモードを選ぶ。**

- 選択した機器のモードのアイコンが点滅します。

AMP ：AMP/ZONE2/ZONE3/SYSTEM CALL
TU ：TUNER
DTU ：DIGITAL TUNER
SAT/CBL ：SATELLITE/CABLE
CD ：CD/CDR
DVD ：DVD/DVDR
VCR ：VCR/TAPE
TV ：TV

※ **AMP** ボタンは押すたびにモードが切り替わり、EL表示が変わります。

【例】アンプモード選択時

ゾーン2モード選択時

ゾーン3モード選択時

※ **ゾーン2（ZONE2）およびゾーン3（ZONE3）モードは本機では操作できません。**

システムコールモード選択時

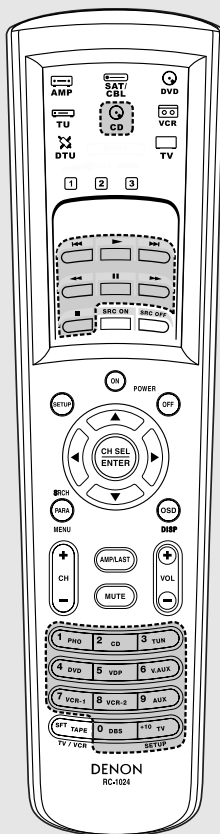
2 **オーディオ機器を操作する。**

※ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

 メモ

- **AMP/LAST** ボタンを押すと、アンプモードとアンプ以外で最後に選択した機器のモードをすぐに切り替えることができます。

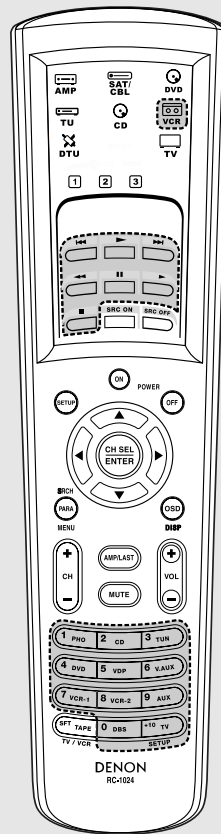
1. CDプレーヤー（CD）またはCDレコーダー（CDR）のシステムボタン

<初期設定：CD>

◀◀, ▶▶	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
■	：停止
▶	：再生
I◀◀, ▶▶I	：オートサーチ（頭出し）
II	：一時停止
0~9, +10	：数字ボタン

※ CDRのシステムボタンは、CDモードにプリセットメモリーすることにより操作できます。なお、CDおよびCDRはいずれか1つの機器しかプリセットメモリーすることができません。

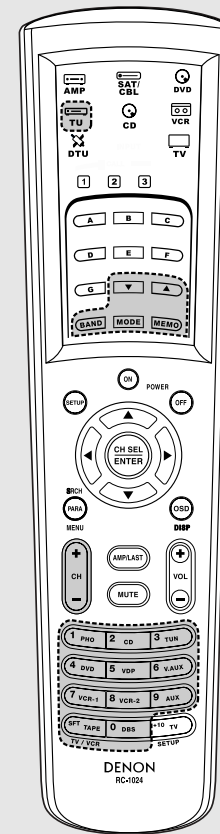
※ DENON製CDレコーダー（CDR）を操作する場合は、“ **30626** ” または “ **31868** ” をプリセットメモリーしてください。DENON製CDプレーヤー（CD）に戻す場合は “ **31867** ” をプリセットメモリーしてください。

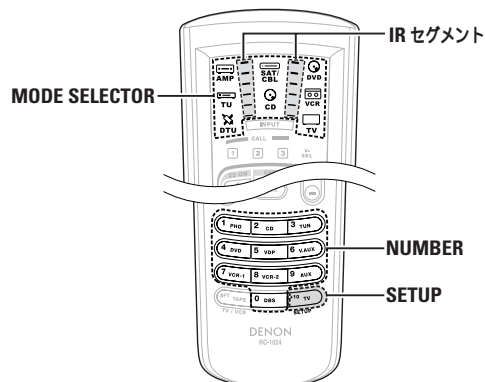
2. テープデッキ（TAPE）のシステムボタン

<初期設定：VCR>

◀◀, ▶▶	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
■	：停止
▶	：再生
I◀◀, ▶▶I	：オートサーチ（頭出し）
II	：一時停止
0~9, +10	：数字ボタン

※ TAPEのシステムボタンは、VCRモードにプリセットメモリーすることにより操作できます。なお、VCRおよびTAPEはどちらか1つの機器しかプリセットメモリーすることができません。

※ DENON製テープデッキ（TAPE）を操作する場合は、“ **21471** ” をプリセットメモリーしてください。

3. チューナー（TUNER）のシステムボタン

▲, ▼	：チューニングのアップ/ダウン
BAND	：AM/FM受信バンドの切り替え
MODE	：オート/マニュアルの切り替え
MEMO	：プリセットメモリー
SFT	：メモリーブロックの切り替え
CH +, –	：プリセットチャンネルのアップ/ダウン
1~8	：プリセットチャンネル

《応用操作のしかた》

プリセットメモリーについて

お手持ちの機器のメーカーをプリセットメモリーすることにより、付属のリモコンで各社の機器を操作することができます。なお、機種によっては操作できない場合や機器が正確に動作しない場合がありますので、その場合は「学習機能について」（☞ 60ページ）によりお手持ちの機器のリモコン信号を付属のリモコンに記憶させてご使用ください。

1 **MODE SELECTOR ボタンを押し、メモリーしたい機器のモードを選ぶ。**

※ AMPおよびTUNERモードにはメモリーできません。

2 **SETUP ボタンを3秒以上押す。**
- IRセグメントが2回点滅します。

3 **プリセットコード表（☞ 巻末）を参照して、メモリーする機器のメーカーに対応するNUMBER ボタン（5桁）を入力する。**
- ボタンを押すたびにIRセグメントが点灯します。
- 正常にメモリーされるとIRセグメントが2回点滅します。
- プリセットコード送信時は、そのコードが属する機器のモードアイコンが点滅します。

※ 10秒間何もボタンが押されないとタイムアウトしてしまいますので、始めから操作をやり直してください。

■ 工場出荷時および初期化時のプリセットコード

- TV、VCR ……………………………………HITACHI
- CD、DVD …………………………………………DENON
- SAT…………………………………………………RCA

■ DENON製DVDプレーヤーのプリセットコード

DENON製DVDプレーヤー	プリセットコード
DVD-550/900/1000/1400/ DVD-1500/1910/2200/2800/ DVD-2900/2910/3800/3910/ DVD-A11/A1/A1XV	41470
DVD-800/1600/2000 DVD-2500/3300	40490

※ 工場出荷時の初期設定は“ 41470 ”です。

メモ
- 巻末のプリセットコード表中のメーカー製品であっても形式・年式によっては使用できないものがあります。
- 学習をしたボタンについては、プリセットメモリーをしても学習した内容を優先して残しますので、不要の場合は（☞ 62ページ）に従って学習内容を消去してください。
- メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は設定を変えて確認してください。

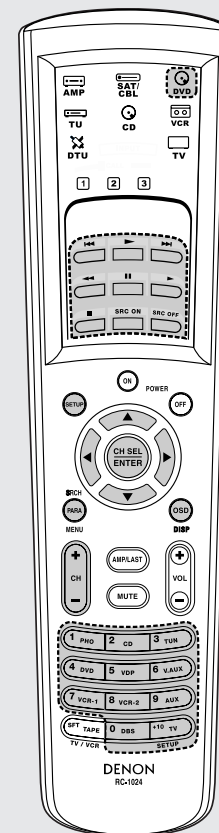
プリセットメモリーした機器の操作のしかた

1 **MODE SELECTOR ボタンを押し、操作したい機器のモードを選ぶ。**

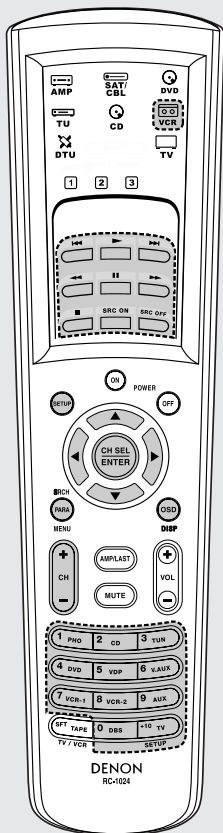
2 **機器を操作する。**

※ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 機種によっては操作できないものがあります。

1. DVDプレーヤー（DVD）またはDVDレコーダーのシステムボタン

<初期設定：DVD>

SRC ON	：電源のオン
SRC OFF	：電源のオフ
◀◀, ▶▶	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
■	：停止
▶	：再生
I◀◀, ▶▶I	：オートサーチ（頭出し）
II	：一時停止
SETUP	：セットアップ
MENU	：メニューの呼び出し
▲, ▼, ◀, ▶	：カーソル上/下/左/右
ENTER	：設定の確定
DISP	：ディスプレイの切り替え
CH +, –	：チャンネルの切り替え
0~9, +10	：数字ボタン

※ DVDRのシステムボタンは、DVDモードにプリセットメモリーすることにより操作できます。なお、DVDおよびDVDRはどちらか1つの機器しかプリセットメモリーすることができません。
※ DVDのリモコンボタンはメーカーによって機能名が異なる場合がありますので、各機能のリモコンの動作と照らし合わせ、ご使用ください。

2. ビデオデッキ（VCR）のシステムボタン

SRC ON	：電源のオン
SRC OFF	：電源のオフ
◀◀, ▶▶	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
■	：停止
▶	：再生
I◀◀, ▶▶I	：オートサーチ（頭出し）
II	：一時停止
SETUP	：セットアップ
MENU	：メニューの呼び出し
▲, ▼, ◀, ▶	：カーソル上/下/左/右
ENTER	：設定の確認
DISP	：ガイドの呼び出し
CH +, –	：チャンネルの切り替え
0 ~ 9, +10	：チャンネルの選択

3. モニターテレビ（TV）のシステムボタン

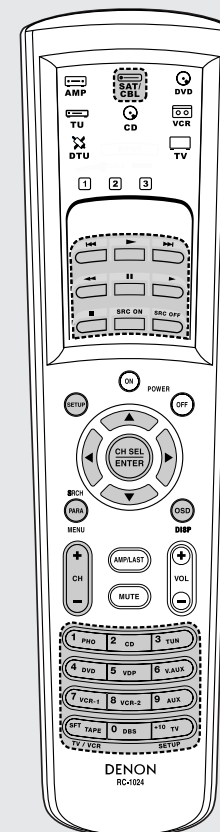
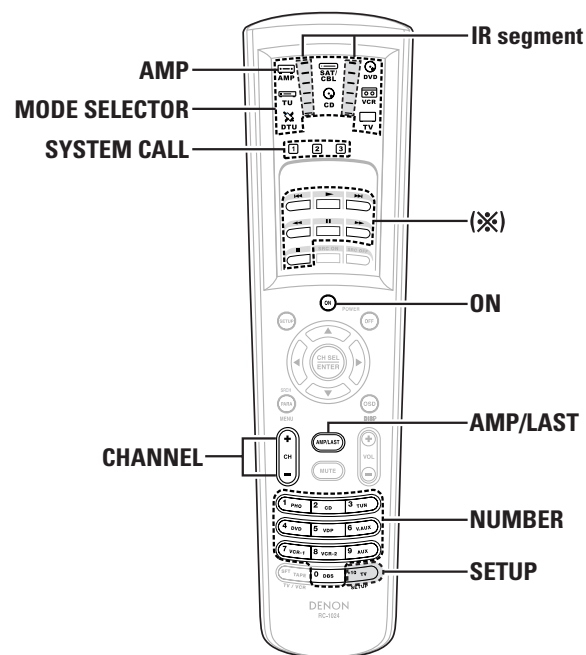
SRC ON	：電源のオン
SRC OFF	：電源のオフ
SETUP	：セットアップ
MENU	：メニューの呼び出し
▲, ▼, ◀, ▶	：カーソル上/下/左/右
ENTER	：設定の確定
DISP	：ガイドの呼び出し
CH +, –	：チャンネルの切り替え
0~9, +10	：チャンネルの選択
TV/VCR	：入力切り替え

※ 下記のボタンは、プリセットメモリーされた機器に利用可能なコードがある場合には、そのコードが送信されます。利用可能なコードがない場合は、初期状態ではDVDのコードがパンチスルーされています。プリセットメモリーをおこなった後、パンチスルーの設定をした場合は、パンチスルーされたコードが優先されて送信されます。

◀◀, ▶▶	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
■	：停止
▶	：再生
I◀◀, ▶▶I	：オートサーチ（頭出し）
II	：一時停止

4. 衛生放送（SAT）チューナーまたはケーブル（CABLE）のシステムボタン

※ このモードのプリセットコードは輸出仕様なので学習させてご使用ください。

＜初期設定：SAT＞

SRC ON	：電源のオン
SRC OFF	：電源のオフ
SETUP	：セットアップ
MENU	：メニューの呼び出し
▲, ▼, ◀, ▶	：カーソル上/下/左/右
ENTER	：設定の確定
CH +, –	：チャンネルの切り替え
0~9, +10	：チャンネルの選択

学習機能について

- お手持ちのAV機器がDENON製品でない場合、またはプリセットメモリーで操作できない場合は、各機器のリモコン信号を付属のリモコンに記憶させて操作をすることができます。
- リモコン信号によっては学習できない場合や学習に成功しても機器が正常に動作しない場合がありますので、このような場合にはご使用になる機器に付属の専用リモコンで操作してください。

1 SETUP ボタンを3秒以上押す。
- IRセグメントが2回点滅します。

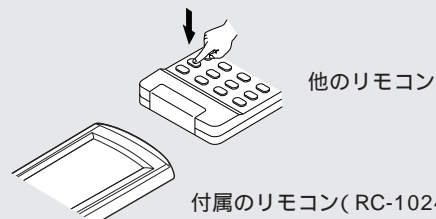
2 9、7、5 ボタン（9→7→5）を押し、学習機能設定モードにする。
- IRセグメントが2回点滅します。

3 MODE SELECTOR ボタンを押し、学習したい機器のモードを選ぶ。

※ **アンプ、ゾーン2、ゾーン3およびシステムコールモードには学習できません。**

4 学習させたいボタンを押す。
- 表示が消え学習待機状態になります。

※ 学習できないボタンを押した場合はIRセグメントが点灯して設定は解除されます。
※ **AMP/LAST** ボタンは学習できません。

5 リモコンをまっすぐに向かい合わせ、他のリモコンの学習させたいボタンを押し続ける。
- 正常に学習機能が終了すると表示が点灯しIRセグメントが2回点滅します。

※ 他にも学習させたいボタンがある場合は、操作4、5をくり返しおこなってください。
※ EL表示中に **MODE SELECTOR** ボタンを押すと、モードを切り替えることができます。
※ 学習できなかった場合はIRセグメントが1回長く点灯します。

6 SETUP ボタンを3秒以上押して設定を終了する。
- IRセグメントが2回点滅します。

メモ
- 学習機能を解除するときは **SETUP** ボタンを3秒以上押してください。

ご注意
SETUP ボタンは学習させないでください。

システムコールについて

- 付属のリモコンには1つのボタン操作をおこなうだけで、連続して複数のリモコン信号を送信できるシステムコール機能が搭載されています。
  この機能を用いることにより、ワンタッチでアンプの電源ON、入力ソースの選択、モニターテレビの電源ON、ソース機器の電源ON、再生などが可能です。
- **SYSTEM CALL 1〜 3** ボタンにそれぞれ32個までの信号を登録することができます。
  システムコール機能は、システムコールモードで使用することができます。

■ システムコールの登録のしかた

1 SETUP ボタンを3秒以上押す。
- IRセグメントが2回点滅します。

2 9、7、8 ボタン（9→7→8）を押し、システムコール設定モードにする。
- IRセグメントが2回点滅します。

3 システムコールに登録したい SYSTEM CALL ボタン（1、2 または 3）を押す。

4 登録させたいリモコン信号を持つボタンを1つずつ押す。
- ボタンを押すたびにIRセグメントが点灯します。

※ 表示中に **MODE SELECTOR** ボタンを押すと、モードを切り替えることができます。

5 操作4をくり返して、それぞれのボタンに登録する。

6 SETUP ボタンを3秒以上押して設定を終了する。
- IRセグメントが2回点滅します。

■ システムコールのしかた

1 **AMP ボタンを押してシステムコールモードを選ぶ。**

2 **システムコールに登録したボタンを押す。**
● 登録した信号が連続して送信されます。

パンチスルーについて

TVおよびSAT/CBLモード時には通常使用しないボタン（※）にCD、DVDおよびVCRモードのボタンを割り当てることができます。
例えば、TVモードにDVDモードをパンチスルー設定すると、TVモード時にDVDモードの再生（▶）、停止（■）、マニュアルサーチ（◀◀、▶▶）、オートサーチ（I◀◀、▶▶I）および一時停止ボタン（II）を操作することができます。

1 **SETUP ボタンを3秒以上押す。**
● IRセグメントが2回点滅します。

2 **9、8、4 ボタン（9→8→4）を押し、パンチスルー設定モードにする。**
● IRセグメントが2回点滅します。

3 **MODE SELECTOR ボタンを押してパンチスルーしたい機器（CD、DVDまたはVCR）を選ぶ。**

4 **パンチスルーさせたいボタン（▶、■、◀◀、▶▶、I◀◀、▶▶I または II ）を押す。**

5 **操作4を繰り返す。**

6 **MODE SELECTOR ボタンを押してパンチスルーに設定したい機器のモード（TVまたはSAT/CBL）を選ぶ。**

7 **SETUP ボタンを3秒以上押して設定を終了する。**
● IRセグメントが2回点滅します。

バックライト点灯時間の設定

1 **SETUP ボタンを3秒以上押す。**
● IRセグメントが2回点滅します。

2 **9、7、3 ボタン（9→7→3）を押し、バックライト点灯時間の設定モードにする。**
● IRセグメントが2回点滅します。

3 **設定したい時間（5～25秒）のボタンを押す。**
● IRセグメントが2回点滅します。

※ 点灯時間
1 ボタン： 5秒
2 ボタン：10秒（工場出荷時）
3 ボタン：15秒
4 ボタン：20秒
5 ボタン：25秒

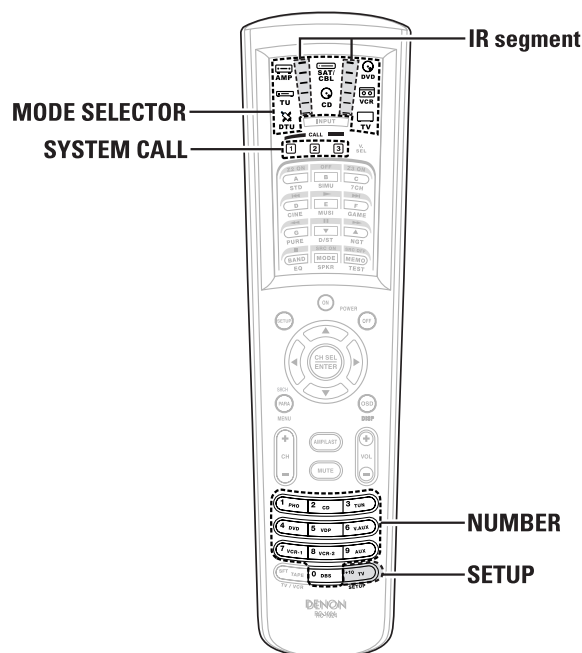
明るさの設定

表示の明るさを5段階で、調節することができます。
工場出荷時は3段階に設定されています。

1 **SETUP ボタンを3秒以上押す。**
● IRセグメントが2回点滅します。

2 **CHANNEL + または – ボタンを押す**
● **+** ボタンを押すと1段階明るくなります。
● **–** ボタンを押すと1段階暗くなります。

3 **SETUP ボタンを3秒以上押して設定を終了する。**
● IRセグメントが2回点滅します。

《応用操作のしかた》

リモコン機能の初期化

学習機能の初期化

■ ボタン個別に初期化する場合

1 **SETUP ボタンを3秒以上押す。**
- IRセグメントが2回点滅します。

2 **9、7、6 ボタン（9→7→6）を押す。**
- IRセグメントが2回点滅します。

3 **初期化したい機器の MODE SELECTOR ボタンを押す。**

4 **初期化したいボタンを2回押す。**
- IRセグメントが2回点滅します。

■ 機器のモード毎に初期化する場合

1 **SETUP ボタンを3秒以上押す。**
- IRセグメントが2回点滅します。

2 **9、7、6 ボタン（9→7→6）を押す。**
- IRセグメントが2回点滅します。

3 **初期化したい機器の MODE SELECTOR ボタンを2回押す。**
- IRセグメントが2回点滅します。

システムコールの初期化

1 **SETUP ボタンを3秒以上押す。**
- IRセグメントが2回点滅します。

2 **9、7、8 ボタン（9→7→8）を押す。**
- IRセグメントが2回点滅します。

3 **初期化したい SYSTEM CALL ボタン（1、2 または 3）を押す。**

4 **SETUP ボタンを3秒以上押す。**
- IRセグメントが2回点滅します。

パンチスルーの初期化

1 **初期化したい MODE SELECTOR ボタン（TVまたはSAT/CBL）を押す。**

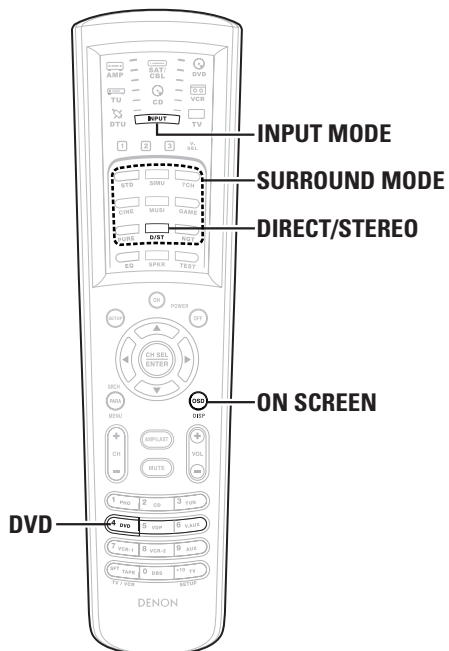
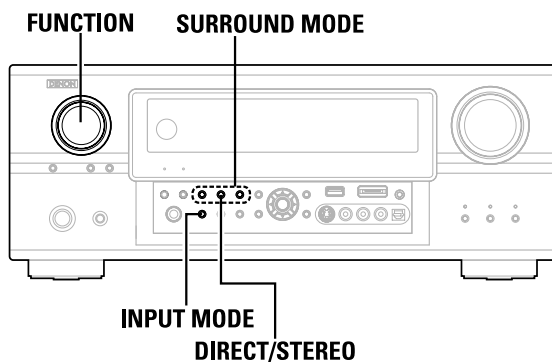
2 **SETUP ボタンを3秒以上押す。**
- IRセグメントが2回点滅します。

3 **9、8、4 ボタン（9→8→4）を押す。**
- IRセグメントが2回点滅します。

4 **SETUP ボタンを3秒以上押す。**
- IRセグメントが2回点滅します。

全設定の初期化

1 **SETUP ボタンを3秒以上押す。**
- IRセグメントが2回点滅します。

2 **9、8、1 ボタン（9→8→1）を押す。**
- IRセグメントが4回点滅します。
- すべての設定が初期化され、工場出荷時と同じ状態になります。

《応用操作のしかた》

その他の操作のしかたおよび機能について

スーパーオーディオCDの再生のしかた

1 **システムセットアップの「デジタル入力の設定」（☞ 67ページ）でDENON　LINK（3rd）を割り当てた入力ソースを選ぶ。**

● DENON LINK表示（ DENON LINK ）が点灯します。

【例】DVD

（本体）

（リモコン）

2 **入力モードを“ AUTO ”に設定する。**

3 **再生モードを選ぶ。**

【例】DIRECT

（本体）

（リモコン）

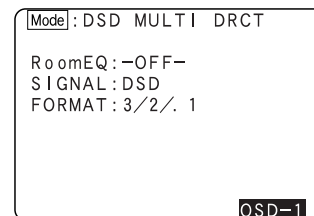
4 **DENON LINK接続機器の再生をはじめる。**

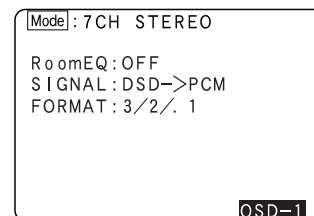
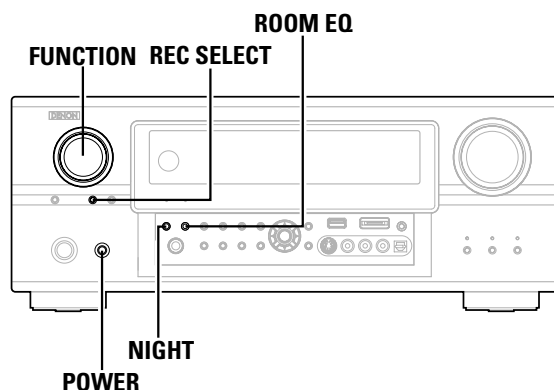
● DSD表示（ DSD ）が点灯します。

※ 操作のしかたは、再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

※ DSD　2チャンネル信号をDIRECTモードで再生する場合には、“ DSD DIRECT ”とディスプレイに表示されます。DSDマルチチャンネル信号をDIRECTモード（SB　CH OUT=OFF）で再生する場合には、“ DSD　MULTI DIRECT ”とディスプレイに表示されます。

DSD信号をDIRECTやPURE　DIRECTモードで再生する場合は、DSD信号のままアナログ変換されます。それ以外のサラウンドモードで再生する場合には、DSD信号は一度PCM変換されてからアナログ変換されます。
リモコンの **ON SCREEN** ボタンを押すことにより、入力信号および再生状態が確認できます。

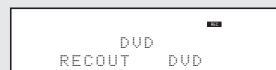
【例】DSDマルチチャンネル信号をDIRECTモードで再生した場合

【例】DSDマルチチャンネル信号を7CH　STEREOモードで再生した場合

Mode:7CH STEREO
RoomEQ:OFF
SIGNAL:DSD−>PCM
FORMAT:3/2/.1
OSD−1

録音/録画のしかた（REC OUTモード）

1 REC SELECT ボタンを押し、ディスプレイに“RECOUT SOURCE”を表示させる。

2 FUNCTION つまみを回し、録音/録画したいファンクションにする。

● REC OUT表示（REC）が点灯します。

DVD
RECOUT DVD

3 録音/録画状態にする。

※ 操作のしかたは、録音または録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

メモ

- 解除する場合は **REC SELECT** ボタンを押し、ディスプレイに“SOURCE”が表示されるまで **FUNCTION** つまみを回してください。
- デジタル入力端子（Optical/Coaxial）から入力されたデジタル信号がPCM信号の場合のみ、アナログREC OUT端子から出力することができます。
- 「デジタル入力の設定」（67ページ）でDENON LINKを割り当てている場合は、デジタル入力端子から出力されたPCM信号、Network Audio信号（インターネットラジオ、ミュージックサーバー、USB）をアナログREC OUT端子から出力することができません。
- “Network Audio信号（インターネットラジオ、ミュージックサーバー、USB）は、OPTICAL 3 OUTおよびOPTICAL 4 OUTから出力することができません。

ラストファンクションメモリーについて

- 本機には電源を切る直前の各種ボタンの設定状態を記憶するラストファンクションメモリー機能を備えています。電源を入れると、電源を切る直前の入出力状態が呼び出されますので、再度設定し直す必要はありません。
- 本機にはバックアップメモリー機能を備えています。これにより電源を切ったとき、および電源コードを抜いた場合でも各種ボタンの設定状態をバックアップして約1週間保持することができます。

マイコンを初期化する

本体のディスプレイ表示が正常でない場合や本体またはリモコンのボタンが操作できない場合は、下記の操作でマイコンの初期化をおこなってください。

1 POWER スイッチを“OFF”にする。

2 NIGHT ボタンと ROOM EQ ボタンを同時に押しながら、POWER スイッチを“ON”にする。

3 ディスプレイ表示が約1秒間隔で点滅するのを確認後、2つのボタンから指を離す。

● マイコンが初期化されます。

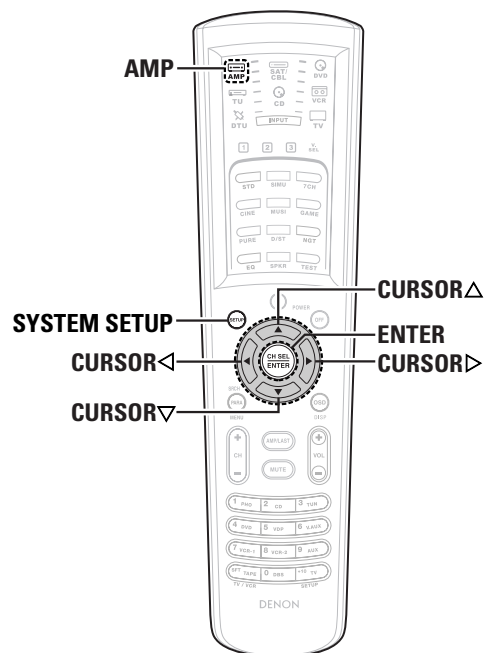
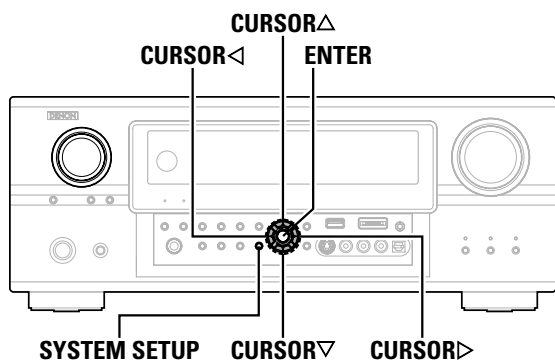
メモ

- 操作3の状態にならない場合は、もう一度操作1からやり直してください。
- マイコンの初期化をおこなった場合は、各種ボタンの設定状態がすべて工場出荷時の初期設定に戻ります。

より詳細なセットアップのしかた１

リスニング環境を満足させるために、いろいろな設定を希望に合わせておこなってください。
本製品のシステムメニューの内容と初期設定については、89～91ページを参照してください。

システムセットアップメニューの進めかた

本体とリモコンのボタンを使用して、設定を変えることができます。

1 **AMP　ボタンを押してAMPモードを選び、SYSTEM SETUP ボタンを押す。**
- "System Setup Menu"（トップメニュー）が表示されます。

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押してトップメニューから項目を選び、ENTER ボタンを押す。**

3 **CURSOR △ ▽ ボタンを押してセカンドメニューから項目を選び、ENTER ボタンを押す。**

4 **設定を変更するとき：**
CURSOR △ ▽ ボタンを押して変更したい項目を選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して設定を変更する。

5 **ENTER ボタンを押して確定する。**

6 **SYSTEM SETUP ボタンを押して、"System Setup Menu" またはメイン画面に戻る。**

【オンスクリーンディスプレイ】　　【ディスプレイ】

2

System Setup Menu
1. Auto Setup/Room EQ
2. Speaker Setup
☞3. Audio Input Setup
4. Video Setup
5. Advanced Playback
6. Option Setup
7. Network Setup
Exit

3
*System Setup
Audio In Setup

3

3. Audio Input Setup
☞1. Digital In Assign
2. EXT. IN Setup
3. iPod Assign
4. Input Function Lev.
5. Function Rename
Exit

3.1
*Audio In Setup
Digital In

4

3−1. Digital In Assign
☞CD : ◀COAX1▶　Tape : OPT4
DVD : COAX2　V.Aux : OPT5
VDP : OPT1　Tuner : OFF
TV : OFF
DBS : OPT2
VCR-1 : OPT3
VCR-2 : OFF
Default Yes◀

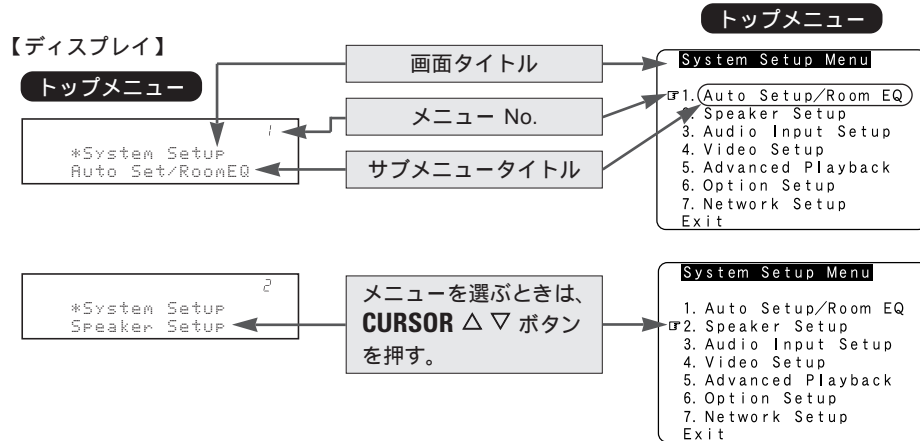
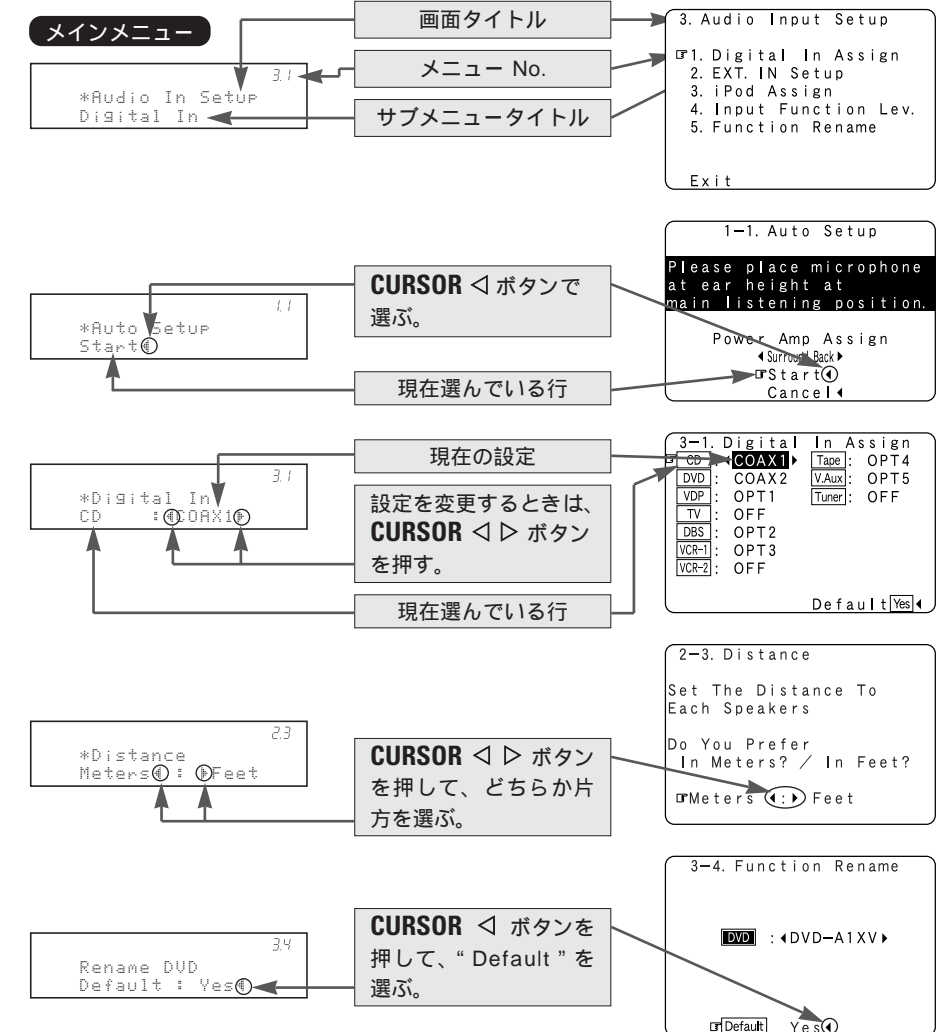
3.1
*Digital In
CD :◀COAX1▶

6

System Setup Menu
1. Auto Setup/Room EQ
2. Speaker Setup
3. Audio Input Setup
4. Video Setup
5. Advanced Playback
6. Option Setup
7. Network Setup
☞Exit

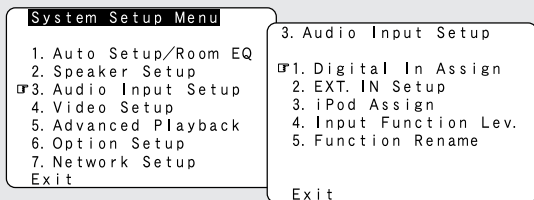
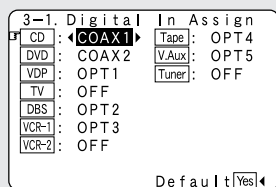
0
*System Setup
Exit

オンスクリーンディスプレイとディスプレイ表示について

本機には、分かりやすいオンスクリーンディスプレイ機能を搭載しています。また、本体には設定内容を確認できるディスプレイも装備しています。
各種セットアップや操作のときにこれらのディスプレイ表示機能をお使いください。
いくつかの代表的なオンスクリーンディスプレイとディスプレイの表示例を下記に示します。

音声入力に関する設定

デジタル入力の設定

本機のデジタル入力端子を入力ソースに対して割り当てます。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して " System Setup Menu " から " Audio Input Setup " を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR △ ▽ボタンを押して " Digital In Assign " を選び、ENTER ボタンを押す。**

3 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して入力ソースを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押してデジタル入力端子を選ぶ。**

※ COAX1、2およびOPT1〜5より選んでください。

※ 「HDMI入力の設定」（☞ 69、70ページ）でHDMI入力を入力ソースに割り当てた場合、HDMI入力端子が表示されます。

※ Default " Yes " を選び、**CURSOR** ◁ ボタンを押すと工場出荷時の初期設定（☞ 89〜91ページ）に戻ります。

4 **ENTER ボタンを押す。**

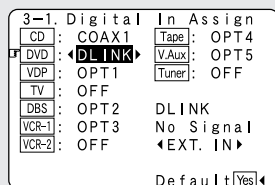
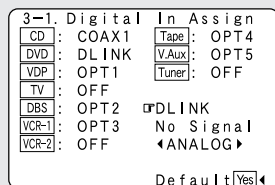
●" Audio Input Setup " メニューに戻ります。

メモ

- 本機リアパネルのOPTICAL3および4入力端子はCDレコーダーまたはMDレコーダーなどのデジタル録音機器用に光デジタル出力端子を備えていますので、デジタル録音の際にご利用ください。
- PHONOはデジタル入力の設定では選択できません。
- DENON LINKを割り当てている場合はデジタル入力端子（Optical/Coaxial）から入力されたPCM信号およびNetwork Audio信号（インターネットラジオ、ミュージックサーバー、USB）をアナログREC OUT端子から出力することはできません。
- " iPod Assign " で割り当てているファンクションには、デジタル入力の設定をすることができません。

■ DENON LINKの設定

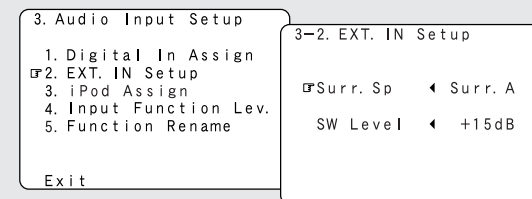
DENON製DVDプレーヤーとDENON LINK接続した場合は、入力ソースにDENON LINK端子を割り当てる必要があります。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して入力ソースを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して " DLINK " を選ぶ。**

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して " DLINK " を選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して入力端子（EXT. INまたはアナログ端子）を選ぶ。**

※ DENON LINK再生できないソースの場合は、設定した入力端子で自動的に再生します。

《より詳細なセットアップのしかた１》

外部入力（EXT. IN）端子の設定

EXT.IN端子に接続されたアナログ入力信号の再生方法を設定します。（☞ 26ページ）

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して" EXT. IN Setup " を選び、ENTERボタンを押す。**

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して設定したい項目を選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押してパラメーターを選ぶ。**

Surr. Sp：
EXT. INモードで使用したいサラウンドスピーカーをあらかじめ設定します。使用するプレーヤーのサラウンドチャンネルの仕様に合わせて選びます。プレーヤーの取扱説明書も合わせてご覧ください。

- **A**
  サラウンドAチャンネルに接続する場合に選びます。
- **B**
  サラウンドBチャンネルに接続する場合に選びます。
- **A+B**
  サラウンドA、Bチャンネル両方に接続する場合に選びます。

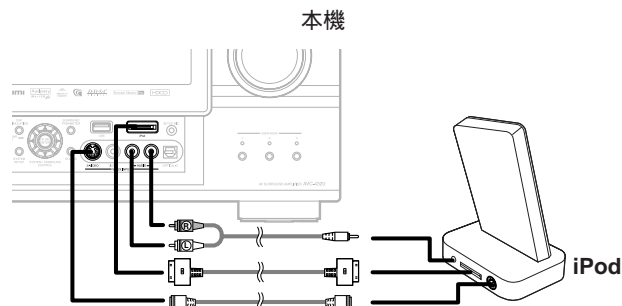
SW Level：
EXT.IN端子のサブウーハーに接続されたアナログ信号の再生レベルを設定します。
使用するプレーヤーの仕様に合わせて選びます。プレーヤーの取扱説明書も合わせてご覧ください。
初期設定の " +15dB " を推奨します。（0、+5、+10、+15dBが選択可能です。）

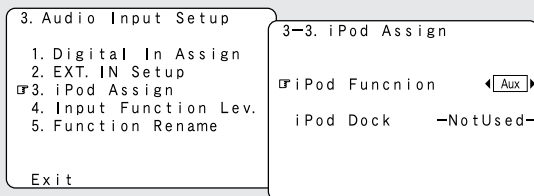
3 **ENTER ボタンを押す。**

●" Audio Input Setup " メニューに戻ります。

iPodの入力の設定

iPodをiPod Dockを経由して接続する場合、iPod Dockからのオーディオおよびビデオ信号を、本機の任意の入力端子に割り当てて再生することができます。
この方法では次のiPod Dockを使用することができます。

- iPod Dock M9868G/A（iPod with color display用）
- iPod Dock MA072G/A（iPod nano用）

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“Audio Input Setup”の“iPod Assign”を選択し、ENTER ボタンを押す。**

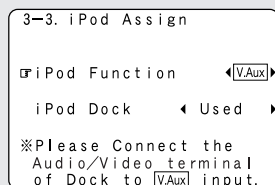
- iPod Assignメニューが表示されます。

2 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して割り当てたい入力ファンクションを選び、ENTER ボタンを押す。**

AUX：
工場出荷時はこの状態になっています。この場合、iPod Dockを使用して接続することはできません。

CD、CDR/TAPE、TUNER：
割り当てたファンクションの音声入力端子と接続することができます。

DVD、VDP、DBS、TV、VCR-1、VCR-2、V.AUX：
割り当てたファンクションの音声入力端子および映像入力端子と接続することができます。

3 **CURSOR ▽ ボタンを押して“iPod Dock”を選び、CURSOR △ ▽ ボタンを押して“Not Used”または“Used”選んで ENTER ボタンを押す。**

【例】“iPod Function”で“V.Aux”を選択し、“iPod Dock”は“Used”に設定した場合

NotUsed：
iPod Dockを使用しません。iPodケーブルを直接iPodに接続する場合に設定します。
工場出荷時は、この状態に設定されています。

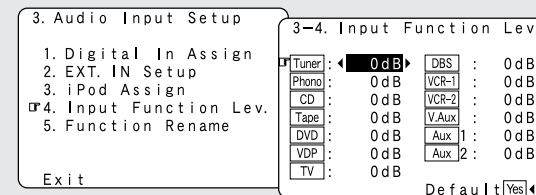
Used：
iPod Dockを使用します。iPod Functionにて設定したファンクションのオーディオ/ビデオ入力端子に、iPod Dockのオーディオ/ビデオ出力端子を接続してください。

メモ

- “iPod Function”を“AUX”に設定した場合、リモコンの **AUX** ボタンを押すたびに、“AUX/Net”と“AUX/iPod”が切り替わります。
- iPod Assignで他のファンクションに割り当て、“iPod Dock”の設定を“NotUsed”にすると、割り当てたファンクションのリモコンコードでのダイレクト選択が可能になります。

入力ソース間の再生レベルの補正

- 入力ソース間の再生レベルを補正します。
- 各入力ソースに接続している機器ごとに再生レベルが異なる場合、入力ソースの再生レベルが同じになるように補正することによって、入力ソースを切り替えるたびに音量を微調整する必要がなくなります。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“Input Function Lev.”を選び、ENTER ボタンを押す。**

※“AUX1”は“AUX/Netで、“AUX2”は“AUX/iPod”の設定です。

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して入力ソースを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して補正レベルを調整する。**

※ 音量は、−12dB〜＋12dBの範囲で、1dB単位で調整できます。
※ Default“Yes”を選び、**CURSOR** ◁ ボタンを押すと工場出荷時の初期設定（☞ 89〜91ページ）に戻ります。

3 **ENTER ボタンを押す。**

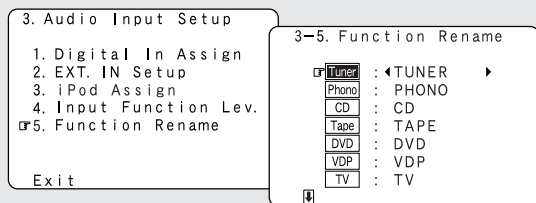
- “Audio Input Setup”メニューに戻ります。

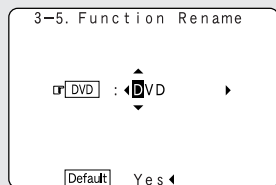
メモ

- 設定後は、各入力ソース間の再生レベルが同じになっているかを確認してください。

入力ソース名の変更

フロントディスプレイやオンスクリーンディスプレイに表示される入力ソース名を変更することができます。
各入力ソースに接続された機器名やメーカー名などを入力することができます。

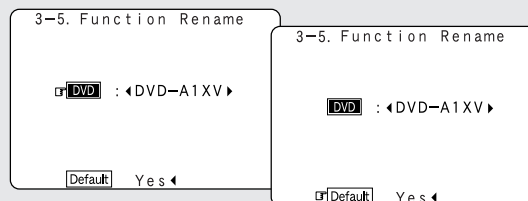
1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Function Rename " を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して名前を変更したい入力ソースを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して文字入力画面に切り替える。**

【例】 " DVD " を選んで **CURSOR** ◁ ▷ ボタンを押したとき

3 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して文字を入力する位置にカーソル（■）を移動させ、CURSOR △ ▽ ボタンを押して入力する文字を選ぶ。**

※ 最大8文字まで入力できます。
下記の文字が入力できます。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
! " # % & ' ( ) ＊ + , – . / : ; < = > ? @ [\ ] (スペース)

4 **操作3を繰り返してソース名を入力する。**

※ 入力ソース名を初期状態に戻したい場合は、**CURSOR** ◁ ▷ ボタンを押して入力ソースを反転表示させ、**CURSOR** ▽ ボタンを押してください。
Default " Yes " を選び、**CURSOR** ◁ ボタンを押すと初期の入力ソース名に戻ります。

5 **ソース名が決定したら ENTER ボタンを押す。**
● " Function Rename " 画面に戻ります。

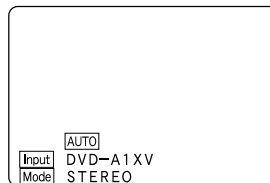
※ その他の入力ソース名の変更も同じようにおこなってください。

6 **ENTER ボタンを押す。**
● " Audio Input Setup " メニューに戻ります。

メモ

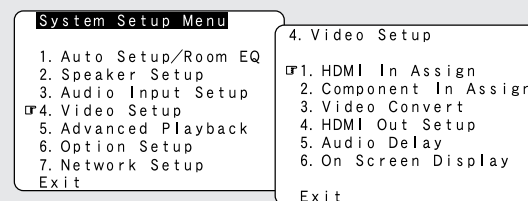
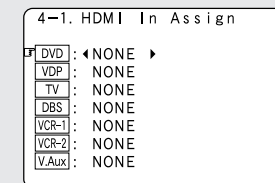
● 入力ソースが選択されたときに、フロントディスプレイおよびオンスクリーンディスプレイは下記のように表示されます。

【例】入力ソース名を " DVD-A1XV " に変更したとき

《より詳細なセットアップのしかた１》

映像に関する設定

HDMI入力の設定

● 本機のHDMI入力端子を各入力ソースに対して割り当てます。
● HDMI入力信号に含まれる音声信号の再生方法を設定します。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して " System Setup Menu " から " Video Setup " を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して" HDMI In Assign " を選び、ENTER ボタンを押す。**

3 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して入力ソースを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して入力端子を選ぶ。**

※ HDMI1〜3より選んでください。

4 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Audio ”を選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して音声信号の出力先を選ぶ。

```
4−1. HDMI  In Assign

DVD  : HDMI1
VDP  : HDMI2    HDMI
TV   : HDMI3   ☞Audio: ◀AMP  ▶
DBS  : NONE      No Signal
VCR-1: NONE      1: EXT. IN
VCR-2: NONE      2: ANALOG
V.Aux: NONE      3: ANALOG
```

AMP：
本機に接続されたスピーカーシステムで音声信号を再生します。

TV：
本機のモニターアウト端子に接続されたモニターTVで音声信号を再生します。

5 入力信号に音声信号が含まれていないとき：CURSOR △ ▽ ボタンを押して再生入力ソースを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して入力信号（“ ANALOG ”または“ EXT. IN ”）を選ぶ。

※ 選択された音声入力信号を設定された出力先に出力します。
※ 1〜3はそれぞれHDMI1〜3入力端子に対応しています。

```
4−1. HDMI  In Assign

DVD  : HDMI1
VDP  : HDMI2    HDMI
TV   : HDMI3     Audio: ◀AMP  ▶
DBS  : NONE      No Signal
VCR-1: NONE     ☞1: ◀EXT. IN▶
VCR-2: NONE      2: ANALOG
V.Aux: NONE      3: ANALOG
```

6 ENTER ボタンを押す。

●“ Video Setup ”メニューに戻ります。

メモ

- HDMIケーブルで本機とモニター間を接続してもモニターがHDMI音声の再生に対応していない場合には、本機からは映像信号だけがモニターに対して出力されます。
  HDMI信号の出力モード（HDMI/DVI）は **STATUS** ボタンで確認することができます。
- アナログ端子、デジタル端子および外部入力端子から入力された音声信号はTVに出力されません。
- HDMIでは映像と音声信号が同時に転送されます。HDMIを入力ソースに割り当てると、映像とともにデジタル音声入力の割り当てもHDMIに切り替わります。DENON LINKやOPTICALなどのデジタル音声入力をあらかじめ割り当てた入力ソースに対して後から本設定をおこなった場合は、デジタル音声の割り当てが“ HDMI ”になります。この場合は、「デジタル入力の設定」（☞ 67ページ）にてご使用になるデジタル入力を再度割り当ててください。
- “ iPod Assign ”で割り当てをおこなっているファンクションには、HDMI入力の設定をすることができません。

コンポーネント（D端子、Y・PB/CB・PR/CR）ビデオ入力の設定

入力ソースに対して本機のコンポーネントビデオ入力端子を割り当てます。

1 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Component In Assign ”を選び、ENTER ボタンを押す。

2 CURSOR △ ▽ ボタンを押して入力ソースを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押してコンポーネントビデオ入力端子を選ぶ。

※ 1-D/RCA、2-RCA、3-D/RCAより選んでください。
※ Default“ Yes ”を選び、**CURSOR** ◁ ボタンを押すと工場出荷時の初期設定（☞ 89〜91ページ）に戻ります。

3 ENTER ボタンを押す。

●“ Video Setup ”メニューに戻ります。

ご注意

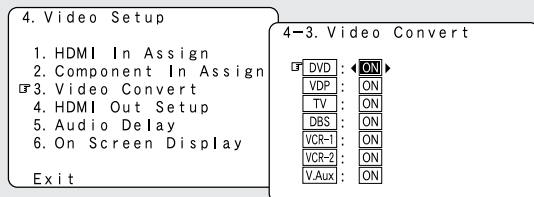
コンポーネントビデオ入力端子1、3および出力端子1は、コンポーネントビデオ端子（ピンジャック）とD5端子を同時に接続することはできません。

メモ

- コンポーネントビデオ入力端子に入力される信号は、コンポーネントビデオモニターアウト端子の1（D5端子またはピンジャック端子）および2（ピンジャック端子）より同時に出力されます。
- コンポーネントビデオ入出力端子は、お手持ちの機器に合わせて接続してください。
- “ iPod Assign ”で割り当てをおこなっているファンクションには、コンポーネントビデオ入力の設定をすることができません。

ビデオコンバートの設定

ビデオコンバージョン機能を使用するかどうかを設定します。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Video Convert ”を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して入力ソースを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して“ ON ”または“ OFF ”を選ぶ。**

ON:
ビデオコンバージョン機能が動作します。
複数の入力信号がある場合に、入力信号を検出して“ コンポーネント ”、“ Sビデオ ”、“ ビデオ ”の中から自動的にモニターアウト端子に出力する入力信号を選びます。

OFF:
ビデオコンバージョン機能は動作しません。
ビデオ入力信号はビデオモニターアウト端子にのみ出力されます。
Sビデオ入力信号はSビデオモニターアウト端子にのみ出力されます。
コンポーネントビデオ入力信号はコンポーネントビデオモニターアウト端子にのみ出力されます。

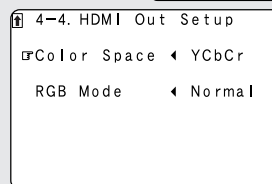
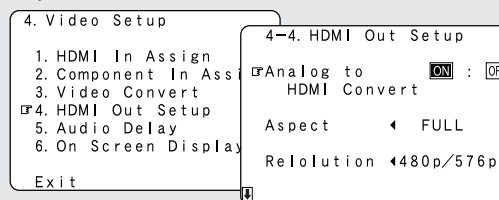
3 **ENTER ボタンを押す。**
●“ Video Setup ”メニューに戻ります。

メモ

- 入力されたコンポーネントビデオ信号の解像度が480i/576i以外のときは、コンポーネントビデオ信号からSおよびビデオ信号へのダウンコンバートはできませんので、コンポーネントビデオモニターアウト端子を使用しない場合は、Sまたはビデオ入力端子で再生機器と接続してください。詳しくは「ビデオコンバージョン機能について」（☞ 24ページ）をご覧ください。
- ゲーム機などの非標準ビデオ信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。
このようなときはコンバートモードを“ OFF ”に設定してください。
- ビデオコンバージョン機能を使用した場合、映像信号に付加される文字放送などの情報が出力されない場合があります。このようなときはコンバートモードを“ OFF ”に設定してください。

HDMIコンバート出力の設定

- アナログビデオ信号からHDMIへのアップコンバージョン機能を使用するかどうかを設定します。
- このコンバージョン機能を使用する場合のHDMI端子から出力される信号のカラー形式および映像レンジの設定をします。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ HDMI Out Setup ”を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して設定内容を選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して各パラメーターを選ぶ。**

Analog to HDMI Convert:
- **ON**
入力されているアナログビデオ信号をHDMIにアップコンバートします。
- **OFF**
アップコンバートをおこないません。

Aspect：
- **FULL**
ビデオ入力のアスペクト比を維持したまま映像を出力します。
このモードは16：9の映像を再生する場合に適しています。
- **NORMAL**
映像入力の左右に黒帯を追加して出力します。
このモードは4：3の映像を再生する場合に適しています。

Resolution：
- **480p/576p**
入力されているビデオ信号がコンポジット、Sビデオまたは480i/576iのコンポーネントビデオ信号である場合に、480p/576pに変換してHDMI モニターアウト端子に出力します。
- **1080i**
入力されているビデオ信号がコンポジット、Sビデオまたは480i/576i/480p/576pのコンポーネントビデオ信号である場合に、1080iに変換してHDMI モニターアウト端子に出力します。
- **720p**
入力されているビデオ信号がコンポジット、Sビデオまたは480i/576i/480p/576pのコンポーネントビデオ信号である場合に、720pに変換してHDMI モニターアウト端子に出力します。
- **Through**
入力されているビデオ信号の解像度のままHDMI モニターアウト端子に出力します。

Color Space：
- **Y Cb Cr**
色差形式の映像信号でHDMI モニターアウト端子から出力します。
- **RGB**
RGB形式の映像信号でHDMI モニターアウト端子から出力します。

RGB Mode Setup：

- **Normal**
  HDMIのデジタルRGB映像レンジ（データ範囲）を16（黒）〜235（白）で出力します。
- **Enhanced**
  HDMIのデジタルRGB映像レンジ（データ範囲）を0（黒）〜255（白）で出力します。
  HDMI接続時にご使用のTVやモニターによっては、黒色が浮くような場合があります。このような場合は本モードをご使用ください。

※ "Color Space" が "Y Cb Cr" 設定のときは "RGB Mode Setup" は効果がありません。
※ アスペクト比の設定は、解像度を1080iまたは720pに設定した場合に有効です。それ以外の解像度で出力する場合は、テレビ側でアスペクト比の設定をおこなってください。
※ 解像度 "Through" に設定した場合は、ビデオ、Sビデオおよびコンポーネントからの入力信号と同じ解像度で出力されます。OSDは480iの解像度で出力されますので、480iの解像度に対応しているモニターをご使用ください。

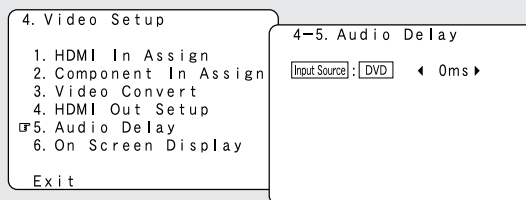
3 **ENTER ボタンを押す。**
●"Video Setup" メニューに戻ります。

メモ

- "Aspect"、"Resolution"、"Color Space" および "RGB Mode Setup" は "Analog to HDMI Convert" で "ON" を選んだ場合に設定可能です。
- HDMI/DVI-D変換ケーブルを使用してDVI-D端子付きモニター（HDCP対応）と接続する場合は、"Color Space" を "Y Cb Cr"、"RGB" のどちらに設定しても、RGB形式で出力されます。
- HDMI出力でシステムセットアップのオンスクリーンディスプレイをご覧になる場合は、"Analog to HDMI Convert" を "ON"（初期値）に設定してください。

オーディオディレイの調整

- DVDなどの映像ソフトを視聴しているときに、モニター画面の映像が音声に対して遅れていると感じる場合があります。このような場合にはオーディオディレイを調整し、音声を遅らせることで映像とのタイミングを合わせます。初期状態でデジタル入力がない場合は表示されません。
- オーディオディレイの設定値は現在選択されている入力ソースごとに記憶されます。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して "Audio Delay" を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、ディレイ時間（0ms〜200ms）を設定する。**

※ 映画ソースなどで俳優の口の動きと声の出るタイミングなどを見て調整します。

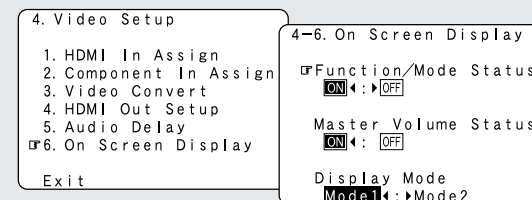
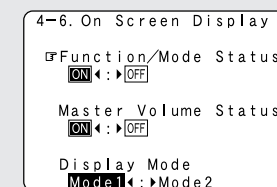
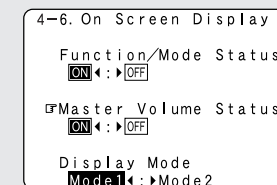
3 **ENTER ボタンを押す。**
●"Video Setup" メニューに戻ります。

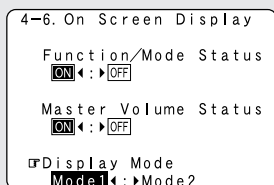
メモ

- コンポーネントビデオ信号に対して本設定をおこなう場合は、ディレイ時間を設定してオンスクリーン表示を "OFF" にした後、コンポーネント映像と音声のタイミングが合っているか確認してください。
- EXT. INモード時およびアナログ入力時のDIRECTモードとSTEREOモード（Front Sp.=Large、TONE DEFEAT=ON、Room EQ=OFF設定時）の再生中は、オーディオディレイは効きません。

オンスクリーンディスプレイ（OSD）の設定

メニュー画面以外のオンスクリーンディスプレイ表示の有無を設定します。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して "On Screen Display" を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **入力ソースを選んだときにオンスクリーンディスプレイを表示させる場合：**
CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、"ON" または "OFF" を選ぶ。

3 **主音量を操作したときにオンスクリーンディスプレイを表示させる場合：**
CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、"ON" または "OFF" を選ぶ。

4 CURSOR ▽ ボタンを押して“Display Mode”を選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、“Mode1”または“Mode2”を選ぶ。

4−6. On Screen Display
Function/Mode Status
ON ◂ : ▸ OFF
Master Volume Status
ON ◂ : ▸ OFF
☞Display Mode
Mode1 ◂ : ▸ Mode2

Mode1：
ちらつきの防止はおこないません。

Mode2：
映像信号がないとき、オンスクリーンディスプレイのちらつきを防止します。
ご使用になるTVの組み合わせにより、Mode1にてオンスクリーンディスプレイが表示されない場合は本モードをご使用ください。

5 ENTER ボタンを押す。

● “Video Setup”メニューに戻ります。

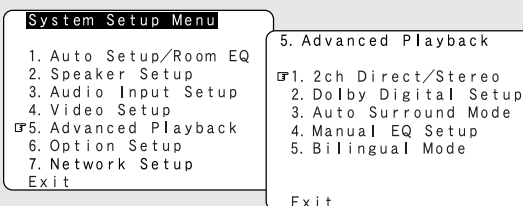
6 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“Exit”を選び、ENTER ボタンを押す。

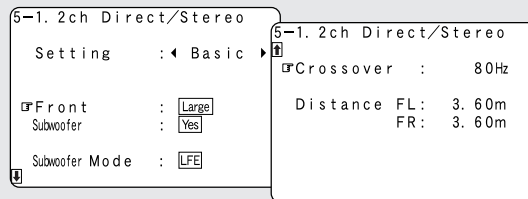
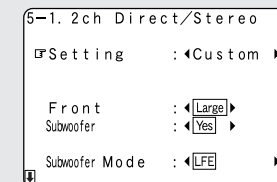
● “System Setup Menu”に戻ります。

音声再生に関する設定

2チャンネルのダイレクトモードおよびステレオモードの設定

2チャンネルのダイレクトモードおよびステレオモードでのスピーカーの設定を変更する場合に設定します。

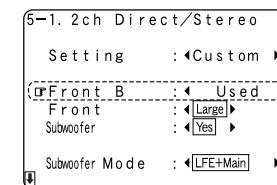
1 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“System Setup Menu”から“Advanced Playback”を選び、ENTER ボタンを押す。

2 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“2ch Direct/Stereo”を選び、ENTER ボタンを押す。

【例】「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 81ページ）、「サブウーハーモードの設定」（☞ 82ページ）、「スピーカーの距離の設定」（☞ 83ページ）、「クロスオーバー周波数の設定」（☞ 85ページ）での設定内容が表示されます。

3 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“Setting”を選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、“Custom”を選ぶ。

4 CURSOR △ ▽ ボタンを押して設定内容を選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押してパラメーターを選ぶ。

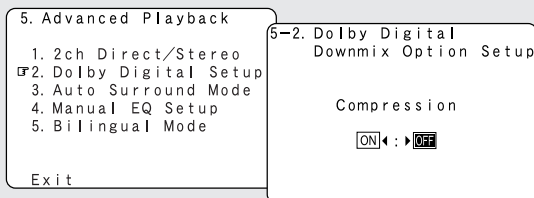
5 ENTER ボタンを押す。

● “Advanced Playback”メニューに戻ります。

■ フロントBスピーカーの設定について

- 「パワーアンプの割り当ての変更」（☞ 76、77ページ）でパワーアンプをフロントBに割り当てた後、本設定の“Setting”で“Custom”を選んだ場合に“Front B”を選ぶことができます。
- 2チャンネルのダイレクトモードおよびステレオモードで再生するときに、フロントBスピーカーをご使用になる場合は“Front B”を“Used”にしてください。

ドルビーデジタルダウンミックスの設定

センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを使用しない場合のダウンミックス方法を設定します。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Dolby Digital Setup ”を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、“ ON ”または“ OFF ”を選ぶ。**

ON：
ダイナミックレンジの圧縮をおこないます。
聴取される平均音量レベルが大きい場合に、フロントスピーカーの再生音がピークレベルで歪んで聞こえるときに選びます。

OFF：
ダイナミックレンジの圧縮をおこないません。
（通常はこのモードでご使用ください。）

※ センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを使用しない場合、再生音はフロントスピーカーから出力されます。

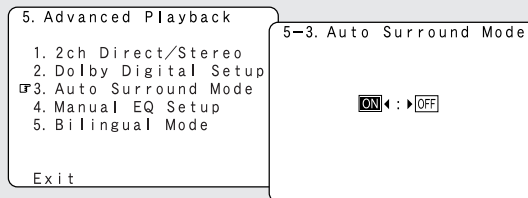
3 **ENTER ボタンを押す。**
●“ Advanced Playback ”メニューに戻ります。

オートサラウンドモードの設定

下記の4種類の入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶し、次に同じ信号が入力された場合には記憶したサラウンドモードで自動的に再生します。
なお、サラウンドモードは各入力ソースに対しても個別に記憶されます。

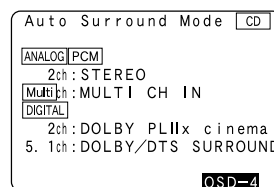
① アナログおよびPCMの2チャンネル信号（STEREO）
② ドルビーデジタルやDTSまたは他のマルチチャンネル信号などの2チャンネル信号（DOLBY PLⅡx Cinema）
③ ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネル信号（DOLBY / DTS SURROUND）
④ ドルビーデジタルやDTS以外のPCMおよびDSDのマルチチャンネル信号（MULTI CH IN）

※ （ ）内は初期設定。
※ ピュアダイレクトモードで再生中は入力信号が変化してもサラウンドモードは変わりません。

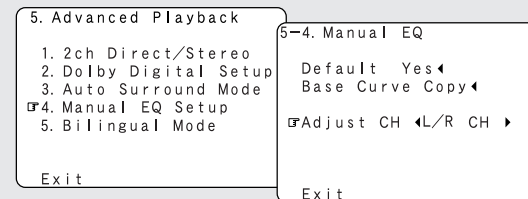
1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Auto Surround Mode ”を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、“ ON ”または“ OFF ”を選ぶ。**

3 **ENTER ボタンを押す。**
●“ Advanced Playback ”メニューに戻ります。

メモ

● オートサラウンドモードの記憶した内容は、オンスクリーン画面上で確認することができます。**ON SCREEN** ボタンを押してください。

マニュアルイコライザーの設定

オートセットアップのRoom EQとは別に、グラフィックイコライザーを使用して音楽などを聞きながら、サブウーハーを除く各スピーカーの音色を手動で合わせることができます。

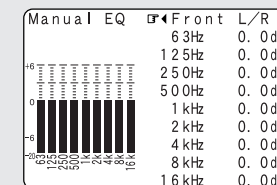
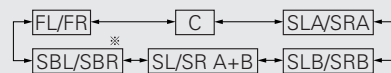
1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Manual EQ Setup ”を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、“ Adjust CH ”を選び、ENTER ボタンを押す。**

All CH：
すべてのチャンネルに対して同時にイコライザーを調整します。

L/R CH：
ペアで使用されるスピーカーのL/Rチャンネルごと同時にイコライザーを調整します。

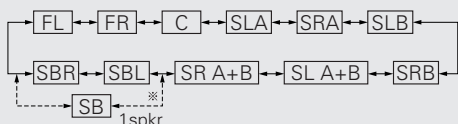
Each CH：
各チャンネルごとに個別にイコライザーを調整します。

3 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して、音色を調整するスピーカーを選ぶ。**

【例】“ L/R CH ”を選んだ場合

※ 下記の順序で表示が切り替ります。

① " L/R CH " を選んだ場合

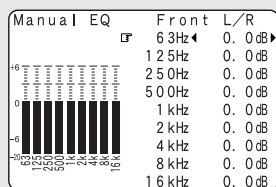
FL/FR → C → SLA/SRA → SLB/SRB → SL/SR A+B → SBL/SBR ※ → FL/FR

② " Each CH " を選んだ場合

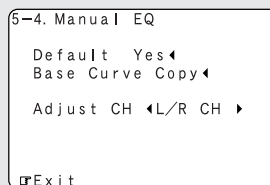
FL → FR → C → SLA → SRA → SLB → SRB → SL A+B → SR A+B → SBL → SBR → FL
（SB ※ 1spkr）

※「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 81ページ）でサラウンドバックスピーカーを " 1spkr " に設定した場合は " SB " となります。

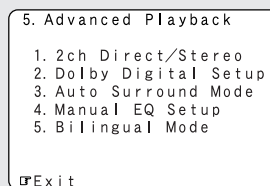
③ " ALL CH " を選んだ場合
スピーカーの選択はおこなわれません。

4 CURSOR △ ▽ ボタンを押して周波数を選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して調整する。

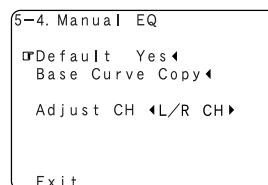
※ 各周波数のレベルは－20dB〜＋6dBの範囲で0.5dB単位で調整できます。

5 ENTER ボタンを押して、設定を確定する。

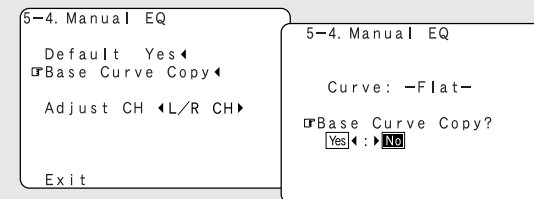
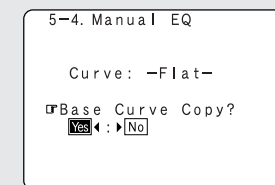
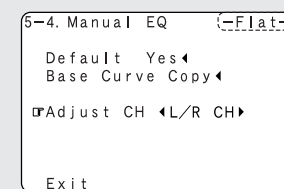
6 CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Exit " を選び、ENTER ボタンを押す。

```
5−4. Manual EQ

 Default  Yes◀
 Base Curve Copy◀

 Adjust CH ◀L/R CH ▶

☞Exit
```

7 CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Exit " を選び、ENTER ボタンを押す。

● " System Setup Menu " に戻ります。

 メモ

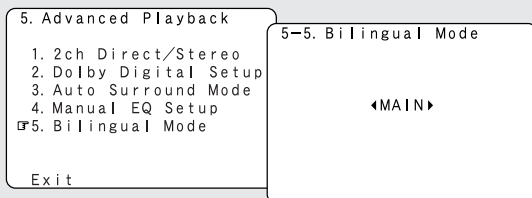
● " Base Curve Copy " は、オートセットアップを実行している場合に表示されます。
● Default " Yes " を選び、**CURSOR** ◁ ボタンを押すと初期設定値に戻ります。

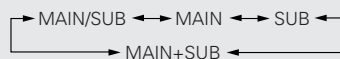
《より詳細なセットアップのしかた１》

■ オートセットアップで設定されたRoom EQの " Flat " の補正カーブをグラフィックイコライザーにコピーして手動調整する方法

1 CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Base Curve Copy " を選び、CURSOR ◁ ボタンを押す。

2 CURSOR ◁ ボタンを押して、" Yes " を選ぶ。

3 ENTER ボタンを押す。

※ コピーされた補正カーブの種類が画面の右上に表示されます。

バイリンガルモードの設定

AACソースおよびドルビーデジタルソースの二重音声の出力内容を設定します。

1 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Bilingual Mode ”を選び、ENTER ボタンを押す。

2 CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、音声出力モードを選ぶ。

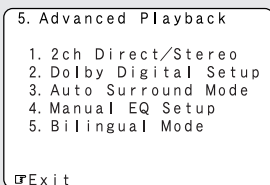
※ ボタンを押すたびに下記の順序で表示が切り替わります。

MAIN：
MAIN（主）音声のみ出力されます。

SUB：
SUB（副）音声のみ出力されます。

MAIN/SUB：
MAIN（主）音声は左チャンネルから、SUB（副）音声は右チャンネルから出力されます。

MAIN＋SUB：
MAIN（主）音声とSUB（副）音声がミックスされて出力されます。

3 ENTER ボタンを押す。

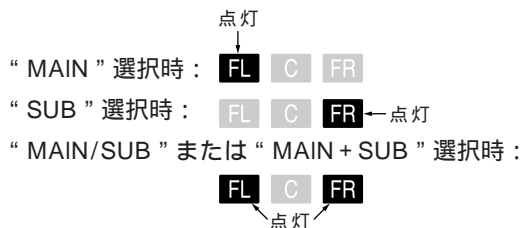
```
5. Advanced Playback

 1. 2ch Direct/Stereo
 2. Dolby Digital Setup
 3. Auto Surround Mode
 4. Manual EQ Setup
 5. Bilingual Mode

☞Exit
```

4 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Exit ”を選び、ENTER ボタンを押す。

- “ System Setup Menu ”に戻ります。

メモ

- バイリンガルモードは、AACソースおよびドルビーデジタルソースで、二重音声の情報がある場合のみ有効となります。二重音声の情報がないAACソース、ドルビーデジタル、DTS、PCMおよびアナログソースに対しては、切り替えても無効です。
- 二重音声の情報があるソースを録音する場合はプレーヤーまたはチューナー側で録音したい音声に切り替えてください。

■ AACソースまたはドルビーデジタルソースで二重音声の情報を検出した場合

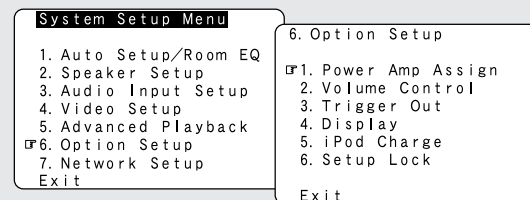
- “ MAIN ”選択時： FL C FR（FL 点灯）
- “ SUB ”選択時： FL C FR（FR 点灯）
- “ MAIN/SUB ”または“ MAIN＋SUB ”選択時： FL C FR（FL、FR 点灯）

※ DTSソースで二重音声を検出した場合は、バイリンガルモードの設定に関わらず、FL FR が点灯します。

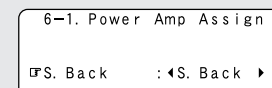
その他の設定のしかた

パワーアンプの割り当ての変更

本機のサラウンドバックのパワーアンプはフロントのバイアンプ再生用や2チャンネル再生専用（フロントB）に割り当てて使用することができます。

1 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ System Setup Menu ”から“ Option Setup ”を選び、ENTER ボタンを押す。

```
System Setup Menu

 1. Auto Setup/Room EQ
 2. Speaker Setup
 3. Audio Input Setup
 4. Video Setup
 5. Advanced Playback
☞6. Option Setup
 7. Network Setup
 Exit

6. Option Setup

☞1. Power Amp Assign
 2. Volume Control
 3. Trigger Out
 4. Display
 5. iPod Charge
 6. Setup Lock

 Exit
```

2 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Power Amp Assign ”を選び、ENTER ボタンを押す。

```
6−1. Power Amp Assign

☞S. Back     :◂S. Back ▸
```

3 CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、サラウンドバックのパワーアンプの割り当てを選ぶ。

S.Back：
サラウンドバックスピーカーの割り当てをおこなわずサラウンドバックスピーカーとして使用します。

Front：
フロントチャンネルをサラウンドバックスピーカーから出力して、バイアンプで再生することができます。

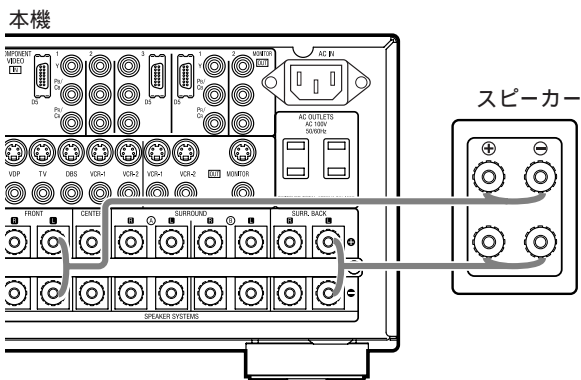
Front B：
サラウンドバックスピーカーをフロントＢスピーカーとして使用することができます。（☞ 73ページ）

※“ Front ”または“ FrontB ”を選んだ場合は、サラウンドバックの設定は自動的に“ None ”（無し）に固定されます。

《より詳細なセットアップのしかた１》

フロントスピーカーのバイアンプ接続について

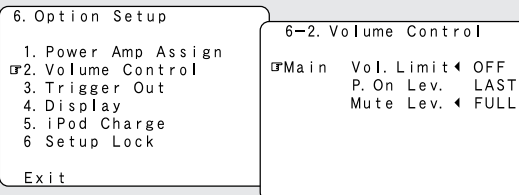
お手持ちのスピーカーがバイアンプ対応の場合、アンプ出力を高音用と低音用に振分け、それぞれスピーカーのツィーター端子とウーハー端子に接続します。
これによりスピーカーの特性を最大限に活かし、フルレンジのシステムに比べてレンジの広いダイナミックなサウンドを再生することができます。
接続の際にはスピーカーの取扱説明書も合わせてご覧ください。

本機

ご注意

バイアンプで接続するときは、スピーカーに付属されている短絡板は必ず外してください。

音量の設定

音量の上限値、電源ON時およびミューティング時の音量の設定をおこないます。

1 CURSOR △▽ ボタンを押して“ Volume Control ”を選び、ENTER ボタンを押す。

2 CURSOR △ ▽ ボタンを押して設定したい内容を選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押してパラメーターを選ぶ。

Vol. Limit：
音量の上限値を設定します。

- **OFF**
  音量の上限値を設定しないときに選びます。
  この場合は＋18dBまで音量を上げることができます。
- **−20dB / −10dB / 0dB**
  それぞれ設定されたレベルまで音量を上げることができます。

P. On Lev.：
電源ON時の音量を設定します。
音量は−80dB〜＋18dBの範囲で、1dB単位で設定できます。

- **LAST**
  前回使用していたときの音量が記憶され、電源ON時に設定されます。
- **- - -**
  電源ON時の音量のレベルは常時“ - - - ”（消音）となります。

Mute Lev.：
ミューティング時の音量の減衰量を設定します。

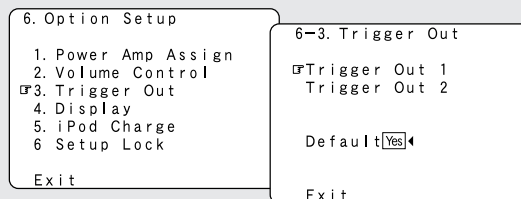
- **FULL**
  音声出力を完全にミュートします。
- **−20dB**
  現在の再生レベルから20dB減衰させて再生します。
- **−40dB**
  現在の再生レベルから40dB減衰させて再生します。

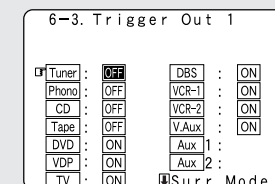
3 ENTER ボタンを押す。

●“ Option Setup ”メニューに戻ります。

トリガーアウトの設定

- 本機は2つのDC12Vトリガーアウト出力を備えており、トリガー入力端子を持つ外部機器をコントロールすることができます。
- 各入力ソースに対して、トリガーアウト端子から出力されるDC12VのON/OFFを設定します。

1 CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Trigger Out ”を選び、ENTER ボタンを押す。

2 CURSOR △ ▽ ボタンを押してトリガーアウト端子を選び、ENTER ボタンを押す。

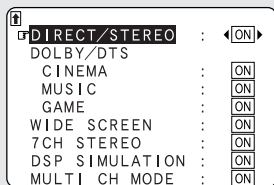
【例】トリガーアウト端子1を選んだ場合

※“ AUX1 ”は“ AUX/Net ”で、“ AUX2 ”は“ AUX/iPod ”の設定です。

3 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して入力ソースを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して“ ON ”または“ OFF ”を選ぶ。**

ON：
該当する入力ソースが選択されたときにトリガーアウトから出力される電源がONになります。

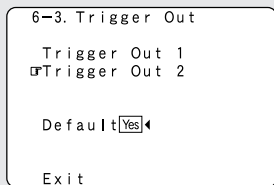
OFF：
該当する入力ソースが選択されたときにトリガーアウトから出力される電源がOFFになります。

4 **CURSOR △ ▽ ボタンを押してサラウンドモードを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、“ ON ”または“ OFF ”を選ぶ。**

```
☞DIRECT/STEREO    : ◂ON▸
 DOLBY/DTS
  CINEMA          :  ON
  MUSIC           :  ON
  GAME            :  ON
 WIDE SCREEN      :  ON
 7CH STEREO       :  ON
 DSP SIMULATION   :  ON
 MULTI CH MODE    :  ON
```

ON：
“ ON ”に設定された入力ソースが選ばれているときに該当するサラウンドモードを選んだ場合、トリガーアウトから出力される電源がONになります。

OFF：
該当するサラウンドモードが選ばれた場合、トリガーアウトから出力される電源がOFFになります。

5 **ENTER ボタンを押す。**

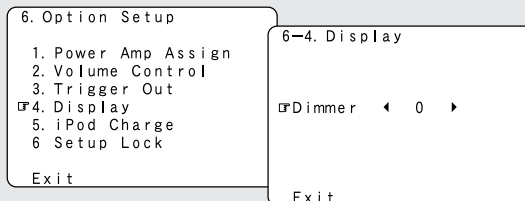
```
6−3. Trigger Out

  Trigger Out 1
☞Trigger Out 2


  Default Yes ◂


  Exit
```

※ トリガーアウト2の設定も同様におこなってください。

6 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Exit ”を選び、ENTER ボタンを押す。**
- “ Option Setup ” メニューに戻ります。

※ Default “ Yes ” を選び、**CURSOR** ◁ ボタンを押すと工場出荷時の初期設定（ ☞89〜91ページ）に戻ります。

ディスプレイの設定

本体ディスプレイの明るさを3段階で調節することができます。

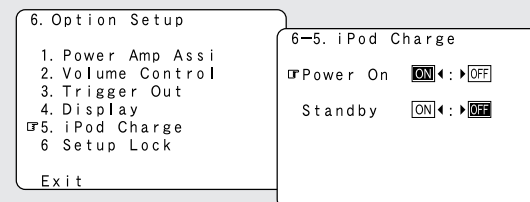
1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Option Setup ”の“ Display ”を選び、ENTER ボタンを押す。**
- Displayメニューが表示されます。

2 **CURSOR △ ▽ ボタンで選択し、CURSOR ◁ ▷ ボタンでパラメーターを選ぶ。**

0：通常（初期設定）
1：薄暗い
2：暗い
3 (Display Off)：消灯

3 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**
- “ Option Setup ” メニューに戻ります。

iPod の充電の設定

本機と、iPodを接続している状態にて、iPodを充電する事ができます。
また、本機の電源をSTANDBY状態にした場合にも充電させることが設定可能です。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Option Setup ”の“ iPod Charge ”を選び、ENTER ボタンを押す。**
- iPod Chargeメニューが表示されます。

2 **CURSOR △ ▽ ボタンで選択し、CURSOR ◁ ▷ ボタンでパラメーターを選ぶ。**

Power On：
本機の電源がPower On状態でiPodが接続された場合に、充電するかどうかを設定します。
- **ON（初期状態）：**充電します。
- **OFF:** 充電しません。

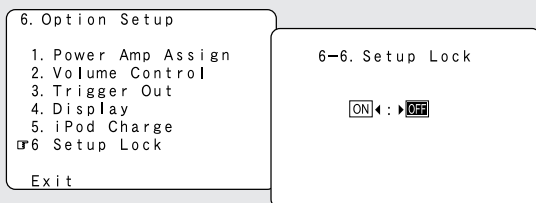
STANDBY：
本機がSTANDBY状態でiPodが接続された場合に、充電するかどうかを設定します。
- **ON:** 充電します。
- **OFF（初期状態）：**充電しません。

 メモ

- 本機とiPodの接続状態によっては、充電状態でオーディオまたはビデオ信号を再生したときに、再生信号が劣化する場合があります。その場合には、充電設定を“ OFF ”にしてご使用ください。

セットアップ内容の保護

システムセットアップで設定した内容を簡単に変更できないようにロックします。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Setup Lock ”を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR ◁ ボタンを押して“ ON ”を選び、ENTER ボタンを押す。**

メモ

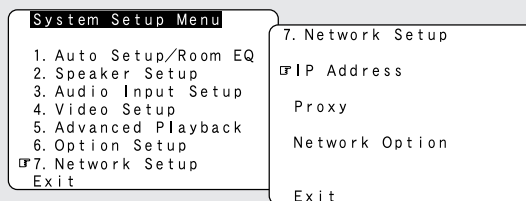
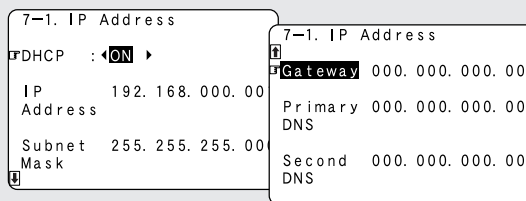
- “ Setup Lock ”を“ ON ”に設定すると下記設定が変更できなくなり、関連するボタンを操作すると“ SETUP LOCKED！ ”が表示されます。
  - システムセットアップの設定
  - サラウンドパラメーターの設定値
  - トーンコントロールの設定値
  - チャンネルレベルの設定値（テストトーンも含む）
  - Room EQ の設定
- 設定を解除する場合は、**SYSTEM SETUP** ボタンを押して再度“ Setup Lock ”画面を表示させ、“ OFF ”に設定し直してください。

ネットワークに関する設定（ネットワークセットアップ）

ブロードバンドルータ（DHCP機能）をお使いの方は、本機の初期設定でDHCP機能が“ ON ”になっていますので、IPアドレスとProxyの設定は必要ありません。
DHCP機能のないネットワークに本機を接続してお使いになるときには、ネットワークの設定をおこなう必要があります。この場合、ネットワークに関する知識が必要となります。

IP Address（IPアドレス）の設定

“ DHCP Settings ”で“ OFF ”を選択した場合に設定します。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ System Setup Menu ”の“ Network Setup ”を選び、ENTER ボタンを押す。**
- Network Setupメニューが表示されます。

2 **CURSOR △ ▽ ボタンで“ IP Address ”を選び、ENTER ボタンを押す。**
- IP Addressメニューが表示されます。

3 **CURSOR ◁ ▷ ボタンで“ OFF ”を選ぶ。**
- DHCP機能を無効にします。

4 **CURSOR △ ▽ ボタンを押してパラメーターを選び、CURSOR ▷ ボタンと CURSOR △ ▽ ボタンを押してアドレスを入力する。**

IP Address:
入力するIPアドレスは下記の範囲で設定してください。下記以外のIPアドレスではネットオーディオ機能を使用することができません。
CLASS A: 10.0.0.0 〜 10.255.255.255
CLASS B: 172.16.0.0 〜 172.31.255.255
CLASS C: 192.168.0.0 〜 192.168.255.255

Subnet Mask:
xDSLモデムやターミナルアダプタを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は255.255.255.0が入ります。

Gateway:
ゲートウェイ（ルータ）に接続している場合は、そのIPアドレスを入力します。

Primary / Secondary DNS:
プロバイダから書面などで通知されたDNSアドレスが1つの場合は、“ Primary DNS ”に入力してください。2つ以上の場合は、1つを“ Second DNS ”に入力してください。

5 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**
- “ IP Address ”メニューに戻ります。

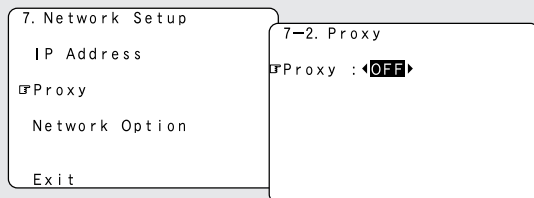
メモ

- DHCP
（ダイナミック ホスト コンフィグレーション プロトコル）：本機やパソコン、ブロードバンドルータのようなネットワーク機器に、自動的にIPアドレスなどのネットワーク設定をおこなう仕組みのこと。
- DNS（ドメインネームシステム）：
ホームページの閲覧時に使用する「www.denon.jp」のようなドメイン名を、実際の通信に使用するIPアドレス（「202.221.192.106」など）に置き換える仕組みのこと。

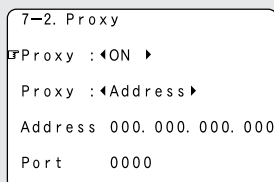
Proxy（プロキシ）の設定

インターネットにプロキシサーバーを経由して接続する場合に設定します。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Network Setup " の " Proxy " を選び、ENTER ボタンを押す。**

● Proxyメニューが表示されます。

2 **CURSOR ◁ ▷ ボタンで " ON " を選ぶ。**

● プロキシサーバーを有効にします。

```
7−2. Proxy
☞Proxy  :◀ON  ▶
 Proxy  :◀Address▶
 Address  000. 000. 000. 000
 Port     0000
```

3 **CURSOR △ ▽ ボタンを押してパラメーターを選び、CURSOR ▷ ボタンと CURSOR △ ▽ ボタンを押して文字または数字を入力する。**

Proxy:
プロキシサーバーのアドレスまたはドメイン名を入力します。

Port:
プロキシサーバーのポート番号を入力します。

4 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**

●" Network Setup " メニューに戻ります。

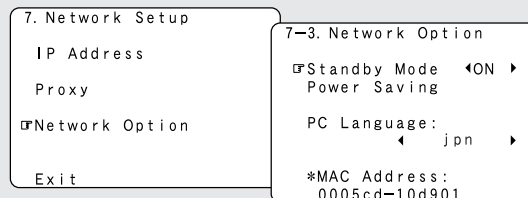
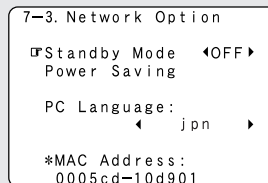
《より詳細なセットアップのしかた１》

その他のネットワークの設定

■ Power Savingの設定

ネットワークに接続してお使いにならない場合には、" ON " に設定することでスタンバイモード時の消費電力をおさえることができます。
ネットワークに接続してお使いになる場合には、" OFF " に設定してください。

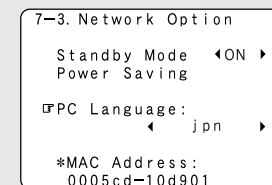
1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Network Setup " の " Network Option " を選び、ENTER ボタンを押す。**

● Network Setupメニューが表示されます。

2 **CURSOR ◁ ▷ ボタンで " ON " または " OFF " を選ぶ。**

3 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**

●" Network Setup " メニューに戻ります。

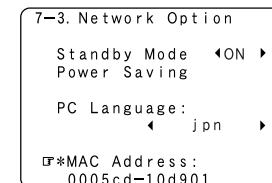
■ PC Languageの設定

ご使用になるパソコンの言語に合わせて選びます。
言語はISO639-2に準拠したアルファベット3文字にて表示します。

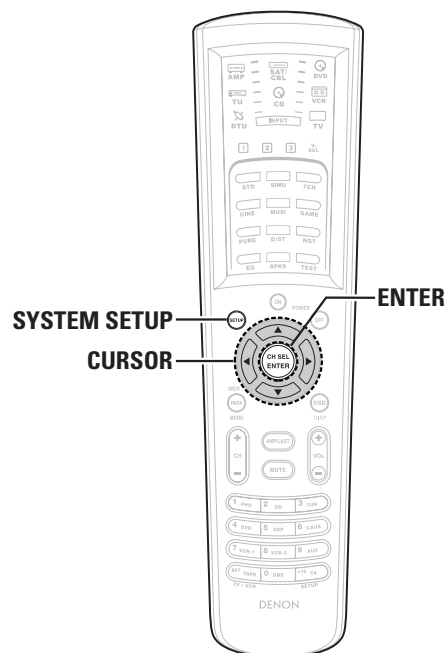
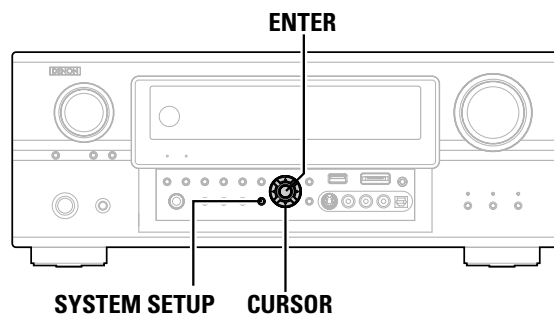
1 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、PC languageを選ぶ。**

2 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**

●" Network Setup " メニューに戻ります。

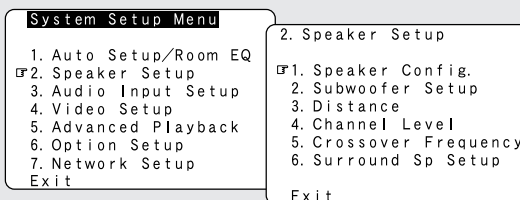
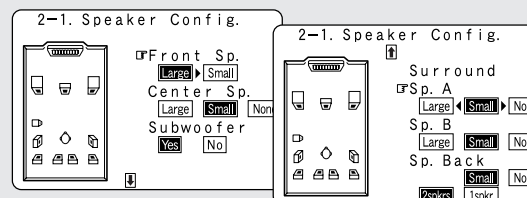
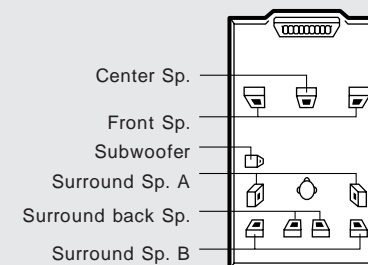
■ MAC Addressの表示

本機のMACアドレスを表示します。
MAC アドレスは機器ごとに異なります。

より詳細なセットアップのしかた２

スピーカーに関する設定のしかた

スピーカーシステムを手動で設定する場合または、オートセットアップで設定された内容を変更する場合におこなってください。

スピーカーの種類・有り無しの設定

- 実際に使用されるスピーカーの組み合わせに対して、自動的に各チャンネルの出力成分や特性を調節します。
- 本機のサラウンド機能を有効にお使いいただくために、「スピーカーのセッティングについて」（☞ 94～97ページ）も合わせてお読みください。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して " System Setup Menu " から " Speaker Setup " を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Speaker Config. " を選び、ENTER ボタンを押す。**

3 **CURSOR △ ▽ ボタンを押してスピーカーを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押してパラメーターを選ぶ。**

4 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**

- " Speaker Setup " メニューに戻ります。

メモ

- Large/Smallの選択は、スピーカーの外形で判断せずに「クロスオーバー周波数」（☞ 85、86ページ）で設定した周波数を基準とした低域・再生能力で判断してください。この判断がつかない場合は、スピーカーを破壊しない範囲で " Small " に設定した場合と " Large " に設定した場合の音を比較した上で選んでください。

■ パラメーターについて

Large：
クロスオーバー周波数（☞ 85、86ページ）で設定した周波数以下の低音を十分再生できるスピーカーを使用するときに選びます。

Small：
クロスオーバー周波数（☞ 85、86ページ）で設定した周波数以下の低音再生に十分な音量が得られないスピーカーを使用するときに選びます。この設定をおこなった場合、設定した周波数以下の低音はサブウーハーに振り分けられます。

None：
スピーカーを設置していないときに選びます。

Yes / No：
サブウーハーを設置しているときには“ Yes ”、設置していないときには“ No ”を選びます。

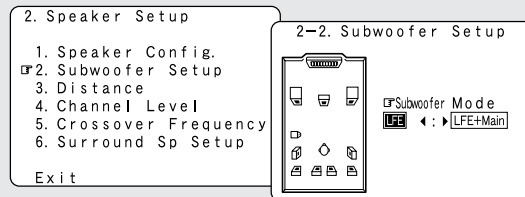
2spkrs / 1spkr：
サラウンドバックに使用するスピーカーの数を選びます。

※ サブウーハーの低域再生能力が十分な場合、フロント、センター、サラウンドの各スピーカーの設定を“ Small ”にしても良好な音場再生を得ることができます。

※ フロントスピーカーを“ Small ”に設定すると自動的にサブウーハーは“ Yes ”に設定され、サブウーハーを“ No ”に設定すると自動的にフロントスピーカーは“ Large ”に設定されます。

サブウーハーモードの設定

低音域信号を再生するサブウーハー、スピーカーを選びます。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Subwoofer Setup ”を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、“ LFE ”または“ LFE+Main ”を選ぶ。**

LFE：
“ Large ”に指定されたチャンネルの低音域信号はそのチャンネルからのみ再生されます。
サブウーハーから再生される低音域は、LFE信号と“ Small ”に設定されたチャンネルの低音域のみとなります。
この再生モードは、室内の低音域干渉が起こりにくくなります。

LFE＋Main：
“ Large ”に指定されたチャンネルの低音域信号は、そのチャンネルとサブウーハーチャンネルから同時に再生されます。
このモードでは、より均一な低音域が室内に広がりますが、部屋の大きさと形によっては干渉のために実際の低音域音量が低下することもあります。

3 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**
●“ Speaker Setup ”メニューに戻ります。

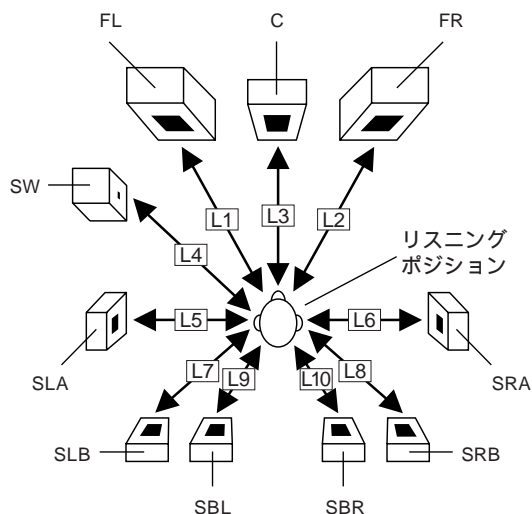
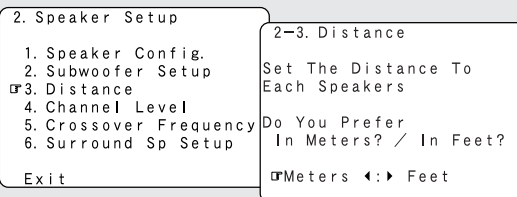
■ サブウーハーモードについて

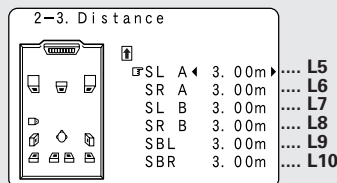
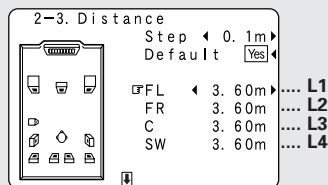
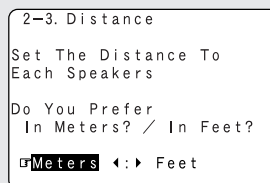
- サブウーハーモードの設定は「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 81ページ）でサブウーハーを“ Yes ”に設定した場合に有効です。
- “ LFE ”再生モードを選ぶと、入力信号がアナログ信号やLFE信号が含まれていないPCM信号の場合、低音域信号はサブウーハーから出力されません。常にサブウーハーチャンネルから低音域信号を再生したい場合は、“ LFE＋Main ”再生モードを選んでください。
- 音楽ソースや映画ソースを再生してみて、量感のある低音域が得られる方の再生モードを選んでください。

スピーカーの距離の設定

- リスニングポジションと各スピーカーとの距離を入力して、サラウンドのディレイタイムを設定します。
- サラウンドスピーカーA、Bそれぞれの使用時のディレイタイムの設定が可能です。

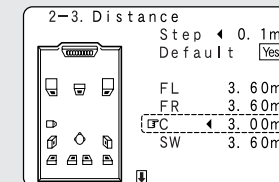
準備： リスニングポジションと各スピーカーとの距離（下図のL1～L10）を測定します。

《より詳細なセットアップのしかた２》

1 CURSOR △ ▽ ボタンを押して “ Distance ” を選び、ENTER ボタンを押す。

2 CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、“ Meters ” または “ Feet ” を選ぶ。

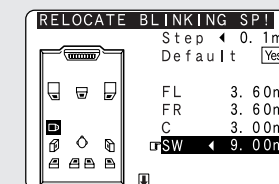
【例】“ Meters ” を選んだとき

3 CURSOR △ ▽ ボタンを押して、設定したいスピーカーを選ぶ。

※ **CURSOR** △ ボタンで “ Step ” を選び、**CURSOR** ◁ ▷ ボタンで変化量を0.1m（1ft）単位または0.01m（0.1ft）単位に切り替えることができます。

4 CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、センタースピーカーとリスニングポジションとの距離を設定する。

【例】センタースピーカーを選んで、距離（L3）を3.0mに設定した場合

※ ボタンを押すたびに数値が0.1m（1ft）単位または0.01m（0.1ft）単位で変化しますので、測定した距離に最も近い値を選びます。

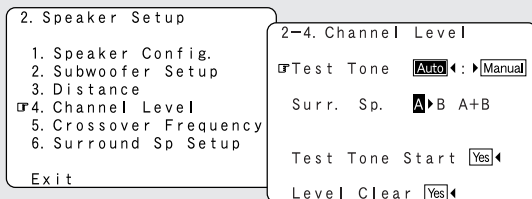
※ Default “ Yes ” を選び、**CURSOR** ◁ ボタンを押すと初期設定値に戻ります。

※ 各スピーカーに設定した距離の差はどれも6.0m（20ft）以下でなければなりません。不適切な距離を設定すると下図のような注意（CAUTION）が表示されます。この場合、点滅しているスピーカーの距離は反転表示された値より大きく設定することができませんので、該当のスピーカーを表示の値の位置に移動してください。

5 ENTER ボタンを押して、設定を確定する。

- “ Speaker Setup ” メニューに戻ります。

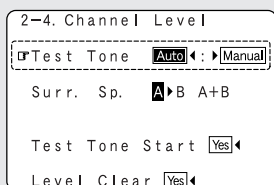
チャンネルレベルの設定

- 各チャンネル間の再生レベルが等しくなるように調整します。
- サラウンド再生の前にオートセットアップをおこなっていない場合は、テストトーンにより各スピーカーの再生レベルの調節をおこなってください。
- リスニングポジションで各スピーカーより出力されるテストトーン（再生音）を聞きながら調整します。
- サラウンドスピーカーA、Bともに使用する場合は、それぞれの使用時の再生レベルも調整できます。

1 **CURSOR △▽ ボタンを押して“ Channel Level ”を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、“ Auto ”または“ Manual ”を選ぶ。**

Auto：
各スピーカーより自動的に出力されるテストトーンを聞きながらレベルを調整します。

Manual：
テストトーンを出力させたいスピーカーを選んでレベルを調整します。
最初の設定は“ Manual ”でおこなうと詳細な設定ができます。

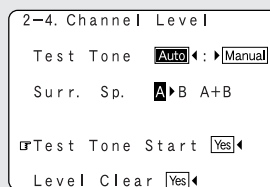
【例】“ Auto ”モードを選んだ場合

3 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Surr. Sp. ”を選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、テストトーンを出力させたいサラウンドスピーカー（A、B、A＋B）を選ぶ。**

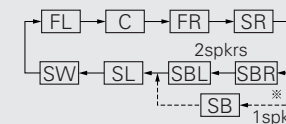
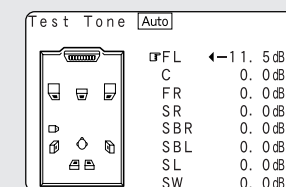
Surr. Sp.：A
サラウンドスピーカーAを使用した場合の各チャンネル間の再生レベルのバランスを調整します。

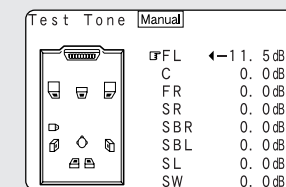
Surr. Sp.：B
サラウンドスピーカーBを使用した場合の各チャンネル間の再生レベルのバランスを調整します。

Surr. Sp.：A＋B
サラウンドスピーカーA、B同時に使用した場合の各チャンネル間の再生レベルのバランスを調整します。

※“ Surr. Sp. ”の選択は「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 81ページ）にて、サラウンドスピーカーA、Bをともに選んだ場合（A、Bともに“ Large ”または“ Small ”に設定した場合）のみおこなえます。

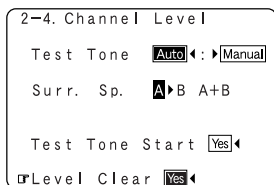
4 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Test Tone Start ”を選び、CURSOR ◁ ボタンを押して“ Yes ”を選ぶ。**

5-1 **“ Auto ”モードを選んだ場合：CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、各スピーカーのテストトーンが同じ音量で聞こえるように調整する。**

- 下記の順序で2周目までは4秒間隔、3周目からは2秒間隔でテストトーンが各スピーカーより自動的に出力されます。

※「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 81ページ）でサラウンドバックスピーカーを“ 1spkr ”に設定した場合は“ SB ”となります。

※ 音量は−12dB～＋12dBの範囲で、0.5dB単位で調整できます。

5-2 **“ Manual ”モードを選んだ場合：CURSOR △ ▽ ボタンを押してテストトーンを出力させたいスピーカーを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して各スピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるように調整する。**

6 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**

- “ Channel Level ”画面に戻ります。

メモ

- 設定を取り消す場合は、CURSOR ▽ ボタンを押して " Level Clear " を選び、さらにCURSOR ◁ ボタンを押して " Yes " を選んでください。

- チャンネルレベルを調整した場合には、調整した値がすべての再生モードに対して設定されます。
  チャンネルレベル設定後、再生モード別にチャンネルレベルを調節する場合は45ページの操作をおこなってください。
- サラウンドスピーカーA、B（Surr. Sp. A, B）をそれぞれ使用する場合、またはサラウンドスピーカーA、B同時に使用（Surr. Sp. A＋B）する場合は、必ず " Surr. Sp. " のA、B、A+Bそれぞれの選択において各チャンネル間の再生レベルのバランスを調整してください。

■ テストトーンの調節のしかた

- テストトーンによる調節は、下記の通りリモコンからでもおこなえます。
- リモコンでのテストトーンによる調節は " AUTO " のみで、ドルビーサラウンドモードとDTSサラウンドモード時に有効です。調節したレベルは上記各サラウンドモードに自動的に記憶されます。

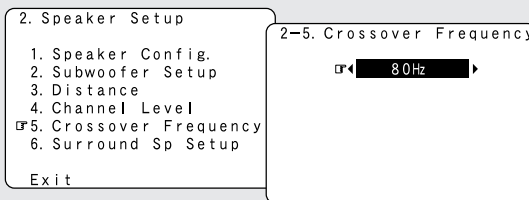
1 **TEST TONE ボタンを押す。**
- テストトーンが各スピーカーより出力されます。

2 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、各スピーカーの音量が同じになるように調節する。**

3 **調節が終わったら、もう一度 TEST TONE ボタンを押す。**

クロスオーバー周波数の設定

各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下で出力するかを設定します。

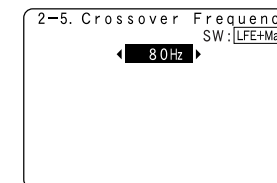
1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Crossover Frequency " を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、クロスオーバー周波数を選ぶ。**

40, 60, 80, 90, 100, 110, 120, 150, 200, 250Hz：
お手持ちのスピーカーシステムの低域の再生能力に合わせてお好みで設定してください。

Advanced：
各スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定することができます。（☞ 86ページ）

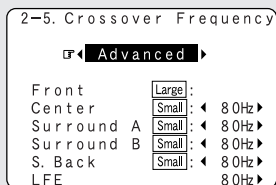
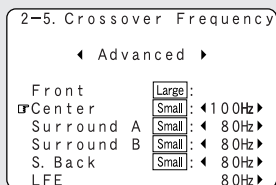
3 **ENTER ボタンを押す。**
- " Speaker Setup " メニューに戻ります。

■ クロスオーバー周波数について

- クロスオーバー周波数モードの設定は「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 81ページ）でサブウーハーを " Yes " または " Small " に設定したスピーカーがある場合のみ有効です。
- 各スピーカーからの低音域をサブウーハーまたは " Large " に設定しているスピーカー（サブウーハーを使用しない場合のみ）から何Hz以下（クロスオーバー周波数）で出力するかを設定します。
- " Small " に設定したスピーカーは、クロスオーバー周波数以下の音はカットして出力され、カットされた低音域はサブウーハーまたは " Large " に設定しているスピーカーから出力します。
- 「サブウーハーモードの設定」（☞ 82ページ）で " LFE＋Main " 再生モードを設定した場合、画面右上に " SW：LFE＋Main " と表示されます。

- 一般的なスピーカーシステムを使用する場合は、クロスオーバー周波数を80Hzに設定することを推奨しますが、小型スピーカーを使用する場合は、より高い周波数に設定することで、クロスオーバー周波数付近での周波数特性を改善できる場合もあります。

クロスオーバー周波数の個別チャンネルごとの設定

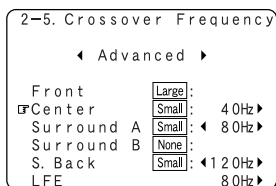
各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下で出力するかを設定します。

1 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して“ Advanced ”を選ぶ。**

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して周波数を設定したいスピーカーを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押してクロスオーバー周波数を選ぶ。**

3 **ENTER ボタンを押す。**

●“ Speaker Setup ” メニューに戻ります。

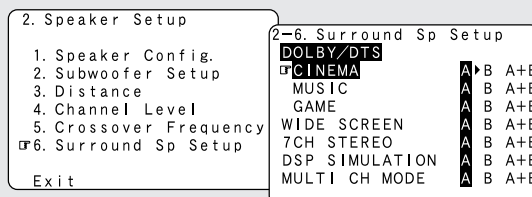
メモ

● 「サブウーハーモードの設定」（☞ 82ページ）で“ LFE ”再生モードが設定されているときは、「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 81ページ）で“ Small ” に設定したスピーカーのみ周波数の設定をおこなうことができます。

```
2−5. Crossover Frequency

     ◀ Advanced ▶

 Front        Large :
☞Center       Small :    40Hz▶
 Surround A   Small : ◀  80Hz▶
 Surround B   None  :
 S. Back      Small : ◀ 120Hz▶
 LFE                     80Hz▶
```

● 「サブウーハーモードの設定」（☞ 82ページ）で“ LFE＋Main ” 再生モードが設定されているときは、スピーカーの大きさの設定に関わらず、周波数の設定をおこなうことができます。

各サラウンドモードのサラウンドスピーカーの選択

「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 81ページ）でサラウンドスピーカーをA、Bともに使用した場合に、各サラウンドモードで使用したいサラウンドスピーカーを、あらかじめ記憶させておくことができます。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Surround Sp Setup ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押してサラウンドモードを選び、CURSOR ◁ ▷ ボタンを押してサラウンドスピーカーを選ぶ。**

A：
サラウンドスピーカーAを使用

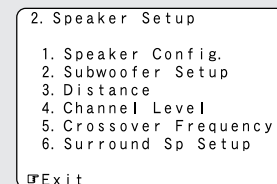
B：
サラウンドスピーカーBを使用

A＋B：
サラウンドスピーカーA、Bともに使用

3 **ENTER ボタンを押して設定を確定する。**

4 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Exit ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

●“ System Setup Menu ” 画面に戻ります。

```
2. Speaker Setup

 1. Speaker Config.
 2. Subwoofer Setup
 3. Distance
 4. Channel Level
 5. Crossover Frequency
 6. Surround Sp Setup

☞Exit
```

■ サラウンドスピーカーをA＋Bで使用時のスピーカー種類の設定

● サラウンドスピーカーAまたはBのどちらかが“ Small ” に設定されている場合は、A、Bともに“ Small ” 設定時と同じ出力が再生されます。

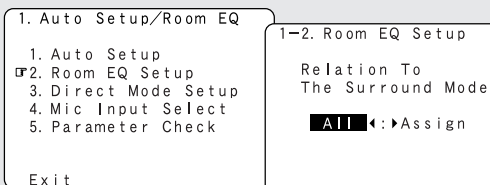
●“ DSP SIMULATION ” の中で“ WIDE SCREEN ” および“ 7CH STEREO ” については、サラウンドスピーカーを個別に設定できます。

● 入力モードを外部入力（EXT.IN）に設定しているときのサラウンドスピーカーの選択については、「外部入力端子の設定」（☞ 67ページ）で設定してください。

その他の設定のしかた

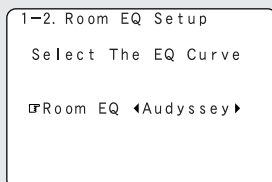
Room EQの設定

「オートセットアップ」および「マニュアルイコライザーの設定」で、設定されたイコライザーを各サラウンドモードごとに個別設定するか、または一括設定するかを選択できます。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Auto Setup / Room EQ ”メニューから“ Room EQ Setup ”を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、“ All ”または“ Assign ”を選ぶ。**

All：
すべてのサラウンドモードに対してイコライザーを一括設定します。

Assign：
各サラウンドモードごとにイコライザーを個別設定します。

3-1 **“ All ”を選んだ場合：**
①ENTER ボタンを押す。

② CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、設定するイコライザーを選ぶ。

OFF：
イコライザーは使用されません。

Audyssey：
お部屋の音響特性を最適な環境に補正するようすべてのスピーカーの周波数特性を調整します。

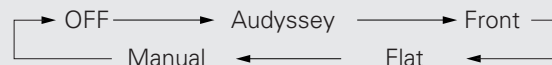
Front：
各スピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。

Flat：
すべてのスピーカーの周波数特性を均一（フラット）にします。これはドルビーデジタル、DTS、DVDオーディオ、スーパーオーディオCDのようなマルチチャンネル信号の音楽再生に適しています。

Manual：
「マニュアルイコライザーの設定」（☞74、75ページ）で設定されたグラフィックイコライザーを使用し、各スピーカーの特性を調整します。

3-2 **“ Assign ”を選んだ場合：**
設定終了後、ROOM EQ ボタンを押してイコライザーを選ぶ。

- 各サラウンドモードごとにイコライザーを記憶することができます。
  お好みに合わせて設定してください。

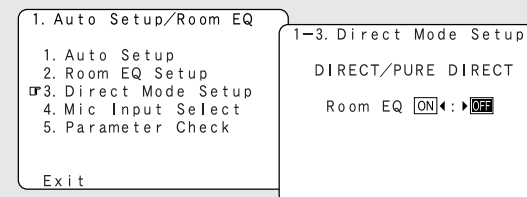
※ ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

4 **ENTER ボタンを押す。**
- “ Auto Setup / Room EQ ”メニューに戻ります。

メモ

- “ Audyssey ”、“ Front ”および“ Flat ”のイコライザーはオートセットアップを実行した後に選択可能となります。
- オートセットアップで“ なし（None）”と判定されたスピーカーを手動で“ あり ”に切り替えた場合は、“ Audyssey ”、“ Front ”および“ Flat ”のイコライザーは選択できなくなります。
- ヘッドホンを接続している場合はイコライザーの設定は“ OFF ”になります。

ダイレクトモード時のイコライザーの設定

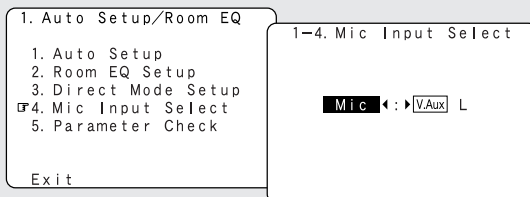
サラウンドモードがダイレクトモードまたはピュアダイレクトモードのとき、Room EQを使用するかどうかを選べます。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して“ Direct Mode Setup ”を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、“ ON ”または“ OFF ”を選ぶ。**

3 **ENTER ボタンを押す。**
- “ Auto Setup / Room EQ ”メニューに戻ります。

マイク入力ジャックの選択

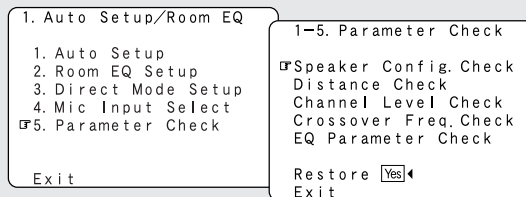
- オートセットアップの測定時に、付属品以外のマイクを使用する場合はこの設定をおこなってください。
- 本機に付属されているマイクはオートセットアップ用に設計された測定用マイクです。
- 通常は " Mic " を選んで、付属のマイクをミニジャック（SETUP MIC）に接続してください。
- 測定用の高性能コンデンサマイクを別途用意してオートセットアップをおこなう場合は、" V. Aux L " を選び、本機のフロントパネルのピンジャック（V. AUX Lch）に接続してください。
- 付属のマイク以外をご使用になる場合は、お客様相談センターにお問い合わせください。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Mic Input Select " を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、" Mic " または " V. Aux L " を選ぶ。**

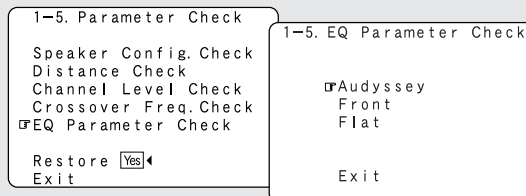
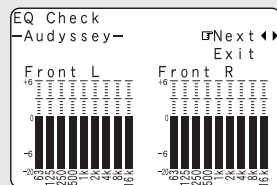
3 **ENTER ボタンを押す。**
- " Auto Setup / Room EQ " メニューに戻ります。

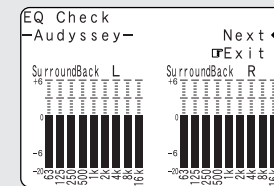
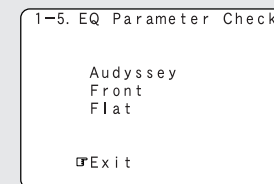
オートセットアップのパラメーターの確認と再設定

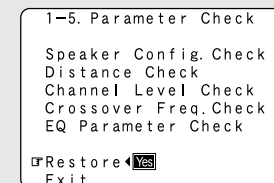
- オートセットアップの測定結果を確認することができます。また、Room EQのパラメーターもここで確認することができます。
- オートセットアップの測定結果を確定した後に設定を変更した場合でも、再度オートセットアップの結果を設定することができます。

1 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Parameter Check " を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して確認したい項目を選び、ENTER ボタンを押す。**

※ " EQ Parameter Check "以外の各確認画面については、21ページをご覧ください。

3 **CURSOR △ ▽ ボタンを押して " EQ Parameter Check " を選び、ENTER ボタンを押す。**

4 **CURSOR △ ▽ ボタンを押してイコライザーのカーブの種類を選び、ENTER ボタンを押す。**

5 **CURSOR ◁ ▷ ボタンを押して、確認したいチャンネルに切り替える。**

6 **確認が終了したら、CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Exit " を選び、ENTER ボタンを押す。**

7 **確認が終了したら、 CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Exit " を選び、ENTER ボタンを押す。**

8 **再度設定したい場合:**
CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Restore " を選び、CURSOR ◁ を押す。

```
1–5. Parameter Check

Speaker Config. Check
Distance Check
Channel Level Check
Crossover Freq. Check
EQ Parameter Check

☞Restore Yes
Exit
```

9 **確認が終了したら、CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Exit " を選び、ENTER ボタンを押す。**
- " Auto Setup / Room EQ " メニューに戻ります。

10 **確認が終了したら、CURSOR △ ▽ ボタンを押して " Exit " を選び、ENTER ボタンを押す。**
- " System Setup Menu " に戻ります。

《より詳細なセットアップのしかた２》

《より詳細なセットアップのしかた２》

システムセットアップの内容と初期設定について

1. Auto Setup / Room EQ（オートセットアップ/Room EQ）

<table>
<tr><th colspan="3">内　容</th><th>初期設定</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Auto Setup / Room EQ</td><td>スピーカーシステムおよび部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動で設定します。</td><td>—</td><td>17 ~ 22</td></tr>
<tr><td>2</td><td>Room EQ Setup</td><td>各サラウンドモードごとにRoom　EQを一括設定するか、個別設定するかを選びます。</td><td>All, Room EQ=OFF</td><td>87</td></tr>
<tr><td>3</td><td>Direct Mode Setup</td><td>サラウンドモードがダイレクトまたはピュアダイレクトモードの場合にRoom EQを使用するかどうかを設定します。</td><td>OFF</td><td>87</td></tr>
<tr><td>4</td><td>Mic Input Select</td><td>オートセットアップに使用するマイク入力端子を選びます。</td><td>Mic</td><td>88</td></tr>
</table>

2. Speaker Setup（スピーカーシステムの設定）

<table>
<tr><th colspan="4">内　容</th><th colspan="8">初期設定</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">Speaker Configuration</td><td rowspan="2" colspan="2">サラウンド再生の際、実際に使用するスピーカーの組み合わせの有無や低域の再生能力に応じた大きさを入力することにより、本機内部で自動的に各スピーカーから出力される信号の成分や周波数特性が設定されます。</td><td>Front Sp.</td><td>Center Sp.</td><td>Subwoofer</td><td>Surround Sp. A / B</td><td colspan="4">Surround Back Sp.</td><td rowspan="2">81, 82</td></tr>
<tr><td>Large</td><td>Small</td><td>Yes</td><td>Small</td><td colspan="4">Small / 2spkrs</td></tr>
<tr><td>2</td><td>Subwoofer Setup</td><td colspan="2">重低音信号を再生するサブウーハーの再生方法を選びます。</td><td colspan="8">LFE</td><td>82</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">Distance</td><td rowspan="2" colspan="2">リスニングポジションの距離に応じて各スピーカーやサブウーハーから発声される音声のタイミングを最適にするためのパラメーターです。</td><td>Front L & R</td><td>Center</td><td>Subwoofer</td><td>Surround L & R</td><td colspan="4">Surround Back</td><td rowspan="2">83</td></tr>
<tr><td>3.6 m (12 ft)</td><td>3.6 m (12 ft)</td><td>3.6 m (12 ft)</td><td>3.0 m (10 ft)</td><td colspan="4">3.0 m (10 ft)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">Channel Level</td><td rowspan="2" colspan="2">最適な効果を得られるように、各スピーカーやサブウーハーから出力される音量をそれぞれチャンネルごとに調整します。</td><td>Front L</td><td>Front R</td><td>Center</td><td>Surround L</td><td>Surround R</td><td>Surround Back L</td><td>Surround Back R</td><td>Subwoofer</td><td rowspan="2">84, 85</td></tr>
<tr><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td></tr>
<tr><td>5</td><td>Crossover Frequency</td><td colspan="2">各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下で出力するかを設定します。</td><td colspan="8">80Hz</td><td>85, 86</td></tr>
<tr><td rowspan="2">6</td><td rowspan="2">Surround Speaker Setup</td><td rowspan="2">より理想的なサラウンド再生をおこなうためにお客様が複数の組み合わせのサラウンドスピーカーを使用される場合は、本機能を使用します。各サラウンドモードごとに使用するサラウンドスピーカーの組み合わせをあらかじめ設定しておくことにより、自動的に各サラウンドモードごとにサラウンドスピーカーが選択されます。</td><td>サラウンドモード</td><td>DOLBY/ DTS CINEMA</td><td>DOLBY/ DTS MUSIC</td><td>DOLBY GAME</td><td>WIDE SCREEN</td><td>7 CH STEREO</td><td>DSP SIMULATION</td><td colspan="2">MULTI CH MODE</td><td rowspan="2">86</td></tr>
<tr><td>サラウンドスピーカー</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td colspan="2">A</td></tr>
</table>

3. Audio Input Setup（音声入力に関する設定）

<table>
<tr><th colspan="4">内　容</th><th colspan="13">初期設定</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">Digital In Assign</td><td rowspan="2">各入力ソースに対して、デジタル入力端子を割り当てます。</td><td>入力ソース</td><td>CD</td><td>DVD</td><td>VDP</td><td>TV</td><td>DBS</td><td>VCR-1</td><td>VCR-2</td><td>CDR / TAPE</td><td>V.AUX</td><td colspan="4">TUNER</td><td rowspan="2">67</td></tr>
<tr><td>デジタル入力</td><td>COAX 1</td><td>COAX 2</td><td>OPT 1</td><td>OFF</td><td>OPT 2</td><td>OPT 3</td><td>OFF</td><td>OPT 4</td><td>OPT 5</td><td colspan="4">OFF</td></tr>
<tr><td>2</td><td>EXT.IN Setup</td><td colspan="2">外部入力（EXT. IN）端子の再生方法を設定します。</td><td colspan="13">Surr.Sp = Surr.A, SW Level = +15dB</td><td>67</td></tr>
<tr><td>3</td><td>iPod Assign</td><td colspan="2">iPodをiPod Dockを経由して接続する場合、iPod Dockからのオーディオおよびビデオ信号を、本機の任意の入力端子に割り当てて再生する事ができます。</td><td colspan="13">iPod Function = Aux, iPod Dock = NotUsed</td><td>68</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">Input Function Lev.</td><td rowspan="2" colspan="2">入力ソース間で異なる再生レベルを個別に補正します。</td><td>TUNER</td><td>PHONO</td><td>CD</td><td>CDR / TAPE</td><td>DVD</td><td>VDP</td><td>TV</td><td>DBS</td><td>VCR-1</td><td>VCR-2</td><td>V.AUX</td><td>AUX1</td><td>AUX2</td><td rowspan="2">68</td></tr>
<tr><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td></tr>
<tr><td>5</td><td>Function Rename</td><td colspan="2">オンスクリーンディスプレイやフロントディスプレイに表示される入力ソース名を変更することができます。</td><td>TUNER</td><td>PHONO</td><td>CD</td><td>CDR / TAPE</td><td>DVD</td><td>VDP</td><td>TV</td><td>DBS</td><td>VCR-1</td><td>VCR-2</td><td>V.AUX</td><td>AUX1</td><td>AUX2</td><td>69</td></tr>
</table>

《より詳細なセットアップのしかた２》

4. Video Setup（映像に関する設定）

	内　容			初期設定							参照ページ
1	**HDMI In Assign**	各入力ソースに対して、HDMI入力端子を割り当てます。 また、HDMIの音声信号の再生方法を選びます。		DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	V.AUX	69, 70
				NONE	NONE	NONE	NONE	NONE	NONE	NONE	
2	**Component In Assign**	各入力ソースに対して、コンポーネントビデオ入力端子を割り当てます。	**入力ソース**	DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	V.AUX	70
			ビデオ入力	1-D / RCA	NONE	2-RCA	3-D / RCA	NONE	NONE	NONE	
3	**Video Convert**	ビデオコンバージョン機能を使用するかどうかを設定します。		ON							71
4	**HDMI Out Setup**	アナログビデオ信号からHDMIへアップコンバートをするかどうかを設定します。 また、この機能を使用する場合は、HDMI端子から出力する信号の形式を設定できます。		Convert = ON Aspect = Full Resolution = 480p/576p Color Space = Y Cb Cr RGB Mode = Normal							71, 72
5	**Audio Delay**	映像信号と音声信号の時間差を調整します。		0 ms							72
6	**On Screen Display**	本機をリモコンや本体操作ボタンなどで操作した際に、確認のためモニター画面上に現れるオンスクリーン表示の有無を設定します。		Function/Mode = ON, Master Volume = ON Mode = Mode 1							73, 74

5. Advanced Playback（音声再生に関する設定）

	内　容		初期設定	参照ページ
1	**2ch Direct / Stereo**	2チャンネルのDIRECTモードおよびSTEREOモードで再生したときの設定を変更できます。	Basic	73
2	**Dolby Digital Setup**	ドルビーデジタル信号をダウンミックスするときのコンプレッションのON/OFFを設定します。	OFF	74
3	**Auto Surround Mode**	入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶するかどうかを設定します。	Auto Surround Mode = ON	74
4	**Manual EQ Setup**	再生信号を聴きながら各スピーカーの音色を合わせます。	All Channels and Frequency = 0 dB	74, 75
5	**Bilingual Mode**	ドルビーデジタルソースおよびAACソースの入力に対して、二重音声の出力内容を設定します。	MAIN	76

6. Option Setup（その他の設定）

<table>
<tr><th colspan="4">内　容</th><th colspan="13">初期設定</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Power Amp Assign</td><td colspan="2">サラウンドバックのパワーアンプをフロントチャンネルのバイアンプ再生や2チャンネル再生専用（フロントB）に割り当てて使用することができます。</td><td colspan="13">S. Back</td><td>76, 77</td></tr>
<tr><td>2</td><td>Volume Control</td><td colspan="2">音量レベルを設定します。
Volume Limit　：主音量の上限を設定します。
Power On Level：電源ON時の音量レベルを設定します。
Mute Level　　：ミューティング時の音声出力の減衰量を設定します。</td><td colspan="13">Vol.Limit = OFF, P. On Lev. = LAST, Mute Lev. = FULL</td><td>77</td></tr>
<tr><td rowspan="4">3</td><td rowspan="4">Trigger Out Setup</td><td rowspan="4">本機の2つのトリガーアウト端子のDC12V出力を各入力ソースおよび各サラウンドモードに対して連動させて使用します。</td><td rowspan="2">Trigger Out 1</td><td>TUNER</td><td>PHONO</td><td>CD</td><td>CDR / TAPE</td><td>DVD</td><td>VDP</td><td>TV</td><td>DBS</td><td>VCR-1</td><td>VCR-2</td><td>V.AUX</td><td>AUX1</td><td>AUX2</td><td rowspan="4">77, 78</td></tr>
<tr><td>OFF</td><td>OFF</td><td>OFF</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Trigger Out 2</td><td>TUNER</td><td>PHONO</td><td>CD</td><td>CDR / TAPE</td><td>DVD</td><td>VDP</td><td>TV</td><td>DBS</td><td>VCR-1</td><td>VCR-2</td><td>V.AUX</td><td>AUX1</td><td>AUX2</td></tr>
<tr><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td><td>ON</td></tr>
<tr><td>4</td><td>Display</td><td colspan="2">本体ディスプレイの明るさを3段階で調節することができます。</td><td colspan="13">Dimmer = 0</td><td>78</td></tr>
<tr><td>5</td><td>iPod Charge</td><td colspan="2">本機とiPodを接続している状態でiPodの充電を設定できます。</td><td colspan="13">Power On = ON, Standby = OFF</td><td>78</td></tr>
<tr><td>6</td><td>Setup Lock</td><td colspan="2">システムセットアップの設定を変更できないようにロックするかどうか設定します。</td><td colspan="13">Setup Lock = OFF</td><td>79</td></tr>
</table>

《より詳細なセットアップのしかた２》

7. Network Setup
（ネットワークに関する設定）

	内　容			初期設定	参照ページ
1	**IP Address**	IPアドレスに関する設定をおこないます。		ON	79
2	**Proxy**	Proxyに関する設定の変更をおこないます。		OFF	80
3	**Network Option**	**Power saving**	スタンバイモードでネットワークからのコントロールを受け付けるかどうかを設定します。	ON	80
		PC Language	パソコンのOSの言語を選択します。	jpn	80

その他について

故障かな？と思ったら

■ **各接続は正しいですか**
■ **取扱説明書に従って正しく操作していますか**
■ **スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか**

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きとり、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　象	原　因	処　置	関連ページ
電源を入れても、ディスプレイが点灯せず音も出ない。	● 電源コードの差し込みが不完全である。	● 本体および電源コンセントへの、電源プラグの差し込みを点検してください。	30
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	● スピーカーケーブル接続が不完全である。	● しっかり接続してください。	15
	● ファンクション切り替えつまみの位置が不適当である。	● 正しい位置に切り替えてください。	31、32
	● 主音量調節つまみが絞ってある。	● 適当な位置まで回してください。	32
	● ミューティングがかかっている。	● ミューティングを解除してください。	32
	● デジタル信号が入力されていない。	● デジタル信号の入力ソースを正しく選んでください。	67
モニターが映らない。	● 本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。	● 接続が正しいか確認してください。	16 23〜30
	● モニターTVの入力設定が違う。	● TVの入力切り替えを映像入力に接続した端子へ設定してください。	−
	● PURE DIRECTモードになっている。	● PURE DIRECTモード以外のモードにしてください。	36
	● プレーヤーとの接続がコンポーネント端子でモニター(TV)との接続がビデオ端子（黄）またはSビデオ端子になっている。	● プログレッシブ映像信号はダウンコンバートされません。プレーヤーをインターレースの設定にしてください。	−
DTS音声が出ない。	● DVDプレーヤーの音声出力設定がビットストリームになっていない。	● DVDプレーヤーの初期設定をしてください。詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。	−
	● DVDプレーヤーがDTS対応になっていない。	● DTS対応のプレーヤーを使用してください。	−
	● 本機の入力設定がアナログになっている。	●“AUTO”または“DTS”に設定してください。	33、34
DVDからVCRにダビングできない。	● ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っています。	● コピーはできません。	−
サブウーハーが鳴らない。	● サブウーハーの電源が入っていない。	● 電源を入れてください。	−
	● サブウーハーの初期設定が“NO”になっている。	● 設定を“YES”にしてください。	81、82
	● サブウーハーの出力が接続されていない。	● 正しく接続してください。	15、30
	● サブウーハーのチャンネルボリウムの設定が“OFF”になっている。	● サブウーハーのチャンネルボリウムを上げてください。	45
テストトーンが出ない。	● サラウンドモードがドルビーサラウンド以外のモードになっている。	● ドルビーサラウンドモードにしてください。	−
サラウンドスピーカーから音が出ない。	● サラウンドモードがステレオになっている。	● ステレオ以外のモードにしてください。	−
リモコンを操作しても正常に動作しない。	● 乾電池が消耗している。	● 新しい乾電池と交換してください。	11
	● リモコンの距離が離れ過ぎている。	● 近づいて操作してください。	11
	● 本体とリモコンの間に障害物がある。	● 障害物を取り除いてください。	11
	● 操作したいボタン以外のボタンを押している。	● 操作したいボタンを押してください。	−
	● 乾電池の⊕、⊖が正しくセットされていない。	● 乾電池を正しくセットしてください。	11

現　象	原　因	処　置	関連ページ
AAC表示が点灯しない。	● BSデジタルチューナーと本機がアナログ接続になっている。	● デジタル接続にしてください。	25
HDMI接続で映像が映らない。	● 本機のHDMIモニターアウト端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。	● HDMIの接続を確認してください。	25、28
	● HDMI信号が入力されていない。	● HDMIが接続されている入力ソースを正しく選んでください。	69
	● 接続されたモニター機器等がHDCPに対応していない。	● 本機はHDCP対応機器でないと映像信号を出力しません。	28、29
	● 接続されたプレーヤー等の対応出力フォーマット（HDMI FORMAT）とモニターの入力フォーマットが合っていない。	● 接続されたプレーヤー等の対応出力フォーマット（HDMI FORMAT）とモニターの入力フォーマットが合っているか確認してください。	28、29
HDMIの音声が再生されない。	● 本機からHDMIの音声が再生されない。	●「HDMI入力の設定」でHDMIの音声再生の設定を『AMP』に設定してください。	69
	● 接続されたモニター機器からHDMIの音声が再生されない。	●「HDMI入力の設定」でHDMIの音声再生の設定を『TV』に設定してください。	69
電源が切れ、電源表示が赤色で点滅している。	● 機器内部の温度上昇により保護回路が働いている。	● 本機を通風状態の良い場所に設置してください。	15
		● 一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから電源を入れなおしてください。	15
	● スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が本機のリアパネルに接触し、保護回路が働いている。	● 全てのスピーカーケーブルの接続を確認してください。	15
	● 本機が故障している。	● 電源を切り、弊社お客様相談窓口または修理相談窓口に連絡してください。	15
センタースピーカーからしか音がでない。	● TVやAM放送などのモノラル音源をドルビー/DTSサラウンドモードで再生している。	● モノラル音源を再生する場合には、ドルビー/DTSサラウンドモード以外のサラウンドモードを選んでください。	43、44

現　象	原　因	処　置	関連ページ
ディスプレイが“DOLBY DIGITAL”の表示にならない。	● DVDプレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。	● DVDプレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をお読みください。	ー

スピーカーのセッティングについて

ソースごとに異なる最適なサラウンド再生

現在、マルチチャンネル信号、すなわち2チャンネル以上のチャンネルを持つ信号（フォーマット）にはさまざまな種類があります。

■ マルチチャンネル信号の種類

ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTS-ES、ハイビジョン3-1信号、DVD-Audio、スーパーオーディオCD、MPEGマルチチャンネルオーディオなど

しかし、ここでいう『ソース』というのはこれら信号の種類（フォーマット）ではなく、そこに記録されている信号の中味（ジャンル）のことで、これらは大別すると下の2つに分けられます。

■ ソースの種類

● 映画の音声：

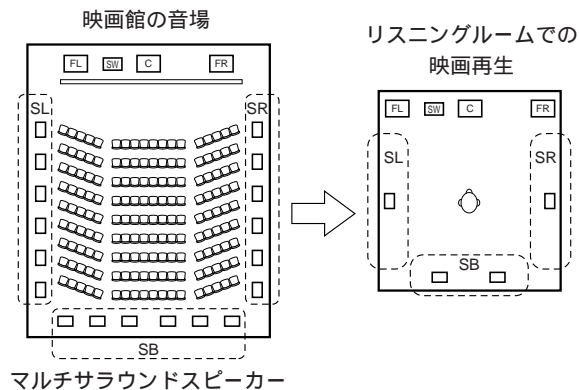
映画館にて上映されることを前提にしてつくられた信号です。ドルビーデジタルやDTSといったフォーマットによらず、多数のサラウンドスピーカーを使用する映画館の環境に合わせた録音がおこなわれているのが一般的です。

映画館の音場

FL SW C FR SL SR SB

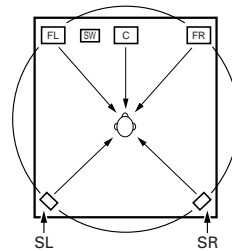
マルチサラウンドスピーカー

リスニングルームでの映画再生

FL SW C FR SL SR SB

サラウンドチャンネルに対して、映画館と同様の広がり感を持たせることが重要になります。
そのため、サラウンドスピーカーの数を増やしたり（4〜8本程度)、ダイポール特性を持つものを使用したりといった工夫がされる場合もあります。

（SL：サラウンドLチャンネル
SR：サラウンドRチャンネル
SB：サラウンドバックチャンネル）

● その他の音声：

3〜5本程度のスピーカーを用いて360 ° の音場を再現することを目的につくられた信号です。

各チャンネルのスピーカーが円を描くようにリスナーを囲み、360 ° 均一な音場をつくることがポイントで、理想的には、サラウンドスピーカーもフロントと同様に『点』音源として機能させる必要があります。

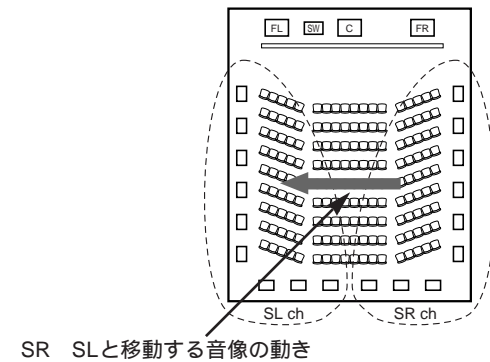
これら2種類のソースにはそれぞれ以上のような特徴があり、理想的な再生のためのスピーカーのセッティング、特にサラウンドスピーカーのセッティングには、互いに異なる部分があります。

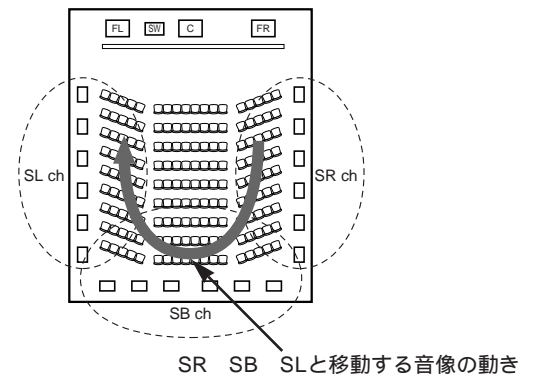
本機のサラウンドスピーカー切り替え機能により、組み合わせるサラウンドスピーカーや周囲の環境に合わせてさまざまなアレンジが可能となり、すべてのソースに対して理想的なサラウンド再生が実現できます。

サラウンドバックスピーカーについて

6.1chシステムよって、従来の5.1chシステムに加えて新たに『サラウンドバック（SB）チャンネル』が生まれました。これによって、従来のマルチサラウンドスピーカーに合わせてサラウンドデザインされていたために出し難いとされていた真後ろへの定位を容易に実現できるようになりました。同時に側方から後方にかけての音像が絞られ、側方から後方へ回り込む音、正面から真後ろへ移動する音など、サラウンド信号の表現力が大幅に向上しました。

5.1chシステムによる定位・音像の変化

SR→SLと移動する音像の動き

6.1chシステムによる定位・音像の変化

SR→SB→SLと移動する音像の動き

サラウンドバックスピーカーを追加することにより6.1chで録音されたソースだけでなく、従来の2〜5.1chソースでもよりサラウンド効果を高めることができます。
また、他のDENONオリジナルサラウンド（☞ 43ページ）もすべて7.1ch再生に対応しており、すべての信号ソースに対して7.1ch再生をお楽しみいただけます。

■ サラウンドバックスピーカーの本数について

サラウンドバックチャンネルは、6.1chソース（DTS-ESなど）においては1chの再生信号ですが、2本のスピーカーを使用することを推奨します。特にダイポール特性のスピーカーを使用する場合は、2本使用することが必須となります。
2本使用することにより、1本だけ使用した場合に比べてサラウンドチャンネルとの音のつながりやオフセンターで聞いた場合のサラウンドバックチャンネルの定位感を向上させることができます。

■ サラウンドバックスピーカーを使用する場合のサラウンドL、Rチャンネルの設置について

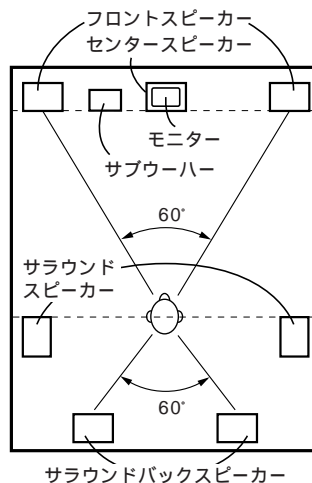
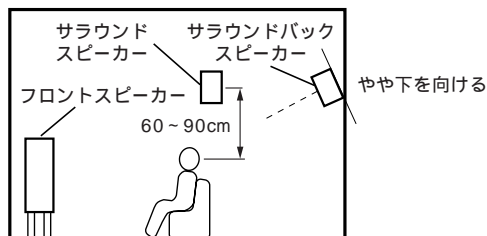
サラウンドバックスピーカーを使用することによって、後方の定位感が大幅に向上します。そのためサラウンドL、Rチャンネルの役割は、前後の音像のスムーズなつながりが重要になってきます。上図にもあるように、映画館におけるサラウンド信号は、リスナーの前方側面からも再生され、空間を漂うような音像を実現します。
これらを再現するため、サラウンドL、Rチャンネルのスピーカーを従来よりやや前寄りに設置することを推奨します。なお、この場合従来の5.1chソースを6.1サラウンドまたはDTS-ESマトリクス6.1モードで再生することによってサラウンド効果が高まる場合があります。サラウンドモードの選択は、それぞれのサラウンド効果を確認して決定してください。

スピーカーセッティング例

次にさまざまな目的に応じたスピーカーのセッティング例をご紹介します。これらを参考にお手持ちのスピーカーの種類や主に使用される用途に合わせてセッティングをおこなってください。

【1】6.1chサラウンド（DTS-ESなど）システム（サラウンドバックスピーカーを使用）の場合

① 映画再生をメインにおこなう基本的なセッティング

映画再生がメインで、サラウンドスピーカーに通常のシングルウェイや2ウェイスピーカーを使用する場合におすすめします。

【上面から見た図】

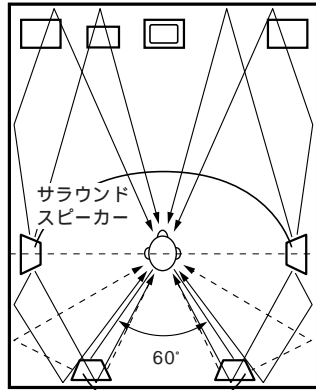
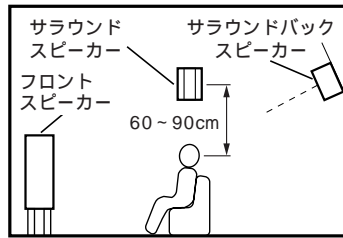
サラウンド
スピーカー
サラウンドバック
スピーカー
フロントスピーカー
やや下を向ける
60〜90cm

【側面から見た図】

- フロントスピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならないところに置きます。
- サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横からやや斜め後の間で、耳の高さより60〜90cm高い位置に、壁と平行に設置します。
- サラウンドバックスピーカーは、2本設置する場合は後方から前向きにフロントL、Rよりも狭い角度で、1本設置する場合は真後ろから前向きに、サラウンドスピーカーよりやや高い位置（サラウンドスピーカー　＋0〜20cmの高さで）に設置します。
- サラウンドバックスピーカーは、やや下向きに角度をつけて設置することを推奨します。これはサラウンドバックチャンネルの信号がフロント中央のモニターやスクリーンで反射して干渉し、前後の移動感があいまいになることを防ぐのに効果的です。
- サラウンドスピーカーを本機のサラウンドスピーカーA端子に接続し、セットアップメニューにてすべての設定を『A』にします。（工場出荷時はこの設定になっています。☞ 89ページ）

② 映画再生をメインにおこない、サラウンドスピーカーに拡散型スピーカーを使用する場合

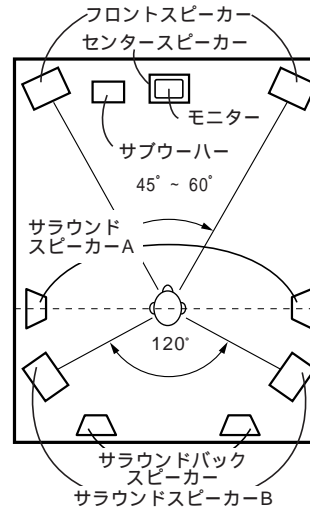
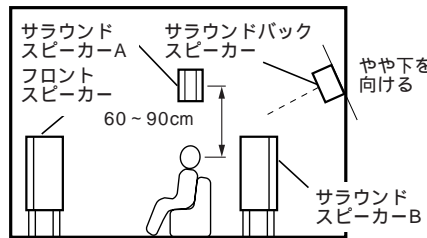
映画再生をより効果的におこなうために、サラウンドスピーカーにダイポール特性やトライポール特性などを持つ、拡散音場型のスピーカーを用いる場合は、サラウンドスピーカーの設置場所を①に比べてやや前寄りにします。

サラウンド音の視聴ポイントに到達するイメージ

【上面から見た図】

【側面から見た図】

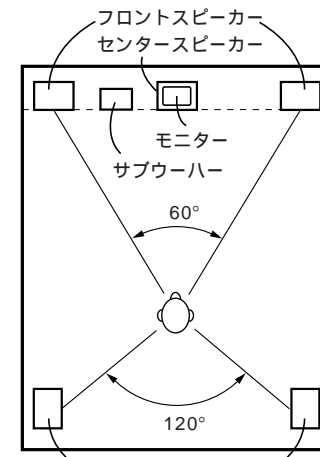
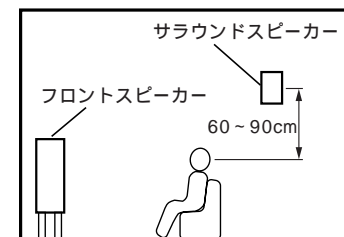
- フロントスピーカー、センタースピーカー、サブウーハーの設置方法は①と同様です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横かやや前よりが望ましく、耳の高さより60～90cm高い位置に設置します。
- サラウンドバックスピーカーの設置方法は、①と同様です。また、サラウンドバックスピーカーにもダイポール特性のスピーカーを用いた方がより効果的です。
- サラウンドスピーカーを本機のサラウンドスピーカーA端子に接続し、セットアップメニューにてすべての設定を『A』にします。（工場出荷時はこの設定になっています。☞ 89ページ）
- サラウンドチャンネルの信号は、上図のように室内の壁から反射音を伴って、広がりを持った音となります。

  一方マルチチャンネルの音楽ソースの場合、後方の定位が不明確となることがあり、その場合次の③のようにマルチチャンネル音楽ソース用のサラウンドスピーカーを増設することによって、いずれのソースに対しても効果的なサラウンド再生ができるようになります。

③ 映画再生と音楽再生のために、それぞれ専用のサラウンドスピーカーを使用する場合

《上面から見た図》

《側面から見た図》

- フロントスピーカーは映画再生のみのときと比べて間隔をやや広めにとり、定位の中抜けを防ぐために多少視聴ポイントの方を向けます。（内側に振る。）
- センタースピーカーやサブウーハーの設定方法は①と同様です。
- 映画再生用のサラウンドスピーカーAは、お使いになるスピーカーの形状に合わせて①または②の方法で設置します。
- マルチチャンネル音楽再生のサラウンドスピーカーBは、フロントスピーカーと同じ高さに、視聴ポイントのやや斜め後の位置に、視聴ポイントの方を向けて設置します。
- 映画再生用のサラウンドスピーカーをA端子に、マルチチャンネル音楽再生用のサラウンドスピーカーをB端子に接続します。セットアップメニューにてサラウンドスピーカーの切り替えの設定をおこないます。（☞ 86ページ）
- 主に映画再生をおこなうサラウンドモードをスピーカーAに、マルチチャンネル音楽再生をおこなうサラウンドモードをスピーカーBに設定します。

サラウンドスピーカーは再生中にもリモコンのスピーカーボタンにて自由に切り替えがおこなえます。（☞ 33ページ）

【2】サラウンドバックスピーカーを使用しない場合

【上面から見た図】

【側面から見た図】

- フロントスピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならないところに置きます。
- サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横からやや斜め後の間で、耳の高さより60〜90cm高い位置に、壁と平行に設置します。
- サラウンドスピーカーを本機のサラウンドスピーカーA端子に接続し、セットアップメニューにてすべての設定を『A』にします。（工場出荷時はこの設定になっています。☞89ページ）

《その他について》

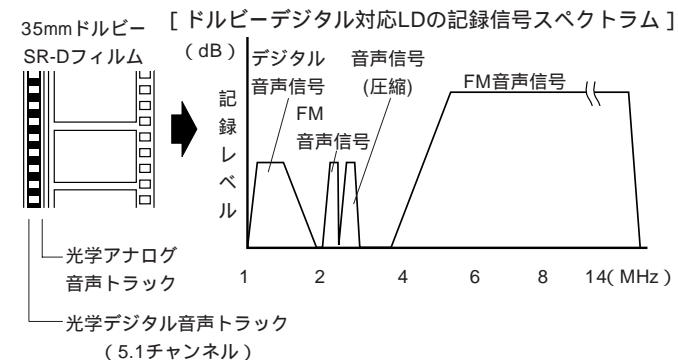
サラウンドについて

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンドについて

【1】ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、ドルビー研究所が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルはCDと同等以上の再生帯域（高域は20kHz以上再生可）を持つフロント3ch FL、FR、C （フロント左、右およびセンター）とサラウンド2ch　SL、SR（サラウンド左、右）に加え、低域（〜120Hz）効果音専用のLFE（ロー・フリクエンシー・エフェクト）の合計5.1chに対応しており、更にモノラル1chやステレオ2ch、ドルビープロロジック信号の伝送など幅広い対応が可能です。
また各チャンネルの信号はそれぞれ完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配がありません。これらのデジタル信号を、高効率符号化技術によってCDの半分以下のデータ量（最大640kbps）にて伝送可能といった特徴を持っています。
この特徴を映画のサウンドトラックに生かし、映画館用に開発されたサラウンドシステムが『DOLBY SR-D（ドルビーステレオデジタル）』です。従来一般的であったドルビーサラウンド（ドルビープロロジック）がアナログ・マトリクス方式であったのに対して、各チャンネルが完全に独立したデジタル・ディスクリート方式となり、音の遠近感、移動感、定位感のある音場をよりリアルに再現することが可能となりました。そしてドルビーデジタル対応メディアであるLD、DVDなどは、AVルームでDOLBY　SR-Dのサラウンドトラックをそのまま再現することを可能にしたため、映画館と同様に驚くほどリアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

■ SR-Dとドルビーデジタルの関係

■ ドルビーデジタルとドルビープロロジック

家庭用サラウンド方式比較	ドルビーデジタル	ドルビープロロジック
記録(素材)ch数	5.1ch	2ch
再生ch数	5.1ch	4ch
再生ch構成(MAX)	L, R, C, SL, SR, SW	L, R, C, S (SWは推奨)
音声処理	デジタルディスクリート処理 ドルビーデジタル エンコード/デコード	アナログマトリックス処理 ドルビーサラウンド
サラウンドchの高域再生限界	20kHz	7kHz

■ ドルビーデジタル対応メディアとその対応方法

ドルビーデジタル対応マーク：DOLBY DIGITAL

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と併せて確認してください。

メディア	ドルビーデジタル出力端子	再生方法
LD（VDP）	ドルビーデジタルRF出力専用同軸端子 ※1	入力モードを“AUTO”に設定します。（☞33ページ）
DVD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）※2	入力モードを“AUTO”に設定します。（☞33ページ）
その他（衛星放送、CATVなど）	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）	入力モードを“AUTO”に設定します。（☞33ページ）

※1：デジタル入力端子にドルビーデジタルRFを接続するときは、市販のアダプターを使用してください。（アダプターの取扱説明書を参照してください。）

※2：DVDのデジタル出力には、ドルビーデジタル信号の出力方法を“ビットストリーム”と“PCM（に変換）”とで切り替える機能を持つものがあります。本機でドルビーデジタルサラウンド再生をおこなう場合は、これらのモードを“ビットストリーム”に切り替えてください。またデジタル出力が“ビットストリーム/PCM兼用”と“PCM専用”に分かれている場合があります。この場合は“ビットストリーム/PCM兼用”端子を本機に接続してください。

■ ドルビーサラウンド録音されたソースについて

ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。

ドルビーサラウンド対応マーク：DOLBY SURROUND

【2】ドルビープロロジックII

- ドルビープロロジックIIは、従来のドルビープロロジック回路を更に進化させたフィードバックロジックステアリング技術を用いて、ドルビー研究所により開発された新しいマルチチャンネル再生方式です。
- ドルビーサラウンド録音されたソース（※）に加え、音楽ソースなどの通常のステレオ録音ソースも5ch（FL、FR、C、SL、SR）の信号にデコードし、サラウンド再生を楽しむことができます。
- サラウンドチャンネルの再生周波数帯域は、帯域制限のあった従来のドルビープロロジックに比較して広帯域（20〜20kHz以上）になっています。また、従来サラウンドチャンネルはサラウンドL（左）＝サラウンドR（右）のモノラル再生でしたが、新たにステレオ信号として再生する方式をとっています。
- 再生するソースの種類や内容に合わせて最適なデコード処理をおこなえるように、各種パラメーターを設定することが可能になりました。（☞40ページ）

【3】ドルビープロロジックIIx

DOLBY DIGITAL・EX PRO LOGIC IIx ドルビープロロジックIIxはドルビープロロジックIIのマトリックスデコード技術を拡張して、2チャンネルで記録された音声を、サラウンドバックチャンネルを含めた最大7.1チャンネルにデコードして再生することができます。

また、5.1チャンネルソースについても、最大7.1チャンネルでの再生を楽しむことができます。

音楽再生に適したMUSICモード、映画再生に適したCINEMAモード、ゲームをお楽しみになる場合に最適なGAMEモードが再生するソースに合わせて選べます。

GAMEモードは2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

※ ドルビーサラウンド録音されたソースとは

- 3ch以上で構成されるサラウンド信号を、ドルビーサラウンドエンコード技術によって2chの信号として記録したソースです。
- DVD、LD、ステレオVTRで再生される映画のサウンドトラックをはじめ、FM、TV、BS、CSなどのステレオ放送信号にて用いられています。
- この信号に対して、プロロジックIIデコードをほどすことにより、マルチチャンネルでのサラウンド再生が可能になりますが、一般的なステレオ機器でそのままステレオ再生することも可能です。
- ドルビーサラウンド録音信号には2種類あります。
  ① PCMステレオ2ch信号
  ②ドルビーデジタル2ch信号
  いずれの信号が本機に入力されても『STANDARD』（DOLBY/DTS SURROUND）モードを選択すると、サラウンドモードは自動的に『ドルビープロロジックII』となります。

DTSデジタルサラウンドについて

DTSデジタルサラウンド（または単にDTSと呼ばれます）は、デジタル・シアター・システムズ社が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SRの5chに加えてLFE　0.1chを持つ5.1chで、他にステレオ2chモードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストーク等で劣化する心配はありません。

DTSはドルビーデジタルに対して比較的高いビットレート（CD/LDで1234kbps、DVDは1536kbps）となり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。そのためデータ量が多く、映画館においてのDTS再生は、フィルムと同期をとったCD-ROMを別途再生する方法がとられています。

もちろんLDやDVDにおいてはそういった心配はなく、1枚のディスクに映像とサウンドが同時に記録可能なため、他のフォーマットと同様の取り扱いが可能です。

この他のメディアにはDTS録音されたCDがあります。これは従来の（2ch録音された）CDと同様のメディアに5.1chのサラウンド信号が記録されたもので、映像はありませんが、CDプレーヤーを使ってサラウンド再生が可能となるという特徴があります。

DTSによるサラウンドトラック再生も映画館とAVルームの間で基本的な違いは無く、映画館と同様の緻密で雄大なサウンドを楽しむことができます。

■ DTS対応メディアとその再生方法

DTS対応マーク： dts DIGITAL SURROUND または dts

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と併せて確認してください。

メディア	DTSデジタル出力端子	再生方法
CD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）※2	入力モードを“AUTO”または“DTS”に設定します。（☞33ページ）絶対に“ANALOG”や“PCM”モードには切り替えないでください。※1
LD（VDP）	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）※2	入力モードを“AUTO”または“DTS”に設定します。（☞33ページ）絶対に“ANALOG”や“PCM”モードには切り替えないでください。※1
DVD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）※3	入力モードを“AUTO”または“DTS”に設定します。（☞33ページ）

※1：CDやLDのDTS信号は、通常のCDやLDにおけるPCM信号がそのままDTS信号に置き換わった形で記録されています。そのためCD、LDプレーヤーのアナログ出力からはDTS信号がノイズとなって出力されます。このノイズをアンプによって再生した場合、最悪のケースでは本機やスピーカーなどの周辺機器が故障する可能性があります。これらの問題を避けるため、DTSで記録されたCDやLDを再生する前に、入力モードを必ず“AUTO”または“DTS”モードへ切り替えてから、ディスクの再生をおこなうようにしてください。また再生中は絶対に“ANALOG”や“PCM”モードへは切り替えないでください。DVDプレーヤーやLD/DVDコンパチプレーヤーでCDやLDの再生をおこなうときも同様です。なおDVDメディアの場合は、DTS信号は専用の記録方式で記録されているため、問題はありません。

※2：CDまたはLDプレーヤーなどで、デジタル出力に何らかの信号処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換など）がおこなわれている場合があります。この場合誤ってDTS信号に信号処理がおこなわれてしまい、本機と接続しても正しく再生できずノイズなどが発生することがありますので、はじめてDTS再生をおこなう場合はまず主音量調節つまみを絞り、DTSディスクの再生を開始すると本機のDTS表示（☞36、37ページ）が点灯することを確認してから主音量調節つまみを上げるようにしてください。

※3：DVDのDTSメディアは、その再生に対応したプレーヤーが必要です。お手持ちのDVDプレーヤーがDTS対応であるかはDVDプレーヤーのメーカーまたは販売店にご確認ください。

DTS-ES™について

“DTS-ES”は、デジタル・シアター・システムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。“DTS-ES”は、従来のDTSデジタルサラウンドフォーマットに対して上位互換性を持ちつつ、更に拡張されたサラウンド信号によって360度の定位感や空間表現力が大幅に拡大します。映画館においては1999年に導入され商業利用されています。

“DTS-ES”はサラウンドチャンネルとしてFL/FR/C/SL/SR/LFEの5.1チャンネルに対して、SB（サラウンドバックまたはサラウンドセンターと呼ばれる）チャンネルが加わり、合計6.1チャンネルのサラウンド再生がおこなわれます。またそのサラウンド信号記録方式の違いにより、次の2種類の信号フォーマットがあります。

DTS-ES™ Discrete6.1（ディスクリート6.1）：

追加されたSBチャンネルを含め、6.1チャンネルすべてがデジタルディスクリート方式によって独立したチャンネルとして記録される最新のフォーマットです。SL/SR/SBの各チャンネルが完全に独立しているため自由なサウンドデザインが可能で、360度周囲を取り囲むバックグラウンド音の中を自由に音像が飛び交う、といった表現も可能となるのが大きな特徴です。
この方式で記録されたサウンドトラックはDTS-ESデコーダーで再生することによってそのパフォーマンスを最大限に発揮しますが、同時に従来のDTSデコーダーで再生した場合も、SBチャンネルの信号は自動的にSL,SRチャンネルにダウンミックスされて再生されるため、信号成分の欠落無く再生することが可能です。

DTS-ES™ Matrix6.1（マトリクス6.1）：

追加されたSBチャンネルをあらかじめSL/SRチャンネルへマトリクスエンコードを施し挿入し、再生時にマトリクスデコーダーによってSL/SR/SBの各チャンネルにデコードするフォーマットです。DTS社の開発した高精度デジタルマトリクスデコーダーを使用することにより記録時のエンコーダーとその特性を完全に合わせることができるため、従来の5.1または6.1チャンネルシステムに比べて、より制作者のサウンドデザインに忠実なサラウンド再生が実現できます。また、ビットストリームのフォーマットは従来のDTS信号と100パーセントの互換性がありますので、5.1チャンネルの信号ソースでもMatrix6.1の効果を確認することが可能です。もちろん、DTS-ES　Matrix6.1エンコードソースをDTSの5.1チャンネルデコーダーで再生することも可能です。

DTS-ES Discrete6.1/Matrix6.1エンコードソースをDTS-ESデコーダーでデコードした場合、デコード時にフォーマット検出をおこないそれぞれ最適な再生モードが選択されます。但しMatrix6.1のソースについては一部に5.1チャンネルのフォーマットとして検出されるソースがあります。これらを再生する場合は、手動でDTS-ES Matrix6.1モードを選択する必要があります。（サラウンドモード選択の方法については32ページを参照してください。）

《その他について》

またDTS-ESデコーダーには別の機能として、デジタルPCM信号及びアナログ信号ソースを6.1チャンネル再生する、DTS NEO:6サラウンドモードがあります。

DTS NEO:6™ サラウンドについて：

DTS-ES Matrix6.1に採用された高精度デジタルマトリクスデコーダーを従来の2チャンネル信号に応用し、6.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。高精度な入力信号検出及びマトリクス処理によって、6.1チャンネルすべてのチャンネルでフルバンド（周波数特性20Hz～20kHz以上）の再生が可能な上、各チャンネル間のセパレーション特性もデジタルディスクリート方式と同等な程までに向上しています。
DTS NEO:6サラウンドモードには、再生する信号ソースの内容に合わせて最適なデコード処理を選択できる、2つのモードがあります。

DTS NEO:6 CINEMA：

映画再生に最適なモードです。セパレーション特性を重視してデコードすることにより、2チャンネルソースでも6.1チャンネルソースと同じような雰囲気で楽しむことが可能です。
同相成分は主にセンター（C）に、逆相成分はサラウンド（SL/SR/SB）に振り分けられる特性を持つため、従来のサラウンド録音されたソース再生にも効果があります。

DTS NEO:6 MUSIC：

主に音楽再生に適したモードです。フロントチャンネル(FL/FR)の信号を重視してデコードすることにより音質の変化が少なく、更にセンター（C）とサラウンド（SL/SR/SB）チャンネルから出力されるサラウンド信号の効果により、音場にナチュラルな拡がり感が加わります。

DTS-96/24について

現在、音楽などのスタジオ録音に関してハイサンプリング・ハイビット化、並びにマルチチャンネル化が進んでおり、96kHz/24bit 5.1chなどの高品質な信号ソースが増加しています。
例えば、DVD-Videoにおける高音質録音ソースとしては、96kHz/24bitのステレオPCM音声トラックをもつものがあります。
しかしそれらは音声トラックのデータレートが非常に高いため2chの収録が限界で、さらに映像の品質を制限せざると得なく静止画像のみの収録が一般的です。
また、DVD-Audioでは96kHz/24bitの5.1chサラウンドを実現可能としていますが、この品質での再生にはDVD-Audioプレーヤーが必要です。
DTS 96/24はこのような状況の中に登場した、デジタル・シアターシステムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
従来のサラウンドフォーマットではサンプリング周波数が48kHzまたは44.1kHzであったため再生信号周波数の上限は20kHz程度で留まっていたのに対して、DTS 96/24ではサンプリング周波数を96kHzまたは88.2kHzに引き上げることにより、40kHzを超える広い周波数帯域を実現しています。
また、24bitの分解能を持ち、96kHz/24bitのPCMと同等の周波数帯域、ダイナミックレンジを実現しています。
DTS 96/24は、従来のDTSサラウンドと同様に最大5.1chまで対応しており、DTS 96/24を用いて録音されたソースはDVD-VideoやCDといった通常のメディアにおいてハイサンプリングマルチチャンネル音声の再生を可能とします。
従って、DTS 96/24は従来のDVD-Videoプレーヤー（※1）を使用して、DVD-Audioと同等の96kHz/24bitマルチチャンネルサラウンドを、DVD-Videoの映像とともに楽しむことができます。またDTS 96/24対応CDメディアの場合、一般的なCD/LDプレーヤー（※1）を使用して88.2kHz/24bitマルチチャンネルサラウンドを楽しむことができます。
このように、高音質なマルチチャンネル信号を確保しているにも関わらず、収録時間は従来のDTSサラウンドソースと変わりません。
さらに、DTS 96/24は従来のDTSサラウンドフォーマットと完全な互換性を持っています。DTS 96/24の信号ソースは、従来のDTSまたはDTS-ESサラウンドデコーダーにおいても、48kHzまたは44.1kHzの周波数帯域での再生が可能です。（※2）

※1：DTSデジタル出力に対応したDVDプレーヤー（CD/LDプレーヤーの場合、従来のDTS-CD/LDメディアに対応したデジタル出力を持つプレーヤー）と、DTS 96/24にて収録されたメディアが必要です。
※2：分解能は、そのデコーダーによって24bitまたは20bitとなります。

AACについて

MPEG2-AAC（Advanced Audio Coding）はMPEG（Moving Picture Experts Group）が開発したマルチチャンネル音声フォーマットです。
その特長は、高音質・高圧縮率を両立できることです。特に低ビットレート（高圧縮率）の環境においてドルビーデジタルやMP3（MPEG Layer-3）等従来のフォーマットに比べて高い音質を維持することが出来ます。具体的にはわずか96kbpsという低ビットレートで、CD並みといわれる品質のステレオ音声を伝送することが出来ます。
その特長を生かしてポータブルオーディオ等への応用が増加している一方、多チャンネルに対応しても全体のビットレートを低く抑えることが出来るため、日本のBSデジタル放送における5.1chサラウンド放送をはじめとする、サラウンドシステムへの応用が始まりました。
MPEG2-AACは元々映像信号と音声信号の複合データであるMPEGデータの音声規格として開発されたため、その用途に応じて求められるスペックは多岐に渡ります。映像と組み合わせたトータルのビットレートを低く抑えるため低ビットレートでの音質確保、また多チャンネル伝送時のデータ量低減、業務用途のみに特化することなく使えるデータ処理の簡略化、それらは相反する要素を持ちますが、いずれの要求も満たせる様配慮され非常に柔軟性の高い規格になっています。
そのため音声信号の種類やそのデータ作成環境に適合させるためにMAIN/LC/SSRプロファイルという3種類のデータ構造を持っています。

■ MPEG2-AACのスペック（概要）

- **アルゴリズム：**
  MAINプロファイル
  LC（Low Complexity）プロファイル
  SSR（Scalable Sampling Rate）プロファイル
- **サンプリング周波数：**
  8kHzから96kHzまで対応
- **チャンネル数：**
  最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- **その他の機能：**
  LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

この中で本機は、BSデジタル放送にて使用される32kHzから48kHzまでのサンプリング周波数と、LCプロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大5.1chのデータに対応します。

※ MPEGによる音声規格は他にLayer-1、2、3などがありますが、それらとAACの間に互換性はありません。本機はその中で先に述べたAACの再生に対応します。

■ AACに関する米国パテントナンバー

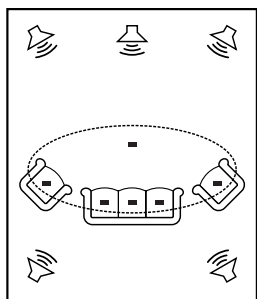
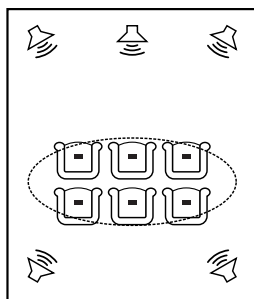
08/937,950	5,481,614
5848391	5,592,584
5,291,557	5,781,888
5,451,954	08/039,478
5 400 433	08/211,547
5,222,189	5,703,999
5,357,594	08/557,046
5 752 225	08/894,844
5,394,473	5,299,238
5,583,962	5,299,239
5,274,740	5,299,240
5,633,981	5,197,087
5 297 236	5,490,170
4,914,701	5,264,846
5,235,671	5,268,685
07/640,550	5,375,189
5,579,430	5,581,654
08/678,666	05-183,988
98/03037	5,548,574
97/02875	08/506,729
97/02874	08/576,495
98/03036	5,717,821
5,227,788	08/392,756
5,285,498	

Audyssey MultEQ XTについて

性能の優れたスピーカーを導入しても、一般的なリスニングルームには、その音質を劣化させるような要因がいくつかあります。リスニングルームの音響特性による音質への影響を正しく補正することは、測定器や専用装置、ならびに熟練を必要とします。
音質を劣化させる要因のひとつは、スピーカーからのオーディオ出力と、部屋の壁、床、天井といった大きな平面との相互作用であり、例えば、スピーカーの近くの壁等の表面からの反射や、室内の大きな平行面の間に発生する定在波などがこれにあたります。
この程度は、聴取環境により様々です。特に、複数のリスナーが同時に視聴を楽しむ機会が多いホームシアター環境においては、個人個人のリスニングポイントにおいて生じる部屋の音響特性による音質への影響が異なり、250Hz以下の周波数域では、隣り合った2つの座席で10dBもの音量の違いを呈する場合もあります。このことは、従来のピンポイント的な補正では、リスナーすべてが均質なシアター体験ができないという問題を含んでいます。
この問題に対する解決策は、各スピーカーが部屋の音響特性とどのように相互作用するのかを精密に測定した後、各スピーカーの周波数特性を補正してリスニングルーム全体の音響特性を改善することですが、その変動の程度は座席ごとによって大きく異なりますので、各スピーカーの再生音をリスニングポイントを包括する数ヵ所で正しく測定することが非常に重要となります。1ポイントだけの測定結果だけでは、リスニングルームの音響特性上の問題を正確に捉えることができず、結果として全体のパフォーマンスを損ねる場合もあるためです。ですからこの数ヵ所での測定は、リスナーが一人だけであっても、効果的です。
Audyssey MultEQ XTは、リスニングエリア内の複数のリスナーを対象に、最適なリスニング環境を提供することを目的とした技術であり、複数のリスニングポイントで収集されたテストデータを総合的に分析し、心理音響学に基づいて、リスニングエリア全体の音質を向上するイコライジング処理をおこないます。

Audyssey MultEQ XTは、広いリスニングエリアでの周波数特性上の問題を補正するだけでなく、サラウンドシステムのセットアップを完全に自動化します。まず、何台のスピーカーがアンプに接続されているか、またそれらが、フルレンジ、サテライトまたはサブウーハーかを判別します。サブウーハーが接続されていれば、Audyssey MultEQ XTは各サテライトとサブウーハーとの最適なクロスオーバー周波数を確定します。各スピーカーの極性も自動的にチェックし、他のスピーカーと位相が外れて配線されているものがあればユーザーに知らせます。また、以下に示すように着座位置の中心となるメインリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定し、各スピーカーからのサウンドが同時に到着するように遅延の調整をおこないます。最後に、Audyssey MultEQ XTは各スピーカーの再生レベルを算出し、すべてのレベルが等しくなるようにチャンネルレベルを調整します。
下の2つの図は、2通りの座席配列に対応する、測定時におけるセットアップマイク（付属）設置例を図示しています。それぞれのケースに6つの測定ポイントが示されています。測定ポイント点を増やせばリスニングエリアのサンプリングの精度が向上し、より良い結果が得られます。点線は、Audyssey MultEQ XTによってリスニングルームの音響特性が改善されるエリアをイメージします。セットアップマイク（付属）は、それぞれの測定ポイントで耳の高さと同じ高さになるよう設置してください。

【例 ①】

【例 ②】

Audyssey MULTEQ XT

Audyssey MultEQ XTはAudysseyラボラトリーズの商標です。米国と国内特許出願の20030235318および10/700,220の下で許可されます。米国共同で外国特許審議中。MultEQおよびAudyssey MultEQロゴはAudysseyラボラトリーズ社の商標です。版権所有。

HDCD® (High Definition Compatible Digital ®) デコーダーについて

HDCDは従来のCDフォーマットとの互換性を保ちながら、デジタルレコーディング時に起こる歪みを大幅に低減するエンコーディング・デコーディング技術で、ダイナミックレンジの拡大とハイレゾリューションを実現できます。
通常のCDとHDCD対応CDとを自動的に判別して、それぞれに適応したデジタル処理を行っています。

HDCD

- HDCD®,HDCD®, High Definition Compatible Digital® およびMicrosoft®は、米国 内や他の国におけるマイクロソフト社の登録商標または商標です。HDCDシステムはマイクロソフト社からのライセンスに基づき製造されています。この製品は下記の1つ以上の特許によって保護されています。米国内：5,479,168、5,638,074、5,640,161、5,808,574、5,838,274、5,854,600、5,864,311、5,872,531。オーストラリア国内：669114。その他の特許は出願中。

DENON LINK（DENON Digital Link）について

DENON LINKは、高速伝送素子を用いたバランス伝送タイプのデジタルリンクであり、専用端子を持ったDENONのDVDプレーヤーと１本の専用ケーブルで接続することで、信号劣化の少ない高速・高品位なデジタルオーディオ伝送を可能にし、高音質再生を実現するDENON独自のデジタルインターフェースです。DVD-Audioの192kHz/24bitの2chデジタル信号やPCMによるマルチチャンネル信号などのデジタル伝送を実現します。また、DENON LINK 3rd Edition搭載のプレーヤーを接続することにより、スーパーオーディオCDのオーディオコンテンツをフルスペックでデジタル伝送することが可能です。

AL24 Processing Plus

AL24 Processing Plusは、DVD規格の最高スペックであるDVD-Audioのサンプリング周波数192kHzにも対応するアナログ波形再現技術で、その音が自然界に存在したはずのアナログ波形に近付け、ホールに吸込まれるような残響音などの小音量時の音楽再生能力を高めます。
本機では、全チャンネルに採用しています。

HDMIについて

HDMIとは、High Definition Multimedia Interfaceの略です。PC用ディスプレイなどで使用されているDVI（Digital Visual Interface）をベースに、民生機器用に機能を最適化した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格です。非圧縮のデジタル映像と、マルチチャンネルオーディオの転送が1つのコネクタでおこなえるため、映像と音声を別々のケーブルで接続する必要がなくコネクタの小型化が可能となりました。また、DVIと同様にデジタル画像信号の暗号化方式である著作権保護技術のHDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）にも対応しています。

“ HDMI ”“ HDMI ” および “ High-Definition Multimedia Interface ” はHDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

Windows Media Connectについて

マイクロソフト社が2004年10月から無料で提供しているメディアサーバです。
どのような音楽ジュークボックスでも動作しますが、Windowsメディアプレーヤー Ver.10に最適化されています。
Windowsメディアプレーヤー Ver.10のようなジュークボックスソフトウェアで作成されたプレイリストやWMA、DRM WMA、MP3、WAVファイルなどが再生可能です。

■ Windows Media Connectをインストールするための説明

1.Windows XPサービスパック2のインストールが終了していない場合は、マイクロソフト社から無料のダウンロードをおこなうか、Windowsアップデイトインストーラーを経由しておこないます。
2.マイクロソフト社から直接、またはWindowsアップデイトインストーラーを使用して、Windowsメディアプレーヤー Ver.10の最新版をダウンロードします。
3.2004年10月12日から使用可能になったWindows Media Connectをマイクロソフト社から直接、またはWindowsアップデイトインストーラーを使用してダウンロードします。

vTuner

インターネットラジオの有料オンラインコンテンツサービスです。ただし、利用料についてはアップグレード費用に含まれています。
本サービスに関するお問合せは、下記vTunerのサイトまでお願い致します。
vTuner Webサイト: http://www.radiodenon.com

本製品は、Nothing Else Matters Software and BridgeCo の知的財産権により保護されています。当該技術の本製品以外での使用または配布は、Nothing Else Matters Software and BridgeCo の許諾がない限り禁止されています。

Windows Media DRM

マイクロソフト社が開発した著作権保護技術です。

- PlaysForSureロゴ、Windows Media、Windowsロゴは米国、その他の国で、米国Microsoft Corporationの登録商標または商標になっています。

- コンテンツプロバイダーは、自らのコンテンツ（“セキュアコンテンツ”）の完全性を保護するために、本デバイス（“WM-DRM”）に内蔵されたWindows Media用デジタル権管理技術を使用し、当該コンテンツに対する自らの知的財産権（著作権を含む）が悪用されないようにしています。本デバイスは、セキュアコンテンツを再生するため、WM-DRMソフトウェア（“WM-DRMソフトウェア”）を使用しています。本デバイス内のWM-DRMソフトウェアのセキュリティがあやうくなった場合、セキュアコンテンツの所有者（“セキュアコンテンツオーナー”）は、マイクロソフト社が、セキュアコンテンツをコピー・表示・再生する新たなライセンスを得るWM-DRMソフトウェアの権利を取り消すよう要請することができます。この取り消しは、保護されていないコンテンツを再生するWM-DRMソフトウェアの能力には影響がありません。インターネットまたはパソコンからセキュアコンテンツのライセンスをダウンロードするときはいつも、取り消されたWM-DRMソフトウェアのリストがデバイスに送られます。マイクロソフト社は、セキュアコンテンツオーナーに代わって、当該ライセンスとともに、取り消されたWM-DRMソフトウェアのリストをデバイスにダウンロードすることができます。

《その他について》

サラウンドモードとパラメーター 一覧表

サラウンドモード	チャンネル出力					パラメーター　（　）内は初期値									
	FRONT L/R	CENTER	SURROUND L/R	SURROUND BACK L/R	SUB-WOOFER	D. COMP *1	LFE *2	AFDM *1	SB CH OUT	TONE CONTROL	CINEMA EQ.	MODE	ROOM SIZE	EFFECT LEVEL	Dolby Digital NIGHT mode
PURE DIRECT, DIRECT	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)
DSD DIRECT	○	×	×	×	◎	×	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×	×	×
DSD MULTI DIRECT	○	◎	◎	◎	◎	×	○ (0 dB)	×	○	×	×	×	×	×	×
MULTI CH DIRECT	○	◎	◎	◎	◎	×	○ (0 dB)	×	○	×	×	×	×	×	×
STEREO	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	○ (0 dB)	×	×	×	×	○ (OFF)
EXT.IN	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎	×	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	×	×	×	×	×
WIDE SCREEN	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	○ (ON, 10)	○ (OFF)
DOLBY PRO LOGICⅡx	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (0 dB)	○ (注3)	○ (CINEMA)	×	×	○ (OFF)
DOLBY PRO LOGICⅡ	○	◎	×	◎	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (0 dB)	○ (注4)	○ (CINEMA)	×	×	○ (OFF)
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (0 dB)	○ (注3)	○ (CINEMA)	×	×	○ (OFF)
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	×	○ (OFF)
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	×	×
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○ (ON)	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	×	○ (OFF)
7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	×	×	×	×	○ (OFF)
SUPER STADIUM	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (注1)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (注2)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)
CLASSIC CONCERT	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○	○ (0 dB)	×	×	×	×	○ (OFF)
VIRTUAL	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	○ (0 dB)	×	×	×	×	○ (OFF)

○：信号有り
×：信号無し
◎：スピーカーコンフィグレーションの設定により、ON/OFF可能

○　:制御可能
×　:制御不可能
注1 :BASS +6 dB, TREBLE 0 dB
注2 :BASS +6 dB, TREBLE +4 dB
注3 :CINEMAモードのみ
注4 :CINEMA, PLモードのみ
*1 :ドルビーデジタルおよびDTS信号再生時。
*2 :ドルビーデジタル、DTS、DVDオーディオおよびスーパーオーディオCD再生時。

《その他について》

モード	パラメーター　　　（　）内は初期値						
	DELAY TIME	SUBWOOFER ON/OFF	PRO LOGICⅡ/Ⅱx MUSIC MODEのみ			NEO:6 MUSIC MODEのみ	EXT. IN
			PANORAMA	DIMENSION	CENTER WIDTH	CENTER IMAGE	SW ATT
PURE DIRECT, DIRECT	×	○	×	×	×	×	×
DSD DIRECT	×	○	×	×	×	×	×
DSD MULTI DIRECT	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH DIRECT	×	×	×	×	×	×	×
STEREO	×	×	×	×	×	×	×
EXT.IN	×	×	×	×	×	×	○
MULTI CH IN	×	×	×	×	×	×	×
WIDE SCREEN	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGICⅡx	×	×	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×
DOLBY PRO LOGICⅡ	×	×	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×
DTS NEO:6	×	×	×	×	×	○ (0.3)	×
DOLBY DIGITAL	×	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND	×	×	×	×	×	×	×
MPEG2 AAC	×	×	×	×	×	×	×
7CH STEREO	×	×	×	×	×	×	×
SUPER STADIUM	×	×	×	×	×	×	×
ROCK ARENA	×	×	×	×	×	×	×
JAZZ CLUB	×	×	×	×	×	×	×
CLASSIC CONCERT	×	×	×	×	×	×	×
MONO MOVIE	×	×	×	×	×	×	×
VIDEO GAME	×	×	×	×	×	×	×
MATRIX	○ (30 msec)	×	×	×	×	×	×
VIRTUAL	×	×	×	×	×	×	×

○：信号有り
×：信号無し

○：制御可能
×：制御不可能

■ 入力信号に対するサラウンドモード表示

ボタン		入力信号																		
				DTS				DOLBY DIGITAL					AAC			DVD-AUDIO			Super Audio CD	
サラウンドモード	(注)	ANALOG	リニアPCM	DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL (5.1ch)	DOLBY DIGITAL (3,4,5ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC(2ch)	AAC (1+1ch)	DVD-Audio (multi ch)	DVD-Audio (2ch)	176.4/192kHz	DSD (multi ch)	DSD (2ch)
STANDARD																				
DTS SURROUND																				
DTS ES DSCRT6.1	*1	×	×	● ◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES MTRX6.1	*1	×	×	×	● ◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND		×	×	○	○	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS 96/24		×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + PLIIx CINEMA	*2	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + PLIIx MUSIC	*1	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + NEO:6	*1	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS NEO:6 CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	×	○
DTS NEO:6 MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	×	○
DOLBY SURROUND																				
DOLBY DIGITAL EX	*1	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL		×	×	×	×	×	×	○	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL+PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	● ◎	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL+PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGICIIx CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	●	×	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGICIIx MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGICIIx GAME		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGICII CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGICII MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGICII GAME		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	×	○
AAC																				
AAC + Dolby EX	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×
AAC + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
AAC + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
MPEG2 _AAC		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	●	×	×	×	×	×
MULTI CH IN																				
MULTI CH IN		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	●	×
MULTI IN + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
MULTI IN + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×

● ： 初期状態で選ばれるモード
◎ ： AFDM ONのときに固定されるモード
○ ： 選択可能なモード
× ： 選択不可能なモード
（注） *1：サラウンドバックスピーカーを『None』に設定している場合は、選択できません。
*2：サラウンドバックスピーカーを『1spkr』または『None』に設定している場合は、選択できません。

《その他について》

ボタン		入力信号																		
				DTS				DOLBY DIGITAL					AAC			DVD-AUDIO			Super Audio CD	
サラウンドモード	(注)	ANALOG	リニアPCM	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL (5.1ch)	DOLBY DIGITAL (3,4,5ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC(2ch)	AAC (1+1ch)	DVD-Audio (multi ch)	DVD-Audio (2ch)	176.4/192kHz	DSD (multi ch)	DSD (2ch)
DIRECT																				
DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×
DSD DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
DSD MULTI DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
MULTI CH DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
M DIRECT + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
M DIRECT + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
PURE DIRECT																				
PURE DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×
DSD PURE DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
DSD MULTI PURE		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
MULTI CH PURE DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
M PURE D + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
M PURE D + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
DSP SIMULATION																				
7CH STEREO	*3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
WIDE SCREEN		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
SUPER STADIUM		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
ROCK ARENA		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
JAZZ CLUB		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
CLASSIC CONCERT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
MONO MOVIE		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
VIDEO GAME		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
MATRIX		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
VIRTUAL		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
STEREO																				
STEREO		●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	●

● ： 初期状態で選ばれるモード
○ ： 選択可能なモード
× ： 選択不可能なモード
（注） *1 : サラウンドバックスピーカーを『None』に設定している場合は、選択できません。
*2 : サラウンドバックスピーカーを『1spkr』または『None』に設定している場合は、選択できません。
*3 : サラウンドバックスピーカーを『None』に設定している場合は、" 5CH STEREO " と表示されます。

《その他について》

映像入力信号とモニター出力の関係

ビデオコンバート	入力信号				モニター出力			
	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO
ON	×	×	×	×	×	×	×	×
	×	×	×	○	VIDEO	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	×	×	○	×	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	×	○	○	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (1080p)	×	×	×	COMPONENT	×	×
	×	○ (480p ~ 720p)	×	×	COMPONENT	COMPONENT	×	×
	×	○ (480i/576i)	×	×	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	×	○ (1080p)	×	○	VIDEO	COMPONENT ＊1	VIDEO	VIDEO
	×	○ (480p ~ 720p)	×	○	COMPONENT ＊1	COMPONENT ＊1	× ＊3	VIDEO
	×	○ (480i/576i)	×	○	COMPONENT ＊1	COMPONENT ＊1	COMPONENT	VIDEO
	×	○ (1080p)	○	×	S-VIDEO	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480p ~ 720p)	○	×	COMPONENT ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480i/576i)	○	×	COMPONENT ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (1080p)	○	○	S-VIDEO	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480p ~ 720p)	○	○	COMPONENT ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480i/576i)	○	○	COMPONENT ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	×	×	×	HDMI	×	×	×
	○	×	×	○	HDMI ＊1	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	○	×	○	×	HDMI ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	×	○	○	HDMI ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i/576i以外)	×	×	HDMI	COMPONENT	×	×
	○	○ (480i/576i)	×	×	HDMI	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	○	○ (1080p)	×	○	HDMI ＊1	COMPONENT ＊1	VIDEO	VIDEO
	○	○ (480p ~ 720p)	×	○	HDMI ＊1	COMPONENT ＊1	× ＊3	VIDEO
	○	○ (480i/576i)	×	○	HDMI ＊1	COMPONENT ＊1	COMPONENT	VIDEO
	○	○ (480i/576i以外)	○	×	HDMI ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i/576i)	○	×	HDMI ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i/576i以外)	○	○	HDMI ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i/576i)	○	○	HDMI ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO

○：信号あり
×：信号なし

480p ~ 720p : 480p/576p/1080i/720p

× ：モニター出力しない
＊1 ：OSD表示はVIDEO信号にスーパーインポーズして出力
＊2 ：OSD表示はS-VIDEO信号にスーパーインポーズして出力
＊3 ：“ Analog to HDMI convert ” 機能を『OFF』に設定しているときはVIDEO信号を出力
COMPONENT ：**SYSTEM SETUP**、**SURROUND PARAMETER** および **ON SCREEN** ボタン操作時のみOSD表示
HDMI ：“ Analog to HDMI convert ” 機能を『ON』に設定しているときのみOSD表示
（網掛け）：“ Analog to HDMI convert ” 機能を『OFF』に設定しているときはモニター出力しない

メモ

- 入力信号が1080i/720pの時は、HDMIへのアップコンバートはそのままの解像度で出力されます。ただし1080pの解像度には対応しません。
- 入力信号がビデオ、Sビデオおよびコンポーネント（480i/480p/576i/576p）の時はHDMIへのアップコンバートは“ HDMI Out Setup ” の “ Resolution ” の設定に従って出力します。

《その他について》

ビデオコンバート	S-VIDEO モニターアウト	入力信号				モニター出力			
		HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO
OFF	–	×	×	×	×	×	×	×	×
	–	×	×	×	○	×	×	×	VIDEO
	–	×	×	○	×	×	×	S-VIDEO	×
	使用	×	×	○	○	×	×	S-VIDEO	VIDEO ＊2
	未使用	×	×	○	○	×	×	–	VIDEO
	–	×	○	×	×	×	COMPONENT	×	×
	–	×	○	×	○	×	COMPONENT ＊1	×	VIDEO
	–	×	○	○	×	×	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	×
	使用	×	○	○	○	×	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	VIDEO ＊2
	未使用	×	○	○	○	×	COMPONENT ＊1	–	VIDEO
	–	○	×	×	×	HDMI	×	×	×
	–	○	×	×	○	HDMI	×	×	VIDEO
	–	○	×	○	×	HDMI	×	S-VIDEO	×
	使用	○	×	○	○	HDMI	×	S-VIDEO	VIDEO ＊2
	未使用	○	×	○	○	HDMI	×	–	VIDEO
	–	○	○	×	×	HDMI	COMPONENT	×	×
	–	○	○	×	○	HDMI	COMPONENT ＊1	×	VIDEO
	–	○	○	○	×	HDMI	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	×
	使用	○	○	○	○	HDMI	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	VIDEO ＊2
	未使用	○	○	○	○	HDMI	COMPONENT ＊1	–	VIDEO

○：信号あり
×：信号なし

× ： モニター出力しない
＊1 ： OSD表示はVIDEO信号にスーパーインポーズして出力
＊2 ： OSD表示はS-VIDEO信号にスーパーインポーズして出力
COMPONENT ：**SYSTEM SETUP**、**SURROUND PARAMETER** および **ON SCREEN** ボタン操作時のみOSD表示
HDMI ：“ Analog to HDMI convert ” 機能を『ON』に設定しているときのみOSD表示

保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より2年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

※ 修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

6 この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

7 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。

※ 当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。

詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

《その他について》

主な仕様

■ オーディオ部

● パワーアンプ部

定格出力：
フロント：
130W + 130W
（負荷8Ω、20Hz～20kHz T.H.D　0.05%）
170W + 170W
（負荷6Ω、1kHz、T.H.D　0.7%）
センター：
130W
（負荷8Ω、20Hz～20kHz T.H.D　0.05%）
170W
（負荷6Ω、1kHz、T.H.D　0.7%）
サラウンド：
130W + 130W
（負荷8Ω、20Hz～20kHz T.H.D　0.05%）
170W + 170W
（負荷6Ω、1kHz、T.H.D　0.7%）
サラウンドバック：
130W + 130W
（負荷8Ω、20Hz～20kHz T.H.D　0.05%）
170W + 170W
（負荷6Ω、1kHz、T.H.D　0.7%）

実用最大出力： 190W＋190W（負荷6Ω、JEITA）

ダイナミックパワー： 150W×2チャンネル（負荷8Ω）
220W×2チャンネル（負荷4Ω）

出力端子：
フロント/センター/サラウンドバック：　6～16Ω
サラウンド：　AまたはB　6～16Ω
A ＋ B　8～16Ω

● プリアンプ部

入力感度/
入力インピーダンス： 200mV/47kΩ

周波数特性： 10Hz～100kHz：＋0、－3dB（ダイレクトモード時）

S/N比： 102dB（JIS-A）（ダイレクトモード時）

ひずみ率： 0.005%（20Hz～20kHz）（ダイレクトモード時）

定格力： 1.2V

● デジタル部

D/A出力：
定格出力：2V（0dB再生時）
全高調波ひずみ率：0.008%
S/N比：102dB
ダイナミックレンジ：100dB

デジタル入力： フォーマット：デジタルオーディオインターフェース

● フォノ・イコライザー部
（PHONO入力　REC OUT）

入力感度： 2.5mV

RIAA偏差： 20Hz～20kHz：±1dB

S/N比： 74dB（JIS-A、5mV入力時）

ひずみ率： 0.03%（1kHz、3V出力時）

定格出力/最大出力： 150mV/8V

■ ビデオ部

● 標準映像端子

入出力レベル/
インピーダンス： 1Vp-p/75Ω

周波数特性： 5Hz～10MHz：＋0、－3dB

● S映像端子

入出力レベル/
インピーダンス：
Y（輝度）信号：　1Vp-p/75Ω
C（色）信号：　0.286Vp-p/75Ω

周波数特性： 5Hz～10MHz：　＋0、－3dB

● 色差（コンポーネント）映像端子

入出力レベル/
インピーダンス：
Y（輝度）信号：　1Vp-p/75Ω
PB/CB（青色）信号：　0.7Vp-p/75Ω
PR/CR（赤色）信号：　0.7Vp-p/75Ω

周波数特性： 5Hz～100MHz：　＋0、－3dB

■ 総合

電源： AC100V　50/60Hz

消費電力： 320W（電気用品安全法による）
1W未満（スタンバイ時）

最大外形寸法： 434（幅）×171（高さ）×429（奥行き）mm
（フット・つまみ・端子を含む）

質量： 18.8kg

■ リモコン（RC-1024）

乾電池： LR6（単3形）乾電池2本使用

外形寸法： 63（幅）×238（高さ）×31（奥行き）mm

質量： 190g（乾電池を含む）

※（JEITA）：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

プリセットコード一覧表

DVD

Brand	Code
3D Lab	40539
Acoustic Solutions	40713, 40730, 41242
Advent	41016
AEG	40770, 40790
AFK	41051
Afreey	40698
Aim	40699, 40778, 40833, 41165
Airis	41250
Aiwa	40533, 40641
Akai	40690, 40705, 40770, 40790, 40884, 40899, 41089, 41115
Akira	40699
Akura	41051
Alba	40539, 40672, 40695, 40699, 40713, 40717, 40730, 40783, 41051
Alco	40790
Allegro	40869
Amitech	40770, 40784, 40850
Amphion Media Works	40872
Amstrad	40713
AMW	40872
Ansonic	40774, 40831
Apex	40672, 41061
Apex Digital	40672, 40717, 40755, 40794, 40796, 40797, 40830, 41004, 41020, 41056, 41061, 41100
Arianet	40770
Aspire Digital	41168, 41407
Audiosonic	40690, 41265
Audiovox	40717, 40790, 41041, 41071, 41072, 41121, 41122
Awa	40730, 40872
Axion	40730, 41071, 41072
B & K	40655, 40662
Basic Line	40713
Baze	41165
Bellagio	41004
Black Diamond	40698, 40713, 40833, 40884
Blaupunkt	40717
Blue Parade	40571
Blue Sky	40651, 40672, 40695, 40713, 40769, 40778, 40804
Boghe	41004
Boman	40783
Brainwave	40770, 41115
Brandt	40503, 40651
Broksonic	40695, 40868
Bush	40516, 40672, 40690, 40695, 40699, 40713, 40717, 40730, 40778, 40831, 40833, 40884, 41051, 41165
C-Tech	40798
Cambridge Soundworks	40690
Cat	40699, 41087
CAVS	41057
CCE	40730
Celestial	41020
Centrex	40672, 41004
Centrum	40713
CGV	41115
Changhong	40627, 41061
Cinea	40831
Cineral	40730
Cinetec	40713
cineULTRA	40699
CineVision	40833, 40869, 40876
Citizen	41277
Classic	40730, 41730
Clatronic	40672, 41165
Clayton	40713
Coby	40730, 40770, 40778, 40852, 41086, 41107, 41115, 41165, 41177, 41351
Compacks	40826, 41265
Conia	40516, 40672, 40798, 40852, 41004
Continental Edison	40768, 40831
Craig	40831
Crown	40690, 40769, 40770, 41115
Curtis Mathes	41087
Cybercom	40831
CyberHome	40816, 40874, 41023, 41024, 41117, 41129
Cydectin	41074
Cytron	40651, 40774
D-Vision	41115
Daenyx	40872
Daewoo	40705, 40770, 40784, 40833, 40869, 40872, 41169, 41172, 41234, 41242
Daewoo International	40872
Dansai	40770, 40783, 41115
Dantax	40539, 40713, 40790, 41089
Daytek	40872
Dayton	40872
DCE	40831
DEC	40774, 40778
Decca	40770, 41115
Denon	40490, 40634, ***[41470]**, 41634
Denver	40699, 40778, 41107, 41165, 41353, 41359
Desav	40770
Desay	40800, 41407
Diamond	40651, 40768, 40790
Dick Smith Electronics	40833, 41730
Digihome	40713
digiRED	40717
Digitor	40651, 40690
Digitrex	40672, 41056, 41100
DIGIXmedia	40826
DiK	40774, 40831

Disney	40675, 41270
DiViDo	40705
DK Digital	40831
DMTech	40783
Dragon	40831
DSE	40833, 41730
Dual	40651, 40713, 40730, 40783, 40790, 40831, 41068, 41085
Durabrand	40713, 40831, 41003, 41127
DVD2000	40521
DVX	40768
ECC	40730
Electrohome	40770, 40784
Elfunk	40850
Elin	40770
Ellion	40850
Elta	40672, 40690, 40770, 40850, 41051, 41115
Emerson	40591, 40675, 40705, 40816, 40821, 41268
Encore	40698
Enterprise	40591
Enzer	40770, 40784
EuroLine	41115
Fenner	40651, 40769
Ferguson	40651
Finlux	40591, 40672, 40741, 40770, 40783, 41165
Fintec	40784, 41169
Firstline	40651, 40713, 40869
Fisher	40670
Funai	40675, 40695, 41334
Gateway	41073, 41077, 41158
GE	40522, 40717, 40815
General Electric	40717
Global Solutions	40768
Go Video	40715, 40741, 40744, 40783, 40833, 40869, 41044, 41075, 41099, 41144, 41158, 41304, 41730
Go Vision	41071, 41072
GoldStar	40591, 40741
Goodmans	40651, 40690, 40713, 40730, 40783, 40790, 40833, 41004, 41730
GPX	40699, 40769
Gradiente	40651
Gran Prix	40831
Grandin	40672, 40713
Greenhill	40717
Grundig	40539, 40651, 40670, 40695, 40705, 40713, 40790, 41004, 41730
Grunkel	40770
GVG	41169
H & B	40850
H&B	40713, 40850
Hanseatic	40741, 40783
Harman/Kardon	40582, 40702
HDT	40705
Hen	40713
Hher	40651, 40713, 40826, 40831
Hitachi	40573, 40664, 40695, 40713, 41247
Hiteker	40672, 40872
Home Electronics	40730
Home Tech	41107
Humax	40646
Hyundai	40768, 40783, 40850
I-Lo	41348
iLo	41348
Initial	40717, 40839
Integra	40571, 40627, 41634
IRT	40783
ISP	40695
Jaton	41078
JBL	40702
Jeken	40699
Jensen	41016
Jepssen	41250
JMB	40695
JNC	40672
JSI	41423
JVC	40503, 40539, 40558, 40623, 40867, 41164
jWin	41049, 41051
Karcher	40783
Kawasaki	40790
Kendo	40699, 40713, 40831
Kennex	40713, 40770
Kenwood	40490, 40534
Kiiro	40770
KLH	40717, 40790, 41020, 41149
KLH Digital	40717
Konka	40711, 40719, 40720, 40721
Koss	40651, 40896, 41423
Landel	40826
Lasonic	40798, 41173
Lawson	40768
Lenco	40651, 40699, 40713, 40770, 40774, 40778, 41165
Lenoxx	40690, 41127
Lexia	40699, 40768
LG	40591, 40741, 40790, 40801, 40869, 40036
Lifetec	40651, 40831
Limit	40768
LiteOn	41058, 41158, 41416, 41440
Loewe	40511, 40539, 40741
Logix	40705, 40783
Lumatron	40705, 40741, 40833, 41115
Lunatron	40741
Luxman	40573
Luxor	40713, 41004, 41730
Magnasonic	40651, 40769
Magnavox	40503, 40539, 40646, 40675, 40713, 40821
Magnex	41165

Brand	Code
Malata	40782, 41159
Manhattan	40705, 40713
Marantz	40539
Mark	40713
Marquant	40770
Matsui	40651, 40672, 40695, 40713, 40884, 41004, 41730
Maxim	40713, 40872
MBO	40690, 40730, 41730
MDS	40778
Mecotek	40770
Medion	40630, 40651, 40770, 40774, 40783, 40820, 40831
MEI	40790
Memorex	40695, 40831, 41270
Metronic	40690
Metz	40525, 40571, 40713
Micromedia	40503, 40539
Micromega	40539
Microsoft	40522
Microstar	40831
Minato	40752
Minax	40713
Minerva	40705
Minoka	40770
Minowa	41165
Mintek	40717, 40839
Mirror	40752
Mitsubishi	40521, 40713, 41403, 41521
Mizuda	40770
Momitsu	41082
MTlogic	41265
Mustek	40730, 41730
Mx Onda	40651
NAD	40591, 40692, 40741
Naiko	40770, 41004
Narita	41115
NEC	40591, 40692, 40785, 40869, 41404
Nesa	40717
Nevir	40770, 40831
NextBase	40826
NexxTech	41402
Nintaus	41051
Norcent	40872, 41003, 41107, 41265
Nordmende	40774, 40831
Noriko	40752
Nu-Tec	40516
Okano	40752
Olidata	40672
Omni	40690, 40698, 40778, 40833
Onix	40672, 40852
Onkyo	40503, 40627, 40792
Oopla	41158
Optimus	40525
OptoMedia Electronics	40896
Orion	40695
Oritron	40651
Ormond	40713
Otic	40826
P&B	40770
Pacific	40695, 40713, 40768, 40774, 40790, 40804, 40831
Packard Bell	40770
Palladium	40695
Palsonic	40672, 40852
Panasonic	40490, 40503, 40703, 41362, 41462, 41490, 41762
Panda	40717
Philco	40690, 40790
Philips	40503, 40539, 40646, 40675, 40854, 41158, 41260, 41267, 41354
Phonotrend	40672, 40699, 41165
Pioneer	40490, 40525, 40571, 40631
Plu2	40850
Pointer	40784
Polaroid	41020, 41061, 41086
Polk Audio	40539
Portland	40770
Powerpoint	40872
Powtek	40852
Prima	41016
Prinz	40831
Prism	40705
Proline	40651, 40672, 40833, 41004
Proscan	40522
Proson	40713
Prosonic	40752
ProVision	40699, 40778
Qwestar	40651
Radionette	40741, 40869
RCA	40522, 40571, 40717, 40769, 40790, 40822, 41022, 41132
REC	40490
Recco	40698
Red Star	40770, 41003
Reoc	40752, 40768
Resonance	40651
Revoy	40699
Rio	40869
RJTech	41360
Roadstar	40690, 40699, 40713, 40730, 40833, 41051
Ronin	40872
Rotel	40558, 40623
Rowa	40516, 40717, 40823, 40872, 41004
Saba	40651, 40769
Sabaki	40798
Saivod	40831
Sakyno	40768

Salora	40741
Sampo	40698, 40752
Samsung	40490, 40573, 40744, 40820, 40899, 41044, 41075
Sansui	40695, 40768, 40784
Sanyo	40670, 40695, 40873
Scan	40705, 40850
ScanMagic	40730
Schaub Lorenz	40770, 41115
Schneider	40539, 40651, 40705, 40713, 40774, 40783, 40790, 40804, 40831
Schwaiger	40752
Scientific Labs	40768, 40798
Scott	40651, 40672, 40797
SEG	40713, 40768, 40798, 40872, 40884
Semp	40503
Sensory Science	41158
Shanghai	40672
Sharp	40630, 40675, 40713, 40752, 41256
Sharper Image	41117
Sherwood	40633, 40717, 40741, 40770, 41043, 41077
Shinco	40717
Shinsonic	40533, 40839
Silva	40831
Silva Schneider	40831
Singer	40690, 40768
Skantic	40539, 40713, 41003
Skymaster	40730, 40768
Slim Art	40784
Slim Devices	40533
SM Electronic	40690, 40730, 40768
Smart	40705, 40713
Sonai	40755
Sonashi	40831
Sonic Blue	40783, 40869, 41099
Sony	40533, 40573, 40864, 41033, 41431, 41533

Soundmaster	40768
Soundmax	40768
Soundwave	40783
Sova	41122
Spectra	40872
Standard	40651, 40768, 40831
Star Cluster	40768
Strong	40713
Sungale	41074
Sunkai	40770, 40850
Sunstech	40831
Superscan	40821
Supervision	40768
SVA	40672, 40717, 40860, 41105
Sylvania	40630, 40675, 40821, 41268
Symphonic	40675
Synn	40768
Tandberg	40713
Tatung	40770
Teac	40516, 40571, 40692, 40695, 40717, 40741, 40768, 40790, 40809, 40833, 41051
Technics	40490, 40703
Technika	40768, 40770, 40831, 41115, 41165
Technisson	41115
Technosonic	40730, 41051, 41115
Techwood	40692, 40713
Tedelex	40690, 40768, 41004
Telefunken	40770, 40790, 40833
Teletech	40713, 40768
Tensai	40651, 40690, 40770
Terapin	41031
Tevion	40651, 40768, 40798, 40833
Theta Digital	40571
Thomson	40522
Tokai	40698, 40784, 40790
Tokaido	40698

Toshiba	40503, 40695, 41045, 41154
Trans Continens	40826
TRANS-continents	40826, 40831, 40872
Transonic	40672, 40730, 41165
Tredex	40800, 40803, 40804
Trio	40770, 40784
TYT	40705
Umax	40690
United	40672, 40695, 40768, 40826, 40852, 41115, 41165
Universal Multimedia	40768
Universum	40591, 40713, 40741, 40869
Urban Concepts	40503
US Logic	40839
V	41064
Venturer	40790
Vestel	40713
Vieta	40705
VInc	41064, 41226
Vizio	41064, 41226
Vocopro	41027
Voxson	40690, 40730, 40774, 40831
Walkvision	40717
Welkin	40831
Wellington	40713
Wesder	40699
Wharfedale	40698, 40752, 40768, 40790
Wilson	40831
Windsor	40713
Windy Sam	40573
WIZE	41115
Xbox	40522
Xenius	40651, 40790
XLogic	40768, 40798
XMS	40770
Xoro	41173, 41250

Yakumo	41004, 41056
Yamada	40872, 41004, 41056, 41158
Yamaha	40490, 40539, 40545, 40646
Yamakawa	40872
Yukai	40730, 41730
Zenith	40503, 40591, 40741, 40869
Zeus	40784
Zoece	41265

DVDR

Apex Digital	41056
Aspire Digital	41168
Coby	41086
CyberHome	41129
Denon	40490
Dick Smith Electronics	41730
Digitrex	41056
DSE	41730
Funai	40675, 41334
Gateway	41073, 41158
Go Video	40741, 41158, 41304, 41730
iLo	41348
JVC	41164
LG	40741
LiteOn	41158, 41416, 41440
Loewe	40741
Magnavox	40646
Mitsubishi	41403
Mustek	41730
NEC	41404
Panasonic	40490
Philips	40646, 41158
Pioneer	40631
Polaroid	41086
RCA	40522
Samsung	40490
Sensory Science	41158
Sharp	40675
Sony	41033, 41431
Sylvania	40675
Zenith	40741

VCR

ABS	21972
Accent	20072
Admiral	20048, 20209, 20479
Adventura	20000
Adyson	20072
Aiko	20278
Aim	20209, 20278, 20642
Aiwa	20000, 20032, 20037, 20124, 20209, 20315, 20348, 20479
Akai	20037, 20041, 20081, 20175, 20240, 20315, 20348, 20642
Akashi	20072
Akiba	20072
Akura	20072
Alba	20000, 20072, 20081, 20209, 20278, 20315, 20348
Alienware	21972
Allstar	20081
America Action	20278
American High	20035
Amoisonic	20479
Amstrad	20000, 20072, 20278
Anam	20037, 20162, 20226, 20240, 20278
Anam National	20162, 20226, 21562
Anitech	20072
Ansonic	20000
Apelsound	20209
Aristona	20081
ASA	20037, 20081
Asha	20240
Asuka	20037, 20038
Audiosonic	20072, 20278
Audiovox	20037, 20278
Awa	20037, 20043, 20278, 20642
Baird	20000, 20041, 20104
Basic Line	20046, 20072, 20104, 20278
Beaumark	20240
Beko	20104
Bell & Howell	20104
Bestar	20278
Black Diamond	20081, 20642
Black Panther	20278
Blaupunkt	20081, 20162, 20226
Blue Sky	20037, 20072, 20209, 20278, 20348, 20642
Bondstec	20072
Brandt	20041, 20320
Brandt Electronic	20041
Brandt Electronique	20041
Brinkmann	20209, 20348
Broksonic	20002, 20121, 20184, 20209, 20348, 20479, 21479
Bush	20000, 20072, 20081, 20209, 20278, 20315, 20348, 20642
Calix	20037
Canon	20035
Carena	20209
Carrefour	20045
Carver	20081
Casio	20000
Cathay	20278
CCE	20072, 20278
CGE	20000
Changhong	20048, 20081
Cimline	20072
Cineral	20278

Citizen	20037, 20278, 21278
Clatronic	20000, 20072
Colt	20072
Condor	20278
Craig	20037, 20047, 20072, 20240
Crown	20037, 20072, 20278
Curtis Mathes	20035, 20041, 20060, 20162, 21035
Cybernex	20240
CyberPower	21972
Cyrus	20081
Daewoo	20045, 20046, 20104, 20209, 20278, 20642, 21278
Dansai	20072, 20278
Daytron	20278
De Graaf	20042, 20046, 20048, 20081, 20104
Decca	20000, 20067, 20081, 20209, 20348
Deitron	20278
Dell	21972
Denko	20072
Denon	20042
Diamant	20037
Diamond	20209, 20348
Dick Smith Electronics	20642
Digitor	20642
DirecTV	20739
Domland	20209
DSE	20642
Dual	20000, 20041, 20081, 20278, 20348
Dumont	20000, 20081, 20104
Durabrand	20038, 20039
Dynatech	20000
Elbe	20038, 20278
Elcatech	20072
Electrohome	20037
Electrophonic	20037
Elin	20240
Elsay	20072
Elta	20072, 20278
Emerex	20032
Emerson	20000, 20002, 20035, 20037, 20043, 20045, 20072, 20121, 20184, 20209, 20240, 20278, 20294, 20479, 21278, 21479
ESC	20240, 20278
Ferguson	20000, 20041, 20278, 20320
Fidelity	20000, 20072, 20240, 20278, 20432
Finlandia	20000, 20037, 20042, 20043, 20046, 20048, 20081, 20104, 20226
Finlux	20000, 20042, 20081, 20104, 20315
Firstline	20037, 20043, 20045, 20072, 20209, 20278, 20348
Fisher	20046, 20047, 20104
Flint	20209, 20348
Frontech	20072
Fuji	20033, 20035
Fujitsu	20000, 20045
Fujitsu General	20037
Funai	20000, 21333
Galaxis	20278
Garrard	20000
Gateway	21972
GE	20035, 20048, 20060, 20209, 20226, 20240, 20320, 20807, 21035, 21060
GEC	20081
General	20045
General Technic	20348
Genexxa	20104
Gessen	20278
Go Video	20432
GoldHand	20072
GoldStar	20037, 20038, 20209, 20225, 20226, 20348, 21237
Goodmans	20000, 20037, 20072, 20081, 20209, 20278, 20348, 20642
GPX	20037
Gradiente	20000
Graetz	20041, 20104, 20240
Granada	20000, 20037, 20042, 20046, 20048, 20081, 20104, 20226, 20240
Grandin	20000, 20037, 20072, 20209, 20278
Gronic	20104
Grundig	20072, 20081, 20226, 20320, 20347, 20348
Haaz	20348
Hanseatic	20037, 20038, 20081, 20209
Haojie	20240
Harley Davidson	20000
Harman/Kardon	20038, 20081
Harwood	20072
HCM	20072
Headquarter	20046
Hewlett Packard	21972
Hher	20278, 20642
HI-Q	20047
Hinari	20041, 20072, 20240, 20278
Hischito	20045
Hitachi	***[20000]**, 20037, 20041, 20042, 20046, 20081, 20089, 20240, 20040
Hornyphon	20081
Howard Computers	21972
HP	21972
Hughes Network Systems	20042, 20739
Humax	20739
Hush	21972
Hypson	20000, 20037, 20072, 20209, 20278
iBUYPOWER	21972
Imperial	20000
Ingersoll	20209, 20240
Inno Hit	20072, 20432

inotech	20278
Interbuy	20072
Interfunk	20081, 20104
Internal	20278
International	20037, 20278, 20642
Intervision	20000, 20209, 20278
IR	20041, 20042, 20045, 20047, 20072, 20081, 20104, 20209, 20226, 20240, 20348
Irradio	20072, 20081
ITT	20041, 20046, 20104, 20240
ITV	20037, 20278
JBL	20278
Jensen	20041
JMB	20209, 20348
Joyce	20000
JVC	20041, 20045, 20067, 20081, 21008, 21283
Kaisui	20072
Kambrook	20037
Karcher	20081, 20278
KEC	20037, 20278
Kendo	20072, 20209, 20278, 20315, 20348, 20642
Kenwood	20038, 20041, 20067
KIC	20000
Kimari	20047
Kioto	20348
KLH	20072
Kneissel	20037, 20209, 20278, 20348
Kodak	20035, 20037
Kolin	20041, 20043
Kolster	20209
Korpel	20072
Kuba Electronic	20047
Kyoto	20072
Lenco	20278
Leyco	20072
LG	20037, 20038, 20042, 20045, 20209, 21237
Lifetec	20209, 20348
Linksys	21972
Lloyd’s	20000
Loewe	20037, 20081, 20162, 21562
Logik	20072, 20209, 20240
Lux May	20072
Luxor	20043, 20046, 20047, 20048, 20104, 20315
LXI	20037
M Electronic	20000, 20038
Magnasonic	20278, 21278
Magnavox	20000, 20035, 20039, 20081, 20149, 20642, 21781
Magnin	20240
Magnum	20642
Manesth	20045, 20072, 20081, 20209
Marantz	20035, 20038, 20081, 20209
Mark	20000, 20278
Marta	20037
Mastec	20642
Master’s	20278
Matsui	20209, 20240, 20278, 20348
Matsushita	20035, 20162, 20226
Media Center PC	21972
Medion	20209, 20348, 20642
MEI	20035
Melectronic	20000, 20037, 20038
Memorex	20000, 20035, 20037, 20039, 20046, 20047, 20048, 20104, 20162, 20209, 20240, 20348, 20479, 21237
Memphis	20072
Metronic	20081
Metz	20037, 20081, 20162, 20226, 20347, 21562
MGA	20043, 20240
MGN Technology	20240
Micormay	20348
Micromaxx	20209, 20348
Microsoft	21972
Mind	21972
Minolta	20042
Mitsubishi	20000, 20041, 20043, 20048, 20067, 20081, 20642, 20807
Motorola	20035, 20048
MTC	20000, 20240
Multitec	20037
Multitech	20000, 20072, 20278
Murphy	20000
Myryad	20081
NAD	20104
Naiko	20642
National	20162, 20226, 20240
Nebula Electronics	20033
NEC	20035, 20037, 20038, 20041, 20048, 20067, 20104, 20209, 20278
Neckermann	20081
Nesco	20072
Neufunk	20209
Newave	20037
Nikkai	20072, 20278
Nikko	20037
Niveus Media	21972
Noblex	20240
Nokia	20041, 20042, 20046, 20048, 20081, 20104, 20240, 20278, 20315
Nordmende	20041, 20067, 20320
Northgate	21972
Novatronic	20209
Nu-Tec	20209
Oceanic	20000, 20041, 20046, 20048, 20081, 20104
Okano	20072, 20209, 20278, 20315, 20348
Olympus	20035, 20226
Onida	20162
Onimax	20642

Brand	Code
Onkyo	20222
Optimus	20037, 20048, 20104, 20162, 20432, 21062
Orbit	20072
Orion	20002, 20121, 20184, 20209, 20348, 20479, 21479
Osaki	20000, 20037, 20072
Osume	20072
Otake	20209
Otto Versand	20081
Pacific	20000, 20348, 20642
Packard Bell	21972
Palladium	20037, 20041, 20072, 20209, 20315, 20348
Palsonic	20000, 20037, 20072, 20642
Panasonic	20035, 20162, 20225, 20226, 20614, 20616, 21035, 21062, 21308, 21562
Pathe Cinema	20043
Pathe Marconi	20041
Penney	20035, 20037, 20038, 20042, 20240, 21035, 21237
Pentax	20042
Perdio	20000, 20209
Philco	20000, 20035, 20038, 20072, 20209, 20226, 20479
Philips	20000, 20035, 20081, 20226, 20616, 20618, 20739
Phoenix	20278
Phonola	20081
Pilot	20037
Pioneer	20042, 20067, 20081, 20162, 21562
Polk Audio	20081
Portland	20278
Prinz	20000
Profitronic	20081, 20240
Proline	20000, 20278, 20320, 20642
Proscan	20060, 21060
Prosonic	20278
Protec	20072
Protech	20081, 20278
ProVision	20278
Pulsar	20039
Pye	20000, 20081
Qisheng	20060
Quarter	20046
Quartz	20046
Quasar	20035, 20162, 20278, 21035
Quelle	20081
Radialva	20037, 20048
Radiola	20081
Radionette	20037
RadioShack	20000, 20037
Radix	20037
Randex	20037
Rank	20041
Rank Arena	20041
RCA	20000, 20035, 20042, 20048, 20060, 20149, 20226, 20240, 20320, 20432, 20807, 20880, 21035, 21060
Realistic	20000, 20035, 20037, 20046, 20047, 20048, 20104
Reoc	20348
ReplayTV	20614, 20616
Rex	20041
RFT	20072
Ricavision	21972
Roadstar	20037, 20072, 20081, 20240, 20278
Royal	20072
Runco	20039
Saba	20041, 20067, 20278, 20320
Saisho	20209, 20348
Salora	20043, 20046, 20104
Sampo	20037, 20048
Samsung	20045, 20240, 20432, 20739, 21014
Sanky	20039, 20048
Sansui	20000, 20041, 20067, 20072, 20209, 20348, 20479, 21479
Sanyo	20046, 20047, 20048, 20067, 20104, 20159, 20209, 20240, 20348, 21330
Saville	20240, 20278
SBR	20081
Schaub Lorenz	20000, 20041, 20104, 20315, 20348
Schneider	20000, 20037, 20042, 20072, 20081, 20240, 20278, 20348,20642
Scott	20043, 20045, 20121, 20184
Sears	20000, 20035, 20037, 20042, 20046, 20047, 20104, 21237
Seaway	20278
SEG	20072, 20081, 20240, 20278, 20642
SEI	20081
Seleco	20037, 20041
Semp	20045
Sentra	20072
Serie Dorada	20037
Sharp	20037, 20048, 20209, 20807
Shinco	20000
Shintom	20072, 20104
Shivaki	20037
Shogun	20240
Siemens	20037, 20046, 20081, 20104, 20320, 20347
Siera	20081
Silva	20037
Silver	20278
Singer	20045, 20072, 20348
Sinudyne	20081, 20209
Smaragd	20348
Sonic Blue	20614, 20616
Soniko	20072
Sonitron	20104
Sonneclair	20072

Sonolor	20046
Sontec	20037
Sonwa	20642
Sony	20000, 20032, 20033, 20035, 20636, 21232, 21295, 21972
Soundwave	20037, 20209, 20348
Ssangyong	20072
Stack 9	21972
Starlite	20037
Stern	20278
STS	20042
Sunkai	20209, 20278, 20348
Sunstar	20000
Suntronic	20000
Sunwood	20072
Supra	20037, 20240, 20278, 20348
Sylvania	20000, 20035, 20043, 20081, 21781
Symphonic	20000
Systemax	21972
T+A	20162
Tagar Systems	21972
Taisho	20209
Tandberg	20278
Tandy	20000, 20104
Tashiko	20000, 20037, 20048, 20081, 20240
Tatung	20000, 20041, 20043, 20045, 20048, 20067, 20081, 20209, 20348
Tchibo	20348
TCM	20348
Teac	20000, 20037, 20041, 20072, 20278, 20642
Tec	20072
Tech Line	20072
Technics	20035, 20081, 20162, 20226
TechniSat	20209
Teco	20035, 20037, 20038, 20041, 20048
Tedelex	20037, 20209, 20348, 20642
Teknika	20000, 20035, 20037
Teleavia	20041
Telefunken	20041, 20067, 20209, 20240, 20278, 20320, 20642
Telestar	20037
Teletech	20000, 20072, 20278
Tenosal	20072
Tensai	20000, 20072, 20278
Tevion	20209, 20348, 20642
Texet	20278
Thomas	20000
Thomson	20041, 20060, 20067, 20278, 20320
Thorn	20037, 20041, 20104
Tivo	20618, 20636, 20739, 21503
TMK	20240
Tokai	20037, 20072
Topline	20348
Toshiba	20041, 20042, 20043, 20045, 20067, 20081, 20209, 20432, 20845, 21008, 21145, 21289, 21323, 21503, 21972
Totevision	20037, 20240
Touch	21972
Towada	20072
Tradex	20081
Triad	20278
Uher	20240
Ultravox	20278
Unitech	20240
United	20348
Universal	20209
Universum	20000, 20037, 20081, 20104, 20209, 20240, 20315, 20348
Vector	20045
Vector Research	20038
Victor	20041, 20067, 21283
Video Concepts	20045
Video Technic	20000
Videomagic	20037
Videosonic	20240
Viewsonic	21972
Villain	20000
Voodoo	21972
Wards	20000, 20033, 20035, 20038, 20039, 20042, 20045, 20046, 20047, 20048, 20060, 20072, 20081, 20149, 20240
Watson	20081, 20642
Wharfedale	20642
White Westinghouse	20072, 20209, 20278
World	20348
XR-1000	20000, 20035, 20072
Yamaha	20038, 20041
Yamishi	20072, 20278
Yokan	20072
Yoko	20037, 20240
Yoshita	20072
Zenith	20000, 20033, 20039, 20209, 20479, 21479
ZT Group	21972
ZX	20209, 20348

TV

888	10264, 10412
A-Mark	10003
A.R. Systems	10374, 10455
Abex	10032
Accent	10009
Acura	10009
Addison	10092, 10108, 10653
Admiral	10087, 10093, 10163, 10264, 10363, 10463
Advent	10761, 10783, 10815, 10817, 10842
Adventura	10046
Adyson	10032, 10216, 10217
AEA	10037

AEG	10606
Agashi	10216, 10217
AGB	10516
Agef	10087
Aiko	10009, 10037, 10092, 10216, 10217, 10264
Aim	10045, 10208, 10264, 10339, 10374, 10412, 10455, 10606, 10706, 10753, 10805
Aiwa	10163, 10701, 10705, 10848
Akai	10009, 10030, 10035, 10037, 10060, 10072, 10163, 10178, 10191, 10208, 10216, 10217, 10218, 10264, 10361, 10363, 10371, 10377, 10412, 10433, 10473, 10480, 10516, 10548, 10556, 10581, 10602, 10606, 10631, 10648, 10672, 10696, 10698, 10702, 10706, 10714, 10715, 10729, 10745, 10753, 10812, 11537
Akashi	10009
Akiba	10037, 10218, 10282, 10455
Akira	10037, 10418, 10556
Akito	10037
Akura	10009, 10037, 10218, 10264, 10282, 10359, 10412, 10668, 10714, 11037
Alaron	10179, 10216
Alba	10009, 10036, 10037, 10163, 10216, 10218, 10235, 10247, 10355, 10371, 10418, 10443, 10487, 10581, 10668, 10714, 11037
Albatron	10700, 10843
Albiral	10102
Alfide	10672
Alkos	10035
Allorgan	10206, 10217
Allstar	10037
Ambassador	10177
America Action	10180
Amplivision	10217, 10370
Ampro	10751
Amstrad	10009, 10037, 10171, 10177, 10218, 10264, 10362, 10371, 10412, 10433, 10516, 10581, 10648, 11037
Anam	10003, 10009, 10180, 10250, 10628, 10700, 10861
Anam National	10055, 10250, 10650
Andersson	11163
Anex	10037, 10421
Anglo	10009, 10264
Anhua	10051
Anitech	10009, 10037, 10282
Ansonic	10009, 10104, 10247, 10292, 10370, 10428, 10556, 10668, 11437
AOC	10003, 10009, 10018, 10019, 10030, 10052, 10060, 10092, 10093, 10108, 10178, 10179, 10180, 10185, 10451, 10628
Aolingpu	10858
Aolinpike	10264, 10412
Apex	10156, 10765
Apex Digital	10748, 10765, 10767, 10879
Arcam	10216, 10217
Archer	10003
Ardem	10037, 10486, 10556, 10633, 10714, 10715
Aristona	10037, 10556
ART	11037
ASA	10070, 10087, 10104
Asberg	10102
Asora	10009
Astra	10037, 10264
Asuka	10217, 10218, 10264
ATD	10698
Atlantic	10001, 10206, 10320
Audinac	10180
Audiosonic	10009, 10037, 10109, 10217, 10218, 10264, 10337, 10370, 10374, 10428, 10486, 10714, 10715
Audioton	10217, 10264, 10428, 10486
Audiovox	10003, 10092, 10180, 10451, 10623, 10802, 10875
Autovox	10087, 10206, 10217, 10247, 10544
Aventura	10171
Awa	10009, 10011, 10036, 10037, 10108, 10157, 10216, 10217, 10264, 10374, 10412, 10512, 10606, 10698, 10785
Axxent	10009
Axxon	10714
Baihe	10009, 10264, 10412
Baile	10001, 10009, 10374, 10661
Baird	10072, 10073, 10193, 10208, 10217
Bang & Olufsen	10087, 10565
Baohuashi	10264, 10412
Baosheng	10009, 10817
Barco	10380
Basic Line	10009, 10037, 10217, 10218, 10282, 10339, 10374, 10455, 10556, 10668, 11037, 11163
Bauer	10805
Baur	10009, 10037, 10146, 10361, 10455, 10512, 10535, 10544
Baysonic	10180
Bazin	10217
Beaumark	10178
Beijing	10001, 10009, 10208, 10226, 10264, 10374, 10412, 10482, 10661, 10812, 10817, 10821
Beko	10037, 10292, 10370, 10418, 10428, 10486, 10606, 10714, 10715, 11037
Belcor	10019
Bell & Howell	10016, 10154
BenQ	11032, 11756
Beon	10032, 10037, 10418
Berthen	10668
Best	10337, 10370, 10421
Bestar	10037, 10370, 10374

Brand	Code
Bestar-Daewoo	10374
Binatone	10217
Black Diamond	10556, 10587, 10614, 11037
Black Panther	10102
Black Strip	10035
Blaupunkt	10036, 10170, 10191, 10195, 10200, 10455, 10535
Blue Sky	10037, 10218, 10282, 10455, 10487, 10499, 10556, 10606, 10668, 10714, 10715, 11037, 11254, 11437
Blue Star	10282
Bondstec	10247
Boots	10009, 10217
Bosch	10320
Boxlight	10752, 10893
BPL	10037, 10208, 10282
Bradford	10180
Brandt	10109, 10287, 10335, 10560, 10625, 10714
Brandt Electronique	10335
Brinkmann	10037, 10418, 10486, 10668
Brionvega	10087, 10362
Britannia	10216, 10217
Brockwood	10019
Broksonic	10003, 10180, 10236, 10463
Bruns	10087
BTC	10218
Bush	10009, 10036, 10037, 10163, 10208, 10217, 10218, 10235, 10264, 10282, 10355, 10361, 10363, 10371, 10374, 10486, 10487, 10556, 10581, 10614, 10617, 10661, 10668, 10698, 10714, 11037
Caihong	10009, 10817
Cailing	10748
Caishi	10891
Candle	10030, 10046, 10056, 10186
Canton	10218
Carad	10037, 10610, 10668, 11037
Carena	10037, 10455
Carnivale	10030
Carrefour	10036, 10070
Carver	10054, 10170
Cascade	10009, 10037
Casio	10037, 10163
Cathay	10037
CCE	10037, 10217
Celebrity	10000
Celera	10765
Celestial	10767, 10819, 10820, 10821
Centrex	10698, 10780, 10826
Centrum	11037
Centurion	10037
Century	10087, 10238, 10247
CGE	10247, 10370, 10418
CGM	11037
Changcheng	10001, 10009, 10051, 10264, 10374, 10412, 10661, 10817
Changfei	10009, 10374, 10817
Changfeng	10264, 10412, 10696, 10753, 10817
Changhai	10009, 10817
Changhong	10009, 10156, 10264, 10508, 10765, 10767, 10783, 10817, 10820, 10821, 10848, 11156
Chengdu	10009, 10817
Ching Tai	10003, 10009, 10092, 10179
Chun Yun	10000, 10003, 10009, 10092, 10179, 10180, 10700, 10843
Chunfeng	10009, 10264
Chung Hsin	10036, 10053, 10108, 10180
Chungfeng	10412
Chunsun	10009, 10817
Cimline	10009, 10218
Cinema	10672
Cineral	10092, 10451
Citizen	10030, 10039, 10046, 10056, 10060, 10092, 10186, 10280
City	10009
Clairtone	10185
Clarion	10180
Clarivox	10037, 10070, 10337
Clatronic	10009, 10037, 10102, 10217, 10218, 10247, 10264, 10320, 10370, 10371, 10556, 10579, 10606, 10648, 10714
Clayton	11037
CMS	10216
CMS Hightec	10217
Commercial Solutions	10047, 11447
Concerto	10056
Condor	10009, 10037, 10163, 10247, 10264, 10282, 10320, 10370, 10411, 10418
Conia	10754, 10821
Conic	10032
Conrac	10808
Conrowa	10009, 10145, 10156, 10264, 10412, 10696, 10698, 10753, 11156, 11170
Contec	10009, 10036, 10037, 10157, 10180, 10185, 10216, 10264, 10698
Continental Edison	10109, 10287, 10487
Cosmel	10037, 10337
Craig	10180
Crosley	10054, 10087, 10247
Crown	10009, 10037, 10039, 10053, 10180, 10208, 10339, 10359, 10370, 10412, 10418, 10421, 10486, 10487, 10579, 10606, 10672, 10712, 10714, 10715
Crown Mustang	10672
CS Electronics	10216, 10218, 10247
CTC	10247
Curtis Mathes	10016, 10030, 10039, 10047, 10051, 10054, 10056, 10060, 10093, 10145, 10154, 10166, 10451, 10466, 10702, 11147, 11347

Brand	Code
CXC	10180
Cybertron	10218
D-Vision	10037, 10556
D.Boss	10037
Daewoo	10003, 10009, 10019, 10030, 10032, 10037, 10039, 10056, 10092, 10108, 10154, 10170, 10178, 10180, 10217, 10218, 10264, 10374, 10451, 10499, 10556, 10623, 10628, 10634, 10661, 10672, 10700, 10706, 10865, 10880, 11661
Dainichi	10216, 10218
Dansai	10009, 10032, 10035, 10036, 10037, 10208, 10216
Dansette	10412
Dantax	10606, 10714, 10715
Datsura	10208
Dawa	10009
Daytek	10037, 10706
Dayton	10009
Daytron	10019, 10374
Dayu	10374, 10661
De Graaf	10208, 10363, 10548
DEC	10418, 10556, 10698, 10785, 10795
Decca	10037, 10072, 10217, 10516, 10621
Deitron	10037, 10374
Dell	11080, 11178, 11264, 11454
Denko	10264
Denon	10145, 10511, 10576
Denstar	10628
Denver	10037, 10587, 10606
DER	10193
Desmet	10009, 10037, 10087, 10320
Diamant	10037
Diamond	10009, 10037, 10216, 10264, 10371, 10672, 10698, 10706, 10825
Dick Smith Electronics	10698
Digatron	10037
Digiline	10105, 10668
Digital Life	10780, 10872, 10891
Digitex	10820
Digitor	10037, 10499, 10698, 11724
Digix	10880
DiK	10037
Dixi	10009, 10037, 10087
DL	10037, 10780, 10848, 10872, 10891
Domeos	10037, 10668, 11037
Domland	10394
Dongda	10009
Donghai	10009
Dream Vision	11704
DSE	10698
Dual	10037, 10217, 10259, 10394, 10531, 10544, 11137
Dual Tec	10217
Dumont	10017, 10019, 10070, 10087, 10102
Dunai	10544
Durabrand	10003, 10171, 10178, 10180, 10463, 11034, 11463
DVX	10891
Dwin	10720, 10774
Dynatron	10012, 10037
E-Elite	10218
Ecco	10706, 10773
ECE	10037
Edison-Minerva	10487
Elbe	10217, 10238, 10259, 10292, 10361, 10362, 10411, 10435, 10516, 10610, 10630
Elbe-Sharp	10516
Electroband	10000, 10185
Electrograph	11755
Electrohome	10381
Elekta	10009, 10037, 10264, 10282
Elektra	10017, 11661
Elin	10009, 10037, 10104, 10163, 10361, 10548
Elite	10218, 10320
Elman	10102
Elta	10009, 10264
Emco	10247
Emerson	10019, 10037, 10038, 10039, 10070, 10087, 10154, 10163, 10171, 10177, 10178, 10179, 10180, 10185, 10236, 10247, 10280, 10282, 10320, 10361, 10370, 10371, 10463, 10486, 10623, 10714
Emperor	10282
Envision	10030, 10813
Enzer	10753
Epson	10833, 10840
Erres	10012, 10037
ESA	10171, 10812
ESC	10037, 10217
Ether	10003, 10009, 10030
Etron	10001, 10009
Eurofeel	10217, 10264
EuroLine	10556
Euroman	10037, 10216, 10217, 10264, 10421
Europa	10037
Europhon	10102, 10163, 10217, 10516
Evolution	11756
Expert	10206
Exquisit	10037, 10247
Fagor	10037
Feilang	10009
Feilu	10009, 10817
Feiyan	10264, 10412
Feiyue	10009, 10817
Fenner	10009, 10374
Ferguson	10037, 10053, 10073, 10109, 10193, 10238, 10287, 10335, 10443, 10548, 10560, 10625

Brand	Codes
Fidelity	10037, 10163, 10171, 10193, 10216, 10264, 10361, 10363, 10371, 10412, 10512, 10531, 10544
Filsai	10217
Finlandia	10045, 10072, 10163, 10208, 10287, 10346, 10359, 10363,10548
Finlux	10037, 10070, 10072, 10087, 10102, 10104, 10105, 10179, 10217, 10346, 10411, 10473, 10480, 10492, 10516, 10556, 10606, 10621, 10629, 10631, 10714, 10715, 10808
Firstar	10009, 10236
Firstline	10009, 10037, 10072, 10163, 10208, 10216, 10217, 10235, 10238, 10247, 10321, 10361, 10374, 10411, 10531, 10544, 10556, 10587, 10668, 10714, 10808, 11037
Fisher	10036, 10045, 10047, 10072, 10087, 10104, 10154, 10157, 10159, 10208, 10217, 10370, 10544, 10555
Flint	10037, 10072, 10218, 10264, 10455, 10610
Forgestone	10193
Formenti	10037, 10087, 10216, 10320
Formenti-Phoenix	10216, 10320
Fortress	10093
Fraba	10037, 10370
Friac	10009, 10037, 10102, 10370, 10421, 10499, 10610
Frontech	10009, 10163, 10217, 10247, 10264, 10363
Fujitsu	10009, 10037, 10072, 10163, 10179, 10186, 10206, 10217, 10259, 10361, 10683, 10809, 10853
Fujitsu General	10009, 10163, 10206, 10217, 10683
Funai	10171, 10179, 10180, 10264, 10412, 10556, 10668, 11977
Furi	10145, 10264, 10412, 10817
Futronic	10264, 10795
Future	10037
Futuretech	10180
Galaxi	10037, 10361
Galaxis	10037, 10370
Ganxin	10817
Gateway	11755, 11756
GBC	10009, 10218, 10374
GE	10021, 10027, 10030, 10047, 10051, 10055, 10092, 10093, 10109, 10135, 10178, 10180, 10282, 10287, 10335, 10451, 10560, 10625, 11147, 11347, 11447, 11454
GEC	10037, 10072, 10163, 10217, 10361, 10516
Geloso	10009, 10363, 10374
General	10186, 10590
General Technic	10009
Genesis	10009, 10037
Genexxa	10009, 10163, 10218
Gericom	10808, 10865
Giant	10217
Gibralter	10017, 10019, 10030
Gintai	10721
Go Video	10886
Goldfunk	10668
GoldHand	10216
GoldStar	10001, 10019, 10030, 10032, 10037, 10039, 10056, 10109, 10154, 10163, 10178, 10216, 10217, 10247, 10290, 10361, 10363, 10377, 10455, 10556, 10606, 10714, 10715
Gooding	10487
Goodmans	10009, 10032, 10035, 10036, 10037, 10072, 10179, 10217, 10218, 10235, 10264, 10335, 10360, 10371, 10374, 10451, 10480, 10487, 10499, 10516, 10556, 10560, 10579, 10630, 10634, 10661, 10668, 10714, 10808, 11037, 11163
Gorenje	10037, 10370, 10421
GPM	10218
Gradiente	10053, 10056, 10170
Graetz	10037, 10163, 10339, 10361, 10371, 10487, 10714
Gran Prix	10648
Granada	10037, 10045, 10072, 10108, 10146, 10163, 10208, 10217, 10226, 10339, 10356, 10359, 10363, 10473, 10516, 10548, 10560
Grandin	10009, 10037, 10163, 10282, 10320, 10374, 10455, 10579, 10610, 10668, 10714, 10715, 11037
Gronic	10163
Grundig	10036, 10037, 10070, 10191, 10195, 10370, 10443, 10487, 10535, 10556, 10587, 10630, 10672, 10706
Grunpy	10179, 10180
H&B	10808
Haaz	10706
Haier	10037, 10264, 10508, 10587, 10698, 10768, 10779, 10869, 10891, 11034
Haihong	10009
Haiyan	10264, 10412, 10817
Halifax	10217
Hallmark	10178
Hammerstein	10060, 10264
Hampton	10216, 10217
Hanimex	10218
Hankook	10019, 10030, 10056, 10178, 10180, 10628
Hanseatic	10009, 10037, 10087, 10195, 10217, 10282, 10320, 10361, 10377, 10394, 10428, 10499, 10544, 10556, 10634, 10661, 10714, 10808, 11137
Hantarex	10009, 10037, 10102, 10238, 10516, 10865
Hantor	10037
Harley Davidson	10179
Harman/Kardon	10054
Harsper	10865

Brand	Code
Harvard	10180
Harwa	10773
Harwood	10009, 10032, 10037, 10412, 10487
Havermy	10093
HCM	10009, 10037, 10217, 10218, 10264, 10282, 10412, 10418, 10606
Helios	10865
Hello Kitty	10451
Hema	10009, 10217
Hemmermann	10544
Hher	10714
Higashi	10216
Hikona	10218
Himitsu	10180, 10628, 10779
Hinari	10009, 10036, 10037, 10179, 10218, 10235, 10264, 10355
Hisawa	10218, 10282, 10455, 10610, 10714
Hisense	10009, 10037, 10145, 10156, 10208, 10264, 10508, 10512, 10556, 10696, 10706, 10748, 10753, 10780, 10821, 10848, 11156, 11170
Hit	10087
Hitachi	10009, 10016, 10019, 10027, 10030, 10032, 10036, 10037, 10038, 10039, 10044, 10056, 10072, 10092, 10105, 10108, 10109, 10145, 10151, 10156, 10157, 10163, 10165, 10178, 10179, 10186, 10194, 10217, 10356, 10359, 10361, 10363, 10381, 10473, 10480, 10481, 10492, 10499, 10508, 10512, 10516, 10548, 10576, 10578, 10629, 10634, 10719, 10744, 10884, 11037, 11045, 11137, ***[11145]**, 11156, 11170, 11225, 11256, 11481, 11576
Hitachi Fujian	10037, 10108, 10145, 10150, 10499, 10828
Hitsu	10009, 10218, 10455, 10610
HMV	10087, 10193
Home Electronics	10606
Hongmei	10009, 10093, 10264, 10817, 10848
Hongyan	10264, 10412, 10817
Hornyphon	10012, 10037
Hoshai	10282
Hua Tun	10009
Huafa	10009, 10145
Huanghaimei	10009
Huanghe	10009, 10817
Huanglong	10009
Huangshan	10009, 10264, 10412, 10817
Huanyu	10216, 10264, 10374, 10817, 10848
Huaqiang	10264, 10412
Huari	10145, 10264, 10412
Huodateji	10051
Hyper	10009, 10216, 10217, 10247
Hypson	10037, 10264, 10282, 10411, 10455, 10621, 10668, 10714, 10715, 11037
Hyundai	10037, 10698, 10706, 10753, 10849, 10865
Iberia	10037
ICE	10216, 10217, 10218, 10264, 10371, 10556
ICeS	10216, 10218
Imperial	10037, 10163, 10247, 10361, 10370, 10418, 10630
Imperial Crown	10001, 10009, 10264, 10374, 10412, 10661
Indiana	10037
Infinity	10054
InFocus	10752
Ingelen	10163, 10361, 10487, 10610, 10714
Ingersoll	10009
Inno Hit	10009, 10037, 10072, 10102, 10217, 10247, 10282, 10290, 10516
Innova	10037
Innowert	10865
Inteq	10017
Interbuy	10037, 10247, 10264, 10512
Interfunk	10012, 10037, 10087, 10163, 10200, 10247, 10275, 10361,10512
Internal	10037
Intervision	10009, 10037, 10102, 10163, 10217, 10218, 10247, 10264, 10282, 10370, 10377, 10394, 10455, 10486, 10487
IR	10011, 10012, 10032, 10035, 10036, 10037, 10045, 10070, 10072, 10073, 10087, 10093, 10102, 10104, 10105, 10108, 10109, 10146, 10157, 10163, 10191, 10193, 10194, 10195, 10200, 10206, 10216, 10217, 10226, 10235, 10238, 10247, 10287, 10290, 10291, 10292, 10320, 10356, 10359, 10361, 10363, 10370, 10374, 10512, 10516, 10535, 10556
Irradio	10218, 10247, 10290, 10371
IRT	10451, 10628, 10698, 11661
Isukai	10037, 10218, 10282, 10455
ITC	10217, 10320
ITS	10216, 10264, 10371
ITT	10163, 10179, 10193, 10208, 10339, 10346, 10361, 10473, 10480, 10544, 10548, 10610
ITT Nokia	10163, 10179, 10208, 10339, 10346, 10361, 10363, 10473, 10480, 10548, 10606, 10610
ITV	10037, 10264, 10374
Janeil	10046
JBL	10054
JCB	10000
Jean	10003, 10009, 10036, 10051, 10092, 10156, 10179, 10236, 10721
Jensen	10698, 10706, 10761, 10815, 10817
Jiahua	10051
JiaLiCai	10009, 10264, 10412
Jinfeng	10051, 10208, 10226, 10817
Jinhai	10848
Jinque	10009, 10264, 10412, 10817
Jinta	10009, 10264, 10412, 10848
Jinxing	10009, 10037, 10054, 10145, 10156, 10264, 10556, 10698, 10817, 10821

Brand	Codes
JMB	10443, 10499, 10556, 10634
JNL	10698
Jocel	10712
Jubilee	10556
Juhua	10264, 10412, 10817
JVC	10036, 10053, 10093, 10193, 10218, 10371, 10418, 10463, 10508, 10576, 10606, 10653, 10683, 10731, 11253
Kaige	10009, 10264, 10412, 10817
Kaisui	10009, 10037, 10216, 10217, 10218, 10282, 10455
Kambrook	10217, 10264, 10556
Kamp	10216
Kangchong	10848
Kangli	10001, 10009, 10264, 10374, 10661, 10817
Kangyi	10009, 10264, 10412
Kapsch	10104, 10163, 10206, 10361
Karcher	10037, 10163, 10264, 10282, 10421, 10606, 10610, 10714
Kathrein	10556
Kawa	10371
Kawasho	10216
Kaypani	10052
KB Aristocrat	10163
KEC	10180
Kendo	10037, 10102, 10235, 10247, 10362, 10411, 10428, 10512, 10610, 11437
Kennedy	10206, 10435
Kennex	11037
Kenwood	10019, 10030
KIC	10217
Kingsley	10216
Kiota	10001, 10371, 10455
Kioto	10054, 10556, 10706, 10785
Kiton	10037, 10668
KLH	10765, 10767
KLL	10037
Kloss	10024, 10046
Kneissel	10037, 10238, 10259, 10292, 10362, 10374, 10411, 10435, 10499, 10556, 10610
Kolin	10036, 10053, 10108, 10150, 10180
Kolster	10102, 10247
Kongque	10009, 10264, 10817
Konichi	10009
Konka	10037, 10218, 10282, 10371, 10418, 10587, 10628, 10632, 10638, 10641, 10703, 10707, 10714, 10725, 10726, 10754, 10779, 10795, 10816, 10817
Kontakt	10487
Korpel	10037
Korting	10087, 10320, 10421
Kotron	10264
Koyoda	10009
Kraking	10238
Kriesler	10012
KTV	10030, 10039, 10180, 10185, 10217, 10280
Kuaile	10009, 10264, 10412
Kulun	10009
Kunlun	10051, 10208, 10226, 10264, 10374, 10661, 10817
Kyoshu	10032, 10264, 10412, 10418
Kyoto	10032, 10163, 10216, 10217
L&S Electronic	10714, 10808
LaSAT	10486
Leader	10009
Lecson	10037
Legend	10009
Lemair	10032, 10411
Lenco	10037, 10163, 10374, 10721, 11037
Levis Austria	10037
Leyco	10037, 10072, 10264, 10579
LG	10001, 10003, 10019, 10030, 10032, 10037, 10038, 10039, 10056, 10060, 10108, 10178, 10442, 10556, 10606, 10644, 10698, 10700, 10714, 10715, 10856, 11148, 11178, 11265, 11637, 10033
Liesenk & Tter	10037
Liesenkotter	10012, 10037
Lifetec	10037, 10218, 10264, 10374, 10668, 10714, 11037, 11137, 11437
Lihua	10817
Lloyd's	10001, 10009, 10264
Lloytron	10032
Loewe	10037, 10087, 10136, 10292, 10362, 10512, 10516, 10633, 10655
Logik	10001, 10009, 10011, 10016, 10060, 10193, 10264, 10418, 10698, 10706, 10773, 10880
Logix	10668
Longjiang	10264, 10412, 10817
Luma	10206, 10259, 10362, 10363, 11037
Lumatron	10217, 10361
Lux May	10009, 10037, 10556, 10581
Luxman	10056, 10412, 10579
Luxor	10163, 10179, 10194, 10208, 10217, 10290, 10356, 10361, 10363, 10473, 10480, 10548, 10631, 11037, 11163
LXI	10047, 10054, 10154, 10156, 10178
M & S	10054
M Electronic	10009, 10037, 10104, 10105, 10109, 10163, 10217, 10287, 10346, 10374, 10480
Madison	10037
Magnadyne	10087, 10102, 10247, 10516, 10544
Magnafon	10102, 10216, 10516
Magnavox	10020, 10024, 10030, 10036, 10037, 10054, 10096, 10179, 10186, 10187, 10386, 10706, 10729, 10780, 10802, 11254, 11454
Magnum	10037, 10606, 10648, 10714, 10715

Brand	Code
Majestic	10016
Manesth	10035, 10037, 10163, 10217, 10235, 10264, 10320, 10361
Manhattan	10037, 10163, 10668, 11037
Marantz	10030, 10037, 10054, 10412, 10556, 10704, 10854, 10855, 11154
Marelli	10087
Mark	10037, 10217, 10486, 10714, 10715
Master’s	10499
Masuda	10009, 10037, 10217, 10218, 10264, 10371
Materin	10208, 10858
Matsui	10009, 10011, 10035, 10036, 10037, 10072, 10163, 10177, 10191, 10195, 10208, 10217, 10235, 10335, 10355, 10363, 10371, 10433, 10443, 10455, 10487, 10516, 10544, 10556, 10579, 10629, 10714, 11037
Matsushita	10051, 10250, 10650
Matsuviama	10587
Maxam	10264
Maxdorf	10773
Maxent	11755
MCE	10009
Mediator	10012, 10037
Medion	10037, 10512, 10556, 10668, 10698, 10714, 10808, 10880, 11037, 11137, 11437
Megapower	10700
Megas	10610
Megatron	10003, 10145, 10178
MEI	10185, 11037
Meile	10264, 10412, 10817, 10848
Melectronic	10009, 10037, 10104, 10105, 10163, 10191, 10195, 10216, 10217, 10247, 10346, 10361, 10374, 10411, 10480, 10492, 10512, 10634, 10661, 10714
Memorex	10009, 10016, 10056, 10060, 10150, 10154, 10178, 10179, 10250, 10463, 11037
Memphis	10337
Mercury	10001, 10009, 10060, 10264, 10473, 10556, 10706
Mermaid	10037
Merritt	10163
Metronic	10625
Metz	10037, 10070, 10087, 10275, 10367, 10388, 10447, 10535, 10587, 10668, 10746
MGA	10019, 10030, 10037, 10150, 10178, 10218, 10374
Micromaxx	10037, 10630, 10668, 10808, 11037
Microstar	10808
MicroTEK	10706
Midland	10017, 10032, 10039, 10047, 10051, 10135
Minato	10037
Minerva	10070, 10108, 10487, 10516, 10535
Minoka	10359, 10412
Minutz	10021
Mistral Electronics	10193
Mitsubishi	10019, 10030, 10036, 10037, 10056, 10087, 10093, 10108, 10150, 10154, 10178, 10179, 10180, 10208, 10236, 10250, 10381, 10512, 10535, 10556, 10817, 10836, 10868, 11037, 11250
Mitsuri General	10163
Mivar	10216, 10217, 10290, 10291, 10292, 10370, 10516, 10609
Monaco	10009
Monivision	10700, 10843
Morgan’s	10037
Motorola	10055, 10093
MTC	10019, 10030, 10056, 10060, 10163, 10185, 10216, 10361, 10370, 10512
MTEC	10032
MTlogic	10714
Mudan	10009, 10051, 10208, 10226, 10264, 10412, 10817
Multibroadcast	10193
Multitec	10037, 10486, 10668, 11037
Multitech	10009, 10037, 10102, 10180, 10216, 10217, 10247, 10264, 10363, 10486, 10556
Murphy	10039, 10163, 10216
Musikland	10037, 10218, 10247
Myryad	10556
NAD	10156, 10178, 10361, 10866
Naiko	10037, 10606
Nanbao	10009, 10264, 10412, 10848
Nansheng	10264, 10412, 10817
Naonis	10363
NAT	10226
National	10051, 10055, 10208, 10226, 10508
NEC	10009, 10011, 10019, 10030, 10036, 10046, 10051, 10053, 10056, 10154, 10156, 10165, 10170, 10178, 10186, 10217, 10264, 10320, 10374, 10381, 10412, 10455, 10497, 10499, 10508, 10603, 10661, 10704, 10705, 10817, 10882, 11170, 11270, 11704
Neckermann	10037, 10087, 10163, 10191, 10200, 10247, 10320, 10363, 10370, 10411, 10418, 10512, 10556
NEI	10037, 10163, 10287, 10337, 10371
Neovia	10865
Nesco	10179, 10247
Netsat	10037
NetTV	11755
Network	10032, 10337
Neufunk	10037, 10218, 10556, 10610, 10714
New Tech	10217
Newave	10009, 10092, 10093, 10178, 10721
Nicam	10544
Nicamagic	10216

Brand	Codes
Nikkai	10009, 10032, 10035, 10036, 10037, 10072, 10216, 10217, 10218, 10264, 10337
Nikko	10030, 10092, 10178
Nikon	10848
Noblex	10154, 10180
Nobliko	10070, 10102, 10216
Nokia	10109, 10163, 10179, 10208, 10320, 10339, 10346, 10359, 10361, 10374, 10473, 10480, 10548, 10606, 10610, 10631
Norcent	10748, 10824
Nordic	10217
Nordmende	10037, 10109, 10163, 10195, 10287, 10335, 10560, 10714
Norfolk	10163
Normerel	10037
Noshi	10018
Novak	10012, 10037
Novatronic	10037, 10105, 10374, 10531
NTC	10092
Nu-Tec	10037, 10455, 10698, 10706, 10820
Oceanic	10163, 10208, 10361, 10473, 10548
Okano	10009, 10037, 10370
Omega	10264
Omni	10264, 10698, 10706, 10780, 10826, 10872, 10891
On Command	10531
Onimax	10714
Onking	10280
Onwa	10102, 10180, 10218, 10371, 10433, 10581, 10602
Optimus	10154, 10166, 10250, 10650
Optoma	10887
Optonica	10093, 10165
Orion	10011, 10037, 10177, 10179, 10235, 10236, 10264, 10320, 10321, 10355, 10412, 10443, 10463, 10516, 10531, 10544, 10556, 10606, 10655, 10714, 10880, 11463
Orline	10037, 10218
Ormond	10668, 11037
Orsowe	10516
Osaki	10032, 10037, 10072, 10217, 10218, 10264, 10355, 10374, 10412, 10556
Osio	10290
Oso	10218
Osume	10032, 10036, 10037, 10072, 10157, 10218
Otto Versand	10036, 10037, 10093, 10109, 10191, 10217, 10226, 10235, 10247, 10320, 10361, 10512, 10535, 10544, 10556
Pacific	10037, 10556, 10714, 11037, 11137
Pael	10216
Palladium	10037, 10247, 10363, 10370, 10411, 10418, 10630, 10655, 10714, 11137
Palsonic	10001, 10037, 10217, 10218, 10264, 10377, 10412, 10418, 10698, 10773, 10779
Panama	10037, 10217, 10247, 10264
Panashiba	10001
Panasonic	10037, 10051, 10054, 10055, 10108, 10163, 10208, 10226, 10250, 10361, 10367, 10508, 10516, 10548, 10650, 10853, 11310, 11410, 11650
Panavision	10037, 10411
Panda	10009, 10051, 10208, 10226, 10264, 10412, 10508, 10698, 10706, 10780, 10817, 10821, 10826, 10848, 10891
Pathe Cinema	10163, 10216, 10238, 10320, 10370
Pausa	10009
Peng Sheng	10891
Penney	10003, 10018, 10019, 10021, 10027, 10030, 10032, 10039, 10047, 10051, 10056, 10060, 10135, 10156, 10178, 11347
Perdio	10037, 10072, 10163, 10216, 10282, 10320
Phase	10032
Philco	10019, 10020, 10030, 10032, 10037, 10054, 10056, 10087, 10092, 10096, 10145, 10178, 10180, 10186, 10247, 10370, 10418, 10451, 10463, 10628, 10774, 11661
Philex	10193, 10548
Philips	10000, 10009, 10012, 10017, 10019, 10020, 10024, 10027, 10030, 10032, 10037, 10051, 10054, 10056, 10080, 10087, 10092, 10108, 10178, 10186, 10187, 10191, 10193, 10200, 10238, 10361, 10374, 10423, 10556, 10690, 10721, 10772, 10774, 11154, 11454, 11756
Phoenix	10037, 10087, 10216, 10320, 10486
Phonola	10012, 10037, 10080, 10087, 10193, 10216
Pilot	10019, 10030, 10037, 10039, 10706, 10712
Pioneer	10011, 10037, 10038, 10109, 10163, 10166, 10170, 10287, 10361, 10423, 10428, 10486, 10512, 10679, 10760, 10866
Pionier	10486
Plantron	10009
Playsonic	10037, 10217, 10339, 10714, 10715
Polaroid	10765, 10865
Polytron	10282, 10697
Polyvision	10697
Portland	10019, 10039, 10092, 10374
Powerpoint	10037, 10487
Prandoni-Prince	10361, 10363, 10516
Premier	10037, 10264
Prima	10009, 10264, 10412, 10761, 10783, 10815, 10817
Princess	10698
Princeton	10700, 10717
Prinston	11037
Prinz	10194, 10361, 10544
Prism	10051
Profex	10009, 10163, 10361, 10363, 10370
Profex Fidelity	10102

Brand	Code
Profi	10009
Profitronic	10037, 10102
Proline	10037, 10072, 10321, 10411, 10556, 10621, 10625, 10630, 10634
Proscan	10047, 11347, 11447
Prosonic	10037, 10217, 10451, 10579, 10668, 10714
Protech	10009, 10037, 10102, 10163, 10180, 10217, 10247, 10264, 10337, 10418, 10486, 10668, 11037
Proton	10001, 10003, 10009, 10030, 10039, 10052, 10056, 10178, 10466, 10644
ProVision	10037, 10556, 10714
Pulsar	10017, 10019
Pye	10012, 10037, 10087, 10193, 10374, 10412, 10556
Qingdao	10051, 10208, 10226, 10264, 10412, 10817
Quadral	10218, 10418
Qualcraft	10039
Quasar	10009, 10051, 10055, 10165, 10247, 10250, 10650, 10865
Quelle	10011, 10037, 10070, 10104, 10200, 10361, 10512, 10535, 10544, 10668, 11037
Questa	10032, 10036
R-Line	10037, 10163
Radialva	10218, 10337
Radiola	10012, 10037, 10217, 10556
Radiomarelli	10037, 10087, 10516
RadioShack	10019, 10030, 10032, 10037, 10039, 10047, 10056, 10154, 10165, 10178, 10180
Radiotone	10009, 10037, 10264, 10412, 10428, 10579, 10648, 10668, 11037
Rank Arena	10036, 10157, 10602, 10753
RBM	10070
RCA	10000, 10018, 10019, 10030, 10038, 10047, 10051, 10060, 10090, 10092, 10093, 10135, 10178, 10560, 10618, 10625, 10679, 10753, 11047, 11147, 11247, 11347, 11447, 11454,
	11547
Realistic	10019, 10030, 10032, 10039, 10056, 10154, 10165, 10178, 10180
Recor	10037, 10264, 10418
Rediffusion	10036, 10346, 10361, 10548
Reflex	10037, 10668, 11037
Relisys	10865
Reoc	10714
Revox	10037
Rex	10163, 10206, 10259, 10264, 10363, 10411
RFT	10037, 10072, 10087, 10264, 10370, 10428
Rhapsody	10185, 10216
Ricoh	10037
Rinex	10264, 10418, 10698, 10773
Roadstar	10009, 10037, 10218, 10264, 10282, 10418, 10668, 10714, 11037
Robotron	10087
Rover	10036
Rowa	10009, 10037, 10216, 10217, 10264, 10556, 10587, 10698, 10712, 10748, 10817
Rownsonic	10163
Royal	10418, 10825
Royal Lux	10335, 10412
Runco	10017, 10030, 10497, 10603
Ruyi	10817
Saba	10087, 10109, 10163, 10250, 10287, 10335, 10361, 10498, 10516, 10548, 10560, 10625, 10714
Saccs	10238
Sagem	10455, 10610
Saige	10009, 10817
Saisho	10009, 10011, 10177, 10217, 10235, 10264, 10374, 10516, 10544, 10556
Saivod	10037, 10668, 10712, 11037
Saka	10163
Sakyno	10455
Salora	10163, 10194, 10208, 10290, 10356, 10359, 10361, 10363, 10473, 10480, 10516, 10548, 10606, 10621, 10631
Salsa	10335
Sambers	10102, 10516
Sampo	10009, 10030, 10032, 10036, 10039, 10052, 10092, 10093, 10154, 10171, 10178, 10650, 10700, 10721, 11755
Samsung	10009, 10019, 10030, 10032, 10037, 10039, 10056, 10060, 10072, 10090, 10092, 10093, 10154, 10156, 10163, 10178, 10179, 10195, 10208, 10216, 10217, 10226, 10264, 10290, 10370, 10482, 10556, 10587, 10618, 10644, 10682, 10702, 10718, 10766, 10774, 10812, 10814, 10817, 10821, 11060
Samsux	10039
Sandra	10216, 10217
Sanjian	10264, 10412
Sansei	10451
Sansui	10037, 10264, 10371, 10412, 10455, 10463, 10587, 10602, 10655, 10698, 10706, 10714, 10727, 10729, 10861, 11537
Santon	10009
Sanyo	10011, 10036, 10045, 10072, 10088, 10104, 10108, 10145, 10146, 10154, 10156, 10157, 10159, 10180, 10208, 10216, 10217, 10264, 10280, 10339, 10370, 10381, 10412, 10486, 10508, 10544, 10555, 10556, 10721, 10799, 10893, 11154
Sanyuan	10009, 10093, 10817
SBR	10012, 10037, 10193, 10556
Schaub Lorenz	10037, 10361, 10374, 10486, 10548, 10606, 10714
Schneider	10012, 10037, 10070, 10163, 10217, 10218, 10247, 10259, 10361, 10371, 10394, 10544, 10556, 10648, 10668, 10714, 11037, 11137

Brand	Codes
Scimitsu	10019
Scotch	10178
Scotland	10163
Scott	10019, 10178, 10179, 10180, 10236
Sears	10047, 10054, 10056, 10146, 10154, 10156, 10159, 10171, 10178, 10179
Seaway	10556, 10634
Seelver	11037
SEG	10009, 10036, 10037, 10102, 10163, 10216, 10217, 10218, 10264, 10362, 10487, 10634, 10668, 11037, 11163, 11437
SEI	10087, 10102, 10177, 10206, 10516, 10544
Sei-Sinudyne	10037, 10087, 10102, 10206, 10516, 10544
Seleco	10163, 10206, 10259, 10264, 10346, 10362, 10363, 10371, 10411, 10435
Semivox	10180
Semp	10156, 11356
Sencora	10009
Sentra	10035
Serino	10093, 10455, 10610
Shancha	10264, 10412, 10817
Shanghai	10009, 10208, 10226, 10264, 10412, 10817, 10848
Shaofeng	10145, 10817
Sharp	10009, 10030, 10032, 10036, 10039, 10053, 10093, 10157, 10165, 10193, 10200, 10256, 10386, 10491, 10516, 10650, 10688, 10689, 10720, 10818, 10851, 11193
Shen Ying	10003, 10009, 10092, 10179
Shencai	10009, 10145, 10264, 10412
Sheng Chia	10009, 10093, 10179, 10236
Shenyang	10009, 10264, 10696, 10753, 10817
Sherwood	10009
Shintoshi	10037
Shivaki	10037, 10178, 10374, 10443, 10451
Shogun	10019
Shorai	10179
Show	10009, 10072, 10418, 10706
Siarem	10087, 10102, 10516
Siemens	10032, 10037, 10146, 10157, 10191, 10195, 10200, 10361, 10535
Siera	10012
Siesta	10370
Signature	10016
Silva	10037, 10216, 10361, 10648
Silva Schneider	10037
Silver	10036, 10037, 10179, 10361, 10455, 10715
SilverCrest	11037
Simpson	10186, 10187
Singer	10009, 10087, 10102, 10163, 10335, 10362, 10371, 10433, 10435, 10548, 10698, 10706, 11537
Sinotec	10264, 10418, 10706, 10773
Sinudyne	10087, 10102, 10177, 10206, 10235, 10516, 10544
Skantic	10356
SKY	10037, 10282
Skygiant	10180
Skysonic	10696, 10753
Skyworth	10009, 10037, 10264, 10696, 10698, 10727, 10748, 10753, 10805, 10817, 10825
Sliding	10865
SLX	10512, 10668
Smaragd	10487
Soemtron	10865
Solavox	10032, 10037, 10072, 10163, 10361, 10548
Sole	10813
Sonawa	10218
Songba	10009
Soniko	10037
Sonitron	10208, 10217, 10339, 10370
Sonoko	10009, 10037, 10282
Sonolor	10163, 10208, 10282, 10361, 10548
Sontec	10009, 10037, 10370
Sony	10000, 10011, 10036, 10037, 10053, 10080, 10093, 10102, 10111, 10145, 10150, 10156, 10157, 10170, 10250, 10353, 10650, 10834, 11100, 11505, 11651
Sound & Vision	10102, 10374
Soundesign	10178, 10179, 10180, 10186
Soundwave	10032, 10037, 10320, 10418, 10715
Sowa	10036, 10051, 10060, 10092, 10156, 10178, 10226
Spectra	10009
Spectricon	10003
Squareview	10171
Ssangyong	10009, 10032
SSS	10019, 10180
Stag	10032
Staksonic	10009
Standard	10009, 10037, 10217, 10218, 10320, 10374, 11037
Starlite	10009, 10037, 10180, 10264
Stenway	10218, 10282
Stern	10163, 10206, 10259, 10363, 10411
Strato	10009, 10037, 10264
Studio Experience	10843
Sunic Line	10037
Sunkai	10037, 10321, 10355, 10455, 10487, 10531, 10610
Sunstar	10009, 10037, 10264, 10371, 10579
Sunwood	10037
Superla	10516
Superscan	10864
Supersonic	10009, 10037, 10208, 10264, 10455, 10698, 10805
SuperTech	10009, 10037, 10216, 10218
Supervision	10264

Brand	Codes
Supra	10009, 10039, 10056, 10178
Supre-Macy	10046
Supreme	10000
Susumu	10218, 10287, 10335
SVA	10587, 10698, 10748, 10768, 10865, 10870, 10871, 10872
Svasa	10455
Swissline	10247
Sylvania	10020, 10030, 10054, 10096, 10171, 10381
Symphonic	10171, 10180
Synco	10000, 10036, 10060, 10092, 10093, 10178, 10451
Sysline	10037
Sytong	10216
T+A	10447
Tacico	10009, 10092, 10178, 10179
Tai Yi	10009
Taishan	10009, 10374, 10817
Tandberg	10362, 10367, 10411
Tandy	10039, 10072, 10093, 10163, 10217, 10218
Targa	10702
Tashiko	10032, 10036, 10092, 10146, 10163, 10216, 10217, 10359, 10363, 10650, 10721
Tatung	10003, 10009, 10011, 10036, 10037, 10051, 10054, 10055, 10060, 10072, 10154, 10156, 10217, 10516, 10556, 10621, 10629, 11156, 11254, 11756
TCL	10412, 10698, 10706, 10727, 10826, 11537
TCM	10714, 10808
Teac	10009, 10037, 10170, 10171, 10178, 10217, 10247, 10264, 10282, 10412, 10418, 10455, 10512, 10544, 10556, 10668, 10698, 10706, 10712, 10714, 10721, 10755, 11037, 11437, 11724, 11755
Tec	10009, 10037, 10163, 10217, 10247, 10259, 10337, 10361
Tech Line	10037, 10668, 11437
Techica	10218
Technema	10320
Technics	10051, 10250, 10556, 10650
TechniSat	10037, 10163, 10556, 10655
Technisson	10714
Technol Ace	10179, 10264, 10374, 10412
Technosonic	10556
Techview	10847
Techwood	10003, 10051, 10056, 11163
Tecnimagen	10556
Teco	10009, 10036, 10051, 10092, 10093, 10178, 10218, 10264, 10280, 10653
Tedelex	10009, 10037, 10208, 10217, 10264, 10418, 10556, 10606, 10706, 10726, 10891, 11537
Tek	10009, 10264, 10706, 10795
Teknika	10016, 10019, 10039, 10054, 10056, 10060, 10092, 10150, 10179, 10180, 10186
Telecor	10037, 10394
Telefunken	10037, 10056, 10073, 10109, 10287, 10335, 10346, 10421, 10486, 10498, 10560, 10587, 10625, 10698, 10702, 10706, 10712, 10714, 10753, 10819, 10820, 10821
Telefusion	10037
Telegazi	10037, 10556
Telemeister	10320
Telesonic	10037
Telestar	10009, 10037, 10412, 10556, 10579
Teletech	10009, 10037, 10337, 10668, 11037
Teleton	10036, 10163, 10186, 10206, 10217, 10259, 10363
Televideon	10216, 10320
Teleview	10037
Tempest	10009, 10037, 10264, 10455, 10556
Tennessee	10037
Tensai	10009, 10037, 10104, 10105, 10163, 10217, 10218, 10247, 10320, 10371, 10374, 10377, 10556, 10715, 11037
Tenson	10009, 10320
Tera	10030, 10092, 10466
Tesla	10037
Tevion	10556, 10648, 10668, 10714, 10767, 11037, 11137
Texet	10009, 10216, 10217, 10218, 10374
ThemeScene	10887
Thomson	10037, 10109, 10287, 10335, 10560, 10625, 11447
Thorn	10035, 10036, 10037, 10072, 10073, 10104, 10109, 10163, 10193, 10238, 10335, 10359, 10361, 10499, 10512, 10535
Thorn-Ferguson	10073, 10193, 10238, 10499
Tiane	10093, 10817
TMK	10056, 10177, 10178
TML	11756
TNCi	10017
Tobishi	10218
Tobo	10009, 10264, 10412, 10748
Tokai	10009, 10037, 10163, 10337, 10374, 10668, 11037
Tokaido	11037
Tokyo	10035
Tomashi	10218, 10282
Tongguang	10264, 10412
Tongtel	10587, 10780
Tophouse	10180
Toshiba	10009, 10035, 10036, 10060, 10070, 10093, 10102, 10109, 10145, 10154, 10156, 10191, 10195, 10217, 10264, 10381, 10412, 10508, 10556, 10618, 10644, 10650, 10714, 10718, 10821, 10832, 10845, 11156, 11256, 11265, 11356, 11508, 11656, 11704

Brand	Code
Tosonic	10185
Totevision	10039
Towada	10102, 10217, 10264
Toyoda	10009, 10037, 10264, 10412
Trakton	10009, 10217, 10264
Trans Continens	10037, 10217, 10668, 11037
TRANS-continents	10621
Transonic	10009, 10037, 10264, 10418, 10455, 10512, 10587, 10698, 10712, 10780, 10858
Triad	10037, 10218, 10556
Trical	10157
Trident	10516
Tristar	10193, 10218
Triumph	10177, 10346, 10516, 10556
Tsoschi	10282
Tuntex	10009, 10030, 10092
TVS	10463
TVTEXT 95	10556
Uher	10037, 10206, 10320, 10374, 10418, 10480, 10486
Ultravox	10037, 10087, 10102, 10216, 10247
Unic	10163
Unic Line	10037, 10455
United	10037, 10606, 10714, 10715, 11037
Universal	10027, 10037
Universum	10009, 10011, 10032, 10036, 10037, 10070, 10104, 10105, 10146, 10157, 10163, 10170, 10177, 10191, 10200, 10217, 10247, 10264, 10290, 10346, 10361, 10362, 10370, 10411, 10418, 10421, 10473, 10480, 10492, 10512, 10535, 10544, 10556, 10618, 10631, 10668, 11037, 11437
Univox	10037, 10087, 10163, 10337
Utax	10163
V2max	10865
V7 Videoseven	11755
V7Videoseven	10880
Vector Research	10030
Vestel	10037, 10163, 10217, 10556, 10668, 11037, 11163
Victor	10036, 10053, 10250, 10650, 10653
Videocon	10508
Videologic	10216, 10218
Videologique	10218
Videomac	10009, 10264
Videosat	10247
Videotechnic	10217, 10320
Videoton	10356
Vidikron	10054
Vidtech	10019, 10036, 10178
Viewsonic	10724, 10857, 10864, 10885, 11755
Viking	10046
VInc	11756
Vision	10032, 10037, 10217, 10264, 10320
Vistar	10206, 10361, 10548
Vizio	10864, 10885, 11756
Voxson	10087, 10163, 10178, 10363, 10418
Waltham	10037, 10109, 10163, 10217, 10356, 10418, 10443, 10668, 11037
Wards	10000, 10016, 10017, 10018, 10019, 10020, 10021, 10024, 10027, 10030, 10047, 10051, 10054, 10055, 10056, 10060, 10080, 10096, 10111, 10135, 10154, 10156, 10165, 10166, 10178, 10179, 10180, 10186, 10187, 10866, 11147, 11156, 11347
Warumaia	10374, 10661
Watson	10009, 10037, 10218, 10320, 10394, 10579, 10668, 11037, 11437
Watt Radio	10102, 10216, 10544
Waycon	10156
Wega	10036, 10037, 10087
Wegavox	10037
Weipai	10009
Welltech	10714
Weltblick	10217, 10320
Westinghouse	10003, 10889
Weston	10037
Wharfedale	10037, 10264, 10556, 10706, 10861
White Westinghouse	10037, 10186, 10216, 10320, 10337, 10463, 10623
Windsor	11037
Windstar	10282, 10337
Windy Sam	10556
Wintel	10714
World-of-Vision	10880
Worldview	10455
Xenius	10634, 10661
Xiahua	10009, 10264, 10412, 10698, 10773, 10779, 10817
Xianghai	10009
Xiangyang	10264, 10412
Xiangyu	10009
Xihu	10264, 10412, 10817
Xinaghai	10412
Xingfu	10009
Xinghai	10264
Xinrisong	10848
XLogic	10698
XMS	10698
Xoceco	10779, 10785
Xrypton	10037
Xuelian	10848
Yamaha	10019, 10030, 10650, 10769, 10833, 10839
Yamishi	10217, 10282, 10455
Yapshe	10250
Yingge	10009
Yokan	10037, 10109
Yoko	10009, 10037, 10216, 10217, 10218, 10247, 10264, 10339, 10421

Yongbao	10848
Yonggu	10009
Yoshita	10706
Youlanasi	10817
Yousida	10009, 10848
Yuhang	10009
Zanela	10238
Zanussi	10206, 10264, 10363
Zenith	10016, 10017, 10092, 10178, 10463
Zenor	10208, 10339
ZhuHai	10009, 10374
Zonda	10003, 10698, 10779
ZX	10418

CD

Acoustic Research	30420
ADC	30018
Adcom	30155, 30234
Advantage	30032
Aiwa	30012, 30124, 30157, 31690
Akai	30156, 30766, 31688
Arcam	30157
Audio Alchemy	30194
Audio Dynamics	30018
Audio Pro	30437
Audio Research	30157
Audio-Technica	30170
Audiolab	30157
Audiomeca	30157
Audioton	30157
Bestar	30164
BSR	30194, 30245
Burmester	30420
Bush	30245
Cairn	30157
California Audio Labs	30029, 30303
Cambridge	30157
Carrera	30194
Carver	30157, 30179, 30437
CCE	30157
CDC	30420
CEC	30174, 30420
Classic	31297
Condor	30164, 30194
Copland	30393
Crown	30122
Cyrus	30157
DAK	30245
DBX	30018, 30254
Denon	30003, 30626, 30766, 30873, 31234, ***[31867]**, 31868
DKK	30000
DMX Electronics	30157
Dual	30003, 30194, 30196
Dynamic Bass	30179
EEC	30194
Elektra	30437
Emerson	30155, 30164, 30305, 30469
Fisher	30088, 30174, 30179, 30342, 31325
Garrard	30245, 30280, 30393, 30420, 30425
GE	30009
Genexxa	30032, 30164, 30305, 30426
Goldmund	30157
GoldStar	30417, 31208
Goodmans	30245, 30280, 30305
GPX	31296
Grundig	30157
Harman/Kardon	30157, 30173, 30426, 31202
Hitachi	30032, 30155, 30038
Inkel	30180, 30196, 30437
Integra	30101
Intersound	30245
IR	30000
JVC	30072, 30655, 31294, 31697
Kenwood	30028, 30036, 30037, 30157, 30190, 30626, 30681, 30826
KLH	31318, 31711
Kodak	30287
Korsun	31484
Koss	31317
Krell	30157
Kyocera	30018
LG	31208
Linn	30157
Loewe	30157
Luxman	30093, 30393
LXI	30305
Magnavox	30157, 30305
Marantz	30029, 30157, 30180, 30626
Mark	30194
Mark Levinson	31484
Matsui	30157
McIntosh	30287
MCS	30029, 30043
Memorex	30032, 30155, 30164, 30175, 30180, 30305
Meridian	30157
Micromega	30157
Miro	30000
Mission	30157
Mitsubishi	30156
MTC	30420
Musical Fidelity	30393, 30437
Myryad	30157
NAD	30000, 31208
Nagaoka	30018
Naim	30157
Nakamichi	30147
NEC	30043, 30234

Nikko	30164, 30170, 30174
NSM	30157
Oak	30145
Onkyo	30101, 30868, 31685
Optimus	30000, 30032, 30037, 30087, 30145, 30175, 30179, 30194, 30196, 30280, 30305, 30342, 30420, 30426, 30437, 30468, 31063, 31075
Orion	30393
Panasonic	30029, 30207, 30303, 30752, 31682
Parasound	30194, 30420
Penney	30043
Perform Hifi	30420
Philips	30157, 30287, 30626
Pioneer	30032, 30101, 30305, 30468, 31062, 31063, 31087
PMG	30164
Polk Audio	30157
Poppy	30164
Proceed	30420
Proton	30157
QED	30157
Quad	30157
Quasar	30029
Radiola	30157
RadioShack	31075
RCA	30009, 30032, 30053, 30155, 30179, 30305, 30420, 30468, 30764, 31062
Realistic	30155, 30164, 30175, 30179, 30180, 30420
Restek	30157
Revox	30157
Roadstar	30461
Roksan	30420
Rotel	30157, 30420
Royal	30164, 30420
SAE	30157
Sansui	30157, 30202, 30305
Sanyo	30087, 30179, 30342
SAST	30157
Scott	30155, 30164, 30305
Sears	30305
Sharp	30037, 30180, 30861, 31658, 31684
Sherwood	30180, 30196, 30426, 31067
Shure	30043
Siemens	30157, 30180
Silsonic	30036, 30888
Simaudio	30157
Sonic Frontiers	30157
Sony	30000, 30100, 30185, 30490, 30604, 30605, 31364
Soundesign	30145, 30425
STS	30018
Sugden	30157
Symphonic	30305
TAG McLaren	30157
Tandy	30032
Tascam	30420
TDK	31208
Teac	30174, 30180, 30393, 30420
Tec	30245
Technics	30029, 30207, 30303
Thomson	30053
Thorens	30157
Thule Audio	30157
Tivoli Audio	31553
Tokai	30164, 30420
Toshiba	31693
Traxdata	30626
Universum	30053, 30157, 30437
Vector Research	30194, 30417
Victor	30072
Wards	30000, 30032, 30053, 30087, 30157, 30179
Yamaha	30000, 30032, 30036, 30037, 30170, 30187, 30888, 31292
Yoko	30194
Yorx	30461
Zonda	30157

CDR

Classic	31297
Denon	30626, 30766, 31868
Fisher	31325
GPX	31296
Harman/Kardon	31202
JVC	30072, 31294
Kenwood	30626
LG	31208
Marantz	30626
NAD	31208
Philips	30626
Pioneer	31062, 31087
RCA	30053, 30420
Sony	30000, 30100, 31364
TDK	31208
Teac	30420
Yamaha	30888, 31292

TAPE

Aiwa	20029, 20197, 20200, 21315
Akai	20283, 20439
Arcam	20076
Carver	20029
Denon	20076, 20371, 21311, 21471
Fisher	20074
Garrard	20308, 20309, 20375, 20439
Genexxa	20439
GoldStar	20353, 20375
Grundig	20029, 20229, 20375

Harman/Kardon	20029, 20182, 21314
Inkel	20070, 20071, 20337
JVC	20244, 20273, 20274, 20303, 20304, 20310, 21309
Kenwood	20070, 20071, 20092, 20233, 20234, 21364
LG	20375
Luxman	20308, 20309
Magnavox	20029
Marantz	20009, 20029
Memorex	20099
Mitsubishi	20283, 20439
Myryad	20029
Onkyo	20135, 20136, 20282
Optimus	20027, 20220, 20337, 20439
Orion	20308, 20309, 20353
Panasonic	20229
Philips	20029, 20229
Phonotrend	20337
Pioneer	20027, 20099, 20220, 21306, 21312
Polk Audio	20029
Radiola	20029
RCA	20027, 20220
Revox	20029, 20190
Sansui	20009, 20029
Sanyo	20074
Sharp	20231, 20371
Sherwood	20337
Siemens	20029
Sonic	20375
Sony	20170, 20234, 20243, 20291, 21313
TaeKwang	20439
Tandberg	20109
Teac	20280, 20283, 20289, 20308, 20309
Technics	20229, 20353
Thorens	20029
Universum	20375, 20439
Victor	20244, 20273, 20274
Wards	20027, 20029
Wharfedale	20439
Yamaha	20094, 20097

PVR

ABS	21972
Alienware	21972
CyberPower	21972
Dell	21972
DirecTV	20739
Gateway	21972
Hewlett Packard	21972
Howard Computers	21972
HP	21972
Hughes Network Systems	20739
Humax	20739
Hush	21972
iBUYPOWER	21972
Linksys	21972
Media Center PC	21972
Microsoft	21972
Mind	21972
Niveus Media	21972
Northgate	21972
Panasonic	20616
Philips	20618, 20739
RCA	20880
ReplayTV	20614, 20616
Sonic Blue	20614, 20616
Sony	20636, 21972
Stack 9	21972
Systemax	21972
Tagar Systems	21972
Tivo	20618, 20636, 20739
Toshiba	21008, 21972
Touch	21972
Viewsonic	21972
Voodoo	21972
ZT Group	21972

※ これらのコードはSAT/CBLモードにプリセットしてご使用ください。

TV/DVD Combination

Advent	41016
Apex Digital	40830
Audiovox	41071, 41121, 41122
Axion	41071
Broksonic	40695
Bush	40516, 40713, 40884
Denver	41353, 41359
Emerson	41268
Go Vision	41071
Grundig	40695
Hitachi	41247
Jensen	41016
Konka	40719, 40720
Panasonic	41490
Philips	40854, 41260
Prima	41016
RCA	41022
Samsung	40899
Sansui	40695
Sova	41122
Sylvania	40675, 41268
Toshiba	40695

※ これらのコードはDVDモードにプリセットしてご使用ください。

Bush	10698, 11037
Denver	10587
Sylvania	10171

※ これらのコードはTVモードにプリセットしてご使用ください。

TV/VCR Combination

America Action	10180
Audiovox	10180
Emerson	10236
Funai	11977

※ これらのコードはTVモードにプリセットしてご使用ください。

Aiwa	20000, 20479
America Action	20278
Audiovox	20278
Broksonic	20002, 20479, 21479
Citizen	21278
Colt	20072
Curtis Mathes	21035
Daewoo	21278
Emerson	20002, 20294, 20479, 21278, 21479
Funai	20000, 21333
GE	20240, 20807, 21035, 21060
GoldStar	21237
Harley Davidson	20000
Hitachi	20000
Lloyd's	20000
Magnasonic	21278
Magnavox	20000, 21781
Magnin	20240
Memorex	20162, 21237
MGA	20240
Mitsubishi	20043, 20807
Optimus	20162
Orion	20002, 20479, 21479
Panasonic	20162, 21035, 21308
Penney	20240, 21035, 21237
Philco	20479
Quasar	20162, 21035
RadioShack	20000
RCA	20240, 20807, 21035, 21060
Samsung	20432, 21014
Sansui	20000, 20479, 21479
Sanyo	20240, 21330
Sears	20000, 21237
Sharp	20807
Sony	20000, 21232, 21295
Sylvania	21781
Symphonic	20000
Teac	20000
Thomas	20000
Toshiba	20845, 21145, 21323
Zenith	20000, 20479, 21479

※ これらのコードはVCRモードにプリセットしてご使用ください。

TV/VCR/DVD Combination

Akai	40899
Broksonic	40868
Emerson	40821
Funai	41334
Magnavox	40821
Panasonic	41362, 41462
RCA	41132
Sharp	40630
Superscan	40821
Sylvania	40821
Toshiba	41045

※ これらのコードはDVDモードにプリセットしてご使用ください。

Sharp	20807

※ このコードはVCRモードにプリセットしてご使用ください。

*[ ]：工場出荷時に設定されているプリセットコードです。

DENON製DVDプレーヤー	プリセットコード
DVD-550/900/1000/1400/ DVD-1500/1910/2200/2800/ DVD-2900/2910/3800/3910/ DVD-A11/A1/A1XV	41470
DVD-800/1600/2000 DVD-2500/3300	40490

※ 初期設定：" 41470 "

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：045-670-5555
【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】
受付時間　9：30〜12：00、12：45〜17：30
（弊社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、
次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in Japan　00D 511 4417 209A